YAO TOKUSHUKAI GENERAL HOSPITAL

病院年報

2019年



医療法人徳洲会

八尾徳洲会総合病院

Yao Tokushukai General Hospital

目次 Contents

理念・基本方針・患者様の権利	1
ご挨拶	2
概要・沿革	3
教育認定施設の指定状況・機関特定・高度医療機器設備	4
許可施設基準	5
八尾徳洲会総合病院 組織図	6
八尾徳洲会総合病院 委員会組織図	7
患 者 統 計	8
1.外　来	
1）外来患者統計	10
2）科別・月別外来患者数	10
3）1日平均外来患者数	11
4）1日平均外来新患者数	11
2.入　院	
1）入院患者統計	12
2）科別・月別1日平均入院患者数	12
3）病棟別・月別1日平均入院患者数	12
3.救　急	
1）月別救急搬送件数	13
2）救急搬送人数 年齢別・性別分布	14
3）救急搬送件数分布	15
病 歴 統 計	16
1）科別退院患者数	18
2）死亡退院患者統計	19
3）疾病分類＜大分類＞科別	20
4）疾病分類＜中分類＞	21
診 療 部	24
内　　科	26
循環器内科（カテーテル部門）	33
消化器内科	34
呼吸器内科	35
腫 瘍 内 科	36
血管透析科	38
腎 臓 内 科	41
糖尿病・代謝内科	42
脳神経内科	44
内分泌内科	45
膠原病リウマチ内科	47
小　児　科	49
放 射 線 科（診療部）	51
救　急　科	52
外　　科	54
整 形 外 科	56
脳神経外科	59
心臓血管外科・大動脈センター	61
形成外科・美容外科	63
呼吸器外科	65
小 児 外 科	66
歯科・歯科口腔外科	69
泌 尿 器 科	71
眼　　科	73
麻　酔　科	75
肝臓センター	76
皮　膚　科	79
婦　人　科	80
耳鼻咽喉科	82
リハビリテーション科（診療部）	83
病理診断科	84
副 診 療 部	86
薬　剤　科	88
放 射 線 科	91
臨床検査科	93
リハビリテーション科	95
（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心臓リハビリテーション）	
臨床心理科	100
臨床工学科	102
栄　養　科	107
治験センター	109
医療福祉相談室（MSW 医療ソーシャルワーカー）	115
病診連携室	118
健診センター	128
情報システム管理室	130
保　育　室	132
がん相談支援センター	134
医療安全管理部	137
臨床腫瘍センター	142
看 護 部	144
4階東　5階西　5階東	146
6階西　6階東　7階西	147
7階東　8階西　8階東	148
ＩＣＵ　ＨＣＵ　外来・ＥＲ	149
手術室　透析室	151
退院調整チーム	152
がん相談支援センター　保健指導	152
委 員 会	162
呼吸ケアチーム（RST）	164
院内感染対策委員会（ICT）	165
褥瘡対策委員会	168
研修管理委員会	169
栄養サポートチーム（NST）	173
緩和ケアチーム	175
がん緩和支援委員会	176
関 連 施 設	178
八尾徳洲会介護センター	180
よろこび訪問看護介護センター	183
よろこび訪問看護ステーション	184
介護老人保健施設 八尾徳洲苑	187
八尾徳洲苑介護センター	197
特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷	199
学 術 業 績	204
学会発表	206
学術論文	212

Yao
Tokushukai
General Hospital

理　　念

1. 生命を安心して預けられる病院
2. 健康と生活を守る病院

基本方針

1.『年中無休・24 時間オープン』で救急医療を提供します。
2. 患者様からの贈り物は一切受け取りません。
3. 医療技術・診療態度の向上に絶えず努力します。

患者様の権利

当院は次の項目について患者様の権利を尊重した医療を提供しています。

1. いつでも安全で良質な医療を受ける事が出来ます。
2. 医療についての説明を受け、医療行為を選択する権利があります。
3. 継続して一貫した医療を受ける事が出来ます。
4. プライバシーが守られ、個人の尊厳が保たれています。
5. 医療の情報について常に提供を受け健康教育や講演を受ける事が出来ます。
6. 生活の質と環境に配慮した医療の提供を受ける事が出来ます。

ご　挨　拶

八尾徳洲会総合病院院長　原田　博雅

いつも当院の診療に御協力御支援を賜り深く感謝申し上げます。

2019年八尾徳洲会総合病院年報を発刊することができることは我々の大きな喜びです。

「生命だけは平等だ。」という徳洲会の理念のもと、「在院日数の短縮化」、「断らない医療の実践」という二つの大きな目標を掲げ、2014年7月より病院運営を行ってまいりました。

多くの方々の努力により、従来より在院日数が短縮され、結果として、多くの患者様を受け入れることができるようになりました。また、救急搬送件数も増加し、手術件数も増えました。改めて、私たちの原点は、地域医療であり、救急医療であることを実感しています。

患者様に対して必要にして十分な治療を受けていただくことが、私たちが行う未来の医療に繋がります。1年の振り返りを行うことにより、改めて各科、各部門での次なる改善が期待できます。

今後も一層評価の高い医療機関として認められるように、日々努力してまいります。

本誌を閲覧いただきました皆様方から、更なる私たちへの御指導御鞭撻を御願い申し上げます。

概要

創　　立	1978 年 7 月 1 日
病 院 長	原田　博雅
職 員 数	931 名（2019.12.31 現在）
診療科目	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、肝臓内科、糖尿病・代謝内科、緩和ケア内科、腫瘍内科、内分泌内科、脳神経内科、心療内科、精神科、リウマチ科、血管透析内科、腎臓内科、皮膚科、小児科、救急科、放射線科、外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、心臓血管外科、肝臓外科、乳腺外科、小児外科、形成外科、美容外科、泌尿器科、眼科、麻酔科、歯科・歯科口腔外科、耳鼻咽喉科、婦人科、リハビリテーション科、病理診断科
関連施設	介護老人保健施設　八尾徳洲苑 八尾徳洲苑介護センター よろこび訪問看護ステーション よろこび訪問看護介護センター 八尾徳洲会介護センター（居宅介護支援事業所） 特別養護老人ホーム　久宝寺愛の郷 八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷
1 日平均外来患者数	842.8名（2019年）
1 日平均入院患者数	385.6名（2019年）

沿革

1978年 7 月	開院　　許可病床数　250床
1979年 7 月	三基準取得　看護・給食・寝具
1980年 10 月	西館増築　許可病床数　350床
1986年 4 月	東館・西館改修　許可病床数　335床
1989年 9 月	新館増築　許可病床数　415床
1992年 9 月	基準看護　特Ⅰ類取得
1994年 7 月	基準看護　特Ⅱ類取得
9 月	総合病院認可　心臓血管外科開設
1995年 7 月	新看護2.5：1（A）　10：1看護補助の承認
9 月	デイケア開設
1996年 5 月	病院管理棟増築
11 月	よろこび訪問看護ステーション開設
1998年 2 月	日帰り手術センター開設
3 月	歯科・歯科口腔外科開設
4 月	ER（救急総合診療部）開設　　臨床研修指定病院指定
12 月	老人保健施設　八尾徳洲苑（100床）開設
2000年 4 月	よろこび訪問看護介護センター開設 八尾徳洲会介護センター開設
2001年 4 月	病児保育（八尾市委託）
12 月	ICU施設取得（6床）
2002年 4 月	心臓疾患リハビリテーション施設開設
2003年 1 月	日本医療機能評価機構取得
3 月	睡眠障害センター開設
10 月	2：1看護取得 電子カルテ導入
2004年 3 月	駐車場増設
4 月	医療安全管理部設置
6 月	亜急性病床開設（12床）
2005年 3 月	新病院用土地の取得
2006年 6 月	DPC導入
10 月	健診センター開設
11 月	治験センター開設
2007年 6 月	プライバシーマーク制度（JISQ.15001.1999）取得 新病院建設開始
12 月	日本医療機能評価機構Ver.5受審
2008年 1 月	日本医療機能評価機構Ver.5取得
2009年 1 月	高規格救急車導入
8 月	新病院移転
11 月	エンゼル保育室新病院内移転
2010年 3 月	HCU施設基準取得（4：1）
4 月	大阪府がん診療拠点病院認可
2011年 4 月	大動脈センター・美容外科開設
2011年 8 月	肝臓センター開設
9 月	一般7：1入院基本料取得
10 月	小児外科開設
2012年 11 月	放射線治療開始 日本医療機能評価機構Ver.6受審
2013年 1 月	日本医療機能評価機構Ver.6取得
9 月	卒後臨床研修評価機構認定
2014年 9 月	特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷開設
2015年 5 月	創傷ケアセンター開設
2017年 4 月	八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷開設
10 月	日本医療機能評価機構3rdG.Ver1.1受審

教育認定施設の指定状況

厚生労働省基幹型臨床研修病院
日本内科学会認定医制度教育病院
日本呼吸器学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本消化器病学会認定医制度研修施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本神経内科学会認定准教育施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修プログラム研修施設
日本病院総合診療医学会認定施設
日本透析医学会専門医制度教育関連施設
日本肝臓学会認定関連施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本外科学会専門医制度修練施設
日本消化器外科学会専門医制度専門医修練施設
日本小児外科学会教育関連施設
日本消化管学会胃腸科指導施設
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本乳癌学会関連施設認定
日本乳癌オンコプラススティックサージャリー学会インプラント実施施設認定
日本がん治療認定医機構認定研修施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本成人心臓血管外科手術データベース機構認定施設
日本ステントグラフト実施基準管理員会 腹部・胸部ステントグラフト実施施設
浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会　浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設
日本整形外科学会認定医制度研修施設
日本手外科学会研修施設
日本脳神経外科学会専門医認定制度研修プログラム研修施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本形成外科学会認定施設
日本眼科学会専門医制度認定研修施設
日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関（画像診断・IVR・核医学）
日本インターベンショナルラジオロギー学会専門医修練認定施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設
日本病理学会研修認定施設
日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設
日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設
日本静脈経腸栄養学会NST専門療法士実地修練認定教育施設
日本医療薬学会教育研修施設
日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設

機関特定

保険医療機関
救急告示病院
結核指定医療機関
被爆者一般疾病医療機関
母体保護法指定医療機関
生活保護法指定医療機関
労災保険指定医療機関
公害医療機関
指定自立支援医療機関
（更正医療、育保医療、精神通院医療）
身体障害者福祉法指定医（肢体不自由、視覚障害、じん臓機能障害、肝臓機能障害、心臓機能障害、呼吸器機能障害、膀胱・直腸機能障害、小腸機能障害）
音声・言語機能障害、そしゃく機能障害
大阪府肝炎専門医療機関
大阪府がん診療拠点病院

高度医療機器設備

MRI（磁気共鳴画像装置）
64列CT
DSA（デジタルサブトラクション血管撮影装置）
CAG（心血管撮影装置）
RI（核医学診断装置）
ESWL（体外衝撃波結石破砕装置）
各種内視鏡機器装置
マイクロサージャリー（顕微鏡下手術）
放射線治療装置（リニアック）
医療用ナビゲーションシステム
光干渉式眼軸長測定装置
光干渉断層計（OCT）

Yao Tokushukai General Hospital

許可施設基準

入院時食事療養/生活療養(I)
地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療環境体制加算
歯科診療特別対応連携加算
一般病棟入院基本料(7対1)
臨床研修病院入院診療加算
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算1
医師事務作業補助体制加算(15対1)
急性期看護補助体制加算
療養環境加算
重傷者等療養環境特別加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算1
感染防止対策加算1
感染防止対策地域連携加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
退院調整加算
救急搬送患者地域連携紹介加算
救急搬送患者地域連携受入加算
呼吸ケアチーム加算
病棟薬剤業務実施加算
データ提出加算2
特定集中治療室管理料3
ハイケアユニット入院医療管理料1
小児入院医療管理料4
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料1・2・3
糖尿病透析予防指導管理料
院内トリアージ実施料
夜間休日救急搬送医学管理料
ニコチン依存症管理料
開放型病院共同指導料
地域連携診療計画管理料
がん治療連携計画策定料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料1
歯科治療総合医療管理料
在宅患者訪問看護・指導料3
同一建物居住者訪問看護・指導料3
検体検査管理加算(Ⅳ)
植込型心電図検査
時間内歩行試験
ヘッドアップティルト試験
神経学的検査

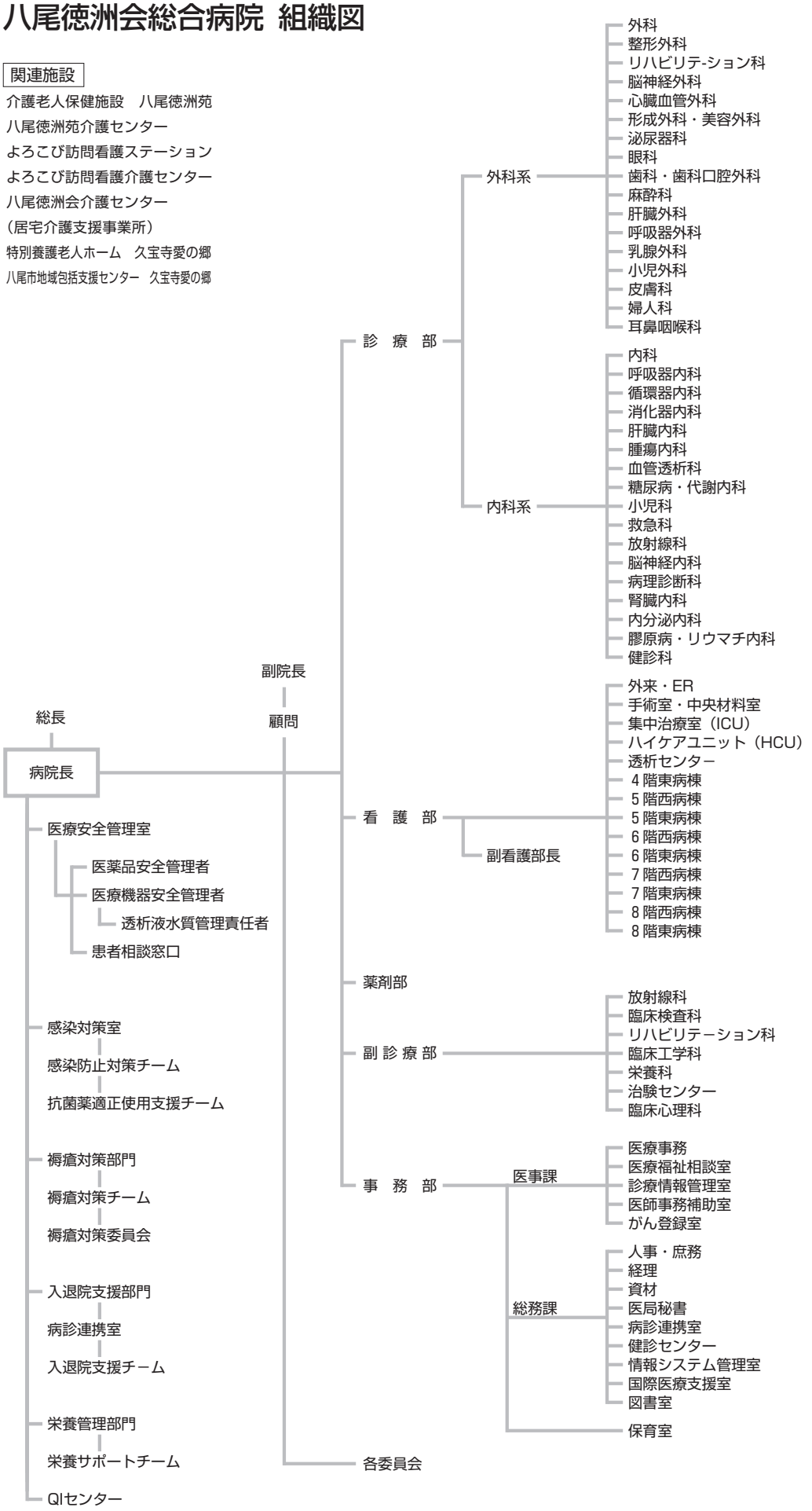
コンタクトレンズ検査料1
小児食物アレルギー負荷検査
センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る)
画像診断管理加算1
CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算
心臓MRI撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算1
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料(I)
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
運動器リハビリテーション料(I)
呼吸器リハビリテーション料(I)
がん患者リハビリテーション料
認知療法・認知行動療法
歯科口腔リハビリテーション料2
処置の休日加算1、時間外加算1及び深夜加算1
透析液水質確保加算2
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
経皮的冠動脈形成術
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
経皮的冠動脈ステント留置術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
経皮的大動脈遮断術
ダメージコントロール手術
腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む)に掲げる手術
手術の休日加算1及び深夜加算1
輸血管理料I
輸血適正使用加算
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
麻酔管理料(I)
放射線治療専任加算
高エネルギー放射線治療
1回線量増加加算
クラウン・ブリッジ維持管理料

2020年1月1日 現在

八尾徳洲会総合病院 組織図

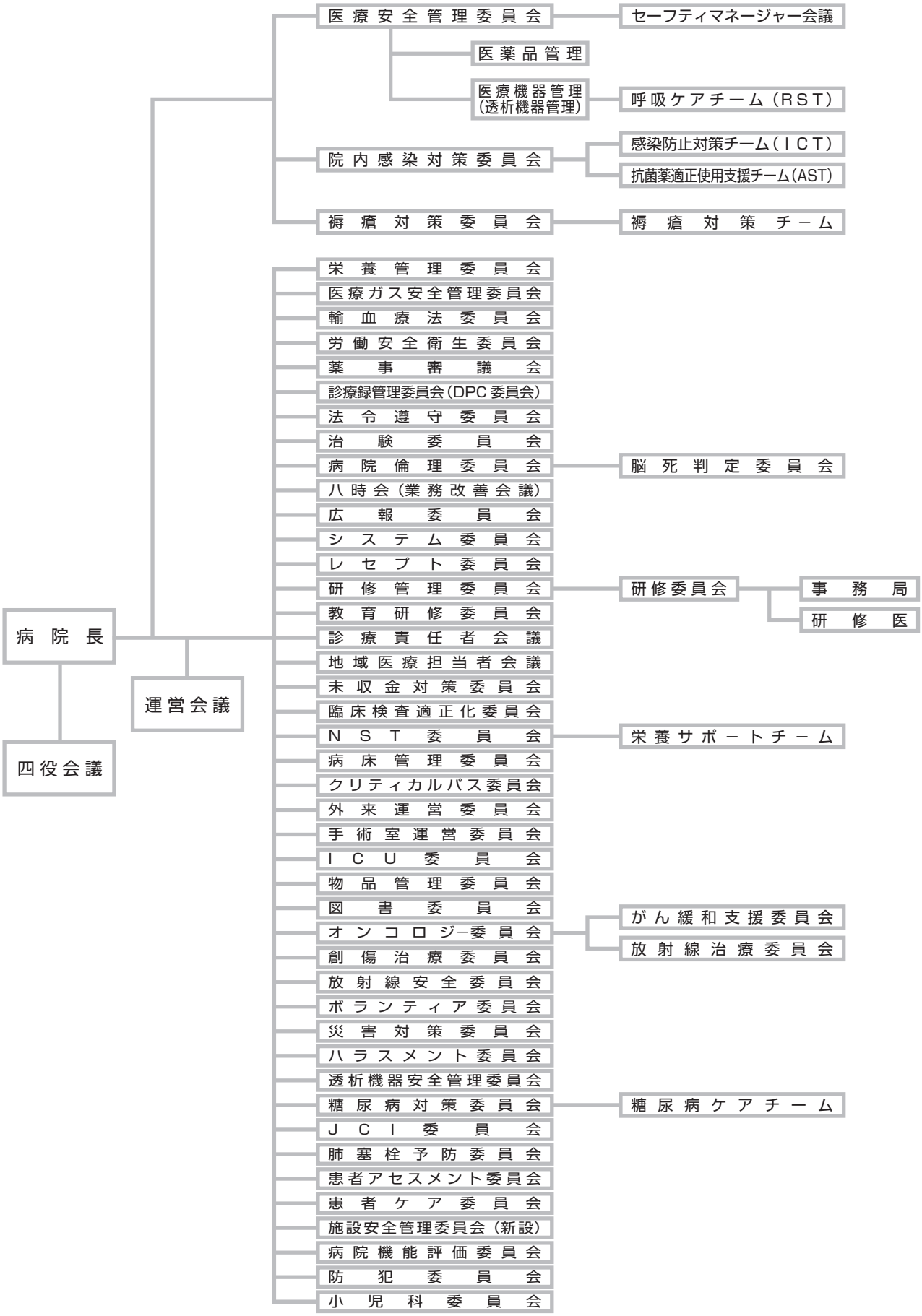
関連施設

介護老人保健施設　八尾徳洲苑
八尾徳洲苑介護センター
よろこび訪問看護ステーション
よろこび訪問看護介護センター
八尾徳洲会介護センター
（居宅介護支援事業所）
特別養護老人ホーム　久宝寺愛の郷
八尾市地域包括支援センター　久宝寺愛の郷



八尾徳洲会総合病院 委員会組織図

2020年1月1日 現在



患　者　統　計

―― 2019年 ――

1．外　来

1）外来患者統計　10
2）科別・月別外来患者数　10
3）1 日平均外来患者数　11
4）1 日平均外来新患者数　11

2．入　院

1）入院患者統計　12
2）科別・月別 1 日平均入院患者数　12
3）病棟別・月別 1 日平均入院患者数　12

3．救　急

1）月別救急搬送件数　13
2）救急搬送人数　年齢別・性別分布　14
3）救急搬送件数分布　15

1. 外　来

1）外来患者統計

①1日平均患者数　②1ヶ月総患者数　③1日平均新患者数

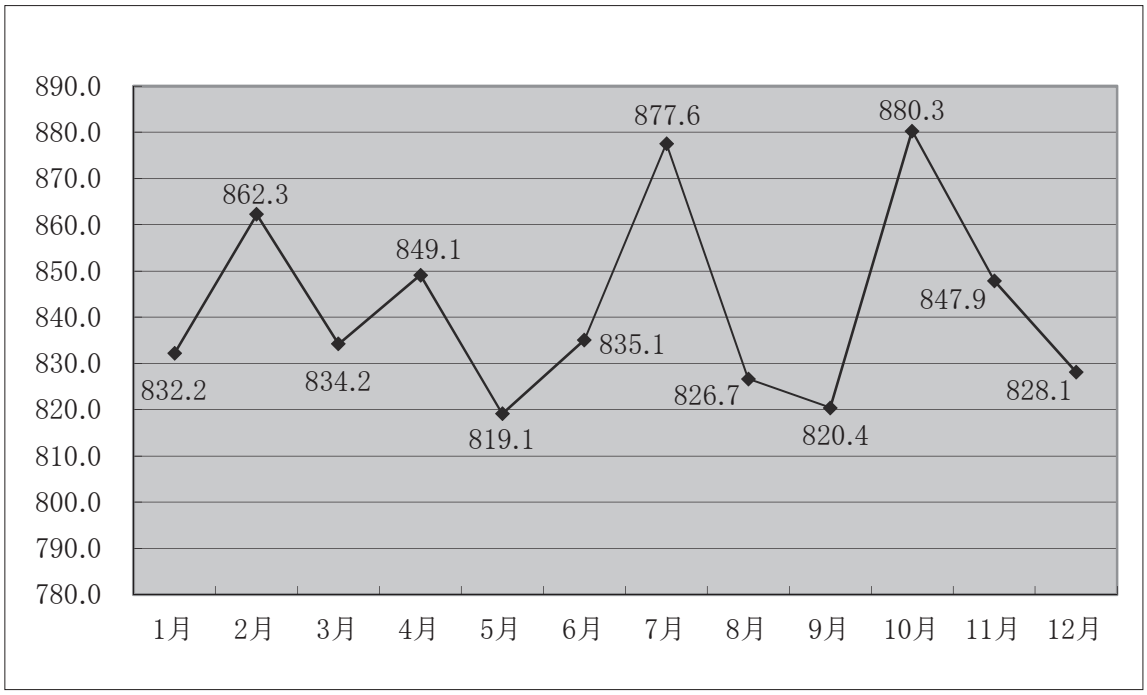
外来	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
①	832.2	862.3	834.2	849.1	819.1	835.1	877.6	826.7	820.4	880.3	847.9	828.1	10,113.0	842.8
②	26,094	24,381	26,160	25,803	25,754	25,274	27,414	25,794	24,773	27,506	25,628	25,880	310,461	25,872
③	31.9	27.7	25.6	29.3	29.4	28.5	27.2	28.1	26.8	28.1	27.2	29.3	339.1	28.3

2）科別・月別外来患者数

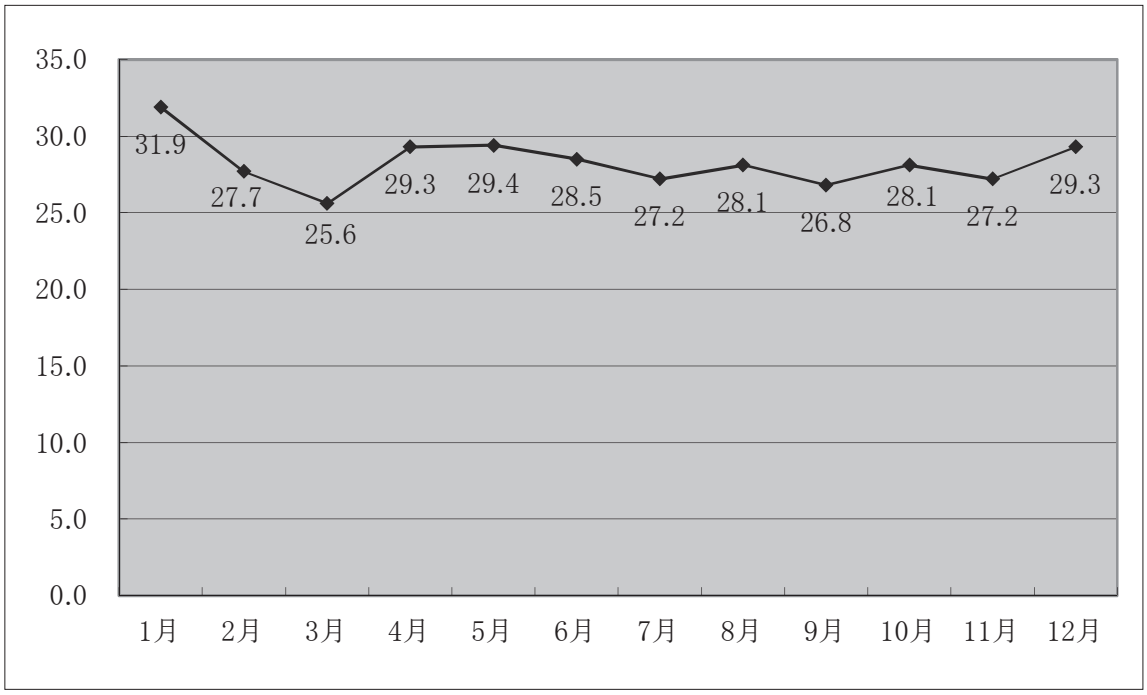
	内科	循環器科	外科	呼吸器外科	乳腺外科	小児外科	肝臓外科	肝臓内科	整形外科	心臓外科	眼科	脳神経外科	泌尿器科	形成外科	美容外科	放射線治療部
1月	8,837	837	1,405	153	19	89	570	237	2,588	226	1,325	947	1,128	537	1	131
2月	7,213	926	1,312	121	54	81	568	221	2,503	213	1,264	974	1,072	517	1	176
3月	7,696	1003	1,449	120	66	102	545	275	2,861	208	1,266	992	1,247	549	1	178
4月	8,085	1029	1,439	122	56	97	590	256	2,817	238	1,185	1049	1,267	518	1	142
5月	8,079	857	1,544	120	69	92	549	316	2,769	228	1,127	955	1,252	502	1	157
6月	7,547	1,114	1,489	145	62	106	586	284	2,700	258	1,123	991	1,245	516	1	207
7月	8,366	1,188	1,642	158	58	114	632	259	2,917	245	1,208	1,005	1,241	615	0	234
8月	7,629	1,147	1,431	153	49	127	513	202	2,716	229	1,080	1,004	1,247	579	0	212
9月	7,586	1,057	1,460	148	56	84	608	282	2,453	210	1,179	959	1,258	474	1	246
10月	8,529	1,275	1,478	133	83	90	609	319	2,776	264	1,194	1,040	1,323	574	0	380
11月	7,886	1,140	1,331	102	62	95	597	308	2,515	218	1,051	983	1,259	490	1	305
12月	8,131	1,376	1,416	139	64	121	625	310	2,119	242	1,182	1,051	1,334	559	0	207
合計	95,584	12,949	17,396	1614	698	1198	6,992	3,269	31,734	2779	14,184	11,950	14,873	6,430	8	2,575
平均	7,965.3	1,079.1	1449.7	134.5	58.2	99.8	582.7	272.4	2,644.5	231.6	1,182.0	995.8	1,239.4	535.8	0.7	214.6

	人工透析	歯科口腔外科	皮膚科	小児科	婦人科	耳鼻咽喉科	リウマチ科	検診	人間ドック	膠原病	訪問看護	創傷治療センター	ストーマ外来	腫瘍内科	リハビリ外来	合計
1月	919	1,434	434	1,048	314	519	0	712	538	259	486	126	4	211	60	26,094
2月	841	1,467	417	882	308	491	0	1,149	589	243	392	116	9	198	63	24,381
3月	950	1,652	488	1,011	377	451	0	877	604	257	523	130	6	200	76	26,160
4月	947	1,596	456	922	313	435	0	524	536	250	532	131	3	210	57	25,803
5月	1,095	1,492	485	855	313	460	0	612	660	258	560	111	3	177	56	25,754
6月	967	1,497	573	827	388	444	0	663	731	241	225	131	7	150	56	25,274
7月	1,101	1,603	557	825	380	521	0	994	726	295	212	113	4	137	64	27,414
8月	994	1,468	475	838	363	495	0	1,299	725	284	175	128	7	154	71	25,794
9月	907	1,549	544	763	338	475	0	714	646	260	175	111	10	156	64	24,773
10月	969	1,714	525	1,008	357	456	0	709	750	318	248	115	6	184	80	27,506
11月	970	1,418	457	1,082	362	458	0	1,048	696	252	221	107	5	147	62	25,628
12月	949	1,446	511	1,060	349	468	0	688	636	286	228	112	6	192	73	25,880
合計	11,609	18,336	5,922	11,121	4,162	5,673	0	9,989	7,837	3,203	3,977	1,431	70	2,116	782	310,461
平均	967.4	1,528.0	493.5	926.8	346.8	472.8	0.0	832.4	653.1	266.9	331.4	119.3	5.8	176.3	65.2	25,871.8

3）1日平均外来患者数



4）1日平均外来新患者数



2. 入　院

1）入院患者統計

①1日平均患者数　②1カ月総患者数　③平均在院日数　④病床稼動率

入院	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
①	396.9	406.3	403.9	388.6	384.9	381.6	390.7	385.5	362.3	363.4	387.9	375.7	4,627.6	385.6
②	12,303	11,376	12,520	11,658	11,932	11,448	12,112	11,950	10,868	11,264	11,636	11,648	140,715	11,726.3
③	12.67	12.83	13.05	11.92	13.22	12.14	12.0	12.29	12.06	11.66	12.77	11.78	148.39	12.37
④	102.7	105.5	104.9	101.5	99.8	99.6	101.9	100.7	94.5	95.0	100.7	98.5	1,205.2	100.4

2）科別・月別1日平均入院患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
内科	152.77	154.71	158.94	158.00	151.16	151.93	158.97	153.71	140.60	142.87	147.07	150.26	1,820.99	151.75
循環器内科	58.35	51.18	47.39	45.13	48.48	46.10	40.74	48.23	42.07	41.26	50.93	52.55	572.41	47.70
外科	38.23	45.39	42.52	39.73	44.10	43.67	35.68	33.32	38.77	39.58	41.43	39.55	481.97	40.16
肝臓センター	19.29	18.29	18.90	18.80	17.58	20.47	26.87	18.26	20.73	20.90	19.80	17.87	237.76	19.81
整形外科	44.77	42.61	35.65	34.63	36.77	35.70	34.77	35.03	30.33	33.32	40.17	32.35	436.10	36.34
脳神経外科	34.00	32.57	45.10	40.70	31.42	29.80	32.48	35.16	32.30	30.90	38.00	31.81	414.24	34.52
泌尿器科	6.32	11.50	12.19	7.57	9.42	8.03	7.68	9.84	10.03	8.71	5.90	6.13	103.32	8.61
婦人科	1.84	1.36	2.03	2.70	2.39	1.50	2.35	1.35	1.73	3.19	2.67	2.81	25.92	2.16
小児科	1.19	1.29	2.00	1.67	0.74	0.83	0.52	0.94	0.97	1.35	1.13	0.74	13.37	1.11
眼科	3.81	4.50	2.71	1.97	2.19	2.80	3.06	2.65	3.20	2.13	2.17	3.16	34.35	2.86
形成外科	19.68	22.57	18.94	21.30	21.65	21.97	28.58	30.84	22.27	22.61	22.87	21.23	274.51	22.88
心臓外科	3.26	6.29	6.10	5.53	6.84	7.50	6.87	5.84	5.97	6.06	7.20	5.58	73.04	6.09
耳鼻咽喉科	0.42	0.46	0.84	0.50	0.13	0.67	0.58	0.81	0.87	0.48	0.43	1.00	7.19	0.60
皮膚科	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.13	0.10	0.00	0.00	0.23	0.02
口腔外科	5.45	5.21	4.61	4.80	6.10	6.57	5.84	5.29	5.70	4.45	3.67	4.58	62.27	5.19
腎臓内科	7.48	8.36	5.97	5.57	5.94	4.07	5.71	4.23	6.60	5.42	4.43	6.13	69.91	5.83
合計	396.9	406.3	403.9	388.6	384.9	381.6	390.7	385.5	362.3	363.4	387.9	375.8	4,627.7	385.6

3）病棟別・月別1日平均入院患者数

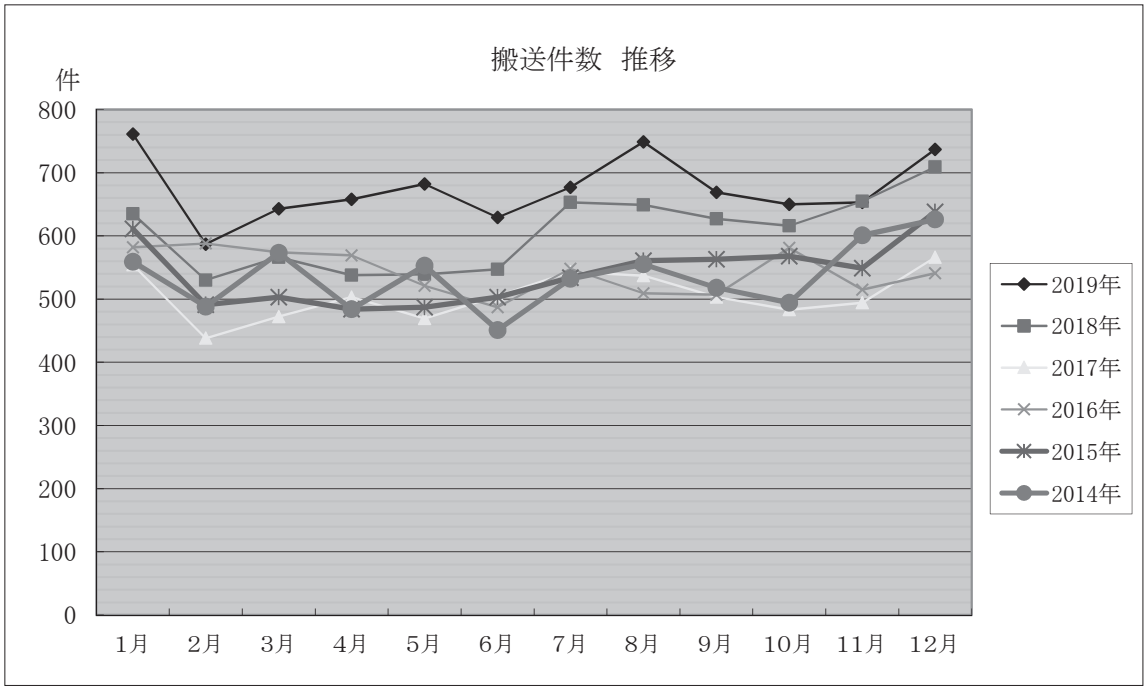
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	月平均
ICU	6.39	6.25	6.29	4.83	5.29	5.57	5.68	4.16	4.20	4.10	6.53	6.35	65.64	5.47
HCU	17.26	16.96	16.90	13.53	14.94	13.77	15.48	14.10	11.03	14.29	16.03	15.19	179.48	14.96
4東	42.84	43.89	44.61	43.03	39.90	40.30	42.45	41.97	37.87	37.94	41.73	38.39	494.92	41.24
5東	42.32	44.36	43.87	42.90	41.52	42.00	40.39	42.55	39.97	40.65	41.83	41.65	504.01	42.00
5西	37.52	38.29	39.06	37.83	37.10	37.37	37.16	36.77	34.97	34.19	36.07	36.65	442.98	36.92
6東	40.68	43.39	42.74	41.33	41.77	40.53	42.06	42.68	39.10	37.68	39.37	38.94	490.27	40.86
6西	43.81	43.89	41.87	40.87	40.23	39.77	40.42	40.87	36.87	38.90	42.07	38.23	487.80	40.65
7東	41.26	42.93	42.61	40.83	41.10	40.07	42.52	39.35	40.17	39.00	41.80	39.00	490.64	40.89
7西	43.26	44.29	43.45	42.80	42.23	42.77	43.39	42.23	41.10	39.26	42.20	41.23	508.21	42.35
8東	38.00	38.18	38.42	38.03	38.00	37.50	38.29	38.16	37.17	36.74	37.97	37.81	454.27	37.86
8西	43.55	43.86	44.03	42.60	42.84	41.97	42.87	42.65	39.83	40.61	42.27	42.32	509.40	42.45
総計	396.9	406.3	403.9	388.6	384.9	381.6	390.7	385.5	362.3	363.4	387.9	375.8	4,627.6	385.6

3. 救　急

1）月別救急搬送件数

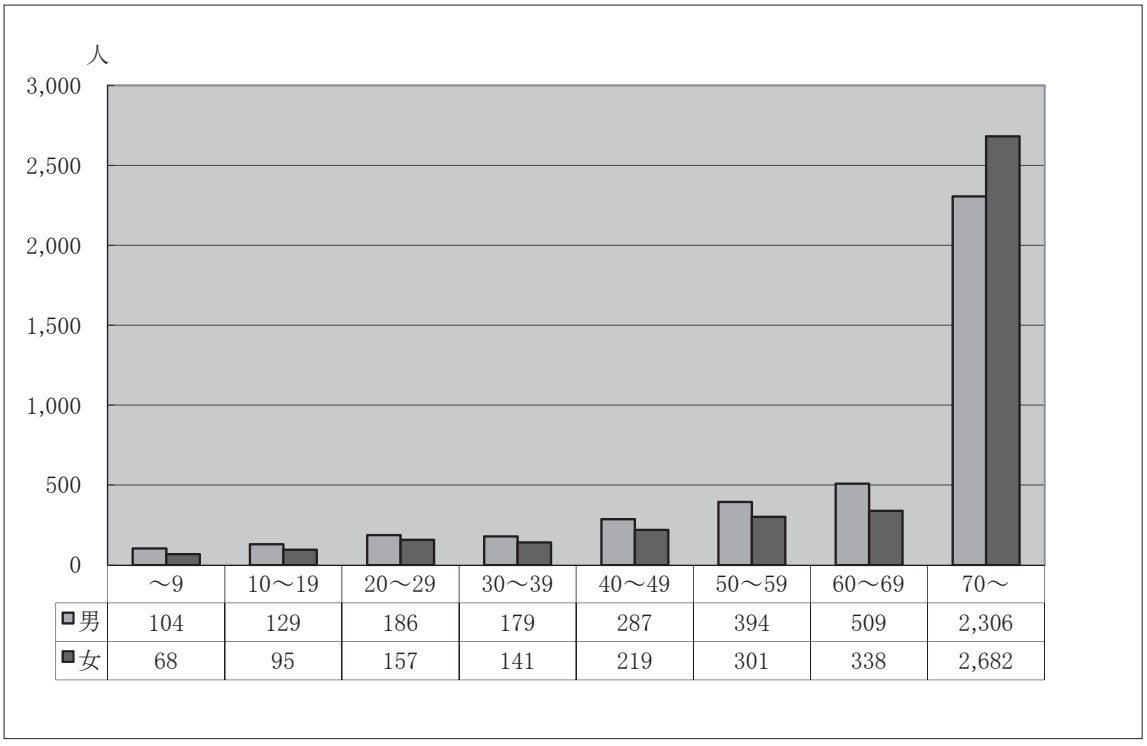
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
2019年	761	587	643	658	682	629	677	749	669	650	653	737	8,095	674.6
2018年	635	530	566	538	539	547	653	649	627	616	655	709	7,264	605.3
2017年	554	438	472	503	469	505	543	537	503	483	494	566	6,067	505.6
2016年	582	588	574	569	521	487	548	509	507	581	515	541	6,522	543.5
2015年	611	491	503	484	487	503	534	561	563	568	549	638	6,492	541.0
2014年	559	488	573	484	553	451	532	555	518	494	601	626	6,434	536.2

《救急搬送件数》



2）救急搬送人数　年齢別・性別分布

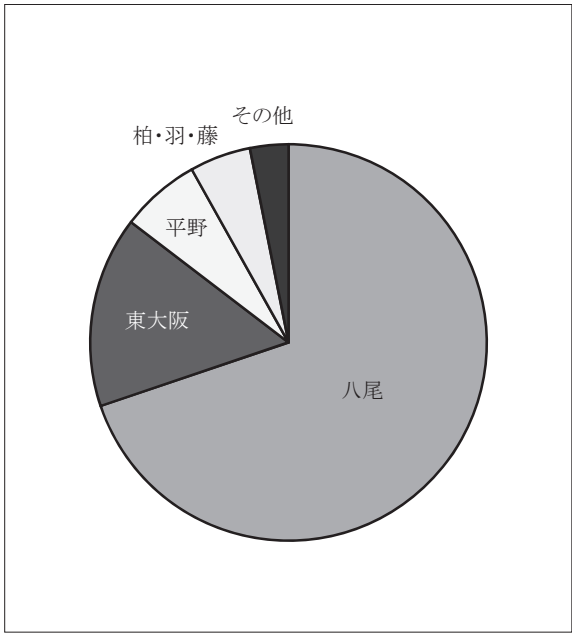
年齢	性別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	総合計
0～9歳	男	9	8	13	8	6	9	12	11	8	2	6	12	104	172
	女	4	6	4	3	6	4	6	7	10	5	9	4	68	
10～19歳	男	10	9	10	11	12	19	15	12	5	3	11	12	129	224
	女	9	8	11	8	8	10	5	8	7	9	6	6	95	
20～29歳	男	23	16	12	13	17	11	9	24	16	12	13	20	186	343
	女	13	7	11	13	14	16	15	18	16	12	10	12	157	
30～39歳	男	15	12	12	12	14	22	21	16	17	15	13	10	179	320
	女	11	17	15	9	9	13	16	7	11	11	11	11	141	
40～49歳	男	26	17	20	20	17	20	34	32	28	29	24	20	287	506
	女	16	10	17	18	21	25	22	19	14	20	20	17	219	
50～59歳	男	33	23	32	39	37	35	39	41	24	26	31	34	394	695
	女	22	18	21	23	28	24	20	29	25	18	35	38	301	
60～69歳	男	50	43	30	40	44	27	51	52	48	38	41	45	509	847
	女	34	27	28	26	24	19	30	27	35	33	27	28	338	
70歳以上	男	232	176	174	201	188	167	180	211	190	191	179	217	2,306	4,988
	女	254	190	233	214	237	208	202	235	215	226	217	251	2,682	
合計	男	398	304	303	344	335	310	361	399	336	316	318	370	4,094	8,095
	女	363	283	340	314	347	319	316	350	333	334	335	367	4,001	



	～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～
□男	104	129	186	179	287	394	509	2,306
■女	68	95	157	141	219	301	338	2,682

3）救急搬送件数分布

	八尾市	東大阪市	平野	柏原･羽曳野･藤井寺	その他	合計
1月	559	90	52	35	25	761
2月	428	94	24	31	10	587
3月	478	76	39	28	22	643
4月	468	92	45	34	19	658
5月	464	116	41	39	22	682
6月	437	105	50	24	13	629
7月	461	111	44	38	23	677
8月	516	107	64	36	26	749
9月	449	113	41	38	28	669
10月	440	110	35	42	23	650
11月	446	111	42	30	24	653
12月	505	137	49	29	17	737
合計	5,651	1,262	526	404	252	8,095



	件数	%
八尾	5,651	69.8%
東大阪	1,262	15.6%
平野	526	6.5%
柏原･羽曳野･藤井寺	404	5.0%
その他	252	3.1%
合計	8,095	100.0%

病　歴　統　計

―― 2019年 ――

1．科別退院患者数　18

2．死亡退院患者統計　19

3．疾病分類＜大分類＞科別　20

4．疾病分類＜中分類＞　21

1. 科別退院患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
内　科	288	278	295	337	283	268	285	279	242	250	237	276	3,318	276.5
男	167	156	160	164	156	141	165	156	130	143	145	159	1,842	153.5
女	121	122	135	173	127	127	120	123	112	107	92	117	1,476	123.0
循環器科	89	91	91	86	105	122	109	133	97	130	114	131	1,298	108.2
男	66	65	67	55	74	82	75	90	64	89	77	88	892	74.3
女	23	26	24	31	31	40	34	43	33	41	37	43	406	33.8
外　科	95	87	114	96	103	99	101	96	98	99	103	112	1,203	100.3
男	57	55	63	55	55	57	54	65	60	56	56	64	697	58.1
女	38	32	51	41	48	42	47	31	38	43	47	48	506	42.2
心臓外科	7	8	16	8	12	12	11	9	11	15	11	12	132	11.0
男	3	8	10	5	9	9	9	6	9	11	9	7	95	7.9
女	4	0	6	3	3	3	2	3	2	4	2	5	37	3.1
脳外科	55	40	58	71	50	45	56	66	58	60	67	74	700	58.3
男	31	25	30	32	31	19	29	37	36	38	30	46	384	32.0
女	24	15	28	39	19	26	27	29	22	22	37	28	316	26.3
整形外科	78	66	88	69	60	81	69	69	63	68	70	73	854	71.2
男	31	27	40	36	25	37	27	36	23	28	19	25	354	29.5
女	47	39	48	33	35	44	42	33	40	40	51	48	500	41.7
泌尿器科	35	33	43	34	38	41	42	38	31	49	36	46	466	38.8
男	27	27	33	26	25	34	34	25	18	37	25	32	343	28.6
女	8	6	10	8	13	7	8	13	13	12	11	14	123	10.3
形成外科	21	21	21	22	16	20	22	35	21	23	23	33	278	23.2
男	13	14	15	17	9	17	17	23	16	19	17	23	200	16.7
女	8	7	6	5	7	3	5	12	5	4	6	10	78	6.5
小児科	6	15	14	13	10	8	7	11	9	12	8	8	121	10.1
男	4	9	12	10	6	5	1	7	6	6	4	4	74	6.2
女	2	6	2	3	4	3	6	4	3	6	4	4	47	3.9
眼　科	57	55	45	32	33	38	43	43	43	33	35	38	495	41.3
男	27	22	18	9	13	16	20	20	11	7	10	14	187	15.6
女	30	33	27	23	20	22	23	23	32	26	25	24	308	25.7
耳鼻咽喉科	2	5	4	4	3	2	9	8	9	7	1	6	60	5.0
男	1	3	3	2	2	2	4	2	1	1	1	2	24	2.0
女	1	2	1	2	1	0	5	6	8	6	0	4	36	3.0
皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.1
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.1
女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
腎臓内科	14	11	11	7	12	6	10	7	11	8	12	9	118	9.8
男	8	8	6	6	6	4	4	3	10	4	6	4	69	5.8
女	6	3	5	1	6	2	6	4	1	4	6	5	49	4.1
口腔外科	43	40	44	41	47	56	47	48	51	44	44	55	560	46.7
男	16	23	17	19	18	26	18	18	25	23	23	24	250	20.8
女	27	17	27	22	29	30	29	30	26	21	21	31	310	25.8
肝臓外科	43	48	49	64	51	49	79	61	52	61	47	51	655	54.6
男	23	27	34	40	27	32	46	33	35	39	24	28	388	32.3
女	20	21	15	24	24	17	33	28	17	22	23	23	267	22.3
肝臓内科	7	11	9	3	7	11	13	14	10	5	10	10	110	9.2
男	4	11	8	2	5	6	7	10	4	2	7	7	73	6.1
女	3	0	1	1	2	5	6	4	6	3	3	3	37	3.1
小児外科	8	5	8	13	9	20	15	16	5	9	10	12	130	10.8
男	3	3	5	5	7	10	10	9	3	3	7	8	73	6.1
女	5	2	3	8	2	10	5	7	2	6	3	4	57	4.8
呼吸器外科	12	13	13	13	12	14	13	11	11	8	6	7	133	11.1
男	4	13	10	8	6	8	11	5	6	7	5	7	90	7.5
女	8	0	3	5	6	6	2	6	5	1	1	0	43	3.6
呼吸器内科	32	42	25	52	38	38	48	55	54	53	55	56	548	45.7
男	25	28	20	31	26	26	26	30	32	34	31	31	340	28.3
女	7	14	5	21	12	12	22	25	22	19	24	25	208	17.3
腫瘍内科	3	5	13	3	1	2	0	0	5	4	2	3	41	3.4
男	2	3	4	1	0	0	0	0	3	3	1	2	19	1.6
女	1	2	9	2	1	2	0	0	2	1	1	1	22	1.8
婦人科	13	13	15	15	14	14	13	11	10	17	12	12	159	13.3
合　計	908	887	976	983	904	946	992	1010	891	956	903	1,024	11,380	948.3
男	512	527	555	523	500	531	557	575	492	551	497	575	6,395	532.9
女	396	360	421	460	404	415	435	435	399	405	406	449	4,985	415.4

2. 死亡退院患者統計

《科別》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
内　科	54	56	34	40	42	39	39	47	37	39	31	39	497	41.4
男	36	28	16	18	25	24	24	27	29	26	17	26	296	24.7
女	18	28	18	22	17	15	15	20	8	13	14	13	201	16.8
外　科	4	4	8	11	6	3	1	7	3	2	4	4	57	4.8
男	2	2	5	5	2	1	1	3	1	2	4	3	31	2.6
女	2	2	3	6	4	2	0	4	2	0	0	1	26	2.2
心臓外科	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	4	0.3
男	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	3	0.3
女	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
脳外科	2	1	3	3	3	2	2	1	0	5	3	4	29	2.4
男	2	1	1	1	2	2	0	0	0	3	1	0	13	1.1
女	0	0	2	2	1	0	2	1	0	2	2	4	16	1.3
整形外科	1	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	1	6	0.5
男	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	4	0.3
女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0.2
泌尿器科	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	3	0.3
男	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	3	0.3
女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
形成外科	4	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	9	0.8
男	3	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	7	0.6
女	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.2
腫瘍内科	2	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0.7
男	1	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0.4
女	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0.3
肝臓外科	4	3	0	5	2	2	2	2	1	4	2	3	30	2.5
男	2	2	0	5	2	0	1	2	1	3	2	2	22	1.8
女	2	1	0	0	0	2	1	0	0	1	0	1	8	0.7
肝臓内科	2	0	0	0	0	2	2	2	0	1	1	0	10	0.8
男	1	0	0	0	0	2	2	2	0	1	1	0	9	0.8
女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.1
合　計	73	70	48	61	56	49	48	60	41	54	42	51	653	54.4
男	48	37	24	31	33	30	30	35	31	37	26	31	393	32.8
女	25	33	24	30	23	19	18	25	10	17	16	20	260	21.7

《疾病別》

悪性腫瘍	肺	56	転移癌	8	子宮	2	
	胃	16	胆のう	6	食道	2	
	膵臓	14	直腸	6	前立腺	2	
	肝臓	11	悪性リンパ腫	5	胆管	2	
	大腸	10	原発不明	2	その他	13	合　計　155
呼吸器系	誤嚥性肺炎	93	慢性閉塞性肺疾患	8	膿胸	2	
	肺炎	36	細菌性肺炎	7	その他	3	
	呼吸不全	27	肺炎球菌肺炎	3			
	間質性肺炎	25					合　計　204
循環器系	心不全	63	心肺停止	5	大動脈弁狭窄症	2	
	脳梗塞	14	急性心筋梗塞	4	肺高血圧症	2	
	脳出血	11	急性大動脈解離	3	不整脈	2	
	くも膜下出血	6	拡張型心筋症	3	その他	13	合　計　128
消化器系	肝不全	9	アルコール性肝硬変	2	腸穿孔	1	
	消化管出血	5	腸壊死	2	絞扼性イレウス	1	
	穿孔性腹膜炎	3	急性胆管炎	1	その他	3	合　計　27
その他の疾患	敗血症	36	腎不全	6	骨髄異形成症候群	2	
	多臓器不全	13	尿路感染症	6	CO2 ナルコーシス	1	
	慢性腎臓病	14	急性硬膜下血腫	3	壊死性筋膜炎	1	
	低酸素脳症	12	出血性ショック	3	窒息	1	
	老衰	12	パーキンソン病	2	その他	27	合　計　139

3. 疾病分類＜大分類＞科別

科別 / 疾病分類	内科	循環器科	外科	心臓外科	脳神経外科	整形外科	泌尿器科	形成外科	小児科	眼科	耳鼻咽喉科	皮膚科	腎臓内科	口腔外科	肝臓外科	肝臓内科	小児外科	呼吸器外科	呼吸器内科	腫瘍内科	婦人科	合計
感染症及び寄生虫（A00～B99）	170	2	20	0	0	0	0	0	26	0	3	0	4	1	8	8	2	1	28	3	0	276
新生物（C00～D48）	414	2	419	0	23	5	228	24	0	0	0	0	0	68	287	39	4	58	36	34	131	1,772
血液及び造血器の疾患ならびに免疫機構の障害（D50～D89）	29	1	10	1	2	0	2	0	1	0	0	0	0	0	2	1	0	0	2	0	0	51
内分泌・栄養及び代謝疾患（E00～E90）	252	1	5	1	3	0	0	17	16	0	0	0	4	0	5	1	0	0	7	0	1	313
精神及び行動の障害（F00～F99）	19	0	0	0	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	25
神経系の疾患（G00～G99）	153	2	1	1	104	5	0	3	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	278
眼及び付属器の疾患（H00～H59）	0	0	0	0	0	0	0	4	0	493	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	497
耳及び乳様突起の疾患（H60～H95）	43	1	0	0	0	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	69
循環器系の疾患（I00～I99）	491	1,236	9	125	440	1	1	39	1	0	0	0	2	0	8	3	0	2	30	0	0	2,388
呼吸器系の疾患（J00～J99）	852	22	21	2	0	3	1	1	60	1	24	0	2	2	4	1	7	54	384	0	0	1,441
消化器系の疾患（K00～K93）	371	3	652	0	1	2	2	2	1	0	0	0	4	431	314	49	84	0	3	0	0	1,919
皮膚及び皮下組織の疾患（L00～L99）	38	2	3	0	0	5	0	85	1	0	0	1	0	19	0	0	1	1	7	2	0	165
筋骨格系及び結合組織の疾患（M00～M99）	53	1	1	1	42	183	0	50	1	0	0	0	2	1	1	1	0	0	3	0	0	340
尿路性器系の疾患（N00～N99）	301	4	14	1	0	0	229	6	4	0	0	0	95	0	5	5	8	1	19	2	26	720
周産期に発生した病態（P00～P96）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
先天性奇形・変形及び染色体異常（Q00～Q99）	0	0	0	0	4	0	1	3	0	0	0	0	1	2	2	0	23	0	0	0	0	36
症状・徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの（R00～R99）	54	1	12	0	4	0	0	11	5	0	6	0	0	0	13	1	0	0	7	0	1	115
損傷・中毒及びその他の外因の影響（S00～T98）	78	19	36	0	74	650	2	33	2	1	0	0	4	36	7	1	1	16	15	0	0	975
健康状態に影響をおよぼす要因及び保健サービスの利用（Z00～Z99）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　　計	3,318	1,297	1,203	132	700	854	466	278	121	495	60	1	118	560	656	110	130	133	548	41	159	11,380

4. 疾病分類〈中分類〉

第1章 感染症および寄生虫症	276
A00-09 腸管感染症	125
A15-19 結核	10
A20-28 人蓄共通細菌性疾患	0
A30-49 その他の細菌性疾患	96
A50-64 主として性的伝播様式をとる感染症	0
A65-69 その他のスピロヘータ疾患	0
A70-74 クラミジアによるその他の疾患	0
A75-79 リッチケア症	1
A80-89 中枢神経系のウイルス感染症	8
A90-99 節足動物媒介ウイルス熱およびウイルス出血熱	0
B00-09 皮膚および粘膜病変を特徴とするウイルス感染症	6
B15-19 ウイルス肝炎	13
B20-24 ヒト免疫不全ウイルス〔HIV〕病	1
B25-34 その他のウイルス疾患	12
B35-49 真菌症	3
B50-64 原虫疾患	0
B65-83 ぜん＜蠕＞虫症	0
B85-89 シラミ症、ダニ症およびその他の動物寄生症	0
B90-94 感染症および寄生虫症の続発・後遺症	1
B95-97 細菌、ウイルスおよびその他の病原体	0
B99 その他の感染症	0
第2章 新生物	1,772
C00-14 口唇、口腔および咽頭	2
C15-26 消化器	725
C30-39 呼吸器および胸腔内臓器	257
C40-41 骨および関節軟骨	1
C43-44 皮膚	4
C45-49 中皮および軟部組織	16
C50 乳房	38
C51-58 女性生殖器	113
C60-63 男性生殖器	67
C64-68 尿路	151
C69-72 眼、脳および中枢神経系のその他の部位	8
C73-75 甲状腺およびその他の内分泌腺	8
C76-80 部位不明確、続発部位および部位不明の悪性新生物	95
C81-96 原発と記載されたまたは推定されたリンパ組織、造血組織および関連組織の悪性新生物	40
C97 独立した(原発性)多部位の悪性新生物	0
D00-09 上皮内新生物	4
D10-36 良性新生物	80
D37-48 性状不詳または不明の新生物	163
第3章 血液および造血器の疾患、免疫障害	51
D50-53 栄養性貧血	22
D55-59 溶血性貧血	1
D60-64 無形成性貧血およびその他の貧血	10
D65-69 凝固障害、紫斑病およびその他の出血性病態	8
D70-77 血液および造血器のその他の疾患	10
D80-89 免疫機構の障害	0
第4章 内分泌、栄養および代謝疾患	313
E00-07 甲状腺障害	4
E10-14 糖尿病	116
E15-16 その他のグルコース調節および膵内分泌障害	22
E20-35 その他の内分泌腺障害	15
E40-46 栄養失調(症)	10
E50-64 その他の栄養欠乏症	0
E65-68 肥満(症)およびその他の過栄養＜過剰摂食＞	4
E70-90 代謝障害	142

第5章 精神および行動の障害	25
F00-09 症状性を含む器質性精神障害	7
F10-19 精神作用物質使用による精神および行動の障害	12
F20-29 統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害	1
F30-39 気分〔感情〕障害	0
F40-48 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	5
F50-59 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	0
F60-69 成人の人格および行動の障害	0
F70-79 知的障害＜精神遅滞＞	0
F80-89 心理的発達の障害	0
F90-98 小児＜児童＞期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	0
F99 詳細不明の精神障害	0
第6章 神経系の疾患	278
G00-09 中枢神経系の炎症性疾患	5
G10-13 主に中枢神経系を障害する系統萎縮症	4
G20-26 錐体外路障害および異常運動	23
G30-32 神経系のその他の変性疾患	9
G35-37 中枢神経系の脱髄疾患	1
G40-47 挿間性および発作性障害	177
G50-59 神経、神経根および神経そう＜叢＞の障害	15
G60-64 多発(性)ニューロパチ＜シ＞ーおよびその他の末梢神経系の障害	2
G70-73 神経筋接合部および筋の疾患	4
G80-83 脳性麻痺およびその他の麻痺性症候群	0
G90-99 神経系のその他の障害	38
第7章 眼および付属器の疾患	497
H00-06 眼瞼、涙器および眼窩の障害	5
H10-13 結膜の障害	0
H15-22 強膜、角膜、虹彩および毛様体の障害	0
H25-28 水晶体の障害	449
H30-36 脈絡膜および網膜の障害	25
H40-42 緑内障	0
H43-45 硝子体および眼球の障害	18
H46-48 視神経および視(覚)路の障害	0
H49-52 眼筋、眼球運動、調節および屈折の障害	0
H53-54 視機能障害および盲＜失明＞	0
H55-59 眼および付属器のその他の障害	0
第8章 耳および乳様突起の疾患	69
H60-62 外耳疾患	0
H65-75 中耳および乳様突起の疾患	0
H80-83 内耳疾患	64
H90-95 耳のその他の障害	5
第9章 循環器系の疾患	2,388
I00-02 急性リウマチ熱	0
I05-09 慢性リウマチ性心疾患	4
I10-15 高血圧性疾患	7
I20-25 虚血性心疾患	928
I26-28 肺性心疾患および肺循環疾患	21
I30-52 その他の型の心疾患	551
I60-69 脳血管疾患	460
I70-79 動脈、細動脈および毛細血管の疾患	355
I80-89 静脈、リンパ管およびリンパ節の疾患、他に分類されないもの	54
I95-99 循環器系のその他および詳細不明の障害	8

4. 疾病分類〈中分類〉

第10章	呼吸器系の疾患	1,441	第15章	妊娠、分娩および産じょく＜褥＞	0
J00-06	急性上気道感染症	33	O00-08	流産に終わった妊娠	0
J10-18	インフルエンザおよび肺炎	485	O10-16	妊娠、分娩および産じょく＜褥＞における浮腫、たんぱく＜蛋白＞尿および高血圧性障害	0
J20-22	その他の急性下気道感染症	34			0
J30-39	上気道のその他の疾患	8	O20-29	主として妊娠に関連するその他の母体障害	0
J40-47	慢性下気道疾患	179	O30-48	胎児および羊膜腔に関連する母体ケアならびに予想される分娩の諸問題	0
J60-70	外的因子による肺疾患	450			0
J80-84	主として間質を障害するその他の呼吸器疾患	119	O60-75	分娩の合併症	0
J85-86	下気道の化膿性およびえ＜壊＞死性病態	30	O80-84	分娩	0
J90-94	胸膜のその他の疾患	72	O85-92	主として産じょく＜褥＞に関連する合併症	0
J95-99	呼吸器系のその他の疾患	31	O95-99	その他の産科的病態、他に分類されないもの	0
第11章	消化器系の疾患	1,919	第16章	周産期に発生した病態	0
K00-14	口腔、唾液腺および顎の疾患	435	P00-04	母体側要因ならびに妊娠および分娩の合併症により影響を受けた胎児および新生児	0
K20-31	食道、胃および十二指腸の疾患	111			
K35-38	虫垂の疾患	114	P05-08	妊娠期間および胎児発育に関連する障害	0
K40-46	ヘルニア	209	P10-15	出産外傷	0
K50-52	非感染性腸炎および非感染性大腸炎	9	P20-29	周産期に特異的な呼吸障害および心血管障害	0
K55-64	腸のその他の疾患	387	P35-39	周産期に特異的な感染症	0
K65-67	腹膜の疾患	22	P50-61	胎児および新生児の出血性障害および血液障害	0
K70-77	肝疾患	104	P70-74	胎児および新生児に特異的な一過性の内分泌障害および代謝障害	0
K80-87	胆のう＜嚢＞、胆管および膵の障害	479			
K90-93	消化管系のその他の疾患	49	P75-78	胎児および新生児の消化器系障害	0
第12章	皮膚および皮下組織の疾患	165	P80-83	胎児および新生児の外皮および体温調節に関連する病態	0
L00-08	皮膚および皮下組織の感染症	89			
L10-14	水疱症	0	P90-96	周産期に発生したその他の障害	0
L20-30	皮膚炎および湿疹	1	第17章	先天奇形、変形および染色体異常	36
L40-45	丘疹落せつ＜屑＞＜りんせつ＜鱗屑＞＞性障害	0	Q00-07	神経系の先天性奇形	0
L50-54	じんま＜蕁麻＞疹および紅斑	2	Q10-18	眼、耳、顔面および頚部の先天性奇形	1
L55-59	皮膚および皮下組織の放射線(非電離および電離)に関する障害	0	Q20-28	循環器系の先天性奇形	4
			Q30-34	呼吸器系の先天性奇形	0
L60-75	皮膚付属器の障害	1	Q35-37	唇裂および口蓋裂	0
L80-99	皮膚および皮下組織のその他の障害	72	Q38-45	消化器系のその他の先天奇形	5
第13章	筋骨格系および結合組織の疾患	340	Q50-56	性器の先天奇形	17
M00-03	感染性関節障害	3	Q60-64	尿路系の先天奇形	2
M05-14	炎症性多発性関節障害	27	Q65-79	筋骨格系の先天奇形および変形	4
M15-19	関節症	62	Q80-89	その他の先天奇形	3
M20-25	その他の関節障害	4	Q90-99	染色体異常、他に分類されないもの	0
M30-36	全身性結合組織障害	20	第18章	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	115
M40-43	変形性脊柱障害	8			
M45-49	脊椎障害	92	R00-09	循環器系および呼吸器系に関する症状および徴候	20
M50-54	その他の脊柱障害	35	R10-19	消化器系および腹部に関する症状および徴候	21
M60-63	筋障害	9	R20-23	皮膚および皮下組織に関する症状および徴候	1
M65-68	滑膜および腱の障害	3	R25-29	神経系および筋骨格系に関する症状および徴候	3
M70-79	その他の軟部組織障害	23	R30-39	腎尿路系に関する症状および徴候	1
M80-85	骨の密度および構造の障害	9	R40-46	認識、知覚、情緒状態および行動に関する症状および徴候	14
M86-90	その他の骨障害	40			
M91-94	軟骨障害	0	R47-49	言語および音声に関する症状および徴候	0
M95-99	筋骨格系および結合組織のその他の障害	5	R50-69	全身症状および徴候	52
第14章	腎尿路生殖器系の疾患	720	R70-79	血液検査の異常所見、診断名の記載がないもの	2
N00-08	糸球体疾患	17	R80-82	尿検査の異常所見、診断名の記載がないもの	0
N10-16	腎尿細管間質性疾患	164	R83-89	その他の体液、検体＜材料＞および組織の検査の異常所見、診断名の記載がないもの	0
N17-19	腎不全	151			
N20-23	尿路結石症	159	R90-94	画像診断および機能検査における異常所見、診断名の記載がないもの	1
N25-29	腎および尿管のその他の障害	5			
N30-39	尿路系のその他の疾患	150	R95-99	診断名不明確および原因不明の死亡	0
N40-51	男性生殖器の疾患	38			
N60-64	乳房の障害	0			
N70-77	女性骨盤臓器の炎症性疾患	4			
N80-98	女性性器の非炎症性障害	32			
N99	腎尿路生殖器系のその他の障害	0			

4. 疾病分類〈中分類〉

第19章	損傷、中毒およびその他の外因の影響	975
S00-09	頭部損傷	129
S10-19	頚部損傷	14
S20-29	胸部＜郭＞損傷	49
S30-39	腹部、下背部、腰椎および骨盤部の損傷	77
S40-49	肩および上腕の損傷	99
S50-59	肘および前腕の損傷	139
S60-69	手首および手の損傷	21
S70-79	股関節部および大腿の損傷	177
S80-89	膝および下腿の損傷	94
S90-99	足首および足の損傷	19
T00-07	多部位の損傷	9
T08-14	部位不明の体幹もしくは(四)肢の損傷または部位不明の損傷	5
T15-19	自然開口部からの異物侵入の作用	6
T20-32	熱傷および腐食	6
T33-35	凍傷	0
T36-50	薬物、薬剤および生物学的製剤による中毒	14
T51-65	薬用を主としない物質の毒作用	2
T66-78	外因のその他および詳細不明の作用	40
T79	外傷の早期合併症	0
T80-88	外科的および内科的ケアの合併症、他に分類されないもの	72
T90-98	損傷、中毒およびその他の外因による影響の続発・後遺症	3
第20章	傷病および死亡の外因	0
V01-99	交通事故	0
W00-X59	不慮の損傷のその他の外因	0
X60-84	故意の自傷および自殺	0
X85-Y09	加害にもとづく傷害および死亡	0
Y10-34	不慮か故意か決定されない事件	0
Y35-36	法的介入および戦争行為	0
Y40-84	内科的および外科的ケアの合併症	0
Y85-89	傷病および死亡の外因の続発・後遺症	0
Y90-98	他に分類される傷病および死亡の原因に関係する補助的因子	0
第21章	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	0
Z00-13	検査および診査のための保健サービスの利用者	0
Z20-29	伝染病に関連する健康傷害をきたす恐れのある者	0
Z30-39	生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者	0
Z40-54	特定の処置および保健ケアのための保健サービスの利用者	0
Z55-65	社会経済的環境および社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者	0
Z70-76	その他の環境下での保健サービスの利用者	0
Z80-99	家族歴、既往歴および健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者	0

診　療　部

―― 2019年 ――

1 ）内　　科　26
2 ）循環器内科（カテーテル部門）　33
3 ）消化器内科　34
4 ）呼吸器内科　35
5 ）腫 瘍 内 科　36
6 ）血管透析科　38
7 ）腎 臓 内 科　41
8 ）糖尿病・代謝内科　42
9 ）脳神経内科　44
10）内分泌内科　45
11）膠原病リウマチ内科　47
12）小　児　科　49
13）放 射 線 科（診療部）　51
14）救　急　科　52
15）外　　科　54
16）整 形 外 科　56
17）脳神経外科　59
18）心臓血管外科・大動脈センター　61
19）形成外科・美容外科　63
20）呼吸器外科　65
21）小 児 外 科　66
22）歯科・歯科口腔外科　69
23）泌 尿 器 科　71
24）眼　　科　73
25）麻　酔　科　75
26）肝臓センター　76
27）皮　膚　科　79
28）婦　人　科　80
29）耳鼻咽喉科　82
30）リハビリテーション科（診療部）　83
31）病理診断科　84

1）内　科

病院長　原田　博雅

1. 概要

2019 年も内科の課題は内科診療体制の維持でした。外来入院患者様を診ていくための必要医師数の確保が難しく、外来の一部は非常勤医師に御願いせざるを得ない状態が続いています。

その中で、4 月より北田先生が呼吸器内科、佐久間先生が内科に加わり、綾田先生が循環器内科に復帰され、7 月より中島先生が消化器内科に赴任されました。更に 2020 年 1 月より金山先生が消化器内科で働いていただいています。

初期研修体制として、内科全体で内科研修を行っています。卒後 2 年目の研修医として秋森・大西・高橋・古川・野口の各先生が研修を修了しています。

また卒後 1 年目の研修医として、安・糸井・松岡・本吉・百田の各先生方が研修を修了しています。

総合診療の後期研修医として、星ヶ丘医療センターのプログラムの一環で、井原拾得先生が 6 ヶ月間、小原僚一先生が 3 ヶ月間、当院で内科と救急の研修を修了しています。

2. メンバー構成

循環器	福田貢（総長）、松尾浩志（部長）、綾田健士（医長）
呼吸器	原田博雅（院長）、石原英樹（副院長）、北田清悟（部長）、濱口眞成（医長）
消化器	浅野耕吉（部長）、杉田博二（医長）中島ひろみ、金山裕一
内分泌	山本智英（顧問）
糖尿病・代謝	石橋里江子（部長）、植田秀樹
腫瘍	瓜生恭章（部長）
神経	辰己新水（部長）
腎臓	森ちさこ
総合内科	髙原良典（医長）、小原太郎、佐久間純

3. 実績

《退院患者数》

◎内　科

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
426	427	435	485	439	436	452	474	409	445	420	475	5,323

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病 代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管 大動脈セ　61
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

1.感染症および寄生虫症（A00-B99）

疾　　病	件	疾　　病	件
敗血症	52	髄膜炎	7
（グラム陰性菌）	(5)	（ウイルス性）	(5)
（グラム陽性菌）	(4)	（結核性）	(2)
（MRSA）	(2)	ウイルス感染症	5
腸炎	50	帯状疱疹	3
（細菌性）	(16)	C型肝硬変	2
（感染性）	(9)	ウイルス性脳炎	2
（ウイルス性）	(2)	ノカルジア症	2
胃腸炎	32	レジオネラ症	2
（感染性）	(11)	急性肝炎	2
（細菌性）	(1)	孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病	1
細菌感染症	19	伝染性単核症	1
非結核性抗酸菌症	13	肺真菌症	1
肺結核	8	その他	5
（後遺症）	(1)	合　計	207

2.新生物（C00-C97）※術後・再発・化学療法を含む

疾　　病	件	疾　　病	件
肺	211	肝臓	7
胃	60	胆管	5
悪性リンパ腫	25	前立腺	4
結腸	19	胆のう	4
転移癌	19	骨髄腫	3
（胸膜）	(8)	尿管	3
（骨）	(6)	原発不明	2
（腹膜）	(3)	腎臓	2
（肝）	(1)	卵巣	2
膵臓	14	急性骨髄性白血病	1
悪性中皮腫	12	神経線維肉腫	1
食道	12	舌	1
直腸	11	その他	10
乳	11	合　計	439

◎上皮内・良性・性状不詳または不明の新生物（D00-D48）

〈良性腫瘍〉　　〈性状不詳・不明〉

疾　　病	件	疾　　病	件
結腸腺腫	15	骨髄異形成症候群	8
胃腺腫	4	結腸腫瘍	3
直腸腺腫	2	肺腫瘍	3
		直腸腫瘍	2
		胃腫瘍	1
		その他	9
合　計	21	合　計	26

3.血液および造血器の疾患、免疫障害（D50-D89）

疾　　病	件	疾　　病	件
貧血症	16	悪性貧血	2
（鉄欠乏性）	(10)	亜急性組織球性壊死性リンパ節炎	1
（急性失血性）	(4)	特発性血小板減少性紫斑病	1
血小板減少症	3	播種性血管内凝固症候群	1
巨赤芽球性貧血	3	その他	2
好中球減少症	21	合　計	50

4.内分泌、栄養および代謝疾患（E00-E90）

疾　　病	件	疾　　病	件
Ⅰ型糖尿病	7	低血糖発作	13
（ケトアシドーシス）	(4)	栄養失調	8
（腎合併症）	(1)	低アルブミン血症	7
（末梢循環合併症）	(1)	低血糖昏睡	7
Ⅱ型糖尿病	91	栄養障害	4
（その他の合併症）	(22)	高カリウム血症	4
（多発合併症）	(16)	高アンモニア血症	3
（腎合併症）	(9)	クッシング症候群	2
（ケトアシドーシス）	(8)	ケトアシドーシス	2
（昏睡）	(4)	下垂体機能低下症	2
（眼合併症）	(3)	高カルシウム血症	2
（神経学的合併症）	(1)	副腎クリーゼ	2
脱水症	49	バセドウ病	1
低ナトリウム血症	34	その他	7
低カリウム血症	19	合　計	264

5.精神および行動の障害（F00-F99）

疾　　病	件	疾　　病	件
急性アルコール中毒	6	解離性障害	1
アルコール依存症	5	不安神経症	1
認知症	5		
過換気症候群	2	合　計	20

6.神経系の疾患（G00-G99）

疾　　病	件	疾　　病	件
睡眠時無呼吸症候群	75	神経調整性失神	2
（検査入院）	(44)	進行性核上性麻痺	2
てんかん	22	肋間神経痛	2
パーキンソン病	15	IgG4関連肥厚性硬膜炎	1
低酸素性脳症	9	トロサ・ハント症候群	1
アルツハイマー型認知症	6	一過性脳虚血発作	1
パーキンソン症候群	3	自立神経障害	1
筋萎縮性側索硬化症	3	脊髄硬膜外膿瘍	1
重症筋無力症	3	不眠症	1
ミオクローヌス	2	その他	8
細菌性髄膜炎	2	合　計	160

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病 代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管 大動脈セ　61
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

7.耳および乳様突起の疾患(H60-H95)

疾　　病	件	疾　　病	件
めまい症	33	前庭神経炎	7
(末梢性)	(17)	メニエール病	4
(良性発作性頭位)	(9)	突発性難聴	1
(回転性)	(6)		
(中枢性)	(1)	合　計	45

8.循環器系の疾患(I00-I99)※検査入院を含む

◎心血管

疾　　病	件	疾　　病	件
狭心症	656	大動脈弁	13
(不安定)	(242)	(狭窄症)	(11)
(労作性)	(32)	(閉鎖不全症)	(2)
(冠攣縮性)	(7)	無症候性心筋虚血	9
心不全	419	高血圧症	6
(うっ血性)	(395)	心室頻拍	6
(慢性)	(16)	虚血性心疾患	5
(急性)	(8)	アダムス・ストークス症候群	4
冠状動脈硬化症	120	起立性低血圧症	4
急性心筋梗塞	86	洞不全症候群	4
(前壁)	(39)	一過性低血圧症	3
(下壁)	(37)	感染性心内膜炎	3
(側壁)	(7)	心タンポナーデ	3
陳旧性心筋梗塞	34	肺高血圧症	3
心房細動	18	蘇生に成功した心停止	3
房室ブロック	18	心室期外収縮	2
心筋症	15	急性心膜炎	1
(たこつぼ型)	(8)	低心拍出量症候群	1
(拡張型)	(3)	不整脈	1
(肥大型)	(3)	その他	6
肺塞栓症	14	合　計	1,457

◎脳血管

疾　　病	件	疾　　病	件
脳梗塞	23	脳出血	10
(その他)	(8)	(後遺症)	(1)
(血栓性)	(4)	可逆性後白質脳症症候群	1
(塞栓性)	(3)	高血圧性脳症	1
(後遺症)	(1)	合　計	35

◎その他の血管

疾　　病	件	疾　　病	件
下肢閉塞性動脈硬化症	217	毛細血管拡張症	2
深部静脈血栓症	16	胃静脈瘤出血	1
食道静脈瘤	13	下肢うっ滞性皮膚炎	1
(破裂)	(3)	仮性動脈瘤	1
重症虚血肢	7	その他	5
急性大動脈解離	4	合　計	267

9.呼吸器系の疾患（J00-J99）

疾　　病	件	疾　　病	件
誤嚥性肺炎	428	気管支炎	23
肺炎・病原体不明	273	（急性）	（18）
（気管支）	（160）	膿胸	18
（大葉性）	（6）	自然気胸	14
（閉塞性）	（4）	胸水貯留	13
間質性肺炎	113	気管支拡張症	10
細菌性肺炎	88	肺気腫	10
（連鎖球菌）	（10）	インフルエンザ肺炎	9
（マイコプラズマ）	（7）	肺水腫	5
（MRSA）	（5）	肺膿瘍	4
（肺炎桿菌）	（2）	急性呼吸窮迫症候群	3
（緑膿菌）	（1）	ウイルス性肺炎	2
慢性閉塞性肺疾患	83	過敏性肺炎	2
気管支喘息	52	急性上気道炎	2
（発作）	（24）	急性扁桃炎	2
インフルエンザ	47	塵肺症	1
肺炎連鎖球菌による肺炎	29	その他	5
呼吸不全（急性・慢性）	24	合　計	1,260

10.消化器系の疾患（K00-K93）

◎食道、胃、十二指腸

疾　　病	件	疾　　病	件
逆流性食道炎	10	胃潰瘍	41
食道裂孔ヘルニア	4	（出血性）	（26）
マロリ・ワイス症候群	4	（急性）	（14）
食道狭窄	1	胃炎	6
食道潰瘍	1	胃・十二指腸ポリープ	3
十二指腸潰瘍	11	急性胃拡張	1
（出血性）	（7）	機能性ディスペプシア	1
（急性）	（3）	その他	2
十二指腸狭窄症	1	合　計	86

◎その他の腸疾患

疾　　病	件	疾　　病	件
腸憩室疾患	57	痔核	4
大腸ポリープ	32	直腸ポリープ	4
消化管出血	25	直腸潰瘍	3
虚血性腸炎	14	腸穿孔	2
潰瘍性大腸炎	5	S状結腸軸捻転	1
放射線直腸炎	5	その他	5
急性腹膜炎	4	合　計	161

◎肝疾患

疾　　病	件	疾　　病	件
アルコール性肝疾患	19	肝膿瘍	3
（肝硬変）	（10）	肝機能障害	2
（肝炎）	（8）	原発性胆汁性胆管炎	1
（肝不全）	（1）	薬物性肝障害	1
肝硬変症	9		
感染性肝のう胞	3	合　計	38

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病 代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管 大動脈セ　61
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

◎胆嚢、胆管、膵

疾　　病	件	疾　　病	件
総胆管結石	39	急性膵炎	19
（胆管炎を伴う）	(8)	（胆石を伴う）	(2)
（胆のう炎を伴う）	(1)	（アルコール性）	(1)
急性胆管炎	20	慢性膵炎	13
急性胆のう炎	3	（アルコール性）	(3)
慢性胆のう炎	1	仮性膵のう胞	1
		合　計	96

11.皮膚および皮下組織の疾患（L00-L99）

疾　　病	件	疾　　病	件
蜂窩織炎	36	皮膚潰瘍	2
急性リンパ節炎	3	褥瘡感染	2
じんま疹	2	その他	3
背部膿瘍	2	合　計	50

12.筋骨格系および結合祖組織の疾患（M00-M99）

疾　　病	件	疾　　病	件
偽痛風	9	関節リウマチ	3
横紋筋融解症	7	脊柱管狭窄症	3
リウマチ性多発筋痛	6	関節リウマチ性間質性肺炎	2
顕微鏡的多発血管炎	4	関節炎	2
痛風	4	グッドパスチャー症候群	1
ANCA関連血管炎	3	その他	12
壊死性筋膜炎	3	合　計	59

13.腎尿路生殖器系の疾患（N00-N99）

疾　　病	件	疾　　病	件
尿路感染症	130	急速進行性糸球体腎炎	3
急性腎盂腎炎	126	糖尿病性腎症	3
慢性腎臓病	121	結石性腎盂腎炎	2
急性腎不全	20	骨盤内炎症性疾患	1
ネフローゼ症候群	5	その他	6
腎機能低下	4	合　計	421

14.先天性奇形、変形および染色体異常（Q00-Q99）

疾　　病	件
常染色体優性多発性のう胞腎	1
合　計	1

15.症状、徴候および以上臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの（R00-R99）

疾　　病	件	疾　　病	件
食欲不振	10	出血性ショック	2
老衰	9	喀血	2
不明熱	7	痙攣	2
意識障害	4	高尿酸血症	1
嘔吐症	4	全身倦怠感	1
肺胞出血	3	尿閉	1
CO2ナルコーシス	2	その他	10
下肢脱力感	2	合　計	60

16.損傷、中毒およびその他の外因の影響（S00-T98）

疾　　病	件	疾　　病	件
ペースメーカー電池消耗	20	頭部打撲・挫創	4
アナフィラキシー	14	CAPD感染	2
急性薬物中毒	14	腰部打撲傷	2
熱中症	12	溺水	2
低体温	7	肋骨骨折	2
透析シャント閉塞	7	術後血腫	1
脊椎圧迫骨折	6	その他	19
窒息	6	合　計	118

4. 今後の目標

今後も内科各科医師の採用を図り、より充実した内科診療を目指します。内科後期研修制度に対応した教育病院として、教育体制をさらに整備する予定です。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病 代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管 大動脈セ　61
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

2）循環器内科（カテーテル部門）

循環器内科部長　松尾　浩志

1. 概要

循環器内科は常に救急医療においても重要な役割を担っています。24 時間 365 日救急対応可能にするためオンコール体制を整えております。

当院の特徴としては、昨今若手のみで治療が増えてきていますが当院は常に上級医による治療の体制となっており治療の質を高く維持しようとしております。

また、昨今増加している下肢閉塞性動脈硬化症に対しても積極的に診療治療を施行しております。下肢壊疽や潰瘍といった重症虚血肢に対しては当院には形成外科による創傷治療センターがあり協力しながら診療にあたっております。

現在、当院は冠動脈に対する治療だけでなく下肢動脈に対する治療に関しても大阪有数の施設になっております。そして高度石灰化症例に対する特殊な治療器具を用いた治療に関しては全国でも有数の施設となっております。

部長の松尾に関しては海外での治療、指導の依頼も多数あり国際交流もある診療科です。

2. メンバー構成

福田貢（総長）・松尾浩志（循環器内科部長）・綾田健士（循環器内科医長）

迫田慎一郎（非常勤）

3. 実績

	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
総合カテ件数	1,209	978	943	1,199	1,728
PCI	463	362	313	458	662
末梢血管 EVT	226	150	164	192	307
ペースメーカー	29	38	32	117	187
ロータブレーター	50	25	23	88	171

4. 今後の目標

若手を集め、より地域医療に貢献出来るようにしていきたいと考えております。常に質の高い医療を提供できるように努めて参ります。

3）消化器内科

消化器内科部長　浅野　耕吉

1. 概要

当院は、日本消化器内視鏡学会専門医指導施設です。

当院内視鏡室では上部消化管検査を施行しており、腺腫性病変や早期癌に対しては内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を積極的に行っています。止血術、その他食道・胃静脈瘤硬化療法、異物除去、狭窄部バルーン拡張や閉塞に対するステント留置など各種治療、その他胃ろう造設（PEG）を行っています。

下部消化管内視鏡検査では止血術、大腸腺腫性病変に対しては色素内視鏡・拡大内視鏡で診断を行い、検査中にポリープが見つかれば、その場でポリペクトミー・内視鏡的粘膜切除術（EMR）を施行してポリープ切除を行っています。一括切除できない病変に対しては、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を行っています。

胆･膵系では、閉塞性黄疸や化膿性胆管炎などに対し内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）、超音波内視鏡（EUS）、FNA 関連手技（EUS-FNA、EUS-CPN）を安全に施行しています。

内視鏡室では、日本消化器内視鏡学会ガイドラインを遵守したスコープの洗浄・消毒履歴管理を行う事により、安全なスコープを使用しての検査・治療を行っています。処置具に関しても同上のガイドラインを遵守し、安全な検査治療が行えるよう努めています。

2. メンバー構成

部長　浅野　耕吉

医長　杉田　博二　　日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会専門医、
日本消化器内視鏡学会専門医

医員　中島　ひろみ　日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会専門医、
日本消化器内視鏡学会専門医、日本超音波医学会専門医、
日本ヘリコバクター学会感染症認定医

医員　金山　裕一

3. 実績（検査・治療実績）

症例	件数
上部消化管内視鏡検査	5,808
上部・下部消化管粘膜下層剥離術	83
下部消化管内視鏡検査	2,706
下部消化管粘膜切除術（ポリペクトミー）	586
内視鏡的逆行性胆道膵管造影	328
超音波内視鏡	120
FNA 関連手技	40

4. 今後の目標

鎮静剤を使用するなど、苦痛のより少ない検査を目指し、色素内視鏡や NBI（狭帯域観察）を使用し、早期癌の発見に努めていきます。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管大動脈セ　61
形成外科美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

4）呼吸器内科

副院長　石原　英樹

1. 概要

当院にはこれまでも呼吸器内科常勤医は常に在籍状態にあったのですが、呼吸器内科として正式に標榜するようになったのは 2016 年 4 月からとなります。肺癌に関しては腫瘍内科が診療の中心になるので、当科では主に肺癌以外の呼吸器疾患（COPD、間質性肺炎など）を診療しています。それに加えて、呼吸リハビリテーションチームとして、院内の呼吸管理のコンサルト業務もおこなっています。2018 年 4 月からは濱口眞成医師、2019 年 4 月から北田清吾医師が加わり、マンパワー的にも充実しつつあります。北田医師の加入に伴い、抗酸菌症の診療も充実しつつあります。

また、呼吸器内科・人工呼吸領域での学会活動も積極的におこなっています。

2. メンバー構成

院長	原田博雅	日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会呼吸器専門医 日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器病学会指導医・専門医
副院長	石原英樹	日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医
部長	北田清悟	日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医
医員	濵口眞成	日本内科学会総合内科認定内科医

3. 実績

《外来診療患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
451	343	440	497	556	292	544	482	532	622	542	533	5,834

4. 今後の目標

現在中河内地区で呼吸器内科を標榜している病院はほとんどないのが現状です。今後これらの地域を含めた呼吸器診療の一助になれるよう努力していく所存です。

5）腫瘍内科

腫瘍内科部長　瓜生恭章

1. 概要

2015 年 4 月に当院に腫瘍内科が開設され、昨年前任の洪医師が退職、非常勤医師となったため、一部の血液腫瘍（リンパ腫）の治療が減少し、戦力は低下したと考えられます。当科は肺がんの占める割合が高く、腫瘍内科本来の臓器横断的な薬物療法ができていないのが現状でありますが、消化器･呼吸器外科、肝臓センター、泌尿器科などの先生方に協力していただき、治療を行っています。

一方、当院には抗がん剤に精通したがん専門薬剤師が 3 名、及びがん薬物療法認定看護師 1 名が在籍しており、皆の協力のもと質の高い治療を行っております。

2. メンバー構成

部長

瓜生　恭章　資格／日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医
日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医
専門分野／各種固形がん（肺がん、乳がん、胃がん、膵臓がんなど）

非常勤医師

洪　鉉寿　資格／日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医
日本内科学会総合内科専門医、日本消化器病学会専門医
日本血液学会専門医
専門分野／各種固形がん（肺がん､大腸がん､胃がん､悪性リンパ腫､多発性骨髄腫など）

副部長（薬剤部兼任、臨床腫瘍センター専任副部長）

南野　智志　資格／日本医療薬学会がん専門薬剤師
専門分野／臨床薬理学

副薬局長（薬剤部兼任）

草薙　みか　資格／日本医療薬学会がん専門薬剤師
専門分野／臨床薬理学

副主任（薬剤部兼任）

山本　倫数　資格／日本医療薬学会がん専門薬剤師
専門分野／臨床薬理学

副主任（看護部兼任）

苗代　啓子　資格／がん薬物療法認定看護師
専門分野／がん看護

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病 代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管 大動脈セ　61
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

3. 実績

《外来診療患者数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
195	182	173	212	178	185	175	165	154	188	171	195	2,173

4. 今後の目標

市中病院でも標準治療を行えるように今後も努力していきます。

がん薬物療法を受ける患者様が安心して加療をできる環境を維持していきます。

6）血管透析科

透析センター長　申　勝

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管大動脈セ　61
形成外科美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

1. 概要

2019 年は､常勤医師 2 名･非常勤医師 5 名 の診療体制となっています。また､看護師(11 名)、薬剤師 (兼任 3 名)、臨床工学技士 (兼任 4 名)、管理栄養士 (兼任 3 名)、医事課の透析スタッフが、入院と通院を合わせて約 110 名の透析患者様の対応をさせて頂いています。

センター関連の総入院患者数は継続して増加の方向にあり、昨年のべ 851 例の内訳は男：女 = 2.6：1、平均年齢：71.8 歳、糖尿病有病率：59.1%、年間救急搬送率：31.8%（271 件）でした。特に 75 歳以上の後期高齢者は、総入院患者数の 47.7%と約半数を占め、救急搬送率：39.2%と高値を示しました。内科系：外科系 = 2.9：1 と、内科系入院が全体の 74.4%と増加しました。

2012 年 4 月より当院においても CAPD 外来が開設され、2019 年 12 月末までに 53 名の方が腹膜透析を開始されました。12 月末時点で他施設の通院患者を除く 11 名が、当院を通院し腹膜透析を継続されています。

経年的集計より透析センター関連での入院患者数と緊急透析数の増加を認めており、重症度に適合した対応をしています。2016 年より風水害対策としての地域防災連携協議会を当院でも開き、臨床工学技士を中心に多職種チームとして活動しています。万一の災害時には、迅速に広域的に展開していく方針です。

2. メンバー構成

透析センター診療担当医師

循環器診療担当：福田　貢（循環器内科）
糖尿病診療担当：植田秀樹（糖尿病内科）
血液透析主担当：申　　勝（血管･透析内科）
腹膜透析主担当：森ちさこ（腎臓･免疫内科）
集中治療室担当：石原英樹（呼吸器内科）
病棟管理主担当：小原太郎（総合･腎不全科）
透析室支援担当：三浦秀信（泌尿器科非常勤）
腎移植外来担当：未登録（2020年3月1日 時点）

3. 実績

《透析センター月別患者数》（2019 年）

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
透析患者数（月平均）	81.8	90.3	88.8	92.6	91.0	92.9	95.5	87.3	82.4	81.0	79.6	90.7	1,053.9	87.8
新入院数	102	58	68	66	57	73	84	65	55	76	69	78	851	70.9
新規導入数	9	3	2	2	2	3	6	2	3	2	6	3	43	3.6
CAPD開始数	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	1	0	5	0.4
シャント手術数	6	2	3	6	4	1	2	1	4	2	2	7	40	3.3
PDカテ留置数	0	0	1	0	1	0	0	1	2	0	0	0	5	0.4
死亡者数	6	2	2	2	1	1	6	6	2	2	2	2	34	2.8

注 1：透析患者数には、当院への通院患者を含みます。新規導入数には、PD 患者も含みます。
注 2：新入院数は透析ｾﾝﾀｰに紹介された患者の総数であり、腎不全患者なども含みます。
注 3：死亡者数は、腎代替療法を行い透析患者登録されたことのある患者の総死亡数です。

《診療科別入院透析患者数（のべ人数)》(2019 年)

内科系	総合内科	呼吸器	循環器	消化器	肝臓	腎臓(CAPD)	膠原病リウマチ	糖尿病代謝	血管(その他)	合計
科別人数	122	60	307	27	2	106	0	9	0	633

外科系	脳神経	呼吸器	心臓血管	消化器	肝臓	泌尿器	整形(リウマチ)	眼・耳・歯	形成(末梢)	合計
科別人数	16	0	20	31	18	16	23	23	71	218

注 4：複数科にまたがる場合は、入院時の主診療科にて登録しました。

《年齢別入院分類表》

	20 歳～65 歳未満の入院患者様（～20歳の入院なし） 211名(24.8%)	65 歳～75 歳未満の入院患者様（前期高齢者） 234名(27.5%)	75 歳以上の入院患者様（後期高齢者） 406名(47.7%)	透析センターに紹介された全ての入院患者様を対象（外来 or 紹介） 851名(100.0%)
男女比(男:女)	3.1：1	3.6：1	2.0：1	2.6：1
平均年齢	54.9歳	69.8歳	81.7歳	71.8歳
救急搬送率	21.8%	28.2%	39.2%	31.8%
糖尿病の有病率	61.1%	67.9%	53.0%	59.1%
ICU の入室率	8.5%	14.5%	16.3%	13.9%
緊急透析の有無	1.9%	6.4%	5.4%	4.8%
入院中 手術あり	29.4%	32.1%	23.4%	27.3%
入院中 カテあり	37.9%	37.2%	29.8%	33.8%
死亡率入院時から一週間(168時間)	3.3%	3.4%	5.2%	4.2%

《年齢血液浄化表》

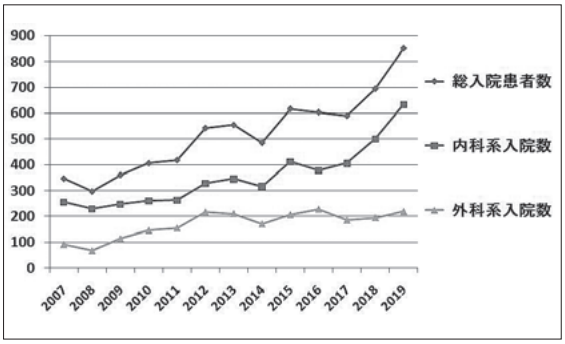
	20 歳～65 歳未満の入院患者様（～20歳の入院なし） 211名	65 歳～75 歳未満の入院患者様（前期高齢者） 234名	75 歳以上の入院患者様（後期高齢者） 406名	透析センターに紹介された入院患者様(全体)を対象(外来 or 紹介) 合計851名
緊急HD(初回時)	3	7	9	計19件
緊急CHDF(初回時)	1	8	13	計22件
CHDFの年間全件数(緊急/ICU/術後etc.)	6	16	37	計59件(のべ477回)
エンドトキシン吸着療法(PMX-DHP)	1	0	11	計12件(のべ17回)
血漿交換(PE)	0	0	0	計0件(のべ0回)
ビリルビン吸着療法	0	0	0	計0件(のべ0回)
LDLアフェレーシス	0	2	1	計3件(のべ18回)
血球吸着療法(LCAP、GCAP)	1	0	0	計1件(のべ4回)

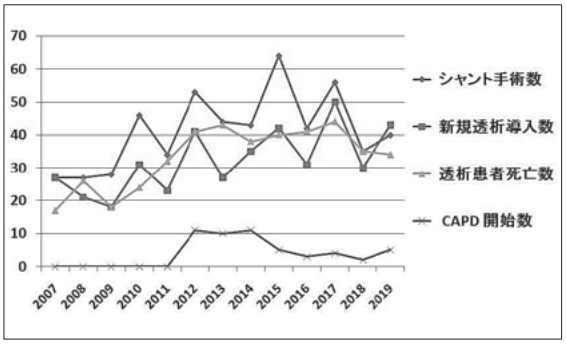
《病院全体での比較》

	病院全体での 年間入院患者様 （医事課の集計より） 10,811名（100%）	病院全体の年間 救急搬送後入院 （病院全体の29.5%） 3,189名（100%）	透析センター関連の 年間入院患者様 （病院全体の6.4%） 695名（100%）	透析センター関連の 年間救急搬送後入院 （病院全体の2.3%） 243名（100%）
男女比（男：女）	1.29：1	1.15：1	2.58：1	2.01：1
平均年齢（歳）	69.1歳	77.5歳	71.8歳	75.2歳
内科系入院数	5,909名（51.8%）	2,243名（66.0%）	633名（74.4%）	220名（81.2%）
外科系入院数	5,491名（48.2%）	1,154名（34.0%）	218名（25.6%）	51名（18.8%）

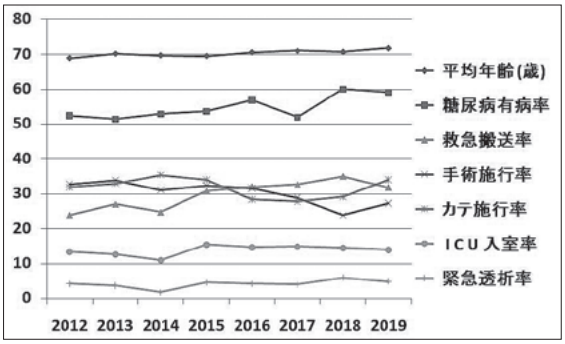
【病院救急搬送数】　年間 8,095 件（月平均 675 件）

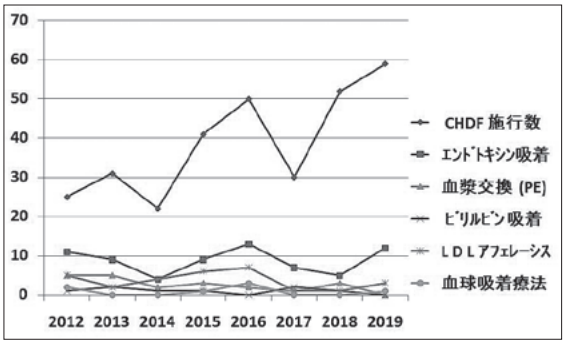
《透析年報グラフ》





《入院 - 浄化 - グラフ》





《週間当番表》

透析室 待機表	月	火	水	木	金	土
午前	申	森	申	森	申	福田
午後	申	申	申	森	申	三浦
休日	申 （福田）	申 （福田）	申 （福田）	森 （甲）	申 （森）	申 （三浦）

4. 今後の目標

近隣の先生方の御指導のもと、他施設および他診療科と協力して、より高度な集学的治療および看護を提供できるように更に整備して参ります。また、地域の腎不全患者様の新規透析導入・入院加療・災害対策の総合施設としての役割を担えるよう、スタッフ一同協力し引き続き努力していく所存です。今後とも宜しくお願い申し上げます。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病 代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管 大動脈セ　61
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

7）腎臓内科

腎臓内科　森 ちさこ

1. 概要

2017 年 4 月から常勤医として働いています。2017 年 11 月より、前任の今田聰雄先生の患者様も引き継ぎ診させていただいています。腎炎、糖尿病性腎症などの腎不全を診ています。ご紹介をいただければ、予約なしでも可能なかぎり当日診させていただきます。

当院の最大の特色は腹膜透析の導入・施行をしていることです。透析に至らないことが目標ですが、残念ながら腎不全に至った場合でも療法選択をすることができます。

2. メンバー構成

森ちさこ　日本内科学会認定医・日本透析学会専門医

外来診察日　火曜（午前）・木曜（午後）・金曜（午前）

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
123	101	134	115	134	112	122	123	122	123	127	126	1,462

単位：人

4. 今後の目標

近年の傾向として、糖尿病性腎症を主とした腎不全の患者様、高齢、独居の患者様が増えています。透析にならないことが最大の目標ですが、腎不全に至った場合でも、腹膜透析・血液透析・移植と 3 つの治療法を提案していきたいと思います。慢性疾患であるため、患者様の希望・意志を最優先に考えて診察させていただきたいと思っています。

8）糖尿病・代謝内科

糖尿病・代謝内科部長　石橋　里江子

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病 代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管 大動脈セ　61
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

1. 概要

2019 年も糖尿病の急性合併症管理から慢性期療養指導、そして予防対策まで幅広く活動しました。救急搬送を多数受け入れる当院では、重症合併症に至るまで糖尿病に気付かなかった、あるいは治療を中断していたというケースに少なからず遭遇します。糖尿病は慢性期において患者様自身で療養を行う疾患ですので、医療者側が患者様を自立に導いていかなくてはなりません。急増する糖尿病に対応するために、より一層の地域連携と質の高い情報発信が求められています。

4 月より病棟の糖尿病患者様を対象に週 1 回の糖尿病ケアチームラウンドをスタートさせました。チームスタッフが互いに情報を共有し、個々に適した治療について議論を深めています。また、学会活動にも各スタッフが自発的に参加し、活発な討論を通じて診療の質の向上を目指しています。

世界糖尿病デーの院内啓発活動である「世界糖尿病デー in YAOTOKU」は 2017 年から毎年 11 月 14 日に開催しております。お蔭様で 2019 年には第 3 回目を開催することができ、参加者は 230 名を数えました。ご協力下さった方々にこの場を借りて感謝申し上げます。前年までの経験と反省を活かし、これからも効果的な予防活動を展開していきたいと考えています。

2. メンバー構成（糖尿病ケアチーム）　＊＊日本糖尿病学会専門医　＊糖尿病療養指導士

【常勤医師】　石橋里江子＊＊（部長）　髙原良典（総合内科医長）　植田秀樹＊＊
【保健師】　酒井菜穂子＊　藤井安希子　由留木千恵　大谷康仁
【管理栄養士】　佐藤友亮　藤田春菜　岸本真悠　古澤千波
【理学療法士】　服部玄徳＊　中田智里　雪井美穂
【薬剤師】　坂野千賀＊　森田亜記＊　栗野大輔＊　堀村光佐＊　草野早紀　角北美幸
【臨床検査技師】　高津美乃里＊　大前裕也　小林正弥
【臨床心理士】　八島麻美子
【看護師】　西田愛希　田中聖佳
【クラーク】　中井彩貴
【医事課】　近岡理加

3. 実績

・糖尿病外来延べ件数　7,987件/年
・糖尿病入院担当件数　主科104件/年　他科入院糖尿病管理313件/年
・糖尿病教室　（毎月公開医療講座として実施）

月	テーマ	担当	講師	参加人数
1	糖尿病と歯周病	歯科医師	占部一彦	38
	血糖値　測ってみよう、考えてみよう	薬剤師	坂野千賀	35
2	食事療法の基本とアルコール、外食	管理栄養士	藤田春菜	36
	糖尿病ストレスチェック	臨床心理士	八島麻美子	36
3	社会資源の活用法	医療ソーシャルワーカー	三谷勇一	31
	糖尿病合併症　動脈硬化性疾患	臨床検査技師	大前裕也	31
4	糖尿病の治療目標	糖尿病内科医師	石橋里江子	37
	食事療法の基本	管理栄養士	古澤千波	37
5	糖尿病の薬について～内服編～	薬剤師	堀村光佐	32
	運動療法のススメ	理学療法士	服部玄徳	33
6	糖尿病神経障害と腎症	糖尿病内科医師	植田秀樹	30
	はじめようフットケア	保健師	由留木千恵	30
7	糖尿病網膜症	眼科医師	布谷健太郎	23
	糖尿病とこころ	臨床心理士	八島麻美子	23
8	糖尿病性腎症の食事療法について	管理栄養士	佐藤友亮	27
	災害時に備えて	保健師	酒井菜穂子	27
9	有酸素運動について	理学療法士	服部玄徳	29
	糖尿病の薬について～注射編～	薬剤師	栗野大輔	27
10	糖尿病と動脈硬化性疾患	糖尿病内科医師	石橋里江子	26
	糖尿病の検査データの見方	臨床検査技師	小林正弥	26
11	年末年始の過ごし方	管理栄養士	岸本真悠	16
	目標体重を目指しましょう	保健師	酒井菜穂子	16
12	糖尿病と医療費	医事課	川上祐理	16
	簡単！自重トレーニング	理学療法士	服部玄徳	16

・第 3 回 「世界糖尿病デー in YAOTOKU」 参加者 230 名

活動内容	担当	件数
ワンポイント減量アドバイス	保健師	14
糖尿病川柳	臨床心理士	13
専門医の相談コーナー	医師	12
クイズラリー	看護師	44
InBody･個別運動指導	理学療法士	52
血糖測定	薬剤師	44
食育SATシステム	管理栄養士	15
血管年齢測定	臨床検査技師	41
啓蒙ポケットティッシュ･チラシ配布	医事課	500

4. 今後の目標

・紹介ならびに逆紹介、講演会を通じた病診連携の推進

・学会活動への積極的な参加

・チーム全体が生き生きと働ける職場環境の実現

9）脳神経内科

脳神経内科部長　辰己　新水

1. 概要

脳神経内科疾患全般を扱っております。

2. メンバー構成

常　勤：辰己新水　日本内科学会総合内科専門医
　　日本神経学会神経内科専門医

非常勤：武田景敏
　　渡辺徹也

3. 実績

主要な疾患は、下記の通りです。（辰己医師、2018 年 1 月～ 2019 年 12 月の期間の新規登録患者）

疾患カテゴリー	症例数	疾患カテゴリー	症例数
神経変性疾患	49	筋疾患	1
感染性神経疾患	9	神経筋接合部疾患	2
代謝・中毒性神経障害	23	末梢神経障害（脳神経障害を含む）	8
てんかん・けいれん	29		

4. 今後の目標

常勤医一人の体制でご迷惑をおかけするかもしれません。今後ともどうかよろしくお願いいたします。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病 代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管 大動脈セ　61
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

10）内分泌内科

内分泌内科　顧問　山本智英

1. 概要

内分泌が取り扱う疾患の多くは、内分泌器官に発生した癌を除き罹患内分泌臓器に直接関係する症状に乏しい。例えば副腎不全例で、副腎が腫れている、副腎が痛むなどの訴えは皆無であり、その臓器が分泌するホルモンによる他の臓器系に対する影響により診断されることが多く、診断に至る key word を掴むことが難しい。一昨年、昨年に引き続き、新患として診断、治療を開始した例の多くは甲状腺、副腎、下垂体疾患であり、その他種々の内分泌、代謝異常症であった。

今年は症例数と症例の種類が多く、診断と処置の裏付けのため内外のガイドラインを調べることが多く、大変勉強になった。

2. メンバー構成

山本　智英　日本内分泌学会会員

3. 実績

a) 新患　209 例

疾患	例数
甲状腺結節(嚢胞を含む)	26
不顕性副腎不全	18
単純性甲状腺腫または腺腫様甲状腺腫	17
橋本病(euthyroid)	15
橋本病(hypothyroid)	12
バセドウ病	8
甲状腺腫大疑い→否定	8
無痛性甲状腺炎	7
原発性アルドステロン症(疑いを含む)	5
尿崩症	4
偶発性副腎腫瘍	4
ACTH欠損症	4
偶発性副腎腫瘍	4
副甲状腺機能亢進症	3
起立性低血圧症(自律神経障害による)	2

その他、汎下垂体前葉不全症、クッシング病疑い、プランマー病、アジソン病、高サイログロブリン血症、高中性脂肪血症、女性科乳房、乳汁漏は各 1 例ずつ。

b） 紹介元、院外（紹介状あり）55 例、院外（ドック、学校検診の所見持参）12 例、院外（ドック、学校検診の所見せず）9 件、院内紹介 42 件、紹介状なし　15 件。

c） 内分泌負荷試験

Head-up tilt test および Schellong 試験（能動的起立試験）	20 件
低用量コートロシン試験	16 件
CRH 試験	4 件
精密糖負荷試験	3 件
CRH,TRH,GRF,LH-RH 混合負荷試験	1 件
宵越しデキサメサゾン抑制試験	1 件

4. 今年の目標

2018 年～ 2019 年も中河内地区の先生方より診断、治療に難渋する多数の症例を紹介していただき有難うございました。今後も引き続き内分泌、代謝異常疾患、更に全く捉えどころがなく診断、治療に難渋されている疾患治療のお役に立ちたいと思います。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病 代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管 大動脈セ　61
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

11）膠原病リウマチ内科

膠原病リウマチ内科　吉崎　和幸

1. 概要

2008 年 5 月に発足した診療科で、12 年が経過しました。内科疾患の中で、特に関節リウマチと全身性エリテマトーデスの様な膠原病・リウマチ疾患を中心に診療しています。その他、血管炎症症候群やベーチェット病、免疫不全症、キャッスルマン病、更に不明熱も診療しています。診断が困難な患者様もご紹介下さい。

2. メンバー構成

本診療科は医師のみならず、薬剤師や看護師、CRC、理学療法士、そして医事課職員のチーム連携によって緻密な治療を包括的に行っています。患者様に「安心して生命をまかせられる医療」を提供しています。このため患者様は担当医に対し、信頼して医療を受けて下さっています。

診療担当医と外来診療日

吉崎和幸（非常勤）　：水曜日（午前 9：00 － 12：00）

真鍋侑資（非常勤）　：水曜日（午前 9：00 － 12：00）

葛谷憲太郎（非常勤）：金曜日（午前 9：00 － 12：00）

3. 実績

年月を経るごとに患者数が増加し、周辺医療機関にもその存在が定着しています（表 1）。膠原病リウマチ内科は、生物学的製剤治療を含めた先端医療を行っております。その結果、より高度で有効な治療を推進し、著しい治療効果が認められています。患者数の満足度は高く、安全性にも十分配慮しているので、患者様のほぼ全員が安心して本院での治療を継続しています。現時点で、生物学的製剤治療を行っている患者数や治療内容を（表 2）に示しています。安全性の裏付けとして、当院における救急体制の充実が大きく貢献しています。

現在、膠原病・リウマチ診療においては、東大阪、八尾、柏原地域の中心的診療病院として活動しております。このため、大阪市内の病院あるいは大学病院に通院していた患者様が当院に受診するようになっております。

4. 今後の目標

「免疫介入治療センター（仮称）」は原田病院長の援助のもと八尾徳洲会総合病院をはじめ、神戸、吹田徳洲会病院にも分室を設立し、徳洲会病院組織の共通治療センターとして展開しようと努力しています。八尾・神戸・吹田徳洲会病院合同の勉強会を開き、共通医療が出来る体制の構築を予定しております。

Tokushukai General Hospital

《表１　外来診療患者数》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
2010年	133	124	137	163	120	153	188	151	182	164	171	156	1,842	153.5
2011年	176	161	209	170	173	194	182	186	194	171	183	179	2,178	181.5
2012年	194	194	182	196	198	181	203	213	161	193	195	169	2,279	189.9
2013年	213	228	250	248	263	256	291	216	266	252	271	252	3,006	250.5
2014年	192	167	200	186	204	175	191	209	173	240	186	210	2,333	194.4
2015年	204	200	186	196	202	208	238	204	237	214	203	175	2,467	205.6
2016年	210	212	240	227	221	223	230	206	217	192	206	235	2,619	218.3
2017年	205	210	229	235	228	225	215	229	263	244	249	281	2,813	234.4
2018年	275	245	287	244	279	264	258	272	268	285	278	252	3,207	267.3
2019年	259	243	257	250	258	241	295	284	260	318	252	286	3,203	266.9

《表２　生物学的製剤治療患者数》

生物学的製剤	疾患名	治療患者数									
		2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
アクテムラ	関節リウマチ	13	17	24	29	34	39	43	41	39	41
	キャッスルマン病	4	3	3	4	4	5	4	6	6	6
	多発性筋炎	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
エンブレル	関節リウマチ	2	3	1	9	5	5	7	0	5	3
レミケード	関節リウマチ	2	3	3	9	9	8	10	9	10	3
	強直性脊椎炎	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
	クローン病	2	2	7	8	9	11	13	0	7	0
	ベーチェット病	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0
オレンシア	関節リウマチ		0	0	0	0	0	0	2	4	0
ヒューミラ	関節リウマチ		0	0	3	3	0	0	0	0	0
	ベーチェット病		0	0	0	0	1	1	1	2	1
	潰瘍性大腸炎		0	0	0	0	4	3	0	4	0
合　計		24	31	39	62	64	73	82	60	78	55

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管大動脈セ　61
形成外科美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

12）小児科

小児科部長　石垣　早知子

1. 概要

今年も常勤医１人体制で継続診療中です。小児科としては多職種連携と情報交換の為に月１回院内小児科委員会を開催し、種々の問題に対応し最新の小児科情報を共有しています。

また大阪府発達障がい支援対応登録施設に昨年から登録しています。アレルギー学会準教育登録施設としてもアレルギーの勉強のできる対応を心がけ、当院でアレルギー専門医が取得できるようになっております。

2. メンバー構成

一般外来の他、発達とアレルギー、心身症等について石垣は月曜から土曜まで外来を行い併存疾患への対応も心がけています。アレルギー学会専門医や子どもの心の相談医、ICD（感染対策）等の資格を取得し、多岐にわたる患者様の診療を続け、入院患者様も受け入れています。

また大阪医科大学より診療の援助を頂いています。月曜は松村先生（一般小児と小児腎外来と午後予防接種も担当)、木曜は新田先生、金曜は清水先生（毎週午前一般小児と小児循環器を主に第1、3金曜午後)、土曜は小武内先生（女性医師)、小児神経も土曜ほぼ毎週七里先生が担当しています。神原先生は火曜・水曜の午後、木曜の夕診に主に心身症と発達心理等の予約診療を行い、東先生は月１回木曜の心身症の予約診療をしています。予防接種は月曜午後と木曜夕診に行っています。金曜午後に乳児健診も行っています。

3. 実績

小児関連では他科との交流も盛んで、特に虫垂炎疑いなどの小児外科疾患については互いに連携しています。石垣は成人アレルギー疾患も含めて舌下免疫療法登録施設で登録医として診療の他、アレルギー相談を中心として診療を行っています。さらに稀少疾患の１つであるファブリ病の方には、酵素補充療法を行っており、今後もそのノウハウは生かせるものと考え、補充療法施設にも登録しています。

入院の受け入れは肺炎など一般疾患が中心ですが、時には心身症などの疾患も入院の上、加療を行っています。また引き続き医療だけでなく各種ケアも行っています。小児の言語発達遅滞など発達障害に対して言語聴覚士（ST）が評価および訓練を行っており、また小児心療内科として、臨床心理士２名（八島先生、朴先生）がカウンセリングや心理治療を行っています。昨年から大阪府発達障がい支援施設の登録施設になったこともあり以前より成人の発達に対応しているリハビリ科とも連携しています。

小児科外来横には八尾市の委託事業でもあるモコモコ病児保育室があり、保育師とともに外来看護師が、看病できない保護者に代わって子どもたち（病児）のケアを年間1,000人以上受け入れています。院内の看護師、医師、コメディカルの就業支援にも役立っていますが、広く開放し育児支援の役割も担っています。参加している全国病児保育協議会は広く病児のために啓蒙活動しています。

ほかに石垣はリハビリテーション専門学校に小児科関連の講義に求めに応じて出張するなど

地域の小児科関連での活動援助を行っています。

大阪健康安全基盤研究所（旧大阪公衆衛生研究所）と府、国の感染対策の連携も取り、感染症の定点報告機関としての役割を果たしています。中河内地区として、八尾市のみならず東大阪市や柏原市とも連携しています。環境感染学会など感染症関連学会にも所属し、ICD としても感染対策室とで新型インフルエンザ訓練などの院内外の感染対策に寄与しています。他に院内外の講習会で講演を行っています。徳洲会病院としても小児科部会として全国で交流し症例報告や外部からの講演会も行われています。

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
1,048	882	1,011	922	855	827	825	838	763	1,008	1,082	1,060	11,121

4. 今後の目標

今後も小児の心身の健康と成長に必要な小児診療を発展させ、新しい情報を保護者様たちの為にも役立てたいと考えています。

内　科 26
循環器内 33
消化器内 34
呼吸器内 35
腫瘍内科 36
血管透析 38
腎臓内科 41
糖尿病 代謝内科 42
脳神経内 44
内分泌内 45
膠原リウ 47
小児科 49
放射診科 51
救急科 52
外　科 54
整形外科 56
脳神経外 59
心臓血管 大動脈セ 61
形成外科 美容外科 63
呼吸器外 65
小児外科 66
歯　科 歯科口腔 69
泌尿器科 71
眼　科 73
麻酔科 75
肝臓セン 76
皮膚科 79
婦人科 80
耳鼻咽喉 82
リハビリ 83
病理診断 84

13）放射線科（診療部）

放射線科医長　兵藤　公一

1. 概要

放射線科では、CT、MRI、RI、消化管造影、マンモグラフィーと一部の単純 X 線写真の読影、一部の消化管造影の施行、腹部四肢の血管造影と IVR、放射線治療を主として担当しています。各診療科や近隣の病院、診療所と連携して、各種画像診断、IVR や放射線治療を迅速かつ適切・正確に実施することに努めています。

スタッフの教育は、専門医会主催のミッドウィンターセミナー、ミッドサマーセミナーや各種学会、研究会に積極的に参加し、最新の知識、技術を習得するように努めています。

2. メンバー構成

画像診断・IVR 部門：常勤医 3 名（岩崎聖、兵藤公一、日高輝之）、非常勤医 10 名。
放射線治療部門：常勤医 1 名（梶谷千香枝）、非常勤医 2 名。
上記のうち、診断専門医 10 名、IVR 専門医 2 名、治療専門医 3 名、検診マンモグラフィー読影認定医 4 名（従事 2 名）

3. 実績

① CT, MR, RI, GI の読影件数 約 30,000 件 / 年
年度・月により大きく変動がありますが、全体では毎年次増加傾向です。
② IVR 件数（日本 IVR 学会登録件数）125 件 / 年
このほかの IVR 関連手技が 70 件 / 年
③放射線治療（新患人数）113 人 / 年

4. 今後の目標

画像診断・IVR 部門では、常勤医のみならず、非常勤医や遠隔画像診断の協力体制もさらに強化しつつ、迅速な検査実施と、正確な読影に努めていく所存です。昨年は頭腹部血管造影装置（DSA）が更新され、徳洲会グループで初となるバイプレーン・コーンビーム（CBCT）＋ IVR-CT が導入されました。これにより従来より少ない被曝で鮮明な画像を観察できるようになっただけでなく、血管および穿刺ナビゲーション機能を使って、より安全に高度な IVR が実施できることを期待しています。

また昨年末に X 線透視装置が更新されフラットパネル検出器となり、低被曝・高精度な検査に貢献しています。今後は、マンモグラフィー、CT、MR 装置等の更新を進め、さらに診断精度の向上を図りたいと思っています。

放射線治療部門では、2014 年 1 月から常勤の放射線治療専門医 1 名体制で行っていますが、引き続き大学からの応援と遠隔システムを利用し、安全で有効な放射線治療を各診療科と協力して遂行していきます。放射線技師や看護師などスタッフのさらなる充実と研修を行い、より高度な放射線治療も実施できるよう、体制を整えていきたいと考えています。

日本医学放射線学会専門医修練機関、IVR 学会専門医修練施設に認定されており、研修医の教育にも力を入れていきたいと考えています。

14）救急科

救急総合診療部医長　阿部　祐子

1. 概要

当院は、415 床の急性期病院として、年間 7,000 ～ 8,000 件の主に中河内地区を中心とした救急搬送を受け入れており、年々件数は増加している。

救急総合診療部は、当院方針である「断らない医療の実践」のため、24 時間を通して対応できる体制をとっている。

また、近隣施設より病診連携室経由で急性期疾患を紹介いただき、救急搬送される場合は当科を窓口に受け入れ、積極的に初期対応を行っている。

2. メンバー構成

阿部　祐子　救急総合診療部医長

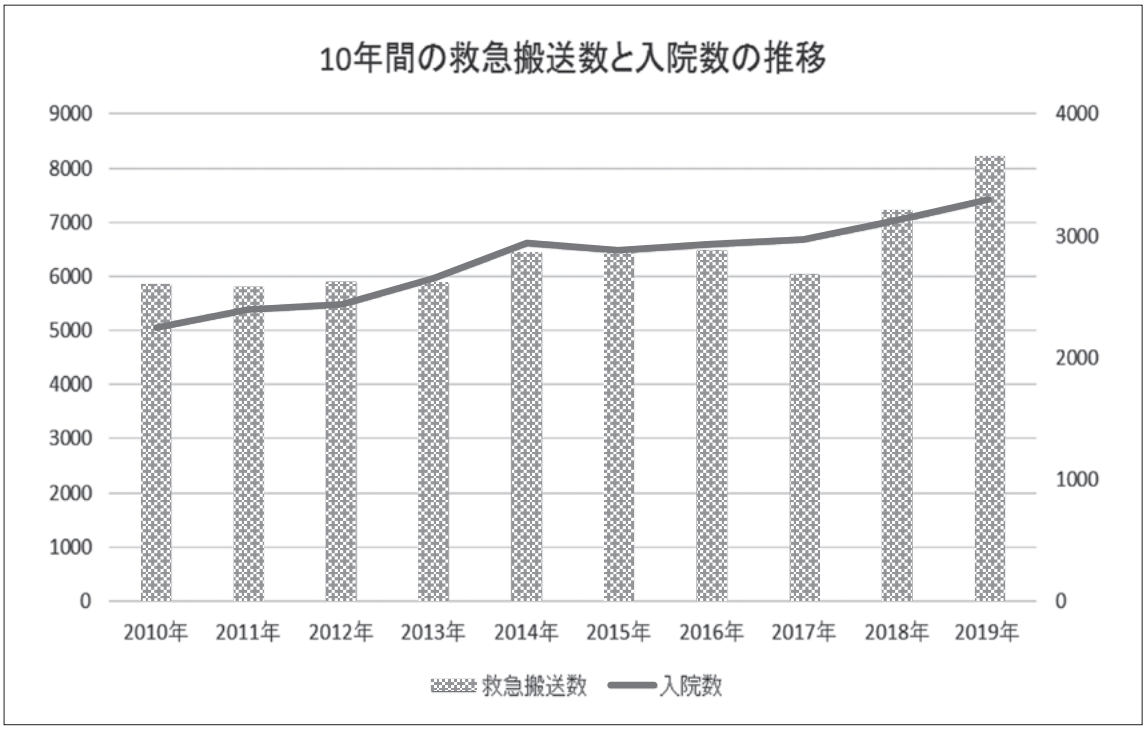
ICLS インストラクター、ABLS インストラクター

3. 実績

救急搬送数は年々増加傾向にあるが、今年は 8,000 件を超える搬送数となっている。

入院数も増加しているが、割合としては昨年と変わらず 40％程度である。

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
救急搬送数	5,847	5,799	5,899	5,879	6,431	6,423	6,468	6,025	7,223	8,199
入院数	2,251	2,395	2,434	2,649	2,936	2,874	2,927	2,974	3,125	3,302



内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病 代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管 大動脈セ　61
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

月別搬送件数においても増加傾向にあり、例年通り年末年始が多いが、今年はそれ以上に８月搬送数が増加しており、熱中症または猛暑による併発疾患が増えたと考えられる。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2017年	552	438	465	498	466	491	542	531	495	481	493	573
2018年	628	522	556	538	537	538	649	657	625	613	654	706
2019年	759	576	640	655	679	630	685	876	668	651	650	730

4. 今後の目標

本年も昨年同様、「断らない医療の実践」を目標に、医療ガイドラインに沿った安全、安心の医療を提供するとともに、初期研修病院として研修医の育成に励みたい。

また年々救急搬送件数が増加傾向にあり、救急医の確保もおこなっていきたい。

15）外　科

外科部長　村上　修

1. 概要

激動の一年でした。消化管を中心に甲状腺乳腺ヘルニア、緊急手術などが多く低侵襲手術を積極的に行ってきました。高齢化社会の中で基礎疾患のあるリスクの高い悪性腫瘍の患者が増加してきている印象でした。低侵襲治療として経肛門内視鏡手術の導入、手術合併症対策、緩和ケア､化学療法等含めた個別化医療をすすめてきました。地域中核病院として社会への貢献、手術件数はやや増加傾向となっております。女性医師が 2 人加わり、厚みのある外科診療ができるようになってきました。常勤医が不在であった徳之島離島応援を夏から当病院で継続しております。他科とも連携して、教育にも力を入れ個人とチームのさらなるレベルアップをすすめていきたいと思います。

2. メンバー構成

村上　修　（部長）／日本外科学会専門医
遠藤　幸丈（部長）／日本外科学会専門医
豊田　亮　（医長）／日本外科学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医
垣本　佳士（医長）／日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、
日本がん治療認定医療機構認定医
大田　修平（医長）／日本外科学会専門医、ACLS・BLS プロバイダー、
Diploma in Tropical Medicine
松岡　信子／日本外科学会専門医、日本救急医学会、救命専門医、
JATEC インストラクター、JPTEC プロバイダー、
ITLS プロバイダー、MCLS プロバイダー
堤　　綾乃／日本外科学会専門医、日本がん治療認定医療機構認定医
服部　彬　（専攻医）
友池　力　（後期研修医）

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病 代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管 大動脈セ　61
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

3. 実績

《外科手術件数》

	2018年	2019年
食道	6	6
胃切除・胃全摘（腹腔鏡下）	28	31
胃切除・胃全摘（開腹）	18	20
腹腔鏡下胆摘（四孔式）	193	214
腹腔鏡下胆摘（単孔式）	1	1
膵頭十二指腸切除	18	12
膵体尾部切除	6	6
肝切除	45	34
虫垂切除（腹腔鏡下）	82	69
虫垂切除（開腹）	9	3
結腸切除（腹腔鏡下）	59	70
結腸切除（開腹）	16	27
直腸切除・切断（腹腔鏡下）	50	46
直腸切除・切断（開腹）	18	14
ソケイ部ヘルニア修復（腹腔鏡）	128	105
ソケイ部ヘルニア修復（鼠径部切開）	22	17
肛門疾患（内痔核硬化療法等）	56	49
乳房腫瘤，乳癌	12	23
その他	365	408
呼吸器外科	109	100
手術件数	1,241	1,255

《徳之島での手術症例数　39 例》

大腸癌	3
人口肛門造設	3
腹腔鏡下胆嚢摘出術	10
腹腔鏡下中垂切除術	6
鼠径ヘルニア修復術（前方・腹腔鏡）	2 ～ 3
腹壁瘢痕ヘルニア根治術	3
痔核	4
気管切開	3
下肢静脈瘤	2

4. 今後の目標

患者の利益のため QOL 向上のために正しい手術、周術期管理を丁寧に行っていきます。そして、救急疾患をはじめ癌の包括的な治療まで地域医療の充実のために外科医としての責務を果たしていきます。

また、個々に成長することも目標とし、学会活動も積極的に行っていきます。

16）整形外科

整形外科部長　當麻　俊彦

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管大動脈セ　61
形成外科美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

1. 概要

スタッフ 4 名で日々の整形外科診療にあたっております。外来は午前診が毎日、夕診は週 2 日（火・木）の 2 診体制で行っております。整形外科当直を行い、救急診療科と連携して 365 日 24 時間体制で整形外科救急疾患の受け入れを、また、麻酔科の協力を得て緊急手術の受け入れ態勢を整えております。入院されました患者様は 44 床の整形外科病棟（6 階西）で治療にあたっております。

スタッフ人員減にともないパワーダウンは否めませんが、手術件数は 2019 年は年間 911 件でした。骨折・外傷疾患の手術が多く、中でも高齢者の骨折手術が多くみられ、合併症を持つ患者様もできるだけ受傷前の状態に回復できるように院内他科、および近隣の回復期リハビリ病院様の協力も得て手術治療を行っております。また、人工関節手術は年間 62 例（股関節 17 例、膝関節 45 例）、脊椎外科手術は 98 例の手術をこなし、安定した成績をあげております。土肥医師の入職により、手外科症例も増加傾向にあります。

また、患者様のニーズに応えるべく専門外来も開設しております。長谷川が骨粗鬆症外来（毎週木曜日 10:00 ～ 12:00）を、當麻は脊椎外来（毎週木曜日 10:00 ～ 12:00、予約制）を担当しております。

2. メンバー構成

顧問	長谷川　潔	専門：人工関節外科、骨粗鬆症
診療部長	當麻　俊彦	専門：脊椎外科、災害医療
医長	土肥　義浩	専門：手外科
医長	三木　秀賢	専門：人工関節外科

3. 実績

《手術件数》

分野	各手術	コメント	件数
脊椎	頚椎後方	形成術、除圧術、ヘルニア摘出術	5
		固定	3
	頚椎前方	除圧	1
		固定	1
	胸腰椎後方	形成術、除圧術、ヘルニア摘出術	42
		固定（椎体間固定、後側方固定）	38
	胸腰椎前方	除圧	0
		固定	0
	胸腰椎（前方+後方）	前方+後方同時手術	0
	脊椎腫瘍手術		0
	脊椎外傷手術		0
	抜鋼術		2
	その他の手術	BKP、感染など	6

分野	各手術	コメント	件数
骨盤	骨盤骨折観血的整復固定術		1
	抜鋼術		0
	その他の手術		0
股関節、大腿骨	大腿骨頸部骨折　観血的整復固定術	内側骨折・転子間骨折など	76
	大腿骨頸部骨折　人工骨頭置換術	人工骨頭	61
	大腿骨骨幹部骨折観血的整復固定術		41
	人工股関節置換術（初回 THA）	初回例です	17
	人工関節・骨接合材料の抜去病巣郭清術	病巣郭清	0
	人工股関節置換術（再置換術）	再置換例です	0
	臼蓋形成術 (Shelf, Chiari, RAO など)		0
	小児股関節脱臼手術		0
	抜鋼術		3
	その他の手術		8
膝関節、下腿骨	膝関節周辺骨折（膝蓋骨も含む）	膝蓋骨骨折	9
	下腿骨骨折観血的手術		16
	人工膝関節置換術（初回 TKA）	初回例です	36
	人工膝関節置換術（再置換術）	再置換例です	9
	人工関節・骨接合材料の抜去病巣郭清術	病巣郭清	0
	関節鏡（簡単なもの）	検査を主体とするもの	0
	関節鏡（複雑なもの）	半月板・滑膜切除など	0
	靭帯再建術（鏡下も含む）	陳旧例に対する再建術	0
	高位脛骨骨切り術		0
	抜鋼術		18
	その他の手術		1
足関節、足部	足関節周辺骨折観血的整復固定術	踵骨骨折も含む	38
	足趾骨折観血的整復固定術		1
	人工足関節置換術		0
	足関節固定術		0
	足関節滑膜切除術		0
	アキレス腱縫合術		5
	足関節周辺靱帯縫合 , 再建術		1
	外反母趾手術		0
	足趾関節形成術	(外反母趾を除く)	0
	先天奇形手術		0
	内反足手術		0
	抜鋼術		22
	その他の手術		0
鎖骨、肩関節	鎖骨・肩鎖関節周辺外傷に関する手術	骨折と靱帯損傷の修復手術	38
上腕	上腕骨頚部骨折観血的整復固定術	骨接合術	10
	上腕骨骨折観血的整復固定術	頚部骨折以外の症例	26
	人工肩関節置換術		0
	肩板断裂手術		0
	反復性脱臼手術		2
	抜鋼術		31
	その他の手術		3

分野	各手術	コメント	件数
肘関節、前腕 7	1　肘関節周辺骨折観血的整復固定術	Montegia 骨折を含む	14
	2　前腕骨骨折観血的整復固定術		18
	3　肘関節滑膜切除術，関節形成術		1
	4　人工肘関節置換術		0
	5　抜鋼術		16
	6　その他の手術		9
手関節、手 8	1　手関節周辺の観血的整復固定術	ｺｰﾚｽ骨折 , 手根骨骨折を含む	85
	2　手指の骨折・靱帯損傷手術	骨折・靱帯手術	45
	3　手関節滑膜切除術，関節受動・形成術	手根骨部分固定も含む	5
	4　指関節滑膜切除術，関節受動・形成術		4
	5　腱鞘切開術	バネ指 , デケルバンなど	33
	6　腱縫合術・移植・移行・腱剥離術	腱の手術	13
	7　重度外傷手術	再接着含む	0
	8　抜鋼術		51
	9　その他の手術		7
神経の手術 9	1　尺骨神経剥離術（前方移行，King 等）		1
	2　手根管解放術（正中神経剥離術）		25
	3　梨状筋症候群手術		0
	4　その他　剥離，縫合，移植（上肢）		4
	5　その他　剥離，縫合，移植（下肢）		0
腫瘍の手術 10	1　骨腫瘍　良性　　四肢		0
	2　骨腫瘍　悪性　　四肢		1
	3　骨腫瘍　良性　　脊椎・骨盤・躯幹		0
	4　骨腫瘍　悪性　　脊椎・骨盤・躯幹		0
	5　骨腫瘍生検術		0
	6　軟部腫瘍　良性　　四肢		5
	7　軟部腫瘍　悪性　　四肢		0
	8　軟部腫瘍　良性　　脊髄		0
	9　軟部腫瘍　悪性　　脊髄		0
	10　軟部腫瘍生検術		0
筋性斜頸 11	1　腱切り術		0
植皮，移植 12	1　複合組織移植，遊離皮弁		0
	2　有茎皮弁		1
	3　遊離植皮		0
四肢切断術 13	1　上肢	手指を除く	0
	2　手指		2
	3　下肢	足趾を除く	0
	4　足趾		0
	5　その他の部位		0
その他の手術 14	1　上記に分類されない手術		0
total 手術件数			911

4. 今後の目標

地域の基幹病院として外傷のほかに変性疾患等への対応に力を入れるだけでなく、研修会開催等にて近隣整形外科病院・クリニックの先生方との交流を深める機会を設けて病診連携機能の強化を図っております。また、公開医療講座、健康祭等にて整形外科疾患の治療・予防に関する情報を地域の方々に発信しております。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病 代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管 大動脈セ　61
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

17）脳神経外科

脳神経外科部長　吉村　政樹

1. 概要

われわれ脳神経外科は脳および脊髄を守ることを目的としています。突然の麻痺や呂律障害で発症する脳卒中の方の救急対応をはじめ、顔や手足の痛み・しびれ感や、ふらつきなどの症状がある方に対する、脳から脊椎脊髄疾患を想定した診断と治療を得意としています。

脳卒中では、ホットライン対応により、急性期脳卒中の受け入れを 24 時間体勢で行っています。一次脳卒中センターとして、超急性期血行再開通療法（t-PA 静注療法および血栓回収療法）に積極的に取り組んでいます。脳動脈瘤や血管狭窄症に対しては、外科治療と血管内治療を駆使して治療に当っています。

脊椎疾患においては､顕微鏡手術による神経への愛護的手技を行うと共に､筋組織へのダメージが少ない低侵襲手術により、神経機能回復と筋運動機能温存の両立を目指しています。2018 年からは最小侵襲手技である内視鏡下腰椎椎間板手術を開始して良好な結果を得ています。

高難度な頭蓋底腫瘍手術や下垂体腺腫などは、大阪市立大学脳神経外科と連携し、ナビゲーション機器や神経モニタリング機器などを駆使して安全で確実な手術を行っております。最先端の血管内治療についても大阪市立大学脳神経外科と共同で対応できるよう体制を整えています。

2. メンバー構成

主任部長：鶴野　卓史（副院長）　日本脳神経外科学会専門医・指導医、
日本脳卒中学会専門医、日本脳卒中の外科学会技術指導医

部　　長：吉村　政樹　日本脳神経外科学会専門医・指導医、日本脳卒中学会専門医、
日本脳卒中の外科技術認定医、日本神経内視鏡学会技術認定医、
日本脊髄外科学会認定医

医　　員：中西　勇太　日本脳神経外科学会専門医・指導医

医　　員：池田　祥平　脳神経外科専修医

3. 実績

《入院患者数》 726 例（2019 年）

《手術件数》 2019 年

術　式	件数	術　式	件数
動脈瘤手術（クリッピング・コーティング）	22	頸椎前方除圧	12
開頭血腫除去（脳内）	17	頸椎後方除圧・固定	9
開頭血腫除去（硬膜下）	8	胸椎・腰椎後方除圧	10
動脈血栓内膜剥離術	11	内視鏡下腰椎手術	7
脳血管バイパス手術	2	慢性硬膜下血腫穿頭ドレナージ	42
開頭腫瘍摘出	10	動脈瘤コイル塞栓術	6
経蝶形骨洞到達法腫瘍摘出	1	脳主幹動脈閉塞に対する血栓回収療法	17
水頭症手術（シャント手術）	22	血管内治療（その他）	5
微小血管減圧術	2	その他	8
		合計	211

4. 今後の目標

顕微鏡手術、内視鏡手術、血管内手術それぞれを充実させ、患者様にとってより良い治療選択肢を提供できるよう努力します。超急性期脳梗塞に対する血栓溶解療法および血栓回収療法については、速やかに施行できるよう、院内研修を繰り返し行って参ります。また、院内発症脳卒中への初期対応がスムーズに行えるよう、院内脳外科ホットラインを設置して対応させて頂きます。

内　科 26
循環器内 33
消化器内 34
呼吸器内 35
腫瘍内科 36
血管透析 38
腎臓内科 41
糖尿病代謝内科 42
脳神経内 44
内分泌内 45
膠原リウ 47
小児科 49
放射診科 51
救急科 52
外　科 54
整形外科 56
脳神経外 59
心臓血管大動脈セ 61
形成外科美容外科 63
呼吸器外 65
小児外科 66
歯　科歯科口腔 69
泌尿器科 71
眼　科 73
麻酔科 75
肝臓セン 76
皮膚科 79
婦人科 80
耳鼻咽喉 82
リハビリ 83
病理診断 84

18）心臓血管外科・大動脈センター

心臓血管外科部長・大動脈センター長　内田　直里

1. 概要

新体制２年目を迎え、コメディカルの教育に力を入れ、チーム力の向上を心がけることで、旧体制の頃の心臓血管外科に回復することができました。

手術は 200 例近くまで行うことができ、特に心臓胸部大動脈手術の延べ数は 85 例まで増加しました。これはひとえに当院の循環器科、麻酔科、臨床工学士をはじめ様々な診療科のご協力あってのことと感謝申し上げます。また手術の際は徳洲会グループ、特に岸和田徳洲会病院心臓血管外科のスタッフにご支援していただきました。術前・術後の入院業務は一人部長として奔走した日々でした。ただ緊急手術の対応は困難なことが多く、特に心臓・胸部大動脈手術は近隣の徳洲会グループに依頼するのが現状でした。

2. メンバー構成

顧問：酒井　敬

部長：内田　直里　日本外科学会専門医・指導医、日本心臓血管外科学会専門医・修練指導医、ステントグラフト指導医、European Association Cardiothoracic Surgery; Assistant Editor

3. 実績

手術件数

	症例数			2019 年手術死亡	2019 年手術死亡	2019 年　備考
	2017 年	2018 年	2019 年			
心臓血管外科手術						
1. 先天性心疾患			2			合併手術として
2. 弁膜症手術	9	9	43		1	大動脈弁　31 例 僧帽弁　12 例 不整脈手術 2 例併設
3. 冠動脈疾患	18	5	21			全例心拍動手術
4. 胸部大動脈	14	6	17			ステントグラフト 9 例
5. 腹部大動脈	37	18	41			ステントグラフト 12 例
6. 末梢血管手術	63	42	70			動脈 16 例、静脈 54 例
7. 不整脈手術	1	2	2			僧帽弁手術に併設
8. その他	1	3	2			
計	143	85	198		1	

心臓胸部大動脈手術						
1. 先天性心疾患			2			
2. 弁膜症手術	9	9	43		1	
3. 冠動脈疾患	18	5	21			
4. 胸部大動脈	14	6	17			
5. 不整脈手術		2	2			
6. その他						
計	41	22	85		1	

4. 今後の目標

まずは最低限、現状を維持できるよう多面的に努力して行きたいと考えています。

その上で、来年度は心臓外科医の増員を予定しており、緊急手術にも対応できる体制を構築したいと考えています。

また他診療科やコメディカルとの連携も継続し、循環器系のチーム力の向上に尽力したいと考えています。さらには高度で低侵襲な心臓血管外科治療を行うべく、ハイブリッド手術や低侵襲手術にも力を注ぎ、より高度な医療を提供することで、地域医療のニーズに応えて行く所存です。

内　科 26
循環器内 33
消化器内 34
呼吸器内 35
腫瘍内科 36
血管透析 38
腎臓内科 41
糖尿病代謝内科 42
脳神経内 44
内分泌内 45
膠原リウ 47
小児科 49
放射診科 51
救急科 52
外　科 54
整形外科 56
脳神経外 59
心臓血管大動脈セ 61
形成外科美容外科 63
呼吸器外 65
小児外科 66
歯　科歯科口腔 69
泌尿器科 71
眼　科 73
麻酔科 75
肝臓セン 76
皮膚科 79
婦人科 80
耳鼻咽喉 82
リハビリ 83
病理診断 84

19）形成外科・美容外科

形成外科・美容外科部長　綾部　忍

1. 概要

当科は、常勤 4 名で診療しています。2008 年より日本形成外科学会認定施設、現在は大阪市立大学形成外科の専門研修連携施設となっています。

当科の特徴としては「創傷治療」が挙げられます。

2009 年から米国足病医と連携し「創傷ケアセンター」を開設しました。特に閉塞性動脈硬化症や糖尿病に伴う下肢創傷の治療に力を入れています。潰瘍・壊疽などの創傷治療だけでなく、distal bypass 術（自家静脈を使用した足首付近までのバイパス術）を含めた血行再建も形成外科で積極的に行っています。血管内治療（カテーテル治療）は循環器内科で行っており、最近では足首より末梢まで血管を拡張できるようになりました。術後の潰瘍や創傷治療には積極的に陰圧閉鎖療法（NPWT）を取り入れることで、より早期の離床・退院を可能にしています。

当科では装具療法にも力を入れています。他院で数回にわたる手術を受けたにもかかわらず治癒しない潰瘍でも適切なフットケアを装着することで治癒に至る場合もあります。糖尿病や透析をされている患者様では複数の施設で連携して治療を行うのが一般的ですが、当院では関連他科の協力の結果すべての治療を行うことができ、このような施設は全国的にもほとんど見られません。

2015 年から、日本であまり行われていない「糖尿病足変形（シャルコー足など）に対する Surgical Offloading」を開始しました。足の変形に対して装具療法を行いますが、それにもかかわらず潰瘍形成を繰り返してしまう患者様に変形を矯正する手術を行うことで良好な結果を得ています。

読売新聞社より発売された「病院の実力 2014」では、血流の回復と組み合わせて傷の治療を行った患者数が全国 3 位となっており、最近では大阪府外（滋賀・三重・奈良・兵庫・和歌山）からもご紹介いただけるようになりました。糖尿病・透析患者様も多数受診され、他院で足を切断するように言われた方も歩いて帰っていただけるようチーム一丸となり治療しています。

顔面の皮膚癌、特に基底細胞癌の治療では「modified dermis graft 法」で皮膚欠損部の再建を行っています。2014 年に当院が初めて報告した方法で、周囲に新たな瘢痕を残さないことが特徴で整容的に優れており、自身で論文を検索し関東からも来院されるようになりました。

眼窩底骨折の手術では皮膚に傷を残さない「経結膜切開法」を採用しています。

2011 年より「美容外科」も開設しました。しみ・しわ・たるみ・脱毛のレーザー治療、ハイドロキノンやトレチノイン外用剤を用いた美白治療なども行っています（自費診療）。

手術件数は大学病院などと比較すると多くはありませんが、患者様一人一人に対し丁寧で質の高い治療を行うよう心掛けています。

また当院は、大阪市立大学付属病院の関連病院として運営しているため、大学病院及び大学関連病院と連携をはかり、患者様にとって最良の医療を提供することが可能となっています。

2. メンバー構成

綾部忍・津本惇平・谷畑充梓・橋本昌也の 4 名で診療を行っています。

3. 実績

2019 年度　形成外科　年間の疾患大分類別手術手技数

集計期間　2019 年 1 月 1 日～ 2019 年 12 月 31 日

新患者数　　1,059 名

入院患者数　　305 名

疾患大分類手技数	入院			外来			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	19	1	9		5	106	140
先天異常	1					8	9
腫瘍	22		14		1	393	430
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	2				1	8	11
難治性潰瘍	59	70	68		1	2	200
炎症・変性疾患	20	2	12		2	27	63
美容（手術）							
その他	8		48			69	125
Extra レーザー治療							
計	131	73	151		10	613	978

4. 今後の目標

一般形成外科治療に加え、当科の特徴である創傷治療の分野でより高い専門性を目指し、地域貢献できればと考えています。また海外を含む学会発表や誌上発表も引き続き積極的に行っていきます。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管大動脈セ　61
形成外科美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

20）呼吸器外科

呼吸器外科　文元　聰志

1. 概要

心臓、大血管を除く、胸部縦隔の外科治療を担当している。昨年度と比較して症例数は横ばいではあるが、気管支形成や胸壁再建を要するような難易度の高い症例に対しても手術を行っている。また、1cm に満たないような微小病変に対しても術前マーキングを施行することで積極的縮小切除を行っている。

2. メンバー構成

文元　聰志（常勤）　日本外科学会専門医
呼吸器外科専門医合同委員会　呼吸器外科専門医

花岡　伸治（非常勤）大阪医科大学附属病院　診療准教授　呼吸器外科科長
呼吸器外科専門医合同委員会　呼吸器外科専門医・指導医・代議員
日本肺癌学会評議員

佐藤　澄（非常勤）　大阪医科大学附属病院　講師
日本外科学会専門医・指導医
呼吸器外科専門医合同委員会　呼吸器外科専門医

3. 実績

2019 年の呼吸器外科全手術症例は 98 例（原発性肺癌 38 例、転移性肺癌 4 例、気胸 13 例、膿胸 14 例、その他 26 例）である。

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
153	121	120	122	120	145	158	153	148	133	102	139	1,614

4. 今後の目標

安全な手術の遂行に尽力する。

21）小児外科

小児外科部長　木村　拓也

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管大動脈セ　61
形成外科美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

1. 概要

当院で小児外科開設後､9年目となりました｡3年前より日本小児外科学会の教育関連施設(大阪大学小児成育外科学教室が母体）として認定され､2020年は4年目となります。当院外科は、新たな専門医制度のもと、基幹施設として認定されています。それに伴い、若い人材も増えて、指導体制を整えております。また当科では、昨年より3人体制となり、小児外科領域の救急症例も積極的に受け入れていきたいと考えております。

当院には新生児集中治療室（NICU）がないため、低出生体重児など特殊な患児の治療は困難ですが、新生児も含め、年間の全身麻酔手術症例数が100例をコンスタントに維持できるようになりました。これもひとえに、近隣総合病院、診療所に根付いて、地域の「こども」たちに傷が目立たない鏡視下手術を導入し、最新で低侵襲な治療を安全に提供できているためと考えています。

小児医療を担う次世代が育つように、またそれに伴い病棟には子供たちの笑顔があふれるように、安全に標準医療が提供できるように頑張っていきたいと思います。

2. メンバー構成

部長：木村拓也（平成7年）
資格：外科認定医・専門医・指導医、小児外科専門医、消化器外科専門医・指導医、日本総合診療医学会認定医、日本静脈経腸栄養学会認定医、肝臓学会認定肝臓専門医、日本移植学会認定医、日本内視鏡外科学会評議員、日本病態栄養学会評議員、日本静脈経腸栄養学会評議員、近畿外科学会評議員、ICTドクター、外科系プログラム責任者、NST委員長

医長：井上雅文（平成11年）
資格：外科認定医・専門医・指導医、消化器外科専門医・指導医、肝臓学会認定肝臓専門医、消化器内視鏡学会専門医、近畿外科学会評議員

医長：山中（平成14年）
資格：外科専門医

医員：河島茉澄（平成20年）
資格：外科専門医

3. 実績

手術数の推移（2019 年度：109 例）



2019 年の手術に関する主な内容：合計 109 例

・体表疾患（6 例）

多指症：1 例（摘出術）

皮下腫瘤：2 例（摘出術）

臍ヒダ膿瘍　←　試験腹腔鏡：1 例（切開術）

正中頚のう胞：2 例（シストランク）

・胸部疾患（1 例）

Nuss バー抜去（漏斗胸）：1 例

・腹部疾患（84 例）

鼠径ヘルニア

男児 24 例：高位結紮

女児 31 例：単孔式腹腔鏡手術（LPEC）

急性虫垂炎：16 例（全例単孔式腹腔鏡手術）

臍ヘルニア：4 例

Nissen 噴門形成術：2 例

直腸ポリープ：1 例（経肛門的摘出術）

白線ヘルニア：1 例

腹腔内精巣：1 例（Shehata　二期的手術）

イレウス：1 例

メッケル憩室穿孔：1 例

尿膜管：1 例

肥厚性幽門狭窄症：1 例

・生殖器、泌尿器科疾患（17 例）

停留精巣：12 例

包茎：1 例

陰唇癒合：1 例

卵巣捻転：1 例

精巣石灰化：1 例

処女膜閉鎖：1 例

4. 今後の目標

2020 年も 4 人体制を維持し、地域に根ざし、地域の子供たちを守るだけではなく、広域で子供たちの治療を安全に継続可能な体制を作ります。また小児外科特有の救急疾患に関しても可能な限り対応していきます。さらに最新で、安全安心の標準医療を提供していきたいと思います。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病 代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管 大動脈セ　61
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

22）歯科・歯科口腔外科

歯科・歯科口腔外科部長　占部　一彦

1. 概要

歯科口腔外科は、部長：占部一彦（2006 年 4 月赴任）、医員：中川記世子（2019 年 7 月赴任）小林夏子（2019 年 4 月赴任）の 3 名体制で診療にあたっています。八尾市・東大阪市・大阪市平野区・柏原市内の医院・歯科医院との病診連携をおこなっており、紹介率 30％以上を維持しています。

2008 年度より地域歯科支援病院の認定をうけ地域医療に貢献できますように体制づくりをすすめています。

診療内容としては、親知らずの抜歯・腫瘍・粘膜疾患・顎変形症・顎顔面外傷などの手術を中心に､顎関節症などの治療や全身疾患をもつ患者様の一般歯科治療などもおこなっています。

当院は、大阪大学歯学部第一口腔外科の関連病院として運営していますので、当科で加療が困難な疾患に関しては、大阪大学および大学関連病院と連携をはかり対応しています。また日本口腔外科学会の準関連研修施設認定もうけています。

診療特徴としては、下記の内容が挙げられます。

1）抗凝固剤服用中の患者様への対応

抜歯などの小手術は、基本的にワーファリン等の抗凝固薬・抗血小板薬の服用は休薬なしでおこなっています。

抗凝固薬　：基本的に休薬なし（場合によって減量）で 1（～ 2）泊の入院下で処置・止血管理をおこないます。

抗血小板薬：基本的に休薬なしで外来処置室にて小手術をおこないます。

2）入院下での埋伏智歯抜歯

埋伏智歯抜歯術は、歯肉切開や骨削除をおこなって抜歯するのですが、かなり腫脹をともなう処置になります。それが数本ある患者様の場合には、腫脹がその都度ともなうことになります。そこで入院管理下で全身麻酔下にて抜歯をおこなうことで 1 本抜歯に対する時間が短くすみ数本まとめて抜歯することができます。また術後点滴をおこなうことで疼痛コントロール・感染予防をおこなうことで 1 回の腫脹ですませることができます。当院では木曜午後入院、金曜手術し日曜日午前退院の予定でおこなっています。

3）2016 年 1 月より全身麻酔下にて手術をおこなう症例の中で良性腫瘍・嚢胞性疾患・抜歯などにて顎骨内に骨欠損をきたす症例に対して、自己血を採血し遠心分離をおこなうことで血小板濃縮フィブリン（CGF）を採取し、これを創部に挿入することで治療効果をたかめようとする再生治療をおこなっています。

この方法は、【再生医療等安全性確保法】において第三種再生医療に分類される方法で、認定された再生医療委員会で審査をうけ、近畿厚生局・厚生労働大臣に届け出をおこなっています（届出 No.PC5150376）。

顎骨欠損をきたす症例において使用してきましたが、肉芽造成を援助し、顎骨造成の治癒が

CGF を使用しない場合に比して早期に治癒する傾向にあります。

今後も有効に使用していくことで患者様の負担軽減をおこなっていきたいと思います。

2. メンバー構成

部長：占部一彦（歯学博士）　日本口腔外科学会専門医

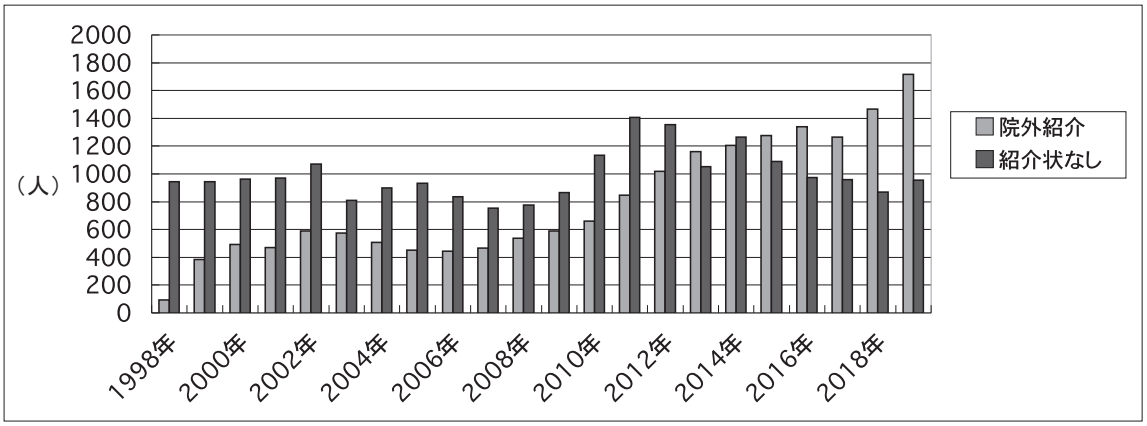
医長：中川記世子（歯学博士）　日本口腔外科学会認定医

医員：小林夏子（歯学博士）

3. 実績

《初診患者数推移》

	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
院外紹介	95	386	493	472	590	576	506	453	443	467	538	590	662	846	1,017	1,160	1,205	1,276	1,341	1,266	1,468	1,716
紹介状なし	945	945	961	970	1,070	809	900	932	834	752	775	866	1,134	1,406	1,355	1,051	1,264	1,088	973	959	871	955



《外来手術例》

手術名	件数
骨性埋伏智歯抜歯	497
難抜歯	339
単純抜歯	684
歯根端切除 / 歯根嚢胞摘出術	156
口腔内・外消炎処置	55
腐骨除去術	6
口腔内外創傷処置	16
舌腫瘍摘出術	11
顎関節脱臼非観血的整復術	25
生検	65
唾石除去術	2
歯肉腫瘍摘出術	16
粘液嚢胞摘出術	18
上顎洞口腔瘻閉鎖術	32
その他	68
合計	1,990

《入院手術例》

手術名	件数
埋伏歯抜歯	169
抜歯（止血異常）	73
歯根端切除 / 歯根嚢胞摘出術	114
顎骨腫瘍摘出術	59
口腔内・外消炎手術	11
上・下顎骨骨折観血的整復術	15
腐骨除去術	13
抜釘術	23
舌腫瘍摘出	8
顎変形症手術	3
顔面多発骨折	2
骨隆起形成術	8
上顎洞根本術 / 術後性上顎洞嚢胞摘出術	1
頬骨骨折観血的整復術	2
その他	25
合計	526

4. 今後の目標

救急病院の特徴として、炎症性疾患や外傷性疾患の救急対応が多いため、より迅速に対応できるように体制を構築し、地域医療に貢献できるよう力をいれていきたいと思っています。

また医科歯科連携にて周術期口腔機能管理もおこなっていますが、より対象疾患の拡大をおこなって患者様の入院期間の短縮に貢献していきたいと思います。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管大動脈セ　61
形成外科美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

23）泌尿器科

泌尿器科部長　飯盛　宏記

1. 概要

2019 年は、スタッフの異動はなく、前年と引き続き金丸医師・香山医師と私の 3 人で勤務させていただいております。

2019 年の年間手術件数は 385 件で前年（340 件）よりかなり増加しました。開腹手術・腹腔鏡下手術・経尿道的内視鏡手術といった主要手術の件数は、243 件でこれも前年（212 件）よりかなり増加しました。また。前々年同様腎摘除術・腎尿管全摘除術・膀胱全摘除術はすべて腹腔鏡手術で行われており、開腹手術は高度尿管狭窄に対する小腸を使った尿路再建術 1 件だけでした。また高度な技術と忍耐力を要する腹腔鏡下膀胱全摘除術は 4 件でした。前年増加目標にした経皮経尿道同時内視鏡手術（ECIRS）（背中から内視鏡を挿入して行う経皮的手術を併用する経尿道的尿路結石内視鏡手術で、結石をレーザーで砕き、結石片を取り出す効率の高い経皮的手術と、観察範囲の広い軟性鏡を経尿道的に併用することで高い治療成功率を得ることができる術式）は 3 件施行しました。開腹手術と比較し、内視鏡手術は、患者様の身体的負担が軽いことは言うまでもありません。今後も積極的に腹腔鏡下手術に取り組んでいく予定です。

尿路結石症に対する体外衝撃波結石破砕術に関してですが、2019 年は 24 症例の 31 結石に対し 46 回施行しました。現在の装置は導入後 11 年が経過し、機械ですから当然のことながら若干劣化傾向がある事は否定できず、パワーアップした最新機種に入れ替えを検討しているところです。もしそうなれば現在以上の症例に対応することが可能となり、入院の必要がない尿路結石治療（腎結石の場合は 1 泊入院が必要ですが、これも他の術式と比べれば短期間です）をひろく行う事が可能となります。

年々増加の一途をたどる前立腺癌に関しては、従来通り手術療法･内分泌療法・放射線療法･抗癌剤治療の 4 通りの治療法を組み合わせた集学的治療を施行しており、新たに開発された新薬も導入し、患者様のニーズに合わせた治療が可能となっています。手術療法であるダビンチ手術は例年ご報告させていただいているとおり、当科にはこの医療器具がないため、手術適応のある患者様や手術を希望される患者様は大学病院など関連病院に紹介させていただいております。術後経過観察は当科で行っております。

以上、今後も地域医療に貢献するため、日々研鑽を続けていく所存です。

2. メンバー構成

部長　飯盛宏記　日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医・指導医
医長　金丸知寛　日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医
医員　香山侑弘　日本泌尿器科学会専門医

3. 実績

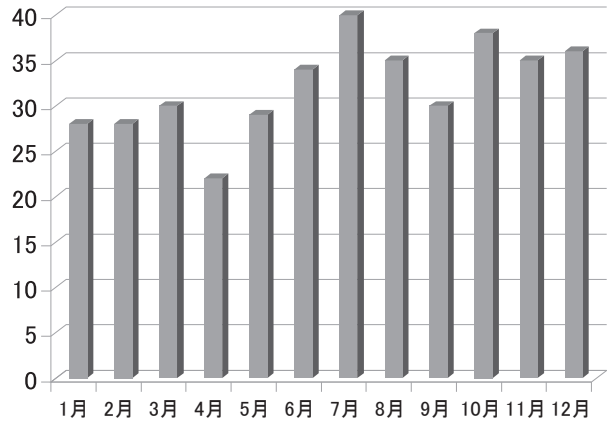
《手術内容》

開腹手術 腹腔鏡手術	尿管部分切除尿管回腸置換術	1
	腹腔鏡下腎摘除術	17
	腹腔鏡下腎尿管全摘除術	9
	腹腔鏡下腎部分切除術	9
	腹腔鏡下膀胱全摘除術	4
	腹腔鏡下尿管切石術	1
	腹腔鏡下後腹膜腔リンパ節摘除術	2
経尿道的手術	経尿道的膀胱腫瘍切除術	71
	経尿道的前立腺切除術	17
	経尿道的尿管砕石術	90
	経尿道的膀胱砕石術	10
	尿管鏡	10
ECIRS		3
その他件数が多いもの	前立腺生検	57
	腎瘻造設術	9
	精巣摘除術（高位摘除を含む）	6
	包皮環状切除術	3
	陰嚢水腫根治術	2
その他		64
計		385

《月別手術件数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
28	28	30	22	29	34	40	35	30	38	35	36	385

《月別手術件数》



《ESWL 件数》

治療回数	46 回
新患数	24 人
結石数	31 結石

4. 今後の目標

今後も当科の総合力を増加させ、よりよい医療を提供できるように、スタッフ一同努力していく所存です。

内 科 26
循環器内 33
消化器内 34
呼吸器内 35
腫瘍内科 36
血管透析 38
腎臓内科 41
糖尿病 代謝内科 42
脳神経内 44
内分泌内 45
膠原リウ 47
小児科 49
放射診科 51
救急科 52
外 科 54
整形外科 56
脳神経外 59
心臓血管 大動脈セ 61
形成外科 美容外科 63
呼吸器外 65
小児外科 66
歯 科 歯科口腔 69
泌尿器科 71
眼 科 73
麻酔科 75
肝臓セン 76
皮膚科 79
婦人科 80
耳鼻咽喉 82
リハビリ 83
病理診断 84

24）眼科

眼科医長　布谷　健太郎

1. 概要

現在３名の常勤医師、非常勤医師数名により外来診療および手術を行っております。午前診察は初診および予約診療を行っております。午後はレーザー等の処置や時間のかかる検査が必要な患者様の予約診療を主として行っております。

当院で行っている手術は、網膜硝子体手術、白内障手術、外眼部手術が中心です。網膜硝子体手術は、硝子体手術用機械（コンステレーション アルコン社製）、硝子体手術用広角観察システム（リサイト カールツァイス社製）および眼科手術用顕微鏡（Lumera700　カールツァイス社製）を使用しており、小切開硝子体手術を行っております。本年度、疾患としては、硝子体出血、黄斑円孔、黄斑上膜、水晶体・眼内レンズ脱臼などを行いました。

白内障手術は、日帰りもしくは入院で行っております。当院での白内障手術の特徴は褐色白内障、過熟白内障といった進行した白内障手術が多いことです。眼内レンズ強膜内固定術や眼内レンズ縫着術等の眼内レンズ関連手術も積極的に行っております。また、角膜乱視の矯正の為に、トーリック眼内レンズを使用した白内障手術も行っております。

外眼部手術に関しては、眼瞼下垂症、内反症などに対する眼形成手術や、翼状片手術、脂肪ヘルニアに対する手術、眼瞼皮膚腫瘍切除術などを行っております。

加齢黄斑変性症や網膜静脈閉塞症に合併した黄斑浮腫に対しては、抗 VEGF 薬の硝子体内注射を通院にて行っております。また、糖尿病網膜症に対する汎網膜光凝固術や急性緑内障発作に対するレーザー虹彩切開術、後発白内障に対する YAG レーザーなど、各種レーザー治療も行っております。

八尾市、柏原市、東大阪市、松原市、大阪市平野区の先生方に於かれましては、いつも貴重な患者様をご紹介頂きまして誠にありがとうございます。今後とも病診連携を通じて地域医療に貢献させていただければ幸いです。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

2. メンバー構成

（常勤医師）

布谷健太郎　（医長）日本眼科学会専門医

在田稔章　　（医員）

茶木俊光　　（医員）

（非常勤医師）

山田　哉子

森下　清太

石崎　典彦

大学応援医師

3. 実績

≪外来患者数≫　2019 年 1 月 1 日～ 2019 年 12 月 31 日

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
1,325	1,264	1,266	1,185	1,127	1,123	1,208	1,080	1,179	1,194	1,051	1,182	14,184

≪手術件数≫　2019 年 1 月 1 日～ 2019 年 12 月 31 日

計 1,075 件　（うち白内障手術 835 件　硝子体手術 55 件　硝子体注射 149 件）

4. 今後の目標

地域の患者様からより一層頼りにされるような病院を目指し、地域医療に貢献して参ります。引き続きご支援を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病 代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管 大動脈セ　61
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

25）麻 酔 科

麻酔科部長　谷　仁介

1. 概要

当院は日本麻酔科学会の認定病院に指定され、3 名の麻酔科常勤医師と複数名の非常勤麻酔科医師で運営しています。常勤麻酔科医師は全員が厚生労働省認定の麻酔科標榜医資格を有し、2 名の部長は日本麻酔科学会認定の麻酔科指導医・専門医資格を取得して麻酔業務をおこなっています。当科では患者様の安全を第一に考え、本邦における標準的な手術麻酔を実践しています。

2. メンバー構成

部長　谷　仁介　　（日本麻酔科学会指導医・専門医）
部長　池下　和敏　（日本麻酔科学会指導医・専門医、医学博士）
医員　桑田　繁宗　（日本麻酔科学会認定医）

3. 実績

2019 年の麻酔科管理手術件数は 2,519 件でした。

《年齢別》

0 － 5 歳	6 － 18 歳	19 － 65 歳	66 － 85 歳	86 歳以上
63 件	145 件	845 件	1,262 件	204 件

《手術部位別》

開頭・頸動脈	開胸	心臓・大血管	開胸＋開腹	胸腹壁
159 件	35 件	104 件	6 件	75 件

上腹部	下腹部	頭頸部	脊椎	股関節・四肢
451 件	684 件	236 件	91 件	678 件

4. 今後の目標

24 時間 365 日、いつでも患者様を受け入れて安全な手術麻酔を提供し、同時に最先端の手術に対応できる新しい技術を取り入れ、患者様が安心して手術を受けられる病院を目指します。

26）肝臓センター

肝臓センター長　松田　康雄
肝臓外科部長　木村　拓也

1. 概要

肝臓センターでは肝胆膵領域の悪性疾患を中心に、その他急性肝炎、慢性肝炎、ウィルス性肝炎、アルコール性肝炎、膵炎などを中心に治療を行っており、中河内地区に根差し9年以上が経過した。主には、近隣施設より閉塞性黄疸、急性肝炎、慢性肝炎、肝胆膵領域の悪性疾患を紹介され、積極的に治療を行っている。

診断には、積極的に最新技術を導入し、EUS、ERCP、造影エコーなど多数行っている。また治療は血管合併切除などの超拡大手術から腹腔鏡手術などの低侵襲治療を行っており、ガイドラインを参考に患者様に優しい、患者様の目線に立った治療を常に考慮している。

現在5人体制で診療に従事しており、センターとして診断、治療内容に広がりを持たせることが可能となった。また外科系診療科で一致団結し、昨年度より、新専門医制度に対応し、当院は外科の基幹施設として認定され、後期研修医の研修が開始となった。

以下、肝臓センターとしての活動内容を中心に記載する。

さらに肝臓センターの肝胆膵外科部門は、感染対策部門とリンクし、外科（肝胆膵外科、消化器外科、小児外科など）の感染対策、特に創部感染に対する対策を推進し、手術部位感染は減少している。また栄養状態不良患者様は､手術に対するリスクとなるため､NST とリンクし、栄養管理を推進しながら外科治療を導入し、成績向上に寄与している。

2. メンバー構成

・松田康雄：肝臓センター長、顧問、医療安全委員長
　資　　格：日本外科学会専門医・指導医、消化器外科学会専門医・指導医、超音波学会専門医・指導医
・木村拓也：肝臓外科部長、ICD委員長、NST委員長、外科専門研修プログラム統括責任者、病診連携室室長
　資　　格：外科認定医・専門医・指導医、小児外科専門医、消化器外科専門医・指導医、日本総合診療医学会認定医、日本静脈経腸栄養学会認定医、肝臓学会認定肝臓専門医、日本移植学会認定医、日本内視鏡外科学会評議員、日本病態栄養学会評議員、日本静脈経腸栄養学会評議員、近畿外科学会評議員、感染制御医師（ICT)、TNT 講習、PEACE プロジェクト緩和ケア講習、臨床研修医指導者講習
・鯉田五月：肝臓内科部長
　資　　格：内科認定医、肝臓学会専門医、TNT 講習、PEACE プロジェクト緩和ケア講習
・井上雅文：肝臓外科医長
　資　　格：外科認定医・専門医・指導医、消化器外科専門医・指導医、肝臓学会認定肝臓専門医、消化器内視鏡学会専門医、近畿外科学会評議員、PEACE プロジェクト緩和ケア講習
・松岡伸英：肝臓外科医長
　資　　格：外科専門医、PEACE プロジェクト緩和ケア講習

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病 代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管 大動脈セ　61
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

3. 実績

1）肝臓外科

肝臓外科にて 2019 年に実施した手術は計 288 件で、引き続き増加傾向にある。2012 年より導入した腹腔鏡下肝臓手術も安定し、在院期間も短く安全に施行できている。2018 年より、肝臓の葉切除、すなわち右葉切除や左葉切除に対しても、日本肝胆膵外科学会、日本内視鏡外科学会の前向き症例登録に参加し、倫理委員会を介して開始した。2019 年は腹腔鏡下葉切除を 1 例に導入し早期に退院となり、問題なく安全に導入することができた。肝臓手術全体では 33 例と減少したが、C 型肝炎の内科治療普及により、今後肝細胞癌は減少していくと予想される。

肝細胞癌に対する焼灼療法も 27 例と減少した。そのうちラジオ波治療は 14 例でマイクロ波治療は 13 例とほぼ同じ症例数である。マイクロ波は少し広めの焼灼が可能で、また短時間で終了するため、患者様の負担も軽減可能である。

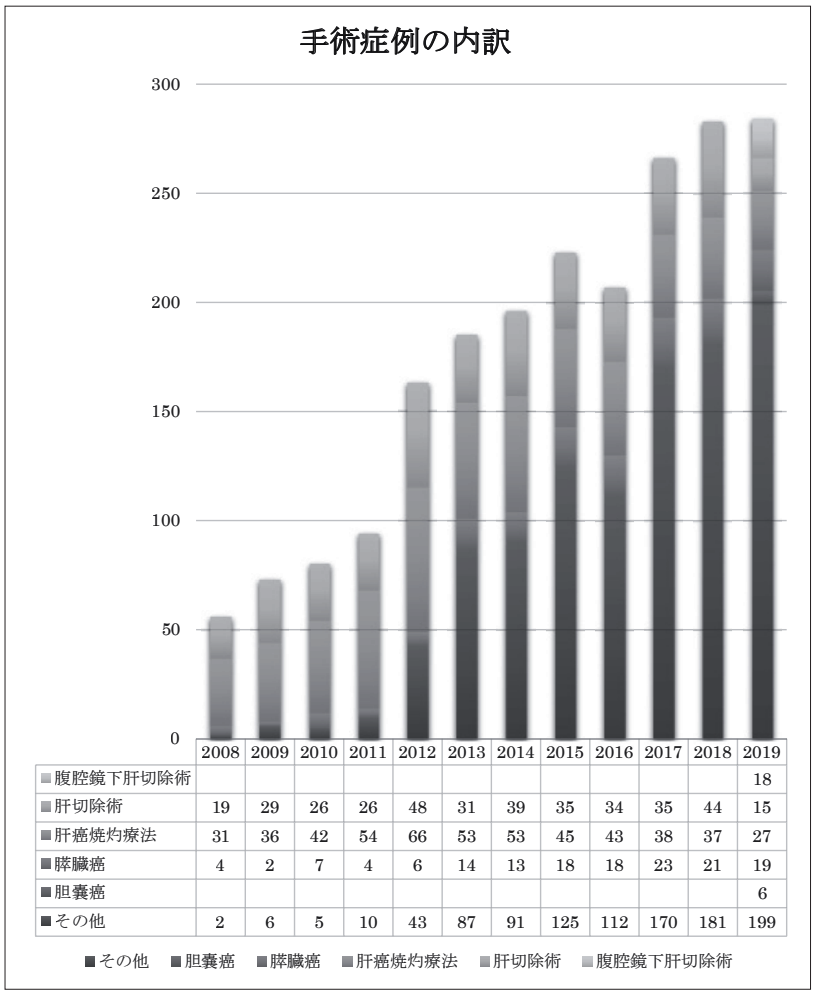
膵癌、中下部胆管癌に対する膵頭十二指腸切除例や膵体尾部切除は 19 件で横ばいである。

今年も血行再建を多数行っているが、血管系の合併症はなく安全に施行できている。また昨年より、術前化学療法を導入し、中長期成績の改善が望まれる。

2013 年より腹腔鏡下膵体尾部切除を導入した。今年も 2 例に施行し安全に完遂できた。

そのうち 1 例は、脾臓温存術式を導入し、安全に完遂できた。

下図に過去の肝臓外科（肝胆道外科）手術実績の推移を示した。年々手術件数は増加しているが、2019 年も多数の手術を行った。



	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
腹腔鏡下肝切除術												18
肝切除術	19	29	26	26	48	31	39	35	34	35	44	15
肝癌焼灼療法	31	36	42	54	66	53	53	45	43	38	37	27
膵臓癌	4	2	7	4	6	14	13	18	18	23	21	19
胆嚢癌												6
その他	2	6	5	10	43	87	91	125	112	170	181	199

2）肝臓内科

・慢性肝炎

慢性B型肝炎

抗ウイルス薬である核酸アナログ製剤（エンテカビル、テノホビル）による治療を行っている。

また免疫抑制剤や抗癌剤での再活性化予防にも取り組んでいる。

慢性C型肝炎、代償性肝硬変　非代償性肝硬変

ゲノタイプ1、2型に対するIFNフリー内服治療（DAA：Direct Acting Antivirals）を本年はパンジェノタイプのDAA治療を20例に投与し重篤な合併症もなく、全例ウイルス陰性化率を達成した。また徳洲会グループとして、C型肝炎サーベイランスを開始し、C型肝炎患者様の拾い上げを行っている。

・肝細胞癌

本年も放射線医と連携し肝細胞癌に対してカテーテル治療を行い、肝動脈化学塞栓療法（TACE）を45例施行した。その内の1例（多発肝細胞癌）は永久塞栓物質（マイクロスフィ）を使った治療を施行し発熱や腹痛、肝機能障害などの副作用もなく腫瘍縮小効果も良好であった。また肝細胞癌破裂に対する緊急止血術（3例）を施行した。

・肝硬変

肝硬変の難治性腹水に対して新規利尿薬であるトルバプタン使用を積極的に行い、腹水減少による症状改善症例を認めている。

肝性脳症の治療は合成二糖類、BCAA製剤、カルニチンなどあるが難治性の脳症も散見される。腸内でのアンモニア産生菌に作用しアンモニア産生抑制する難吸収性リファマイシン系抗菌薬の治療を使用しバンドル治療の導入で肝性脳症発症は減少している。

4. 今後の目標

本年も昨年同様、手術症例を確保し、医療ガイドラインに沿った治療を実践し、安全、安心の医療を提供していきたい。

また、去年に引き続き術後成績の向上ならびに、手術症例の増加傾向を維持していきたい。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病 代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管 大動脈セ　61
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

27）皮膚科

皮膚科医長　梶本　敦子

1. 概要

当科では、薬疹、接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、その他の湿疹、尋常性乾癬、水疱症、掌蹠膿疱症、円形脱毛症などの各疾患、白癬症、ヘルペス感染症、尋常性疣贅、尋常性ざ瘡、蜂窩織炎、丹毒、感染性粉瘤、尖圭コンジローマ・梅毒（STD）などの皮膚感染症、および皮膚腫瘍、皮膚潰瘍、熱傷（保存的治療可能な 、主に SDB まで)、男性型脱毛症（自費診療）などを診療しております。

検査としましては、金属パッチテスト、皮膚生検による病理検査、RAST 測定によるアレルギー検査等を行っております。

日光角化症、基底細胞癌、表皮内有棘細胞癌に関しましては、ダーモスコピーによる視診のうえ疑わしいものは部分生検を行い、確定診断のついた場合は当院形成外科に手術をお願いしております。

一方で、浸潤癌および悪性黒色腫（メラノーマ)、乳房外パジェット病や、尋常性乾癬に対する生物学的製剤による治療を必要あるいはご希望される症例や患者様に対しましては大阪市立大学へ紹介しております。

※尋常性白斑、尋常性乾癬、いずれの疾患にも紫外線療法は施行しておりません。

※第 3 木曜日を除く平日は梶本、毎週土曜日は大阪市大医局員（非常勤医師）が診察をしております。

2. メンバー構成

常　勤　梶本敦子

非常勤　大阪市立大学からの派遣医師

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
434	417	488	456	485	573	557	475	544	525	457	511	5,922

4. 今後の目標

症例として、皮膚疾患は慢性的に経過するものが多い傾向にあります。また、良性疾患であっても完治には副作用のつよい治療しか無いケースもあるので、一方的に治療を勧めるのでは無く、各々の患者様のライフスタイルに合わせた治療をモットーにしております。したがいまして、初診には時間をかけてお話をお伺いし、満足のいくコミュニケーションを取った上での診察を心掛けております。

今年も何卒よろしくお願いいたします。

28）婦人科

婦人科部長　田村　明彦

1. 概要

産婦人科は 2017 年 04 月から手術・入院加療が可能となりました。

一般的な産婦人科診療や悪性腫瘍に対して集学的治療を実施しています。

主な診療対象疾患

①婦人科悪性腫瘍、婦人科良性腫瘍

②不妊・内分泌疾患

③女性の加齢に伴う疾患、性器の位置・形態異常、炎症性疾患

④妊娠初期健診、妊婦健診および羊水染色体検査等、婦人科全領域および一部の産科領域について診療を実施しています。

＊当院では分娩についての取り扱いは行っておりませんが、妊娠初期検査から妊娠中（分娩前）の妊婦健診等の一部の周産期管理を実施しています。

診療方針

特に、婦人科悪性腫瘍に対しては、手術を中心とした集学的治療を実施しています。

＊集学的治療とは手術療法・化学療法・放射線療法を併用して根治を目指す治療の事です。また、婦人科良性腫瘍に対しては、QOL を十分に配慮し、主に症候性適応や病理組織学的な精査が必要な場合に手術療法（開腹術・腹腔鏡下手術）を実施し精査・治療を実施しています。

2. メンバー構成

田村明彦（常勤）　日本産科婦人科学会専門医

松岡達也（非常勤）日本産科婦人科学会専門医

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病 代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管 大動脈セ　61
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

3. 実績（2019 年 01 月～ 12 月）

開腹術	悪性腫瘍	子宮	8 症例
		卵巣	6 症例
	良性腫瘍	子宮・卵巣・その他	29 症例
経腟的手術	子宮頸部円錐切除		16 症例
	子宮内膜部位別掻爬術		15 症例
	子宮脱・膀胱下垂等		16 症例
	その他の経腟手術		5 例
腹腔鏡下手術			3 例

4. 今後の目標

診療対象疾患は上記記載どおりです。

場合によっては、不妊に対しては体外受精･胚移植法等の生殖補助技術を実施する予定です。

患者様にとって高度で、安心・安全な産婦人科医療の実践を心掛けております。

29）耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科医長　森　彰之

1. 概要

2019 年は非常勤医師が退職し常勤医 1 名で診療をおこなっております。昨年同様に入院や手術も適応・重症度を検討し治療にあたっています。

一般診療では以下の疾患を主に診察しております。

・鼻：鼻腔異物、アレルギー性鼻炎、急性副鼻腔炎、慢性副鼻腔炎、鼻出血など

・耳：耳垢栓塞、外耳炎、外耳道異物、急性中耳炎、慢性中耳炎、突発性難聴、老人性難聴、顔面神経麻痺、ハント症候群、メニエール病・前庭神経炎等の内耳性めまいなど

・のど：咽頭異物、急性扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、急性咽頭炎、急性喉頭蓋炎、声帯ポリープなど

耳鳴りおよび補聴器については特殊外来で対応しています。

成人のスギ、ダニに対する舌下免疫療法も開始いたしました。

外来、入院患者様の嚥下機能検査およびリハビリテーションも対応しております。

甲状腺疾患は当科では診察を行っておらず、専門機関に紹介しております。

入院は急性炎症や突発性難聴・顔面神経麻痺などのステロイド治療、めまい症など。

手術は就学児童以上を対象としております。

副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻内手術、鼻閉改善手術、扁桃摘出術、アデノイド切除術、声帯ポリープ切除術、鼓膜チュービング術などを症例の重症度を検討し行っております。

中耳、内耳手術や唾液腺手術、悪性腫瘍に関しては高次施設に紹介いたします。

2. メンバー構成

森彰之（常勤）

3. 実績

《外来患者数》

1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
132	155	149	290	420	363	494	495	452	515	490	406	4,361	363.4

4. 今後の目標

耳鼻咽喉科医が常勤している施設は八尾市では八尾市立病院だけでしたが、今後は当院も入院・手術での対応を行っていき地域医療に貢献していきたいと思います。

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病 代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管 大動脈セ　61
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

30）リハビリテーション科（診療部）

リハビリテーション科部長　田中　尚

1. 概要

当科は、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士とともに、機能や能力を評価し、リスク管理をしながら、リハビリ計画を立てて訓練を行っています。各診療科、看護師、医療ソーシャルワーカー、臨床心理士らとも回診やカンファレンスを行い、チーム医療を実践しています。

対象となる分野は広く、脳血管（小児の発達障害を含む）、運動器、心大血管、呼吸、がん、廃用症候群といった領域の疾患のリハビリを行っています。当院は、急性期病院ですので急性期に特化したリハビリを行っていることが特徴で、早期の自宅退院を目指します。

当科では、脳神経領域のリハビリを得意としています。具体的には、脳卒中、頭部外傷、認知症、てんかん、発達障害などに対して神経心理学的検査やリハビリを行います。さらに、近隣ではまれな「痙縮外来」を開設し、麻痺に伴う痙縮（つっぱり）に対してボツリヌス治療を行っています。この際、超音波検査、筋電図検査を用いて、安全かつ的確に、ボツリヌスを筋肉内に注射しています。

昨年からは、「心理外来」や精神科リエゾンチームによる「精神科リエゾン回診」を行い、うつ、認知症といったリハビリに関連した心のケアにも取り組んでいます。

2. メンバー構成

田中　尚　日本リハビリテーション医学会専門医・指導医、日本神経学会神経内科専門医・指導医、日本認知症学会専門医・指導医、臨床心理士 / 公認心理師

3. 実績

リハビリ実施数

リハビリテーション科（副診療部）の実績に準ずる。

4. 今後の目標

社会的援助や心理的援助について、リハビリの立場から指導していきます。

リハビリ、痙縮外来、精神科リエゾン回診の診療を通じて、地域医療に貢献していきたいと考えています。

31）病理診断科

病理診断科医長　久保　勇記

1. 概要

当科は 2017 年 7 月に一般検査部門より独立して診療科（病理診断科）となりました。当院には以前より病理医が非常勤として勤務していましたが、病理診断科発足と同時に久保が非常勤から常勤となりました。2019 年 12 月現在、医師 7 名（常勤 1 名、非常勤 6 名）、臨床検査技師 5 名が業務に携わっています。2020 年 4 月より非常勤医 2 名が加わる予定です。

当院の症例に加えて、生駒市立病院の病理組織診断および細胞診を 2015 年から、松原徳洲会病院の病理組織診断を 2017 年 10 月から受託しています。これに伴い、2018 年 5 月に徳洲会大阪病理診断研究センター（Tokushukai Osaka Pathology Center: TOP）を立ち上げました。さらに神戸徳洲会病院の病理組織診断および細胞診を 2019 年 11 月から、全南病院の病理組織診断を 2019 年 12 月から受託しています。

病理組織診断については原則として 2 名以上の病理医が担当する相互チェック体制をとっています。また診断困難な症例については外部の専門家に相談する、いわゆるコンサルテーションを実施しています。

細胞診については細胞検査士が最初にスクリーニングし、うち疑陽性・陽性症例に対しては細胞診専門医がチェックしています。細胞診標本の作製については 2017 年 12 月より液状化検体細胞診（LBC）標本作製装置を用いて実施しており、診断精度の向上が図られています。

剖検業務については大阪国際がんセンター（旧・大阪府立成人病センター）、ならびに大阪市立大学医学部附属病院の協力のもとに実施しています。興味深い症例については初期臨床研修の一環として臨床病理検討会（CPC）を開催しています。

2. メンバー構成

医師

久保勇記（常勤）　日本病理学会専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
山下憲一（非常勤）　日本病理学会専門医
寺田信行（非常勤）　日本病理学会専門医、日本臨床細胞学会細胞診専門医
関川進（非常勤）　日本病理学会専門医
北村昌紀（非常勤）　日本病理学会専門医（大阪国際がんセンター副部長）
辻尾希実（非常勤）
青笹克之（非常勤）　日本病理学会専門医、徳洲会病理部門最高顧問

臨床検査技師

岩﨑由恵（細胞検査士）、岡﨑健（細胞検査士）、室木魁人（細胞検査士）、西川裕子、藤見里緒

内　科　26
循環器内　33
消化器内　34
呼吸器内　35
腫瘍内科　36
血管透析　38
腎臓内科　41
糖尿病 代謝内科　42
脳神経内　44
内分泌内　45
膠原リウ　47
小児科　49
放射診科　51
救急科　52
外　科　54
整形外科　56
脳神経外　59
心臓血管 大動脈セ　61
形成外科 美容外科　63
呼吸器外　65
小児外科　66
歯　科 歯科口腔　69
泌尿器科　71
眼　科　73
麻酔科　75
肝臓セン　76
皮膚科　79
婦人科　80
耳鼻咽喉　82
リハビリ　83
病理診断　84

3. 実績

《組織診、細胞診、剖検の件数》

	組織診断	術中迅速診断	細胞診
当院	4,465	149	9,425
松原徳洲会病院	2,031	20	0
生駒市立病院	1,237	0	787
神戸徳洲会病院	58	0	157
全南病院	2	0	0
合計	7,793	169	10,369

《剖検一覧》

剖検番号	剖検日	出所	年齢	性別	臨床診断
684	2019.03.18	内科	72	男	誤嚥性肺炎、膀胱癌
685 ※	2019.03.20	内科	81	男	胃癌、肝転移
686	2019.03.25	内科	75	女	心房中隔欠損症
687	2019.03.26	外科	96	女	横行結腸穿孔、敗血症
688	2019.06.25	外科	71	男	胃癌術後、敗血症
689	2019.10.02	内科	83	女	ANCA関連血管炎
690 ※	2019.10.12	内科	71	男	肺癌
691 ※	2019.11.10	肝臓外科	67	男	細胆管細胞癌術後、肝不全
692	2019.11.20	内科	90	男	肺癌
693	2019.11.22	内科	83	男	誤嚥性肺炎
694	2019.12.04	内科	81	男	肺癌
695	2019.12.15	内科	75	男	意識障害、るいそう

計 9 例

注：※の 3 例はネクロプシーであり、剖検の件数には含めない。

消化器カンファレンス（水曜午前、毎週）

消化器カンファレンス（木曜午後、月に週 2 回）

4. 今後の目標

正確･迅速な診断に努めます。また他科との連携をより緊密にしていきたいと考えています。

病理診断研究センターのさらなる充実に伴いマンパワーが不足するため、常勤、非常勤病理医の確保に努めます。病院当局の協力のもと、今後は病理診断センターを大阪地区の徳洲会のみならず一般医療施設の病理診断中核的組織として育成していく方針です。尚、2020 年より当院周辺の小規模医療施設よりの病理診断受託を開始する予定です。

副　診　療　部

―― 2019年 ――

32）薬　剤　科　88
33）放 射 線 科　91
34）臨床検査科　93
35）リハビリテーション科　95
（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心臓リハビリテーション）
36）臨床心理学　100
37）臨床工学科　102
38）栄　養　科　107
39）治験センター　109
40）医療福祉相談室　115
（MSW　医療ソーシャルワーカー）
41）病診連携室　118
42）健診センター　128
43）情報システム管理室　130
44）保　育　室　132
45）がん相談支援センター　134
46）医療安全管理部　137
47）臨床腫瘍センター　142

32）薬剤部

薬剤部部長　大里　恭章

薬剤科 88
放射線科 91
臨床検査 93
リハビリ 95
臨床心理 100
臨床工学 102
栄養科 107
治験セン 109
医療福祉 115
病診連携 118
健診セン 128
情報シス 130
保育室 132
がん相談 134
医療安全 137
臨床腫瘍 142

1. 概要

2019 年を振り返り、この 1 年は薬剤部の業務が大きく変革した年となりました。これまでの外来での調剤が 1 月より院外処方箋へ変わり、業務内容の中心が病棟業務、チーム医療に大きくシフトすることができるようになりました。特に入院・退院患者様の増加に伴う、初回面談時の指導にスタッフの増員をすることができ、持参薬の鑑別報告の遅延をほぼ解消することができました。これにより、入院時からの内服の指示がスムーズになっているのではないかと思います。また退院時の指導に関しても、病棟での指導時間が十分に確保できなかったため、病棟の担当薬剤師以外が薬局窓口で行っていましたが、これも病棟担当薬剤師が原則行うことができたので退院時の指導件数が前年の 127% で増加しました。しかし､このような状況であったにも関わらず、副薬剤部長をはじめとする 6 名が退職、また 1 名が育児休暇を取ることとなり、新入職が 4 名ありましたが前年より減員のスタッフで業務を行うことになり、1 人が行う業務量は厳しい状況になりました。

また、さらに 2020 年夏頃の JCI 取得への活動が始まり、これまで業務内容を大きく見直す機会となりました。医薬品の安全使用に関わるところは非常に項目が多く、スタッフそれぞれが担当する業務がさらに増えることになりましたが、病院が掲げる目標に対して一致団結し、無事取得ができるようにしたいと思っています。

そして 2020 年は入退院支援・薬剤師外来の検討を進め、入院前からの服薬指導の充実、また救急外来（ER）での薬剤師の業務活動も検討し、幅広く活躍できる薬剤師の育成と、薬剤師の責務が十分果たせる組織にしたいと考えます。

2. メンバー構成

・薬剤師29名（非常勤1名）　（育児休暇1名）
　助手　3 名（非常勤 1 名）
・有資格者

日本医療薬学会	指導薬剤師	大里恭章
	認定薬剤師	大里恭章、草薙みか
	がん専門薬剤師	南野智志、山本倫数
	薬物療法専門薬剤師	草薙みか
日本病院薬剤師会	感染制御認定薬剤師	横山法靖、里岡達哉
	認定指導薬剤師	大里恭章、草薙みか
日本化学療法学会	抗菌化学療法認定薬剤師	横山法靖
日本緩和医療薬学会	緩和薬物療法認定薬剤師	里岡達哉
日本静脈経腸栄養学会	NST 専門療法	大里恭章、草薙みか、南野智志、森田亜記、岩政かおり、山本倫数
日本糖尿病療法指導士認定機構	糖尿病指導療法士	坂野千賀、森田亜記
日本アンチ・ドーピング機構	スポーツファーマシスト	山本倫数

日本薬剤師研修センター	漢方薬・生薬認定薬剤師	草薙みか、山本倫数、門間智恵
	小児薬物療法認定薬剤師	坂野千賀
	認定実務実習指導薬剤師	大里恭章、草薙みか、坂野千賀、横山法靖、前田晃佑
日本麻酔科学会　手術期管理チーム薬剤師		大里恭章

2019 年に新たに資格を取得（合格）したスタッフ

日本医療薬学会	がん専門薬剤師	草薙みか
日本化学療法学会	抗菌化学療法認定薬剤師	里岡達哉
日本臨床救急医学会	救急認定薬剤師	山本浩二郎
日本糖尿病療法指導士認定機構	糖尿病指導療法士	栗野大輔、堀村光佐
日本麻酔科学会	手術期管理チーム薬剤師	前田晃佑
日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師	青山瑛里子

3. 実績

①学会発表　5題

②学生実習受け入れ（2019年5月～2020年2月：11名）

・2期　4名（近畿大学　2名、同志社女子大学　1名、大阪大谷大学　1名）

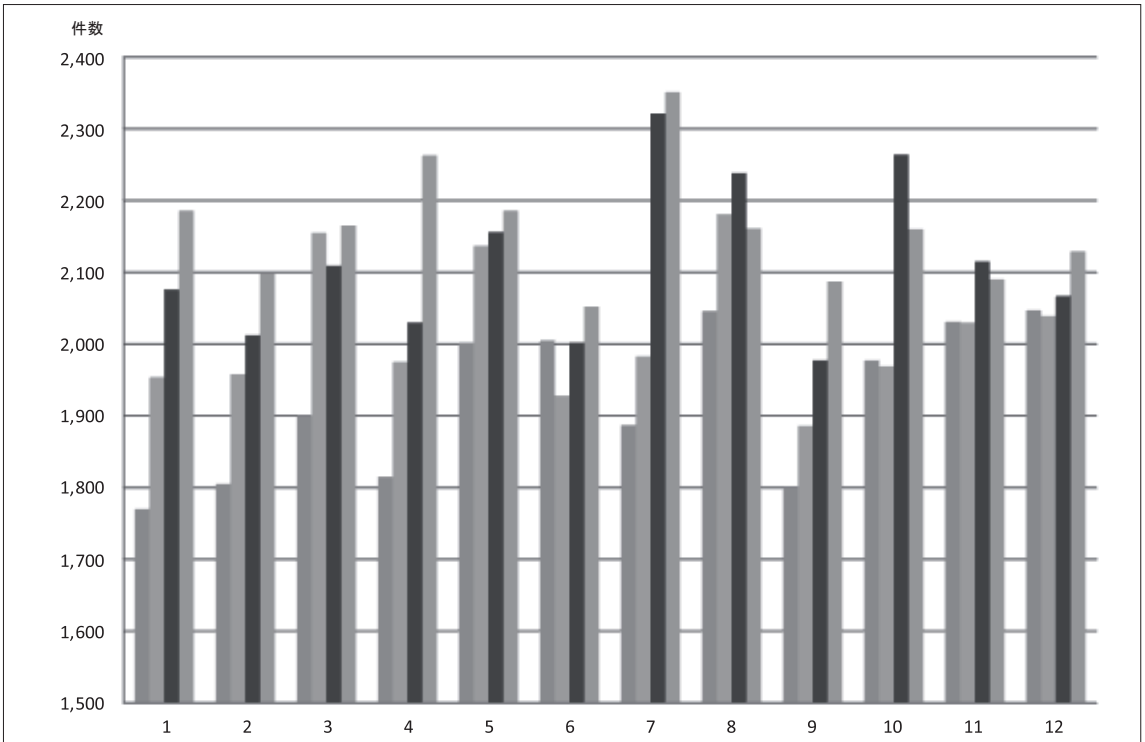
・3期　3名（近畿大学　2名、武庫川女子大学　2名）

・4期　4名（京都薬科大学　1名、近畿大学　2名、摂南大学　1名）

《業務量》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
処方箋枚数(外来)	3,210	2,144	2,189	2,074	2,024	1,797	1,870	1,922	1,795	1,887	1,835	2,054	24,801	2,066.8	32.6%
調剤数(外来)	7,320	4,926	5,044	4,760	4,616	3,984	4,221	4,291	3,976	4,223	4,072	4,559	55,992	4,666.0	30.1%
処方箋枚数(入院)	7,003	7,002	7,577	7,222	7,396	7,090	7,612	7,558	6,701	7,225	7,187	7,402	86,975	7,247.9	100.5%
調剤数(入院)	14,671	14,408	15,807	15,211	15,401	14,499	16,135	15,991	13,632	14,508	15,036	15,036	180,335	15,027.9	100.4%
注射本数	32,396	30,219	32,058	30,819	30,953	30,514	31,697	29,040	26,144	28,894	29,557	28,256	360,547	30,045.6	97.2%
無菌製剤処理件数	124	122	108	85	137	116	69	65	68	40	92	141	1,167	97.3	75.3%
悪性腫瘍製剤処理加算	233	210	200	225	195	184	185	187	191	217	193	226	2,446	203.8	98.7%
化学療法加算(A)	193	163	161	189	160	165	161	158	150	184	167	191	2,042	170.2	98.4%
化学療法加算(B)	53	40	54	46	55	43	64	62	46	62	51	58	634	52.8	111.6%
薬剤情報提供件数	2,827	1,834	1,951	1,798	1,794	1,516	1,676	1,781	1,597	1,672	1,572	1,750	21,768	1,814.0	29.9%
退院時指導件数	293	344	429	447	439	383	448	458	413	451	440	485	5,030	419.2	127.3%
薬剤管理指導件数(Ⅰ)	1,284	1,254	1,279	1,336	1,314	1,231	1,387	1,248	1,176	1,250	1,256	1,292	15,307	1,275.6	104.2%
薬剤管理指導件数(Ⅱ)	902	844	886	927	872	821	964	913	911	910	834	837	10,621	885.1	99.5%
薬剤管理指導件数(合計)	2,186	2,098	2,165	2,263	2,186	2,052	2,351	2,161	2,087	2,160	2,090	2,129	25,928	2,160.7	102.2%

《薬剤管理指導件数の推移》



	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2016年	1,770	1,805	1,900	1,815	2,002	2,005	1,887	2,046	1,800	1,977	2,031	2,047
2017年	1,954	1,958	2,155	1,975	2,137	1,928	1,983	2,181	1,886	1,969	2,030	2,039
2018年	2,076	2,012	2,109	2,030	2,156	2,002	2,321	2,238	1,977	2,264	2,115	2,067
2019年	2,186	2,098	2,165	2,263	2,186	2,052	2,351	2,161	2,087	2,160	2,090	2,129

4. 今後の目標

①臨床業務活動のさらなる充実をめざす

②学会発表、論文発表を積極的に行い、リサーチマインドを追求する

③スタッフの育成と共に資格取得ができる環境を構築する

④医療制度改革に対応できるように組織の変革を常に継続する

薬剤科 88
放射線科 91
臨床検査 93
リハビリ 95
臨床心理 100
臨床工学 102
栄養科 107
治験セン 109
医療福祉 115
病診連携 118
健診セン 128
情報シス 130
保育室 132
がん相談 134
医療安全 137
臨床腫瘍 142

33）放射線科

放射線科技師長　平野　泰弘

1. 概要

2019 年は診療放射線技師 3 名の新入職があり、現在は診療放射線技師 29 名、事務員 1 名の体制となっております。

今年も東大阪徳洲会病院・出雲徳洲会病院・吹田徳洲会病院への応援派遣を行いました。今後も放射線部会と緊密に連携し、徳洲会グループの超規模病院としての責務を全うして参ります。

検査実績としましては、昨年と同様に近隣のクリニックや診療所より年間約 3,500 件の検査依頼を頂きました。今期は 5 月に 2 台目の CAG 機器を導入し、8 月には DSA 室に CT 装置と新規 DSA 機器の導入が有りました。既存の装置をフル活用する事で検査待ち日数を短縮し、緊急検査にもスムーズに対応できるよう努めました。

また、新たに循環器科の専門医と脳外科の専門医が入職された事により , 緊急カテーテルの件数も増加し、脳卒中の患者様に対しての緊急 CT・MRI 検査、緊急の血栓除去術や血管塞栓術の治療も増加し、救急の面においても貢献できたと考えております。

学術面では、各学会で演題発表する事ができました。今後も個人能力向上と放射線科全体のレベルアップを目指し、学会等への積極的な参加を続けていきます。

治療、検査体制の充実を図り、安全に配慮しながら迅速に対応できるよう、また、地域に信頼される病院になれるように努力して参ります。

2. メンバー構成

診療放射線技師 29 名、事務員 1 名

有資格取得者

第 1 種放射線取扱主任者	田中政典、伊吹剛、井上竜太、齋藤里沙、久保省太
マンモグラフィ検診認定技師	田中政典、村尾信義、近藤浩司、川野友也、疋田直子、齋藤里沙、安川莉愛、田中佑実子、比嘉愛美、金岡愛実、宮本夏実、鳥本真由香
胃がん検診認定技師	田中政典、琉秀光、近藤浩司、上甲実
肺がん CT 認定技師	近藤浩司、伊吹剛
救急撮影認定技師	平野泰弘、小川宏明、有吉真志
Ai 認定技師	橋詰智

3. 実績

《月別放射線科統計》

2019年	単純透視	ＣＴ	ＭＲ	ＲＩ	ＣＡＧ	ＤＳＡ	放射線治療	紹介件数	総件数
1月	7,879	2,561	761	58	112	45	98	256	11,770
2月	7,813	2,460	774	65	108	52	174	295	11,741
3月	7,892	2,809	880	73	99	51	240	304	12,348
4月	7,818	2,705	833	87	102	54	151	303	12,053
5月	8,743	2,747	815	89	110	40	283	304	13,131
6月	7,610	2,712	827	86	113	65	157	331	11,901
7月	8,382	2,794	921	108	112	55	208	347	12,927
8月	8,145	2,708	876	64	127	52	249	267	12,488
9月	7,161	2,592	855	67	87	46	483	315	11,606
10月	7,957	2,786	906	72	124	62	429	307	12,643
11月	7,379	2,699	869	71	124	69	390	267	11,868
12月	7,416	2,860	894	88	114	55	303	279	12,009
合計	94,195	32,433	10,211	928	1,332	646	3,165	3,575	139,745
平均	7,850	2,703	851	77	111	54	264	298	11,645

実習生受け入れ

清恵会第二医療専門学院　　１名　（4ヶ月）

4. 今後の目標

2020年に2階TV装置を更新します。画像の質の向上や被曝量の低下等が見込まれ、診断精度及び治療成績の向上に努めます。また、引き続き予防医療や地域貢献を目指します。

個人能力の向上のため、勉強会への積極的な参加や資格の取得にも努めて参ります。

薬剤科 88
放射線科 91
臨床検査 93
リハビリ 95
臨床心理 100
臨床工学 102
栄養科 107
治験セン 109
医療福祉 115
病診連携 118
健診セン 128
情報シス 130
保育室 132
がん相談 134
医療安全 137
臨床腫瘍 142

34）臨床検査科

副技師長　松田　治恵子

1. 概要

病院として取り組み始めたJCI取得を目指し、環境整備を含め改革を行なった。検査各部門では、細菌検査室に質量分析計・細菌検査新システムを導入し、更なる迅速な結果返却が可能となった。また、日本臨床微生物学会が発行した臨床微生物学アトラスに当院からも掲載することができた。

病理診断科では徳洲会グループでセンター化を目指しており、関西では当院を中心とした活動が少しずつ拡充されている。その活動により、2019年度には2名の増員を確保することが出来た。

輸血部門では課題であった輸血後ウイルス検査の実施率向上に対する具体的な取り組みを始め、患者様に安全な医療を提供することに貢献できた。

生理検査では週に一度消化器内科の医師が超音波検査室に来ていただけたことで、症例カンファレンスを開始することができた。また、今後は教育に関しても医師に加わっていただくことが可能となったので、臨床との繋がり・精度の向上を目指す環境が整った。徳洲会グループとしても超音波検査の技士育成に取り組み始めており、関西では当院と岸和田徳洲会病院で研修を実施、今後も継続して活動する予定である。

学術発表において、全国学会には4演題の発表を行なうことができた。また、当院で開催されたQI大会においては特別賞を獲得することが出来た。

離島応援に関してはグループ全体がサポートしており、当院からも屋久島への応援を行った。近隣では4月から吹田徳洲会病院へ毎週月曜日に超音波検査の応援を行った。また、同院からの研修の受け入れも行った。

学生実習に関しては大学1校(1名)専門学校1校(2名)の受け入れを実施した。2020年は倉敷芸術科学大学から初めての実習生を受け入れる予定である。

2. メンバー構成

・臨床検査技師　37名（＊他、採血コーナー常勤看護師1名）
・視能訓練士　　4名　　合計：42名

3. 実績

1）資格試験合格者

・二級試験（微生物）：徳山技師）

2）実習生受け入れ

・日本医療学院専門学校　2名（4ヶ月）
・関西医療大学　　1名（3ヶ月）

3）機器更新

・全自動輸血検査システム　オーソVISION
・質量分析装置　microflex　MALDIバイオタイパー
・感染症検査業務支援システム　SMILE

・LabPro － MBT システム

・微生物同定感受性分析装置　WalkAway96plus

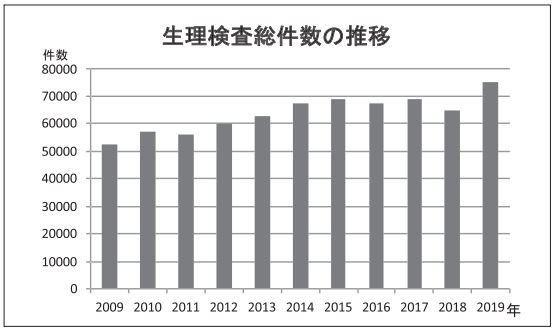
4）2019 年　月別検査統計

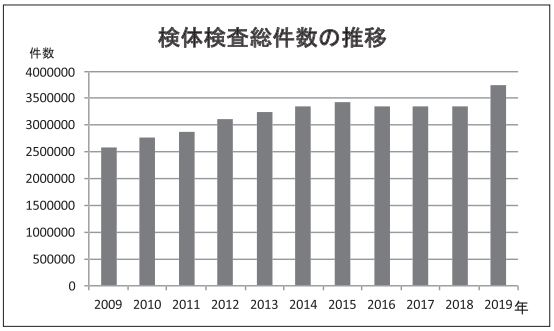
（件数）

項目 / 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
一般	39,241	36,635	39,650	44,408	44,102	42,928	44,867	44,878	42,367	45,263	43,968	44,991	513,298	42,774.8
血液	74,863	71,080	74,622	77,226	81,993	73,703	81,961	80,560	72,541	79,179	75,166	77,433	920,327	76,693.9
微生物	7,707	6,298	7,515	7,832	7,481	6,686	7,266	7,562	7,165	6,890	6,776	6,322	85,500	7,125.0
免疫	19,118	17,021	17,214	20,438	18,488	19,019	20,341	19,095	18,244	20,033	19,223	21,011	229,245	19,103.8
生化学	154,089	145,258	153,783	156,119	169,258	154,260	170,449	165,108	152,322	165,478	157,094	161,655	1,904,873	158,739.4
病理	539	561	679	638	611	604	661	623	548	663	628	606	7,361	613.4
細胞診	1,309	1,256	1,511	1,642	1,699	1,680	1,729	1,729	1,671	1,751	1,719	1,776	19,472	1,622.7
外注合計	4,313	4,513	5,421	5,700	4,722	4,793	5,429	5,138	4,918	5,307	4,908	5,324	60,486	5,040.5
検体合計	301,179	282,622	300,395	314,003	328,354	303,673	332,703	324,693	299,776	324,564	309,482	319,118	3,740,562	311,713.5
外注比率	1.4	1.6	1.8	1.8	1.4	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.7	19.4	1.6
腹部エコー	764	769	843	866	928	868	925	889	849	955	966	883	10,505	875.4
心エコー	650	651	644	644	656	691	734	755	685	754	720	749	8,333	694.4
他エコー	518	564	565	674	666	742	770	682	666	754	710	692	8,003	666.9
生理合計	5,469	5,462	5,808	5,942	6,323	6,350	7,062	6,870	6,071	6,982	6,491	6,437	75,267	6,272.3
月間検査合計	306,648	288,084	306,203	319,945	334,677	310,023	339,765	331,563	305,847	331,546	315,973	325,555	3,815,829	317,985.8

（点数）

項目 / 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計	平均
一般	255,724	257,537	271,077	279,165	310,057	289,630	308,877	309,581	284,435	311,402	292,823	289,971	3,460,279	288,356.6
血液	962,633	903,749	947,948	1,015,529	1,039,487	959,915	1,082,877	1,069,140	963,998	1,047,582	1,007,705	1,020,454	12,021,017	1,001,751.4
微生物	1,042,553	838,123	981,962	1,044,698	998,873	901,155	977,229	1,020,356	973,728	941,888	914,447	930,206	11,565,218	963,768.2
免疫	1,091,068	887,337	883,661	1,040,802	919,106	966,900	1,021,803	947,481	913,341	1,010,624	975,994	1,148,516	11,806,633	983,886.1
生化学	2,141,657	1,979,005	2,141,432	2,137,182	2,235,356	2,044,247	2,269,839	2,206,103	1,998,984	2,196,396	2,100,667	2,175,515	25,626,383	2,135,531.9
病理	495,660	513,780	609,160	579,710	534,470	549,830	606,940	547,550	495,360	588,400	553,130	539,980	6,613,970	551,164.2
細胞診	166,902	157,065	192,149	215,960	222,823	213,686	221,105	218,141	211,399	222,853	215,266	220,105	2,477,454	206,454.5
外注合計	781,190	862,624	996,200	1,144,139	877,220	867,236	1,025,244	1,027,117	1,050,304	1,077,107	929,853	1,071,470	11,709,704	975,808.7
検体合計	6,937,387	6,399,220	7,023,589	7,457,185	7,137,392	6,792,599	7,513,914	7,345,469	6,891,549	7,396,252	6,989,885	7,396,217	85,280,658	7,106,721.5
外注比率	11.3	13.5	14.2	15.3	12.3	12.8	13.6	14.0	15.2	14.6	13.3	14.5	164.5	13.7
腹部エコー	412,270	418,250	457,040	468,290	500,030	468,480	496,960	482,720	456,390	516,090	521,920	474,960	5,673,400	472,783.3
心エコー	576,340	577,840	570,440	573,540	584,720	612,420	652,120	669,360	603,420	674,060	642,280	663,460	7,400,000	616,666.7
他エコー	287,000	300,800	301,750	374,000	368,500	411,400	421,000	381,600	368,500	408,900	392,900	375,800	4,392,150	366,012.5
生理合計	1,821,585	1,880,200	1,956,240	2,052,235	2,119,225	2,161,970	2,360,975	2,267,180	2,071,360	2,334,250	2,264,950	2,222,150	25,512,320	2,126,026.7
院内検査合計	8,758,972	8,279,420	8,979,829	9,509,420	9,256,617	8,954,569	9,874,889	9,612,649	8,962,909	9,730,502	9,254,835	9,618,367	110,792,978	9,232,748.2





4. 今後の目標

1）細胞検査士、輸血専従技師、微生物検査技師、生理検査技師（超音波・各種機能検査）の技師育成に努め、臨床と密に関われる検査室を目指す

2）各種資格試験（細胞検査士、認定臨床微生物検査技師、感染制御認定臨床微生物検査技師、認定輸血検査技師、認定血液検査技師）

3）チーム医療に貢献（各職種のメンバーとの連携を強化する）

薬剤科 88
放射線科 91
臨床検査 93
リハビリ 95
臨床心理 100
臨床工学 102
栄養科 107
治験セン 109
医療福祉 115
病診連携 118
健診セン 128
情報シス 130
保育室 132
がん相談 134
医療安全 137
臨床腫瘍 142

35）リハビリテーション科（理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心臓リハビリテーション）

理学療法室室長　野村　日呂美

1. 概要

2019 年も理学療法部門で「老人保健施設徳洲苑」と「よろこび訪問看護ステーション」の応援を実施。

実習生は 21 名（理学 9 名、作業 9 名　言語 3 名）の受け入れを行った。

チーム・委員会に関しては、心肺・DM・整形・脳外・訪問・リウマチ・手の外科、NST、緩和ケア、創傷外来など、チーム内で療法士の専門性を活かし活動している。近隣の病院との連携強化として理学療法士協会中河内ブロックでの活動を通して、地域の中核病院としての役割を継続して行っている。

2. メンバー構成（次項参照）

3. 実績（次項参照）

4. 今後の目標

2020 年もスタッフ育成と離職防止に力を注いでいきたいと考える。

薬剤科 88
放射線科 91
臨床検査 93
リハビリ 95
臨床心理 100
臨床工学 102
栄養科 107
治験セン 109
医療福祉 115
病診連携 118
健診セン 128
情報シス 130
保育室 132
がん相談 134
医療安全 137
臨床腫瘍 142

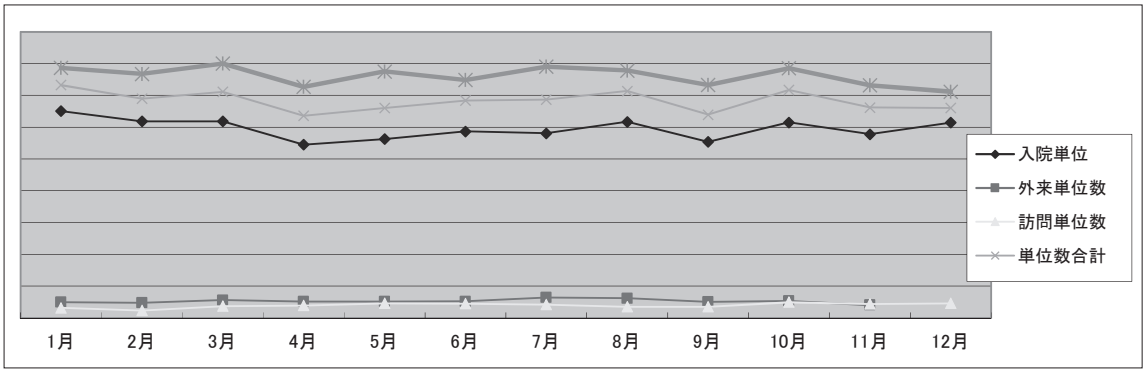
【理学療法】

① 人事

坂東勇　3/31 退職
西野隆彬　3/31 退職
上田哲也　3/31 退職後非常勤へ
北山佳樹　4/1 退職
麻野智幹　4/1 入職
上西希　4/1 入職
永井あすか　4/1 入職
黒田涼平－松本龍也　2/1 ～よろこび訪問看護ステーション応援継続
1 年目交代で 5/1 老人保健施設八尾徳洲苑応援

② 実績

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計単位数	平均
入院単位	6,508	6,187	6,182	5,454	5,630	5,867	5,807	6,168	5,538	6,149	5,777	6,145	71,412	5,951.0
外来単位数	500	474	560	518	516	521	641	618	508	532	405	448	6,241	520.1
訪問単位数	316	236	370	392	461	450	421	352	349	493	438	458	4,736	394.7
単位数合計	7,324	6,897	7,112	6,364	6,607	6,838	6,869	7,138	6,395	7,174	6,620	7,051	82,389	6,865.8
2019 ｽﾀｯﾌ人数	22	22	22 (2 名有給不在)	22 (内新人 3)	21	21	21	21	21	21	21	21	322.1	21.2
前年単位数合計	7,864	7,675	8,000	7,266	7,752	7,486	7,907	7,782	7,326	7,856	7,319	7,118	91,351	7,612.6
2018 ｽﾀｯﾌ人数	23	23	23 (1 名有給不在)	25 (内新人 3)	25	24	23	23	23	23	23	22	328.8	23.2



③ 実習生受け入れ　期間　学年

＜見学実習＞
大阪医専　2/1 ～ 2/7　1 年　1 名
大和大学　8/26 ～ 8/31　1 年　1 名
＜検査測定実習＞
関西福祉科学大学　1/21 ～ 2/16　3 年　1 名
神戸学院大学　9/16 ～ 10/4　3 年　1 名
森ノ宮医療大学　7/29 ～ 8/2　2 年　1 名
行岡医療大学　2/12 ～ 3/1　3 年　1 名

＜臨床実習＞

奈良リハビリテーション専門学校	8/21 ～ 10/11	3 年	1 名
大阪医療福祉専門学校	6/3 ～ 7/27	3 年	1 名
四條畷学園大学	8/11 ～ 9/30	4 年	1 名

④　地域連携

服部玄徳　　大阪府理学療法士協会　中河内ブロック　学術部部員

黒田涼平　　八尾リハビリテーション関連職連絡協議会

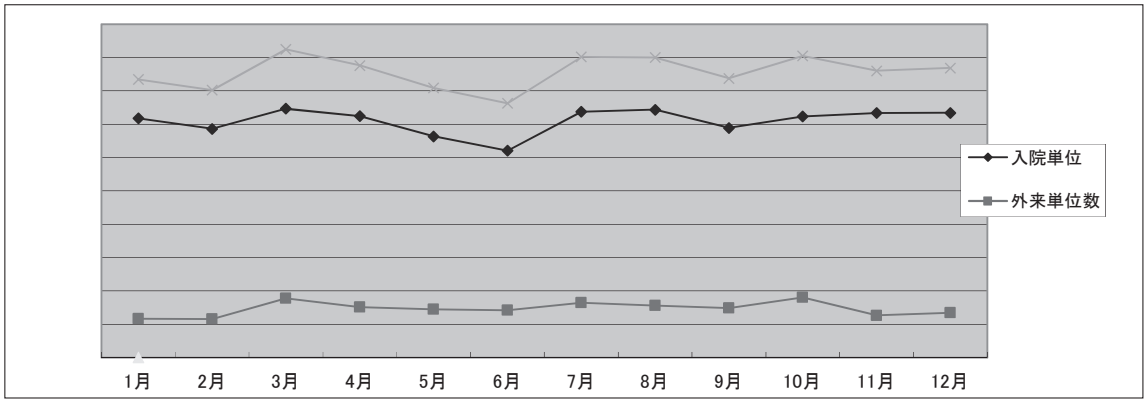
【作業療法】

①　人事

退職者・入職者なし

②　実績

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計単位数	平均
入院単位	1,435	1,372	1,493	1,449	1,327	1,241	1,475	1,487	1,378	1,447	1,467	1,468	17,039	1,419.9
外来単位数	234	232	356	303	290	284	329	313	297	362	253	269	3,522	293.5
単位数合計	1,669	1,604	1,849	1,752	1,617	1,525	1,804	1,800	1,675	1,809	1,720	1,737	20,561	1,713.4
平均	333.8	320.8	369.8	350.4	323.4	305	360.8	360	335	361.8	344	347.4	4112.2	
ｽﾀｯﾌ人数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5		



③　実習生受け入れ

	期間	学年	
関西福祉科学大学	6/10 ～ 8/2	4 年	1 名
大阪保健医療大学	8/5 ～ 10/12	4 年	1 名
大阪医専	1/21 ～ 1/25	1 年	1 名
	8/19 ～ 8/26	1 年	1 名
大阪医療福祉専門学校	1/21 ～ 2/23	2 年	1 名
	8/26 ～ 8/31	1 年	1 名
四條畷学園大学	8/1 ～ 2、8/26 ～ 27、8/29 ～ 30	1 年	1 名ずつ

薬剤科 88
放射線科 91
臨床検査 93
リハビリ 95
臨床心理 100
臨床工学 102
栄養科 107
治験セン 109
医療福祉 115
病診連携 118
健診セン 128
情報シス 130
保育室 132
がん相談 134
医療安全 137
臨床腫瘍 142

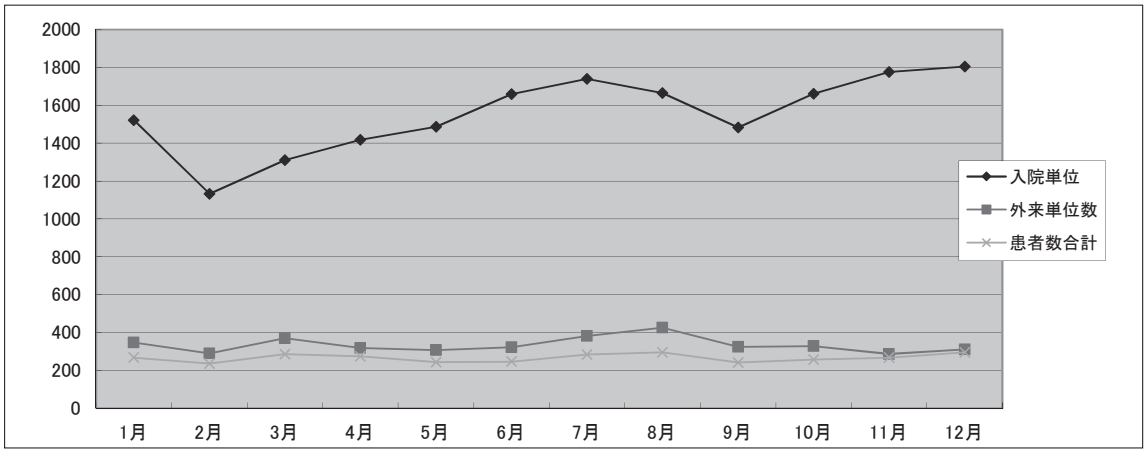
【言語聴覚療法】

① 人事

3月31日	1名退職（川原）
4月1日	2名入職（嶋貫、向藪）
4月1日～7月31日	1名　週1回非常勤（川原）
7月3日	1名退職（春名）
9月30日	1名退職（新原）
10月1日	1名入職（柴田）

② 実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
入院単位	1,522	1,133	1,311	1,418	1,486	1,659	1,740	1,665	1,483	1,661	1,777	1,805	18,660	1,555.0
外来単位数	347	289	369	317	307	322	381	425	323	327	286	310	4,003	333.6
患者数合計	267	235	285	274	243	246	283	294	241	256	267	295	3,186	265.5



③ 実習生受け入れ　　期間　　学年

〈評価実習〉

神戸医療福祉専門学校　1/7～3/1　3年　1名

〈見学実習〉

大阪医療技術学園専門学校　3/14　1年　1名

〈臨床実習〉

大阪医療技術学園専門学校　5/21～7/13　3年　1名

【心臓リハビリテーション】

① 概要

入院の新規患者数、単位数ともに増加。外来では心臓血管外科術後の患者様を退院後１～３ヶ月間 Follow up することで件数増加。また外来初回に CPX を行い、適切な運動処方で安全な心臓リハビリテーションを提供。入院での集団による運動療法を積極的に行い多くの患者様に介入することを実現。

② メンバー構成

医師：　福田貢、内田直里、松尾浩志、綾田健士、迫田慎一郎

理学療法士：　片田理恵、難波智矢、中村竜大、小西正修

臨床検査技師：森文子、戸野川始、西岡徹

③ 実績

入院	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
患者数	512	539	612	569	668	592	540	584	416	528	539	553	554.3
単位数	757	791	921	791	959	912	776	877	654	843	825	834	828.3

外来	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
患者数	22	22	32	18	16	19	27	20	26	35	20	20	23.1
単位数	37	37	52	31	26	29	42	27	30	54	22	21	34

入外合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
患者数	534	561	644	587	684	611	567	604	442	563	559	573	577.4
単位数	794	828	973	822	985	941	818	904	684	897	847	855	862.3
新患数	74	62	75	61	65	69	61	56	50	63	63	81	65

④ 今後の目標

・外来患者数の増加

・他院からの外来心臓リハビリ患者様の積極的な受け入れ

36）臨床心理科

臨床心理科部長　田中　尚

薬剤科　88
放射線科　91
臨床検査　93
リハビリ　95
臨床心理　100
臨床工学　102
栄養科　107
治験セン　109
医療福祉　115
病診連携　118
健診セン　128
情報シス　130
保育室　132
がん相談　134
医療安全　137
臨床腫瘍　142

1. 概要

当院での心理士の役割は患者様やご家族様の心を支えることです。患者様の大半は身体の病気やけがの治療に来院されますが、心と身体を分けて考えることはできません。病気やけがをすれば気持ちが落ち込みますし、強いストレスも感じます。また大きなストレスがかかることで、病気にかかるリスクを高めてしまうことが分かってきています。そこで私たちは、心の専門家として患者様の療養生活を支えることに取り組んでいます。患者様や悩んでいる人たちの話を「聴く」ことで、その人が困難を乗り越えることをサポートしています。皆様の心を支えることで、よりよく生きるための力になりたいと考えています。

2. メンバー構成

田中尚　　（医師・臨床心理士・公認心理師）
八島麻美子（臨床心理士・公認心理師）
朴祐希　　（臨床心理士・公認心理師）

3. 実績

【外来業務】

(1) 小児科

おもに心身症や発達障害などの患者様を対象に、専門医の指示のもと心理検査やカウンセリング、プレイセラピーなどの心理治療を行っています

(2) 心理外来

身体疾患に伴う心理的な不調に対し、リハビリ科医師とともに認知行動療法などの心理治療を行っています

(3) 糖尿病外来

糖尿病ケアチームのスタッフとともに患者様の療養生活を支えるための精神的なサポートを行っています

(4) その他の診療科

主治医からの依頼により、心理的なサポートの必要な患者様に対応しています

【入院業務】

(1) 入院患者様やそのご家族様に対してベッドサイドでカウンセリングなどの心理的ケアを実施しています

(2) 緩和ケアチーム・糖尿病ケアチーム・精神科リエゾンチームに属し、医師や看護師をはじめとする他職種と連携・協力しながら、患者様をサポートするチーム医療を実践しています

【精神科リエゾンチーム】

2018年5月より活動を開始し、週1回、非常勤の精神科医（片上徹也医師、河田清美医師）と共に回診を行っています。現在のチーム構成は、精神科医のほか、リハビリテーション科医師、看護師、薬剤師、臨床心理士となっています。対象となるのは、認知症や精神疾患の既往があったり、せん妄を引き起こしていたりして、入院治療に大きな苦痛や問題を抱えている患者様です。このような方々が安心して安全に治療にのぞめるよう、薬剤や環境の調整、精神的なサポートを行っています。精神科の専門的な視点を取りいれることで、医療スタッフの理解を深めたり、負担を軽減したりする上でも有用であると考えています。

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外来	小児科	114	110	126	99	93	92	101	109	92	112	98	99	1,245
	心理外来	1	4	3	4	5	3	2	4	6	9	6	10	57
	糖尿病外来	28	27	21	32	17	23	17	15	18	27	19	20	264
	その他	4	2	4	4	2	5	1	4	1	1	1	4	33
	合計	147	143	154	139	117	123	121	132	117	149	124	133	1,599
入院	内科系	29	24	41	2	9	10	4	2	5	27	22	32	207
	外科系	8	9	10	4	4	4	9	5	5	9	2	6	75
	小児科	0	0	0	5	0	2	0	0	0	4	4	0	15
	糖尿病	5	10	5	14	21	11	13	8	7	5	5	3	107
	緩和ケア	2	21	9	9	20	17	13	4	8	1	0	6	110
	リエゾン回診	13	18	17	16	13	17	18	13	17	14	14	15	185
	リエゾンフォロー	—	—	—	15	4	15	24	10	10	1	4	13	96
	合計	57	82	82	65	71	76	81	42	52	61	51	75	795

4. 今後の目標

2020年度には人員も増え、より多くの患者様に関わる機会が持てると思います。一人一人の患者様やご家族様に丁寧に向き合い、よりよい医療の提供に貢献したいと考えています。病気やけがを抱える患者様やご家族様の心を支えるためには、相手の立場を理解し、同じ目線で問題に向き合う姿勢が必要になります。他職種の助けも借りながら、自分たちにできることを前向きに考えていきたいと思います。また、それぞれが自身のスキルアップや知識の習得を意識し､心の専門家として貢献できるよう意欲的に自己研鑽にも取り組んでいきたいと思います。

37）臨床工学科

臨床工学科技士長　藤田　和睦

薬剤科 88
放射線科 91
臨床検査 93
リハビリ 95
臨床心理 100
臨床工学 102
栄養科 107
治験セン 109
医療福祉 115
病診連携 118
健診セン 128
情報シス 130
保育室 132
がん相談 134
医療安全 137
臨床腫瘍 142

1. 概要

〈人工透析〉

A）　昨年と比較して総透析件数は、13,477 件と 703 件増加した。ICU や透析室での透析件数が 609 件と増加が目立った。特殊血液浄化は、持続透析（CRRT）が 483 件（66 件増加）、エンドトキシン吸着は 17 件（7 件増加）であった。

腹水濃縮濾過が 21 件（13 件減少）となった。顆粒球吸着は 4 件（1 件減少）、LDL 吸着は 18 件と横ばいであった。全体的に、入院患者様の血液浄化が増加した事、CRRT の増加からも分かるように急性血液浄化の必要性が高い患者数が増えた事が考えられる。

B）　行った取り組みに関しては、透析装置の保守点検、他カテゴリーへの業務支援を行ない、他業務の教育・指導、業務効率の充実を図った。又、CRRT 装置を 1 台購入し件数増加に対応する事が出来た。透析液の水質管理を継続的に安定して行う事が出来た。

他施設からの臨時受け入れ（他施設の機器故障や災害）は無かったが、いつでも受け入れ可能な準備を維持している。

C）　課題、目標については、引き続き、継続的な透析液水質管理を行う事。課題としては、DIACOM の導入、ET 測定器の購入など、JCI 取得に向けた環境整備である。

〈人工心肺〉

A）　昨年と比較して、人工心肺使用症例（開心術）が 61 件と 48 件増加した。人工血管置換術（開腹）も 24 件と 21 件増加した。自己血回収装置の使用も 104 件と 98 件増加した。TEVAR9 件（6 件増加）、EVAR11 件（11 件増加）であった。

B）　行った取り組みに関しては、業務体制を常時 3 名体制にする事で、安全と教育体制の確保に努めた。更に人工心肺業務に従事する臨床工学技士を 1 名増員し体制強化に努めた。

本年より、アイノフローを使用した一酸化窒素吸入療法を導入し、重症心臓外科手術症例に対応している。

C）　課題、目標については、更なる心臓外科手術症例数の増加、重症症例の増加や低侵襲手術の導入が予想される為、安全で安定した医療を提供出来るように研鑽したい。

〈手術室〉

A）　昨年と比較して、鏡視下手術 940 件（21 件増加）、MEP42 件（29 件増加）、ナビゲーション 7 件（6 件増加）、RFA29 件（9 件減少）その他 129 件（57 件増加）となった。

B）　行った取り組みに関しては、手術室や救急外来にある麻酔器を継続した日常点検を行う事によりトラブルの早期発見に努めた。又、計画的にメーカー定期点検を行うことが出来た。

フットポンプの保守管理に関しても、年 2 回のメーカー定期点検を計画的に行う事が出来た。使用台数が多い為、増台し、安定した機器の貸出を行う事が出来た。

整形外科領域において MEP 術中モニタリング対応に取り組んでいる。新たな業務として整形外科のナビゲーションも取り組み始めている。

C）　課題、目標については、2020 年も更に件数増加や新しい医療機器が導入される事が予

想される。医療機器の安全使用や装置の異常、トラブルの早期発見、迅速な対応を図りたい。

〈心臓カテーテル〉

A） 昨年と比較して、総カテ件数1,678件と昨年より476件増加となった。PCI件数は、682件と223件増加となった。Rotablator件数は、167件（79件増加）、EVT件数は、307件と115件増加となった。

ペースメーカー植込み件数は、46件（± 0件）、緊急カテ件数は、131件（13件増加）となった。特筆すべきは、高度な手技レベルが求められるRotablator件数が79件増加した事、PCIが223件増加した事である。

B） 行った取り組みに関しては、綾田医師主導の下、6月よりペースメーカークリニックが開始。これにより臨床検査技師業務から臨床工学技士業務に移行した。

又、これに合わせてペースメーカー遠隔モニタリング業務も開始し、78件実施している。

C） 課題や目標については、循環器医師の要望により、より高度な手技を数多く行うようになった為、スタッフのスキルアップが急務となっている。又、ペースメーカーチェック等の新規業務も開始した為、マンパワーの不足、スタッフの更なるレベルの底上げに対応する事が必要不可欠である。

〈呼吸器・機器管理〉

A） 昨年と比較して、NPPV使用件数は、2,691件と430件増加した。例年と同じ傾向で、4台増台したが不足し、メーカーレンタル対応が増加した。ベンチレータの使用件数は、2,471件で230件の増加となった。ネーザルハイフロー使用件数は、1,425件で481件増加と大幅な増加となった。パラパック（搬送用呼吸器）の使用件数は、87件と35件の減少となった。

B） 行った取り組みに関しては、継続的な人工呼吸器の点検を行う事が出来た。又、メーカーによる定期メンテナンス（呼吸器オーバーホール）も計画的に行う事が出来た。呼吸リハビリ業務のスタッフ教育を行い、結果、業務を実施するスタッフが増加し円滑な業務を行えた。

C） 課題や目標については、ネーザルハイフロー機器が2台増台したが、使用件数増加で不足することが多かった為、追加での購入検討等を行う必要があると思われる。2020年も安全確実な業務と異常・トラブルの早期発見、早期対応を目指していきたい。

〈内視鏡〉

A） 昨年と比較して、上部消化管内視鏡検査は、5,808件と308件増加、下部消化管内視鏡検査は、2,706件と161件の増加となった。ERCPは、328件と6件の増加となった。気管支鏡数は、234件と82件減少した。

B） 行った取組みに関しては、吹田徳洲会病院臨床工学科からの要望を受け、2019年4月より3ヶ月ローテーションで吹田徳洲会病院臨床工学技士の内視鏡業務初期研修を3名行った。日本内視鏡学会によるJED（日本消化器内視鏡データベース）プロジェクトに対応する為の新規機器購入、設置、実稼働対応等を行った。

又、昨年と同様に年2回行われる日本消化器内視鏡技師会で2回とも発表を行うことが出来た。

C）　課題や目標については、多種多様な依頼と高額修理物品を取り扱う為、スタッフのレベルの底上げとマンパワーの確保が必須である。又、他のグループ施設からも研修依頼や指導・教育依頼が増加すると思われるので、自施設の業務に影響なく対応を行うことが求められる。更に、保守管理部分が、計画的に行き届いていない部分がある為、計画的に行えるように努めたい。

〈救急車〉

・救急車の使用件数は、昨年と同様に5件にとどまったが患者様の搬送や受け入れ時にトラブル無く対応を行った。

2. メンバー構成

・藤田技士長以下、総勢18名で構成。

・退職者　中筋技士

・入職者　吉村技士（4月）、矢野技士（8月）

3. 実績

2019年		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
心臓カテーテル	CAG	59	46	45	39	40	45	53	59	40	55	50	51	582
	PCI	49	45	60	55	61	56	58	54	38	61	72	53	662
	ﾛｰﾀﾌﾞﾚｰﾀﾞｰ	20	19	15	23	15	17	13	12	6	12	8	11	171
	PTA	20	22	26	29	21	37	26	24	24	31	29	24	313
	T-PM	2	3	1	2	6	2	4	3	7	3	2	2	37
	P-PM	0	3	2	4	6	2	3	4	3	5	2	7	41
	血栓吸引	11	2	12	9	10	7	3	11	5	5	10	5	90
	PMチェック	0	0	0	0	1	4	6	17	21	11	24	25	109
	遠隔モニタリング	3	19	3	9	9	6	11	9	10	10	8	9	106
心臓血管外科	人工心肺使用症例(開胸)	4	5	4	6	5	5	5	4	5	7	6	5	61
	人工心肺不使用症例(開胸)	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3
	人工血管置換手術(開腹等)	1	3	2	3	1	3	2	1	3	0	3	2	24
	自己血回収装置	6	10	7	9	8	10	11	5	11	9	10	8	104
	TEVER	0	1	1	0	1	1	1	1	1	1	0	1	9
	EVAR	2	0	0	0	1	2	1	1	2	1	0	1	11
手術室	MEP・SEP	3	2	2	3	2	4	10	7	4	2	2	1	42
	鏡視下手術	68	75	65	85	78	82	92	73	92	88	69	73	940
	ラジオ波焼却術	2	2	1	7	2	0	2	3	2	5	2	1	29
人工透析	HD(外来)	781	810	724	820	839	769	832	826	767	823	814	813	9,618
	HD(入院)	302	305	351	325	338	359	427	342	265	264	216	365	3,859
	CHDF	86	62	81	61	38	2	19	30	3	18	52	31	483
	PMX	0	2	1	2	0	1	5	1	0	2	3	0	17
	腹水濃縮	0	0	0	0	2	6	3	1	1	2	4	0	19
	血漿交換・吸着	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	LDL	3	6	8	0	0	1	0	0	0	0	0	0	18
内視鏡	GS	449	460	416	516	507	489	521	470	481	548	488	463	5,808
	CS	181	240	212	267	219	226	253	203	227	239	224	215	2,706
	内視鏡的止血術	11	8	10	4	7	17	12	8	9	12	14	15	127
	拡張術	0	0	2	0	1	2	1	2	0	1	11	0	20
	ポリペクトミー・EMR	40	36	29	52	30	58	46	61	59	64	59	52	586
	ESD	7	7	5	11	8	6	11	7	4	5	8	4	83
	上部・下部ステント、イレウス管挿入	2	4	2	6	3	6	4	2	6	7	4	1	47
	食道・胃静脈瘤硬化療法	5	2	5	3	1	0	3	0	5	0	2	8	34
	EUS(消化器・気管支鏡含)	10	12	7	8	9	9	11	9	7	15	11	12	120
	EUS－FNA(消化器・気管支鏡含)	3	0	2	3	1	3	4	4	6	6	6	2	40
	PEG	2	1	5	2	5	2	0	5	2	4	3	3	34
	ERCP	34	22	28	19	21	25	37	35	19	32	35	21	328
	EST	12	3	3	5	9	5	10	10	1	6	9	6	79
	胆膵ステント挿入	26	10	22	14	10	15	22	15	11	27	27	14	213
	BF(吸痰含)	23	21	26	16	23	32	18	13	19	20	9	14	234
呼吸管理	人工呼吸器	260	255	246	254	208	229	263	176	142	206	206	226	2,671
	NPPV	333	216	197	163	324	255	259	193	118	139	236	258	2,691
	NHF	126	67	87	62	167	107	137	158	104	95	147	168	1,425
	搬送用呼吸器(ﾊﾟﾗﾊﾟｯｸ)	7	4	8	5	12	5	3	8	12	6	14	6	90
	RST	143	155	127	157	148	180	168	171	144	167	193	184	1,937
補助循環	ECMO(PCPS)	0	0	2	0	2	0	0	3	0	7	7	1	22
	IABP	32	5	20	2	3	0	10	9	0	4	22	5	112
メンテナンス	輸液ポンプ	445	441	399	397	377	376	420	428	383	426	480	466	5,038
	シリンジポンプ	213	229	178	211	210	196	183	162	190	191	208	228	2,399
	除細動器	539	552	503	519	540	568	591	575	554	596	556	585	6,678
	持続吸引器	37	29	35	67	36	36	28	42	38	56	29	36	469
	人工呼吸器	612	484	460	474	559	506	504	371	256	343	389	479	5,437
	血液浄化装置	1357	1386	1449	1466	1448	1338	1525	1464	1234	1368	1292	1402	16,729
	生態情報モニター	4799	4855	4296	4698	4523	4768	4858	4847	4502	4741	5001	5091	56,979
	その他	731	718	676	862	777	746	838	855	851	783	703	685	9,225
その他	救急車搬送同乗	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	1	5

薬剤科 88
放射線科 91
臨床検査 93
リハビリ 95
臨床心理 100
臨床工学 102
栄養科 107
治験セン 109
医療福祉 115
病診連携 118
健診セン 128
情報シス 130
保育室 132
がん相談 134
医療安全 137
臨床腫瘍 142

活動状況

認定士取得状況

・体外循環認定士　　藤田技士長　杉本主任　長谷川
・呼吸療法認定士　　藤田技士長　藤村主任　杉山副主任　長谷川
・透析技術認定士　　藤田技士長　杉山副主任　長谷川　玉城
・消化器内視鏡技師　　中西主任　杉山副主任

委員会活動

・医療安全委員会　　藤田技士長
・医療安全カンファレンス　　藤田技士長
・治験委員会　　藤田技士長
・災害対策委員会　　中西主任
・システム委員会　　杉山副主任
・院内感染対策委員会　藤田技士長
・透析機器管理委員会　藤村主任
・医療ガス安全管理委員会　藤田技士長
・院内感染対策チーム　藤村主任
・SM会議　杉本主任

部会活動関連出席

・徳洲会医療安全・管理部会
11/16（藤田技士長）
・全国責任者会議
9/14、15（藤田技士長）
・関西大阪ブロックCE部会会議
1/26（藤田技士長）3/20（藤田技士長）5/11（藤田技士長）7/10（藤田技士長）8/10（中西主任）10/11（藤田技士長）12/14（藤田技士長）
・関西大阪ブロックCE部会管理者研修
5/10（藤田技士長）8/9（中西主任）10/11（藤田技士長、中西主任）12/13（杉本主任）
・関西大阪ブロックCE部会セミナー（和泉市立総合医療センター）
10/27（藤田技士長、中西主任、長谷川、野間、森本、吉村、矢野）
・関西大阪ブロック医療機器WG会議（WEB）
3/11（藤田技士長）9/30（藤田技士長、杉本主任）
・関西大阪ブロック内視鏡・呼吸器・HBOWG会議
3/15（WEB中西主任）6/7（WEB中西主任）8/31（八尾徳洲会病院　中西主任、野間）10/18（WEB中西主任）
・全国CE内視鏡部門会議
10/23（WEB中西主任）
・内視鏡業務教育・指導・視察（宇治徳洲会病院）
3/5（藤田技士長、中西主任）5/21（中西主任）8/27（中西主任）11/19（中西主任）
・内視鏡業務教育・指導・視察（近江草津徳洲会病院）
11/29（中西主任）
・内視鏡業務見学（岸和田徳洲会病院）
10/25（中西主任）
・臨床工学部会PM講習会　　参加者　玉城

その他の活動

・医療機器管理システム会議　　参加者　藤田技士長（2/22、4/26、6/28、8/30、10/25、12/20）

研修・講習会・関連会議

・大阪大学心臓血管外科関連施設会議　　参加者　藤田技士長（1/12）
・大阪大学心臓血管外科関連施設懇話会　参加者　杉本主任　長谷川　岡本（7/6）
・医療機器安全管理講習会　　参加者　藤田技士長（2/9）
・中河内医療安全対策連携協議会　　参加者　藤田技士長（3/28）
・人工臓器セミナー　　参加者　藤田技士長　岡本

施設応援

・神戸徳洲会病院　　応援者　野間（1/15～1/26）
・屋久島徳洲会病院　　応援者　向井（2/16～3/15）
・野崎徳洲会病院　　応援者　三原（10/28～30）

グループ内研修

・内視鏡研修（吹田徳洲会病院より）
　帖地技士（4月～6月）、平安技士（7月～9月）、青木技士（10月～12月）

その他

・就職セミナー（滋慶学園臨床工学科就職説明会）　講師　藤田技士長

学生実習・施設見学会

・学生実習
　2/12～3/1　　大阪医専学生臨床実習
　6/3～7/17　　藍野大学学生臨床実習
　10/7～11/18　日本メディカル福祉専門学校学生臨床実習
・学生見学
　1/24、31　　日本メディカル福祉専門学校　各10名

4. 今後の目標

・JCI本審査に向けた環境整備、管理体制の強化
・スタッフの教育推進
・安定・安全な医療機器の提供
・グループ内活動、学会発表への積極的な参加

薬剤科　88
放射線科　91
臨床検査　93
リハビリ　95
臨床心理　100
臨床工学　102
栄養科　107
治験セン　109
医療福祉　115
病診連携　118
健診セン　128
情報シス　130
保育室　132
がん相談　134
医療安全　137
臨床腫瘍　142

38）栄養科

栄養科副室長　小山　洋史

1. 概要

栄養科では、スタッフ一丸となり「優しさの伝わる栄養管理」を目標とし業務を行ってきました。

低栄養状態や疾患、治療による摂食障害の患者様に対しては、多職種のスタッフで構成したNST や褥瘡、緩和ケアチームにて患者様の嗜好や喫食状況などを把握し、1 食ごとの個別対応により、栄養状態・喫食量の改善に取り組んできました。給食管理においては、化学療法による食欲不振や慢性閉塞性肺疾患の患者様の食種を新設し、調理師とともにメニューの開発を行いました。

入院・外来患者様に対しての栄養指導では、入院時から治療に合わせた食事提供を行い、患者様自らが食事改善できるよう、より実践的な指導を行いました。

2. メンバー構成

2019 年 1 月 1 日～ 2019 年 12 月 31 日

管理栄養士　9 名（栄養サポートチーム専従内 1 名）

調理師　　15 名

調理補助　20 名

3. 実績

≪実習生受け入れ≫

・武庫川女子大学	2019年5月13日～5月31日	2名
・大阪松蔭女子大学	2019年8月5日～8月9日	4名
	2019年8月26日～8月30日	4名
	2019年9月2日～9月6日	4名
	2019年9月9日～9月13日	4名

≪食数≫

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
一般食	17,012	14,614	16,137	16,656	16,106	15,357	16,764	16,892	15,220	15,812	17,298	16,043	193,911	16,159
特別食	12,271	12,219	13,082	11,930	13,084	12,802	13,416	13,217	11,956	12,283	12,290	13,337	151,887	12,657
職員食	5,578	5,207	5,518	5,581	5,501	5,406	5,726	5,808	5,477	6,059	5,656	6,025	67,542	5,629
保育所	866	706	848	595	635	517	512	755	533	650	545	593	7,755	646
病児後保育	95	98	99	98	96	70	89	58	98	119	70	107	1,097	91
付き添い食	1	16	0	5	2	31	59	14	5	7	9	15	164	14
合計	35,823	32,860	35,684	34,865	35,424	34,183	36,566	36,744	33,289	34,930	35,868	36,120	422,356	35,196

≪病院食内訳≫

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
常食	5,978	5,391	5,578	5,221	5,303	4,809	5,382	6,200	5,079	4,791	5,827	5,461	65,020	5,418
軟菜食	5,172	4,100	4,401	4,065	3,733	3,288	3,377	3,722	3,940	4,084	3,804	3,558	47,244	3,937
極軟菜食	3,350	2,820	3,408	2,860	2,482	2,456	2,995	3,106	2,676	2,883	3,392	2,812	35,240	2,937
ペースト食	801	911	1,447	1,205	823	625	919	725	694	818	663	1,045	10,676	890
流動食	414	325	312	298	389	248	294	286	263	312	260	239	3,959	303
学童食	76	77	118	79	36	114	106	106	65	55	65	150	1,047	87
幼児食	24	19	73	56	47	37	19	42	33	87	39	42	518	43
離乳食	21	9	2	25	19	16	12	0	12	0	8	10	134	11
糖尿食	2,865	3,193	2,831	2,719	3,684	3,128	2,805	3,897	3,063	3,458	3,441	3,132	38,216	3,185
心臓食	2,867	2,115	2,473	2,051	2,717	3,022	2,432	2,310	2,407	2,696	2,818	2,697	30,605	2,550
高血圧食	1,456	1,500	1,593	1,848	1,646	1,464	2,108	1,723	1,374	1,390	1,402	1,270	18,774	1,565
腎臓食	1,062	1,177	1,355	1,545	1,149	1,011	1,030	974	1,325	1,128	1,005	1,419	14,180	1,182
透析食	837	1,128	875	852	933	1,137	1,304	926	899	849	683	1,414	11,837	986
糖尿透析食	753	745	598	876	969	787	1,068	909	413	468	583	646	8,815	735
高脂血症食	2	39	115	100	146	39	27	169	63	163	109	62	1,034	86
低脂肪食	349	305	485	343	208	424	320	443	541	366	446	368	4,598	383
肝臓食	425	416	409	200	293	395	464	536	526	420	378	288	4,750	396
肝不全食	6	28	152	171	168	208	116	41	47	36	119	188	1,280	107
貧血食	7	0	0	3	28	14	3	2	0	0	0	6	63	5
低残渣食	668	672	725	670	614	601	942	490	426	348	299	615	7,070	589
潰瘍食	21	105	185	177	169	127	345	183	173	488	411	642	3,026	252
胃切後食	138	122	189	175	226	187	155	117	177	222	165	94	1,967	164
クローン病食	0	14	4	2	10	0	34	0	0	0	31	0	95	8
カテ食	6	6	12	11	3	6	13	6	24	6	10	2	105	9
ケモ食	56	57	112	72	295	364	320	208	268	285	46	125	2,208	184
COPD食	92	145	45	108	0	0	0	4	101	89	66	177	827	69
注腸検査食	2	2	1	2	0	3	12	2	0	4	14	1	43	4
顎間固定食	8	14	21	12	72	39	27	18	50	31	2	25	319	27
訓練食	194	150	172	187	153	177	181	146	126	161	196	180	2,023	169
濃厚流動食	1,114	1,734	1,662	1,360	1,568	1,902	1,641	1,874	1,491	1,291	1,586	1,495	18,718	1,560
その他(単品食等)	1,127	1,024	1,477	1,327	1,232	1,508	1,461	1,298	1,063	1,116	1,756	1,320	15,709	1,309
合計	29,891	28,343	30,830	28,620	29,115	28,136	29,912	30,463	27,319	28,045	29,624	29,483	349,781	29,148

≪栄養指導件数≫

栄養指導件数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
外来	238	259	247	309	301	263	234	246	235	256	230	244	3,062	255
入院	331	309	358	331	392	287	336	304	310	276	270	241	3,745	312
集団	2	2	0	2	2	5	3	4	0	3	14	2	39	3
合計	571	570	605	642	695	555	573	554	545	535	514	487	6,846	571

4. 今後の目標

2020 年は JCI の取得を予定しており、国際的な基準での病院運営が求められます。栄養科でも、栄養管理やフードサービスなど患者様への対応も今までと異なり、JCI の基準に基づいた様々な指標や、栄養、食事によるアウトカムを数値化もしくは記録に残して行かなければなりません。そのため患者様のニーズを栄養科スタッフ全員が読み取り、それを実行する力を身につける必要があります。

食事・栄養療法での効果を再度スタッフに教育し、急性期病院で求められる早期離床・早期退院を目指して適切な栄養管理を行い、療養の支えとなるよう栄養科スタッフ一同努めたいと考えています。

薬剤科 88
放射線科 91
臨床検査 93
リハビリ 95
臨床心理 100
臨床工学 102
栄養科 107
治験センター 109
医療福祉 115
病診連携 118
健診センター 128
情報システム 130
保育室 132
がん相談 134
医療安全 137
臨床腫瘍 142

39）治験センター

治験センター長　大里　恭章

1. 概要

CRC メンバー構成（センター長 1 名、臨床検査技師 CRC1 名、事務 1 名、看護師 CRC2 名）の変更が続く中での船出となった年だったが、新たな案件の受託が進まなかったこともあり、経験年数の浅いスタッフもじっくり治験業務に携わることができた。

また、今年は当院では初めて、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）の実施調査を受けた。2 件の治験の調査であったが、指摘事項はなく、治験実施の上でお墨付きをいただいたといえる。

これらの経験を生かし、来年は受託案件数を増やし、スタッフ個々の能力が十分に発揮でき、かつ、施設スタッフとの連携もより強化し、質の高い治験を進めていきたい。

2. メンバー構成

治験センター長（兼任）1 名、専任 CRC 3 名（臨床検査技師 1 名、看護師 2 名）
治験事務局補助業務担当者 1 名（臨床検査技師 1 名）
期間限定応援 CRC（宇治徳洲会病院 1 名）

3. 実績

①スタートアップミーティングなど

9 月 17 日　OPC-61815 試験（慢性心不全）事前説明会
10 月 15 日　OPC-61815 試験（慢性心不全）スタートアップミーティング
11 月 12 日　PNDA 実施調査

②治験依頼者施設調査訪問

4 件　（冠動脈疾患、HFrEF 心不全、うっ血性心不全、心房細動）

③研修会・学会・参加

・3/12　　GCP研修（八尾徳洲会病院）
・5/24-26　CRC導入研修（東京 未来医療研究センター/大阪　未来医療研究センターWeb受講）
・5/18-19　全国臨床試験部会（生駒市立病院）　責任者会議
・6/14-16　CRC導入研修（東京 未来医療研究センター/大阪　未来医療研究センターWeb受講）
・8/24　　臨床試験部会　西日本CRC実務者会議
・11/16　　西日本ブロック　責任者会議 （TIS大阪）

【治験】

新規案件　2件　　2019年契約

実施診療科・責任医師	実施/契約症例数	対象疾患・フェーズ	予定期間
内科・原田博雅	4/8例	高K血症・第Ⅱ相	2019年3月8日～ 2021年3月31日
循環器内科・松尾浩志	1/3例	経口摂取困難な うっ血性心不全・第Ⅲ相	2019年10月17日～ 2020年9月30日

実施中（新規契約・終了含まず）　　2019年12月31日現在

実施診療科・責任医師	実施/契約症例数	対象疾患・フェーズ	予定期間
形成外科・綾部忍	5/5例	難治性潰瘍・第Ⅲ相	2018年10月1日～ 2019年12月31日

終了案件　7件

実施診療科・責任医師	実施/契約症例数	対象疾患・フェーズ	終了報告日
形成外科・綾部忍	8/8例	褥瘡・難治性潰瘍第Ⅲ相	2019年4月18日
腎臓内科・申勝	0/1例	腎性貧血（透析）・第Ⅲ相	2019年7月18日
腎臓内科・申勝	3/3例	腎性貧血（透析）・第Ⅲ相	2019年8月22日
内科・原田博雅	7/4（10）例	高K血症・第Ⅲ相	2019年8月22日
内科・原田博雅	0/2例	喘息・Ⅲ相	2019年9月19日
内科・原田博雅	0/2例	喘息・Ⅲ相	2019年9月19日
形成外科・綾部忍	4/4例	下肢潰瘍を有する 閉塞性動脈硬化症・Ⅲ相	2019年10月17日

薬剤科 88
放射線科 91
臨床検査 93
リハビリ 95
臨床心理 100
臨床工学 102
栄養科 107
治験セン 109
医療福祉 115
病診連携 118
健診セン 128
情報シス 130
保育室 132
がん相談 134
医療安全 137
臨床腫瘍 142

手挙げ　19 件　　（受託決定 2 件 / 仮選定 2 件 / 未定 9 件 / 開発中止 3 件 / 選定落ち 3 件）

実施診療科・責任医師	結果	対象疾患	調査最終日
循環器内科・松尾浩志	開発中止	冠動脈疾患	2019 年 1 月 8 日
内科・原田博雅	未定	特発性肺線維症（Ⅱ相）	2019 年 1 月 30 日
内科・原田博雅	選定落ち	ICU 入室患者	2019 年 2 月 25 日
循環器内科・松尾浩志	選定落ち	HE p EF	2019 年 3 月 1 日
循環器内科・松尾浩志	開発中止	HE r EF	2019 年 3 月 1 日
循環器内科・松尾浩志	未定	心不全	2019 年 3 月 22 日
内科・原田博雅	開発中止	重症喘息	2019 年 3 月 27 日
循環器内科・松尾浩志	未定	慢性心不全	2019 年 7 月 16 日 / 再 2019 年 12 月 13 日
循環器内科・松尾浩志	未定	急性心筋梗塞	2019 年 7 月 30 日
内科・原田博雅	未定	RSV ワクチン	2019 年 8 月 5 日
腎臓内科・申勝	未定	二次性副甲状腺機能亢進症（透析）	2019 年 8 月 19 日
循環器内科・松尾浩志	選定落ち	うっ血性心不全	2019 年 8 月 22 日
内科・原田博雅	仮選定（再開待ち）	高 K 血症	2019 年 8 月 28 日
循環器内科・松尾浩志	未定	ST 上昇型心筋梗塞（再生医療）	2019 年 8 月 28 日
内科・原田博雅	仮選定（組入可能者あれば開始）	COPD（中等度～最重症）	2019 年 11 月 7 日
形成外科・綾部忍	未定	糖尿病性下肢潰瘍	2019 年 11 月 7 日
糖尿病代謝内科・石橋里江子	未定	抹消動脈疾患を有する 2 型糖尿病	2019 年 12 月 2 日

≪製販後使用成績調査 / 特定使用成績調査≫

新規　　3 件

実施診療科・責任医師 / 対象疾患	契約症例数	薬剤名	予定期間
腫瘍内科・洪鉱寿 / 結腸・直腸癌以外の MSI Hhigh 固形癌	全例	キートルーダ 点滴静注 20mg、100mg	2019 年 4 月 22 日～ 2022 年 6 月 20 日
内科・瓜生恭章 / ｱﾝﾄﾗｻｲｸﾘﾝ系悪性腫瘍剤の血管外漏出患者	全例	サビーン点滴静注用 500mg	2019 年 10 月 3 日～ 2022 年 1 月 16 日
呼吸器内科・石原英樹 / 好酸球性多血血管炎性肉芽種症	全例	ヌーカラ　皮下注用 100mg	2019 年 10 月 23 日～ 2028 年 4 月 30 日

実施中（新規・終了含まず）　15 件

実施診療科・責任医師 / 対象疾患	契約症例数	薬剤名	予定期間
心臓血管外科・入江寛 / 胸部大動脈瘤	全例	カワスミ Naiuta 腹部動脈ステントグラフトシステム	2014 年 5 月 16 日～ 2020 年 12 月 26 日
脳神経外科・鶴野卓史 / 非弁膜症性心房細動	10 例	リクシアナ錠	2015 年 7 月 7 日～ 2019 年 9 月 30 日
内科・原田博雅 / 切除不能な進行・再発の非小細胞癌	全例	オプジーボ点滴静注 20mg、100mg	2016 年 1 月 27 日～ 承認条件解除日
神経内科・辰巳新水 / 多発性硬化症再発予防	全例	コパキソン皮下注 20mg シリンジ	2013 年 7 月 29 日～ 2025 年 3 月 31 日
内科・原田博雅 / 特発性肺線維症	全例	オフェブカプセル 100mg、150mg	2016 年 5 月 13 日～ 2020 年 6 月 30 日
小児科・石垣早知子 / ダニ抗原によるアレルギー鼻炎患者	4	ミティキュア舌下錠 3300JAU、10000JAU	2017 年 1 月 16 日～ 2022 年 12 月 31 日
腫瘍内科・洪鉉寿 / 再発又は難治性の多発骨髄腫	全例	エムプリシティ点滴静注 300mg、40mg	2017 年 3 月 6 日～ 2020 年 8 月 31 日
腫瘍内科・洪鉉寿 /PD-L1 陽性の切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌	全例	キイトルーダ点滴静注 20mg、100mg	2017 年 3 月 6 日～ 2020 年 8 月 31 日
神経内科・辰巳新水 / 多発性硬化症	全例	ジレニアカプセル 0.5mg	2017 年 3 月 6 日～ 2020 年 8 月 31 日
神経内科・武田景敏 / 球脊髄性筋萎縮症	全例	リューブリン SR 注射用キット 11.25mg	2018 年 2 月 15 日～ 承認条件解除日
呼吸器外科・市橋良夫 / 切除不能な進行・再発の非小細胞癌	全例	ジカディアカプセル 150mg	2018 年 3 月 12 日 ～承認条件解除日の 1 年後
整形外科・當麻俊彦 / 肺動脈性高血圧症患者	全例	オプスミット錠 10mg	2018 年 4 月 11 日～ 2022 年 3 月 26 日
肝臓センター・木村拓也 / アンチトロビンⅢ低下を伴う門脈血栓症	5	献血ノンスロン 500 注射用・献血ノンスロン 1500 注射用	2018 年 5 月 28 日～ 2021 年 1 月 31 日
泌尿器科・飯盛宏記 / 尿路上皮癌	全例	キイトルーダ点滴静注	2018 年 6 月 14 日～ 2020 年 4 月 20 日
腫瘍内科・洪鉉寿 / 切除不能な信仰・再発の非小細胞癌	全例	テセントリク点滴静注 1200mg	2018 年 8 月 22 日～ 2020 年 10 月 31 日

薬剤科 88
放射線科 91
臨床検査 93
リハビリ 95
臨床心理 100
臨床工学 102
栄養科 107
治験セン 109
医療福祉 115
病診連携 118
健診セン 128
情報シス 130
保育室 132
がん相談 134
医療安全 137
臨床腫瘍 142

≪臨床研究　等≫　※倫理審査が終了し研究を開始しているもの

新規　8 件　　2019 年 1 月～ 12 月初回審議終了分

実施診療科・研究責任者	研究課題名	予定期間 / 症例数	倫理委員会 / 初回審査日
リハビリテーション科・難波智矢	本邦集中治療室における早期リハビリテーションと Post Intensive Care syndrome に関する他施設前向き観察研究（EMPICS study）	2019 年 5 月 31 日～ 2021 年 3 月 31 日 /25 例（全 250 例）	共同倫理委員会 / 2019/5/29
がん相談支援センター・三谷勇一	大阪府における癌患者サロンの参加者の特性とサロンへの貢献意欲に関連する要因：サロンの均てん化の促進を目指した PDCA サイクルの構築のための基礎調査	2019 年 7 月 5 日～ 2020 年 3 月 31 日 /20 例（全 120 ～ 180 例）	共同倫理委員会 / 2019/7/3
呼吸器内科・濱口眞成	本邦における急性 I 型呼吸不全に対する非真宗的人工呼吸器と高流量鼻カニュラ酸素療法の他施設ランダム化比較試験	2019 年 9 月 2 日～ 2021 年 3 月 31 日 /2 例（全 104 例）	徳洲会執行理事会承認 /2019/8/30（特定臨床研究 / 共同研究機関）
泌尿器科・飯盛宏記	ビカルタミドを用いた CAB 療法後の去勢抵抗前立腺癌に対する抗アンドロゲン剤交代療法と早期エンザルタミド導入療法の多施設前向き無作為化比較試験の予後追跡調査	2019 年 8 月 29 日～ 2024 年 3 月 31 日 /5 例（全 85 例）	共同倫理委員会 / 2019/8/28
形成外科・綾部忍	Arterial insufficiency, infection and foot deformity concept in the management of diabetic foot ulcer	2019 年 8 月 9 日～ 2020 年 12 月 31 日 / 約 133 例	共同倫理委員会 / 2019/8/7
内科・原田博雅	疾患コホート研究ネットワークによる疾患マーカー探索研究	2019 年 10 月 10 日～ 2023 年 3 月 31 日 / 全例（全約 26.6 万例）	共同倫理委員会 / 2019/10/2
リハビリテーション科・橋本智里	糖尿病患者に対し行動変容 stage 毎の介入 - 自己効力感・身体活動の増加を認めるか -	2020 年 1 月 14 日～ 2020 年 9 月 30 日 / 約 133 例	共同倫理委員会 / 2019/11/27
外科・村上修	門脈ガス血症における手術必要群の臨床的特徴に関する検討	2019 年 11 月 29 日～ 2020 年 3 月 31 日 /20 例（全 280 例）	共同倫理委員会 / 2019/11/27

継続中　7 件（新規含まず）

実施診療科・研究責任者	研究課題名	予定期間	倫理委員会 / 初回審査日
薬剤部・大里恭章	アセトアミノフェン及びそのグルクロン酸代謝物の血中濃度とアセトアミノフェン誘発肝障害との関連性	2016 年 7 月 11 日～2020 年 12 月 31 日 /100 例（全 200 例）	共同倫理委員会 / 2016/6/28
内科・瓜生恭章	高齢者 EGFR 遺伝子変異陽性かつ T790M 陽性非小細胞肺癌の EGFR − TK Ⅰ前治療無効あるいは再発例に対する Osimertinib の有効性と安全性の第Ⅱ相試験（SPIRAL）	2016 年 10 月 6 日～2020 年 8 月 31 日 /3 例（全 35 例）	共同倫理委員会 / 2016/6/28 →徳洲会執行理事会承認 /2018/8/31 （特定臨床研究 / 共同研究機関）
脳神経外科・吉村政樹	グリオーマにおける化学療法感受性の遺伝子指標の検索とそれに基づくテーラーメード治療法の開発	2017 年 4 月 6 日～2021 年 3 月 31 日 /30 例（全 2000 例）	共同倫理委員会 / 2017/4/5
内科・瓜生恭章	悪性胸水および / 又は悪性心嚢水合併 EGFR T790M 陽性非小細胞肺癌（扁平上皮癌を除く）の EGFR-TK Ⅰ前治療無効あるいは再発例に対する Osimertinib と Bevacizumab の併用療法の有効性と安全性の第Ⅱ相試験（SPIRAL Ⅱ）	2017 年 8 月 31 日～2022 年 6 月 30 日 /1 例（全 36 例）	共同倫理委員会 / 2017/8/30 →徳洲会執行理事会承認 /2018/9/27 （特定臨床研究 / 共同研究機関）
リハビリテーション科・服部玄徳（上田哲也）	退院患者を対象とした転倒予防指導の有効性に関する多施設共同ランダム化比較試験	2017 年 10 月 10 日～2021 年 9 月 30 日 /65 例（全 172 例）	共同倫理委員会 / 2017/12/22
リハビリテーション科・服部玄徳	急性期病院入院高齢患者における退院前後での身体活動量に関する探索研究	2017 年 12 月 25 日～2020 年 9 月 30 日 /60 例（全 200 例）	共同倫理委員会 / 2017/10/4
泌尿器科・飯盛宏記	当院における経尿道的腎尿管結石破砕術の合併症の検討	2018 年 7 月 11 日～2019 年 12 月 31 日 /131 例（全 131 例）	共同倫理委員会 / 2018/7/7

4. 今後の目標

臨床試験部会から推奨されている各種手順書の修正や作成をすすめ、全てのスタッフが CRC 業務に取り組みやすい体制を引き続き構築する。

また、CRC は、受託治験の早期組み入れ、契約数達成率アップ、契約数追加などが出来るように、積極的な活動を心掛けるとともに、GCP に基づいた品質の高い実施内容が実践できるよう努力を重ねる。

薬剤科 88
放射線科 91
臨床検査 93
リハビリ 95
臨床心理 100
臨床工学 102
栄養科 107
治験セン 109
医療福祉 115
病診連携 118
健診セン 128
情報シス 130
保育室 132
がん相談 134
医療安全 137
臨床腫瘍 142

40）医療福祉相談室（MSW 医療ソーシャルワーカー）

認定医療社会福祉士　三谷　勇一

1. 概要

2019年は、3名の新人を迎えることで、MSW9名、看護師3名での入退院支援体制の構築を図りました。JCI認証の過程において、記録方法を根本から見直し、ソーシャルワークの本来あるべきフローを完成する年となりました。

退院支援においては、自己決定を促す介入を実施するために、時間をかけた丁寧な面談が必要となります。その過程において真のニーズをくみ取ることが求められますが、業務量の多さもあり、必ずしも時間をかけた寄り添いができるとは限りませんでした。本年は増員によるマンパワー強化で質を担保した新しいスタートの年となりました。それらの取り組みは、学会発表等7演題、論文等1本の成果となりました。

2. メンバー構成

病棟専任社会福祉士9名、（算定加算：入退院支援加算1）
三谷勇一（8西･8東）、岩尾涼（8西･8東）、影山雄紀（7西･7東）、五十嵐健太（7西･7東）、松下有希（6西・6東）、蔵元裕恵（5西・5東）、伊藤貴代（5西・5東）、中納浩子（4東・HCU）、門田翔太（ICU・HCU）。

退院支援専従看護師：加藤和代　　退院支援専任社会福祉士：三谷勇一
入院時支援専任看護師：井本ユミ、上田あゆみ

外来担当:三谷（月曜）、門田（火曜）、松下（水曜）、中納（木曜）、影山（金曜）、三谷（土曜）。

人事異動
6月　1日　1名　入職　岩尾
7月15日　1名　入職　伊藤
9月　1日　1名　入職　五十嵐
12月31日　1名　退職　松下

薬剤科 88
放射線科 91
臨床検査 93
リハビリ 95
臨床心理 100
臨床工学 102
栄養科 107
治験セン 109
医療福祉 115
病診連携 118
健診セン 128
情報シス 130
保育室 132
がん相談 134
医療安全 137
臨床腫瘍 142

3. 実績

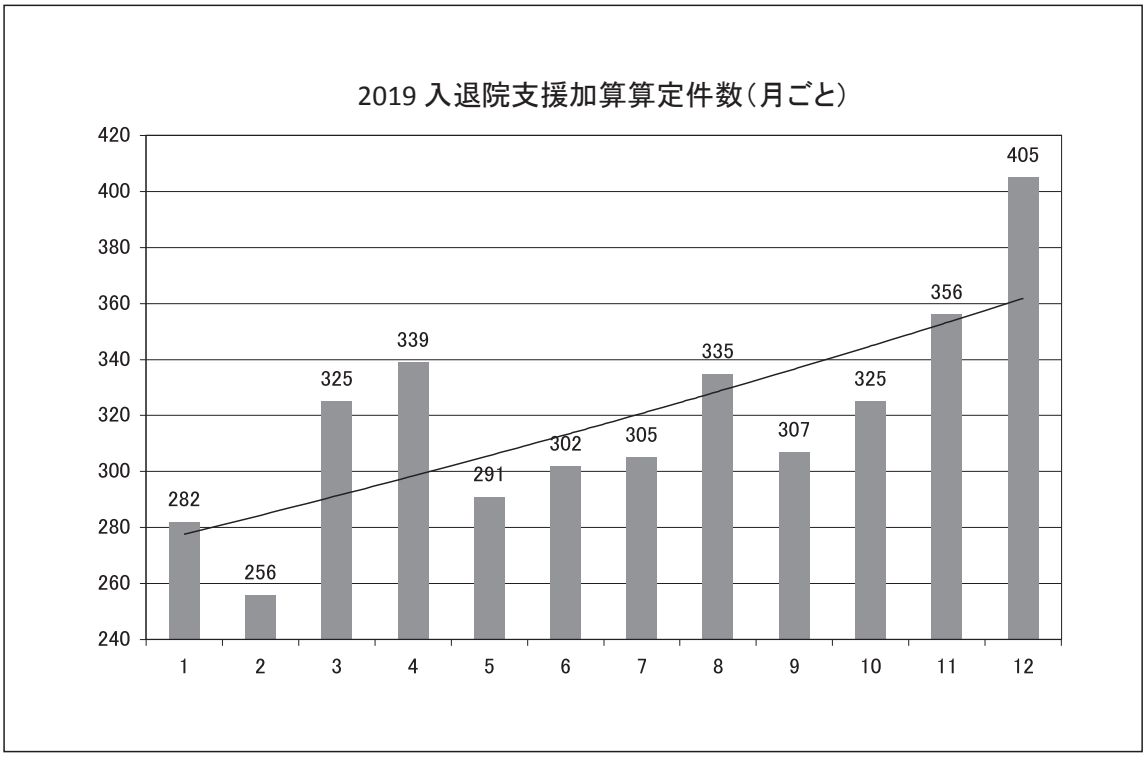
1）退院支援実績

2019		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
1. 他施設へ		152	124	148	173	137	154	167	169	142	148	156	179	1,849
内、グループ内施設へ		7	6	7	10	8	8	6	12	9	13	14	14	114
内訳	① 医療機関	80	69	89	84	69	86	84	90	75	84	85	87	982
	内、グループ内施設へ	3	2	4	2	4	4	2	3	2	4	7	2	39
	② 老健施設	13	12	14	14	12	6	10	10	8	12	19	14	144
	内、グループ内施設へ	4	4	3	8	4	4	4	9	7	8	7	10	72
	③ 老人ホーム等	58	40	44	69	54	59	71	67	57	50	49	78	696
	内、グループ内施設へ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3
	④ その他	1	3	1	6	2	3	2	2	2	2	3	0	27
	内、グループ内施設へ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2. 在宅診療へ		25	35	28	44	30	27	21	48	38	52	25	45	418
内訳	グループ内事業所	3	2	8	6	7	4	5	8	9	6	3	21	82
	（再掲）内、新規登録	3	1	4	5	1	1	0	9	8	2	0	15	49
	グループ外事業所	22	33	20	38	23	23	16	40	29	46	22	24	336
3. 死亡		73	70	48	60	56	48	48	62	40	53	44	55	657
4. その他 (軽快退院を含む)		658	658	752	706	681	717	756	744	671	703	678	745	8,469
1、2、3、4 の合計		908	887	976	983	904	946	992	1,023	891	956	903	1024	11,393

2）退院支援計画書加算算定実績

昨年の 2,379 件を大幅に更新し、3,828 件となりました。入院時支援加算は、年間 383 件と、昨年の年間 139 件を大幅に更新しました。

図 1



3）介護指導連携指導料

施設基準として年間 63 件以上の算定が必要となります。

2019 年は 991 件で有意に条件を満たしました。2018 年の 267 件を大幅に上回っています。

4）地域連携診療計画加算

2019 年は年間算定件数 147 件でした。2018 年の 169 件を下回りました。

中河内圏域脳卒中等地域連携クリティカルパス連絡会 2 月、6 月、10 月に参加しています。

5）退院時共同指導料

2019 年は 219 件でした。

6）実習生の受け入れ実績：相談援助実習（合計 3 名）

関西福祉科学大学（1 名）

期間：2019 年 8 月 7 日～ 9 月 13 日

大阪国際福祉専門学校（2 名）

期間：2019 年 5 月 15 日～ 7 月 11 日

期間：2019 年 9 月 17 日～ 10 月 18 日

7）研修・部会参加

4/2	うつからの復職･再就職セミナー:知っておくと安心～障害年金のこと～（大阪）
6/7 ～ 6/9	第 67 回日本医療社会福祉協会全国大会第 39 回日本医療社会事業学会（川崎）
6/21 ～ 6/22	日本緩和医療学会学術集会（横浜）
11/23 ～ 24	救急認定ソーシャルワーカー研修（大阪）
12/15	身寄りがない患者受け入れマニュアル作成に資する研修（京都）

4. 今後の目標

今後、新人でも円滑な介入ができるマニュアルの開発と、スーパービジョン体制の構築により介入力の向上を目指すことが求められます。また､ハンデのあるスタッフとの連携も強化し、就労定着支援体制の構築にも乗り出します。

41） 病診連携室

病診連携室課長補佐　山中　隆史

薬剤科　88
放射線科　91
臨床検査　93
リハビリ　95
臨床心理　100
臨床工学　102
栄養科　107
治験セン　109
医療福祉　115
病診連携　118
健診セン　128
情報シス　130
保育室　132
がん相談　134
医療安全　137
臨床腫瘍　142

1. 概要

患者様が安心して安全に医療を受けられるよう中河内地区の急性期医療の中核施設として、また、大阪府のがん拠点病院として、その役割を果たすべく、地域の医療機関と紹介・逆紹介の連携を活発且つ密接におこなっております。

また当院へ積極的に紹介いただけるよう常に迅速且つ正確に対応させていただくことを心がけております。

さらに､地域の皆様にも幅広く医療をご理解していただき､積極的に予防医療へも関心を持っていただけるよう定期的に公開医療講座を開講し、予防医療の啓蒙活動にも努めております。

2. メンバー構成

病診連携室長：木村拓也　部長・肝臓センター長（肝臓外科・小児外科）

事務：山中隆史・中道睦代・石井陽子・大西直哉・上間やよい

3. 実績

・「中河内医療連携の会」（病診連携の会）

地域の連携医、連携施設との勉強会・情報交換会を定期的に開催

・2019年　3月16日（土）「 中河内医療連携の会 」

ホテルモントレグラスミア大阪　21 階　第一三共㈱共催

一般講演　　座長　　荒木整形外科医院　院長　荒木　信吾　先生

「手指の骨折後変形治癒に対する手術治療」

整形外科　医長　土肥　義浩

座長　　松尾クリニック　理事長　松尾　汎　先生

「長期予後を見据えた血管内治療」

循環器内科　部長　松尾　浩志

特別講演　　座長　　循環器内科　部長　松尾　浩志

「今、改めて日本人 AF 患者の脳梗塞リスクを考え直す

～　伏見 AF レジストリ 8 年の成果　～　」

独立行政法人　国立病院機構京都医療センター

循環器内科　部長　赤尾　昌治　先生

《主な公開医療講座》

職種	講　師	演　題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
医師	副院長　呼吸器内科　石原　英樹	自分らしく生きぬくために －終末期の医療について 考えてみませんか？－	3月29日	八尾プリズムホール 4階会議室
	神戸大学大学院　医学博士　小児科 部長　石垣　早知子	大人のワクチン　子どもの花粉症 ～昔と違う体の力の引き出し方～	4月26日	八尾プリズムホール 4階会議室
	北西整形外科リウマチクリニック 院長　北西　正光	肩の痛みについて	6月24日	山本コミュニティセンター 3階学習室
	神戸大学大学院　医学博士　小児科 部長　石垣　早知子	人体という宇宙を生きる ～アレルギーや免疫、栄養や睡眠～	8月23日	山本コミュニティセンター 3階学習室
	顧問　整形外科　長谷川　潔	変形性膝関節症 「保存治療をしっかり・手術になる場合」	10月10日	八尾プリズムホール 4階会議室
	北西整形外科リウマチクリニック 院長　北西　正光	腰痛・下肢痛なおりますか？	11月21日	八尾プリズムホール 4階会議室
	神戸大学大学院　医学博士　小児科 部長　石垣　早知子	人体という宇宙を生きる ～アレルギーや免疫、栄養や睡眠～	11月26日	山本コミュニティセンター 3階学習室
保健師	保健師　佐藤　さかえ	筋力の低下を防ぐ ～フレイルってなぁに？～	1月11日	八尾プリズムホール 4階研修室
	保健師　由留木　千恵	健康な歯で元気に暮らそう ～歯と生活習慣の関係～	2月27日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	保健師　佐藤　さかえ	減量しませんか？	3月30日	イースタンビル　3階 共催：池田クリニック
	保健師　由留木　千恵	今日からはじめるメタボ予防	4月25日	南山本ふれあい広場（協賛）
	保健師　酒井　菜穂子	血圧を上げる↑、下げる↓	4月27日	龍華コミュニティセンター 3F 集会室共催：龍華コミセン運営協議会
	保健師　藤井　安希子	骨折を防ごう	5月10日	八尾プリズムホール 4階会議室
	保健師　佐藤　さかえ	認知症を防ごう	5月30日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	保健師　藤井　安希子	骨折を防ごう	6月19日	高井田台自治会館 （主催：高井田台自治会・OB会）
	保健師　由留木　千恵	今日からはじめるメタボ予防	7月11日	山本コミュニティセンター 3階学習室
	保健師　酒井　菜穂子	アルコールとの付合い方	8月30日	八尾プリズムホール 4階会議室
	保健師　由留木　千恵	今日からはじめるメタボ予防	9月12日	八尾プリズムホール 4階研修室
	保健師　大谷　康仁	いちから学ぼう血圧編 ～あなたの血圧は正常ですか？～	9月26日	山本コミュニティセンター 3階学習室
	保健師　大谷　康仁	いちから学ぼう血圧編 ～あなたの血圧は正常ですか？～	10月16日	美園地区久宝園集会所
	保健師　藤井　安希子	骨折を防ごう	10月22日	山本コミュニティセンター 3階学習室
	保健師　大谷　康仁	心不全を予防しよう ～心筋梗塞・弁膜症の治療後と 日常生活～	12月11日	八尾プリズムホール 4階会議室
	保健師　由留木　千恵	今日からはじめるメタボ予防	12月25日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
看護師	感染対策室　室長　渋谷　豊克	病院で感染しないためには！	1月11日	八尾プリズムホール 4階研修室
	がん性疼痛看護認定看護師 師長　松本　静香	「エンドオブライフケア」 ～苦しみをもった人への 援助的コミュニケーション～	1月18日	山本コミュニティセンター 3階学習室
	摂食・嚥下障害看護認定看護師 川原　毅得	最近よくむせているって言われませんか？ ～もしかして誤嚥性肺炎かもしれません～	1月24日	南山本ふれあい広場（協賛）
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	動物からうつる病気	2月8日	山本コミュニティセンター 3階学習室
	摂食・嚥下障害看護認定看護師 川原　毅得	最近よくむせているって言われませんか？ ～誤嚥性肺炎の前兆かもしれません～	2月8日	山本コミュニティセンター 3階学習室
	救急看護認定看護師 主任　鹿山　美穂	脳卒中のお話	2月19日	八尾プリズムホール 4階研修室

職種	講　師	演　題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
看護師	感染対策室　室長　渋谷　豊克	目の病気 ～目の感染症を中心に～	2月28日	南山本ふれあい広場（協賛）
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	花粉症の基礎知識	3月8日	山本コミュニティセンター 3階学習室
	摂食・嚥下障害看護認定看護師 川原　毅得	最近よくむせているって言われませんか? ～誤嚥性肺炎の前兆かもしれません～	3月20日	美園地区久宝園集会所
	救急看護認定看護師 副主任　鴨木　沙織	「めまい」に隠れている病気について	3月20日	高井田台自治会館 （主催：高井田台自治会・OB会）
	救急看護認定看護師 副主任　鴨木　沙織	「めまい」に隠れている病気について	3月28日	南山本ふれあい広場（協賛）
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	肺炎と肺結核	3月29日	八尾プリズムホール 4階会議室
	透析室師長　大福　礼子	透析ってなぁに ちょっとのぞいて見ませんか	4月17日	美園地区久宝園集会所
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	健康づくりのための睡眠	4月18日	山本コミュニティセンター 3階学習室
	摂食・嚥下障害看護認定看護師 川原　毅得	最近よくむせているって言われませんか? ～誤嚥性肺炎の前兆かもしれません～	4月24日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	健康寿命をのばそう！ スマートライフとは	4月26日	八尾プリズムホール 4階会議室
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	食中毒の時期にそなえて	5月10日	八尾プリズムホール 4階会議室
	救急看護認定看護師 副主任　鴨木　沙織	「めまい」に隠れている病気について	5月15日	美園地区久宝園集会所
	化学療法認定看護師　苗代 啓子	大切な人ががんになったとき	5月21日	山本コミュニティセンター 3階学習室
	透析室師長　大福　礼子	透析ってなぁに ちょっとのぞいて見ませんか	5月23日	南山本ふれあい広場（協賛）
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	健康づくりのための睡眠　Part3	6月27日	南山本ふれあい広場（協賛）
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	交通事故で病院に運ばれないために！	6月28日	八尾プリズムホール 4階会議室
	摂食・嚥下障害看護認定看護師 川原　毅得	最近よくむせているって言われませんか? ～誤嚥性肺炎の前兆かもしれません～	6月28日	八尾プリズムホール 4階会議室
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	知っておこう！熱中症予防と応急処置	7月11日	山本コミュニティセンター 3階学習室
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	危険なめまいとは・・・	7月12日	八尾プリズムホール 4階会議室
	透析室師長　大福　礼子	透析ってなぁに ちょっとのぞいて見ませんか	7月18日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	がん性疼痛看護認定看護師 師長　松本　静香	延命治療 ～意思決定は誰がしますか？～	7月25日	南山本ふれあい広場（協賛）
	摂食・嚥下障害看護認定看護師 川原　毅得	最近よくむせているって言われませんか? ～誤嚥性肺炎の前兆かもしれません～	8月23日	山本コミュニティセンター 3階学習室
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	老衰とは	9月12日	八尾プリズムホール 4階研修室
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	危険なめまいとは・・・	9月13日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	透析室師長　大福　礼子	透析ってなぁに ちょっとのぞいて見ませんか	9月28日	龍華コミュニティセンター　3F集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	今シーズンのインフルエンザの 傾向と対策	10月22日	山本コミュニティセンター 3階学習室
	がん性疼痛看護認定看護師 師長　松本　静香	人生の最終段階を迎える患者との コミュニケーション	10月23日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	救急看護認定看護師 主任　鹿山　美穂	脳梗塞のお話	10月26日	龍華コミュニティセンター　3F集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	透析室師長　大福　礼子	透析ってなぁに ちょっとのぞいて見ませんか	11月20日	高井田台自治会館 （主催：高井田台自治会・OB会）

薬剤科　88
放射線科　91
臨床検査　93
リハビリ　95
臨床心理　100
臨床工学　102
栄養科　107
治験センター　109
医療福祉　115
病診連携　118
健診センター　128
情報システム　130
保育室　132
がん相談　134
医療安全　137
臨床腫瘍　142

職種	講　師	演　題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
看護師	救急看護認定看護師 副主任　鴨木　沙織	脳卒中のサインと対処	11月29日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	救急看護認定看護師 主任　鹿山　美穂	脳梗塞のお話	11月30日	イースタンビル　3階 共催：池田クリニック
	化学療法認定看護師　苗代 啓子	大切な人ががんになったとき	11月30日	龍華コミュニティセンター　3F集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	認知症、知ることからはじめよう	12月11日	八尾プリズムホール 4階会議室
薬剤師	クローバー薬局 薬局長　勝山　千男	気管支喘息とCOPDって何？	1月26日	イースタンビル　3階 共催：池田クリニック
	クローバー薬局 薬局長　勝山　千男	逆流性食道炎について	5月25日	イースタンビル　3階 共催：池田クリニック
管理栄養士	管理栄養士　齋藤　朝美	糖尿病と食事	3月27日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	管理栄養士　副室長　小山　洋史	食中毒を防ぐ調理を考えよう！！	5月21日	山本コミュニティセンター 3階学習室
	管理栄養士　篠田　歩実	生活習慣病と食事	7月17日	美園地区久宝園集会所
臨床検査技師	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	いびきと隠れ脳梗塞 ～前触れサインを見逃すな～	1月18日	山本コミュニティセンター 3階学習室
	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	睡眠障害 ～お薬は最終手段～	1月31日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	夜間頻尿でお困りの方へ	2月19日	八尾プリズムホール 4階研修室
	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	耳鳴り　鼻すすりは 耳に悪いって知っていますか？	2月27日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	耳鳴り　鼻すすりは 耳に悪いって知っていますか？	3月8日	山本コミュニティセンター 3階学習室
	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	いびきと隠れ脳梗塞 ～前触れサインを見逃すな～	3月27日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	夜間頻尿	5月25日	龍華コミュニティセンター　3F集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	夜間頻尿	5月30日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	良い睡眠、悪い睡眠 ～睡眠障害にならないために～	6月10日	久宝寺コミュニティセンター共催；保健部会 ・高齢者部会　久宝寺地区福祉委員会
	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	夜間頻尿	6月24日	山本コミュニティセンター 3階学習室
	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	夜間頻尿	7月12日	八尾プリズムホール 4階会議室
	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	良い睡眠、悪い睡眠 ～睡眠障害にならないために～	7月18日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	睡眠障害　～お薬は最終手段～ 耳鳴り　鼻すすりは 耳に悪いって知っていますか？	8月21日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	良い睡眠、悪い睡眠 ～睡眠障害にならないために～	8月30日	八尾プリズムホール 4階会議室
	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	いびきと隠れ脳梗塞 ～前触れサインを見逃すな～	9月13日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	夜間頻尿	9月18日	高井田台自治会館 （主催：高井田台自治会・OB会）
	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	耳鳴り　鼻すすりは 耳に悪いって知っていますか？	10月10日	八尾プリズムホール 4階会議室
	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	睡眠時無呼吸症候群	10月23日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	良い睡眠、悪い睡眠 ～睡眠障害にならないために～	11月26日	山本コミュニティセンター 3階学習室
	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	夜間頻尿	12月25日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	いびきと隠れ脳梗塞 ～前触れサインを見逃すな～	12月27日	山本コミュニティセンター 3階学習室

職種	講　師	演　題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
理学療法士	リハビリテーション科　主任 介護予防認定理学療法士　上田　哲也	骨折予防 ～家で転倒しないコツ！～	3月7日	久宝寺コミュニティセンター共催；保健部会・高齢者部会　久宝寺地区福祉委員会
	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地　八省	腰痛のお話 ～腰痛の理学療法～	4月18日	山本コミュニティセンター 3階学習室
	理学療法士　服部　玄徳	介護予防	5月15日	高井田台自治会館 （主催：高井田台自治会・OB会）
	理学療法士　服部　玄徳	介護予防 ～自分で出来る!!今日から始める簡単体操～	6月19日	美園地区久宝園集会所
	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地　八省	腰痛のお話 ～腰痛の理学療法～	6月29日	龍華コミュニティセンター　3F集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地　八省	腰痛のお話 ～腰痛の理学療法～	7月30日	久宝寺コミュニティセンター共催；保健部会・高齢者部会　久宝寺地区福祉委員会
	理学療法士　服部　玄徳	自分で出来る!!今日から始める簡単体操 ～介護予防のために～	8月21日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地　八省	ひざの痛みの解決方法	9月26日	山本コミュニティセンター 3階学習室
	理学療法士　服部　玄徳	今日から実践！！ 腰痛予防体操	10月16日	高井田台自治会館 （主催：高井田台自治会・OB会）
	理学療法士　服部　玄徳	自分で出来る!!今日から始める簡単体操 ～介護予防のために～	10月30日	久宝寺コミュニティセンター共催；保健部会・高齢者部会　久宝寺地区福祉委員会
	理学療法士　服部　玄徳	今日から実践！！ 腰痛予防体操	11月20日	美園地区久宝園集会所
	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地　八省	腰痛のお話 ～腰痛の理学療法～	11月29日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地　八省	腰痛のお話 ～腰痛の理学療法～	12月18日	美園地区久宝園集会所
	理学療法士　服部　玄徳	今日から実践！！ 腰痛予防体操	12月27日	山本コミュニティセンター 3階学習室
臨床心理士	臨床心理士　八島　麻美子	ストレスとの上手なつきあい方	2月20日	美園地区久宝園集会所
	臨床心理士　八島　麻美子	ストレスとの上手なつきあい方	4月17日	高井田台自治会館 （主催：高井田台自治会・OB会）
	臨床心理士　朴　祐希	心と体のつながり ～「健康です」と答えられる心づくり～	6月14日	柏原市民文化会館 リビエールホール地下1階
	臨床心理士　朴　祐希	心と体のつながり ～「健康です」と答えられる心づくり～	7月27日	龍華コミュニティセンター　3F集会室 共催：龍華コミセン運営協議会
	臨床心理士　朴　祐希	心と体のつながり ～「健康です」と答えられる心づくり～	9月18日	美園地区久宝園集会所
	臨床心理士　八島　麻美子	シニアのこころ ～人生100年時代へ向けて～	11月21日	八尾プリズムホール　7階会議室

薬剤科　88
放射線科　91
臨床検査　93
リハビリ　95
臨床心理　100
臨床工学　102
栄養科　107
治験センン　109
医療福祉　115
病診連携　118
健診センン　128
情報シス　130
保育室　132
がん相談　134
医療安全　137
臨床腫瘍　142

《糖尿病教室にて医療講座》

職種	講　師	演　題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
医師	歯科・口腔外科　部長　占部　一彦	糖尿病と歯周病	1月15日	八尾徳洲会総合病院　3階
	糖尿病内科部長　石橋　里江子	糖尿病の治療目標	4月19日	八尾徳洲会総合病院　3階
	糖尿病内科　植田　秀樹	糖尿病神経障害と腎症	6月21日	八尾徳洲会総合病院　3階
	眼科　布谷　健太郎	糖尿病網膜症	7月19日	八尾徳洲会総合病院　3階
	糖尿病内科　石橋　里江子	糖尿病と動脈硬化性疾患	10月18日	八尾徳洲会総合病院　3階
保健師	保健師　由留木　千恵	はじめようフットケア	6月21日	八尾徳洲会総合病院　3階
	保健師　酒井　菜穂子	災害時に備えて	8月16日	八尾徳洲会総合病院　3階
	保健師　酒井　菜穂子	目標体重を目指しましょう	11月15日	八尾徳洲会総合病院　3階
薬剤師	薬剤師　坂野　千賀	血糖値　測ってみよう、考えてみよう	1月15日	八尾徳洲会総合病院　3階
	薬剤師　堀村　美佐	糖尿病の薬について～内服編～	5月17日	八尾徳洲会総合病院　3階
	薬剤師　栗野　大輔	糖尿病の薬について～注射編～	9月20日	八尾徳洲会総合病院　3階
管理栄養士	管理栄養士　藤田　春菜	食事療法の基本とアルコール、外食	2月15日	八尾徳洲会総合病院　3階
	管理栄養士　古澤　千波	食事療法の基本	4月19日	八尾徳洲会総合病院　3階
	管理栄養士　佐藤　友亮	糖尿病性腎症の食事療法について	8月16日	八尾徳洲会総合病院　3階
	管理栄養士　岸本　真悠	年末年始の過ごし方	11月15日	八尾徳洲会総合病院　3階
臨床検査技師	臨床検査技師　大前　裕也	糖尿病合併症　動脈硬化性疾患	3月15日	八尾徳洲会総合病院　3階
	臨床検査技師　高津　美乃里	糖尿病の検査データの見方	10月18日	八尾徳洲会総合病院　3階
理学療法士	理学療法士　服部　玄徳	運動療法のススメ	5月17日	八尾徳洲会総合病院　3階
	理学療法士　服部　玄徳	有酸素運動について	9月20日	八尾徳洲会総合病院　3階
	理学療法士　服部　玄徳	簡単　自重トレーニング	12月20日	八尾徳洲会総合病院　3階
臨床心理士	臨床心理士　八島　麻美子	糖尿病ストレスチェック	2月15日	八尾徳洲会総合病院　3階
	臨床心理士　八島　麻美子	糖尿病とこころ	7月19日	八尾徳洲会総合病院　3階
医療ソーシャルワーカー	医療ソーシャルワーカー 三谷　勇一	社会資源の活用法	3月15日	八尾徳洲会総合病院　3階
事務	医事課　川上　祐理	糖尿病の医療費について	12月20日	八尾徳洲会総合病院　3階

《各種団体からの依頼による医療講座》

職種	講師	演題	主な開催日	主な開催場所（一部抜粋）
医師 学療法士	介護老人保健施設　吹田徳洲苑 施設長　心臓血管外科　酒井　敬 作業療法士　並河　俊宏 コグニサイズトレーナー　西端　博美	認知症予防のお話 みんなでやろう頭の体操～ゲームの効用～ 認知症予防運動～コグニサイズを試そう～	1月30日	市立社会福祉会館2階集会室1～3
保健師	保健師　藤井　安希子	骨折を防ごう（運動、脳トレも含めて）	7月16日	川原府営住宅集会所 （柏原社会福祉協議会）
	保健師　藤井　安希子	骨折を防ごう（運動、脳トレも含めて）	11月15日	上市会館（上市２丁目）
	保健師　由留木　千恵	口腔ケアについて ～生活習慣から考えよう～	11月24日	旭ヶ丘会館（柏原社会福祉協議会）
	保健師　由留木　千恵	気をつけよう！糖尿病と歯周病	11月24日	上之島小学校区まちづくり協議会
看護師	感染対策室　室長　渋谷　豊克	平均寿命と健康寿命	1月8日	グレース大聖堂（主催：グレース宣教会）
	透析室師長　大福　礼子	透析ってなぁに ちょっとのぞいて見ませんか	2月12日	グレース大聖堂（主催：グレース宣教会）
	化学療法認定看護師　苗代 啓子	大切な人ががんになったとき	3月12日	グレース大聖堂（主催：グレース宣教会）
	がん性疼痛看護認定看護師 師長　松本　静香	健康づくりのための睡眠　Part 2	5月14日	グレース大聖堂（主催：グレース宣教会）
	がん性疼痛看護認定看護師 師長　松本　静香	延命治療 ～意思決定は誰がしますか?～	6月11日	グレース大聖堂（主催：グレース宣教会）
	摂食・嚥下障害看護認定看護師 川原　毅得	最近よくむせているって言われませんか? ～誤嚥性肺炎の前兆かもしれません～	7月9日	グレース大聖堂（主催：グレース宣教会）
	感染対策室　室長　渋谷　豊克	「その日」は必ずやってくる 災害による健康危機から身を守ろう	7月11日	森河内公民分館
	がん性疼痛看護認定看護師 師長　松本　静香	人生の最終段階を迎える患者とのコミュニケーション	9月10日	グレース大聖堂（主催：グレース宣教会）
管理栄養士	管理栄養士　副室長　小山　洋史	生活習慣病と食事	11月6日	まちかどデイハウス茶の間
	管理栄養士　副室長　小山　洋史	「食事療法について」 ①血管をしなやかにする食物 （動脈硬化症予防） ②老化防止の食事	10月31日	八尾市立社会福祉会館１階会議室 八尾市障害者団体連合会
臨床検査技師	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	耳鳴り　鼻すすりは 耳に悪いって知っていますか？	4月9日	グレース大聖堂（主催：グレース宣教会）
	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	良い睡眠、悪い睡眠 ～睡眠障害にならないために～	4月25日	八戸ノ里東校区　シャトー八戸ノ里自治会 ・老人クラブ「八翠会」
	検査科副主任　臨床検査技師 睡眠健康指導士　戸野川　始	夜間頻尿	11月12日	グレース大聖堂（主催：グレース宣教会）
理学療法士	リハビリテーション科　副主任 介護予防認定理学療法士　上田　哲也	知らなきゃ損！？ 健康寿命の延ばし方！	2月14日	森河内公民分館 （東大阪市社会福祉協議会）
	理学療法士　服部　玄徳	転倒予防について	4月22日	円明町府営住宅集会所
	理学療法士　服部　玄徳	骨折予防 ～家で転倒しないコツ!～	7月31日	東大阪市立高井田老人センター （東大阪福祉協議会）
	理学療法士　服部　玄徳	腰痛のお話	9月4日	まちかどデイハウス茶の間
	理学療法士　服部　玄徳	骨折予防～家で転倒しないコツ！～	9月25日	法二会館（柏原市社会福祉協議会）
	理学療法士　服部　玄徳	骨折予防～家で転倒しないコツ！～	10月2日	片山老人集会所（柏原市社会福祉協議会）
	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地　八省	腰痛のお話 ～腰痛の理学療法～	10月8日	グレース大聖堂（主催：グレース宣教会）
	ひじ施術整骨院　院長 理学療法士　飛地　八省	腰痛のお話 ～腰痛の理学療法～	10月26日	法善寺文化会館（柏原市社会福祉協議会）
臨床心理士	臨床心理士　朴　祐希	心と体のつながり ～「健康です」と答えられる心づくり～	8月7日	山本コミュニティセンター　3階学習室
	臨床心理士　朴　祐希	心と体のつながり ～「健康です」と答えられる心づくり～	10月1日	まちかどデイハウス茶の間

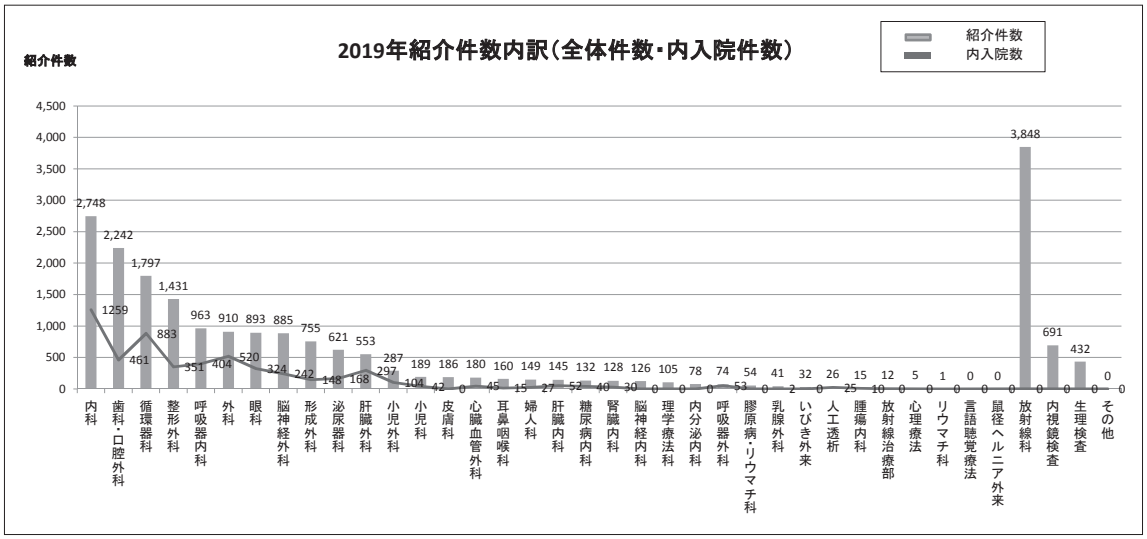
薬剤科　88
放射線科　91
臨床検査　93
リハビリ　95
臨床心理　100
臨床工学　102
栄養科　107
治験センター　109
医療福祉　115
病診連携　118
健診センター　128
情報システム　130
保育室　132
がん相談　134
医療安全　137
臨床腫瘍　142

《各診療科紹介件数（内入院数）》

紹介件数(上段) 内入院数(下段)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
内科	248	241	256	257	217	195	216	186	254	218	214	246	2,748
	114	116	141	118	87	90	86	88	99	110	98	112	1,259
歯科･口腔外科	169	160	207	195	170	195	183	175	190	202	189	207	2,242
	43	30	34	40	35	40	43	42	38	35	34	47	461
循環器科	126	140	149	153	140	165	149	144	137	157	166	171	1,797
	70	67	70	74	68	79	80	73	63	74	83	82	883
整形外科	132	135	111	130	126	127	107	112	96	144	110	101	1,431
	30	38	27	31	28	41	23	23	25	28	33	24	351
呼吸器内科	90	77	85	89	88	79	89	77	66	80	68	75	963
	44	32	27	41	42	35	32	38	24	26	25	38	404
外科	78	64	70	71	75	74	67	80	85	86	80	80	910
	46	41	45	44	37	43	37	41	48	51	45	42	520
眼科	91	98	78	70	66	72	75	63	71	74	69	66	893
	36	39	33	17	26	27	27	26	24	20	21	28	324
脳神経外科	70	65	80	74	80	75	84	52	73	94	63	75	885
	20	20	25	25	16	15	15	18	20	29	20	19	242
形成外科	66	54	53	73	49	63	94	46	54	69	62	66	749
	19	10	7	13	6	13	24	6	12	15	13	10	148
創傷治療センター	3	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	6
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
泌尿器科	51	48	61	41	69	54	46	47	48	62	45	49	621
	19	14	11	12	18	18	11	8	11	15	14	17	168
肝臓外科	48	41	34	44	35	55	60	50	42	47	52	45	553
	24	24	20	23	22	33	30	27	24	27	21	22	297
小児外科	16	21	18	29	17	34	34	27	17	21	28	25	287
	5	3	8	9	7	19	10	15	6	6	7	9	104
小児科	8	10	35	16	15	14	14	15	17	14	14	17	189
	1	3	9	7	1	3	3	2	3	2	5	3	42
皮膚科	10	15	11	18	24	16	21	8	16	16	14	17	186
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	14	16	12	10	18	18	19	12	13	14	18	16	180
	4	6	3	1	4	5	4	2	1	2	5	8	45
耳鼻咽喉科	11	12	14	7	8	13	17	14	17	19	8	20	160
	1	1	3	0	0	1	2	3	2	2	0	0	15
婦人科	15	13	11	12	12	8	11	15	12	12	17	11	149
	1	2	1	2	3	2	3	1	2	4	4	2	27
肝臓内科	14	11	9	14	11	9	15	11	10	14	9	18	145
	4	4	3	3	3	6	8	6	2	3	4	6	52
糖尿病内科	14	14	6	14	11	11	12	10	8	17	8	7	132
	3	3	3	2	4	4	8	5	0	5	2	1	40
腎臓内科	12	12	11	13	9	11	9	15	9	9	14	4	128
	3	3	2	3	2	0	3	3	2	4	3	2	30
脳神経内科	16	12	14	11	10	9	10	8	15	7	8	6	126
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
理学診療科	3	6	15	6	1	12	11	18	14	3	5	11	105
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内分泌内科	6	3	5	2	9	8	7	5	4	12	7	10	78
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
呼吸器外科	4	9	3	11	10	3	9	5	8	2	4	6	74
	3	8	3	7	10	2	6	3	5	0	2	4	53
膠原病・リウマチ科	1	0	0	4	1	4	7	7	8	5	9	8	54
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
乳腺外科	2	9	3	7	3	4	2	0	3	3	1	4	41
	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
いびき外来	3	1	5	2	0	2	5	2	3	4	3	2	32
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
人工透析	2	1	2	3	2	1	2	1	4	3	3	2	26
	2	1	2	3	2	1	2	1	4	3	2	2	25
腫瘍内科	1	3	1	0	1	2	2	2	2	0	1	0	15
	1	2	1	0	0	4	0	0	1	0	1	0	10
放射線治療部	1	0	0	1	1	2	1	2	3	0	1	0	12
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心理療法	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	5
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
リウマチ科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
言語聴覚療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心療内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
鼠径ヘルニア外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射線科	277	316	318	327	327	351	381	291	338	311	287	324	3,848
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
内視鏡検査	42	60	59	94	61	65	59	32	44	65	50	60	691
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
生理検査	14	37	44	37	38	47	31	45	36	49	28	26	432
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
紹介件数合計	1,660	1,706	1,781	1,837	1,704	1,798	1,849	1,578	1,717	1,833	1,656	1,775	20,894
内入院数合計	493	467	478	476	421	481	458	431	416	461	442	478	5,502

薬剤科 88
放射線科 91
臨床検査 93
リハビリ 95
臨床心理 100
臨床工学 102
栄養科 107
治験センター 109
医療福祉 115
病診連携 118
健診センター 128
情報システム 130
保育室 132
がん相談 134
医療安全 137
臨床腫瘍 142

《各診療科紹介件数内訳（全体件数・内入院数）》



科 / 項目	内科	歯科・口腔外科	循環器科	整形外科	呼吸器内科	外科	眼科	脳神経外科	形成外科	泌尿器科	肝臓外科	小児外科	小児科	皮膚科	心臓血管外科	耳鼻咽喉科	婦人科	肝臓内科	糖尿病内科
紹介件数	2,748	2,242	1,797	1,431	963	910	893	885	755	621	553	287	189	186	180	160	149	145	132
内入院数	1,259	461	883	351	404	520	324	242	148	168	297	104	42	0	45	15	27	52	40

科 / 項目	腎臓内科	神経内科	理学療法科	内分泌内科	呼吸器外科	膠原病・リウマチ科	乳腺外科	いびき外来	人工透析	腫瘍内科	放射線治療部	心理療法	リウマチ科	言語聴覚療法	鼠径ヘルニア外来	放射線科	内視鏡検査	生理検査	その他	合計
紹介件数	128	126	105	78	74	54	41	32	26	15	12	5	1	0	0	3,848	691	432	0	20,894
内入院数	30	0	0	0	53	0	2	0	25	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,502

※創傷治療センターは形成外科に、いびき外来の検査入院は内科に含まれます。

《検査紹介件数》

	放射線科	内視鏡	生理検査	合計
1月	277	42	14	333
2月	316	60	37	413
3月	318	59	44	421
4月	327	94	37	458
5月	327	61	38	426
6月	351	65	47	463
7月	381	59	31	471
8月	291	32	45	368
9月	338	44	36	418
10月	311	65	49	425
11月	287	50	28	365
12月	324	60	26	410
合計	3,848	691	432	4,971

主な検査項目

・放射線科

MRI	CT	DSA
RI	インプラントCT	CT（冠動脈）
単純撮影	マンモグラフィー	骨密度

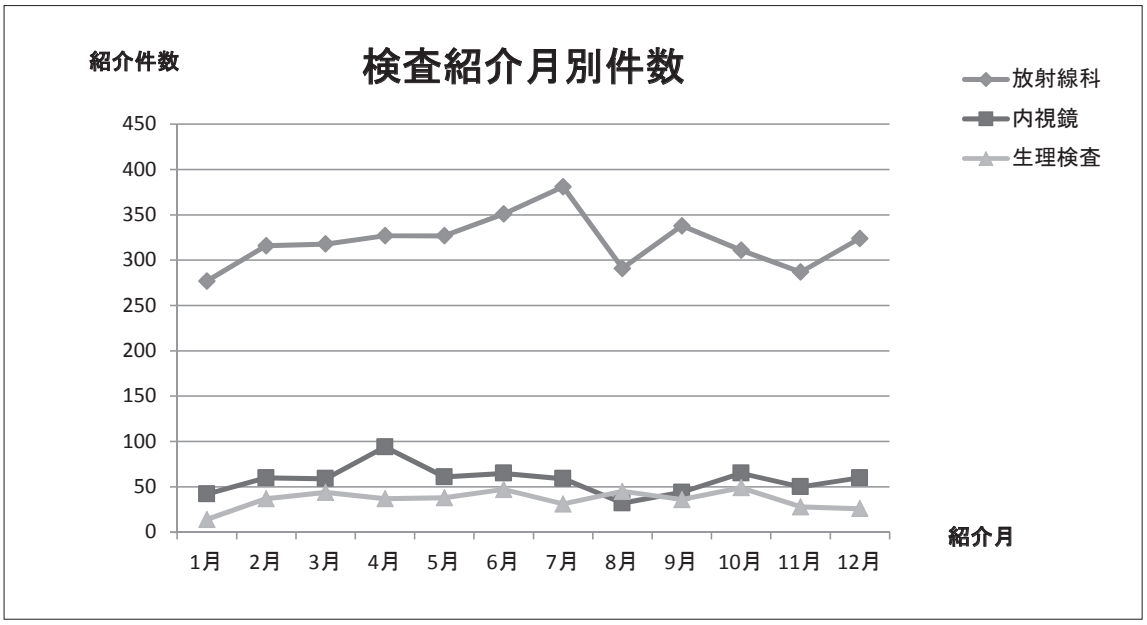
・内視鏡

GIF	CF

・生理検査

腹部エコー	心エコー	末梢血管エコー
甲状腺エコー	頚動脈エコー	乳腺エコー
トレッドミル	心電図	ホルター心電図
呼吸機能	脳波	肺機能

《検査紹介月別件数》



4. 今後の目標

中河内地区の医療を担うべく、地域の登録医の先生方をはじめ広域の医療機関まで広範囲にわたり、検査・外来・救急・入院に至るまで、あらゆる医療ニーズに迅速かつ円滑に対応し、患者様が安全かつ安心に継続性のある適切な医療を受けられるよう信頼される医療機関として努力してまいります。

また連携医の先生方の開放病床の積極的な共同利用の促進や定期的に医療連携の会を開催し、勉強会や情報交換会を通じて連携の強化をはかってまいります。

さらに地域の皆様へ様々な情報の発信をおこない、公開医療講座や地域の団体や自治会等からの依頼講演も積極的に開催し、幅広く医療を理解いただき、予防医療の啓蒙活動もすすめてまいります。

42）健診センター

健診センター長　上野　靖

薬剤科 88
放射線科 91
臨床検査 93
リハビリ 95
臨床心理 100
臨床工学 102
栄養科 107
治験セン 109
医療福祉 115
病診連携 118
健診セン 128
情報シス 130
保育室 132
がん相談 134
医療安全 137
臨床腫瘍 142

1. 概要

当院健診センターは、八尾市では唯一胸部X線と胃透視の住民健診を施行できる認定施設となり、大腸がん、子宮がん、乳がんと合わせて八尾市が推奨している全てのがん検診を行えるようになっております。

健診センター内に超音波装置が増設されてからは、健診センター内での腹部超音波検査が可能となり、受診者様に検査室へ移動して頂く事がなくなったため、来院されてから帰宅されるまでの時間が大幅に短縮されました。また、乳腺超音波検査も健診センター内で女性技師による検査が行えるようになり、時間短縮と快適さを提供できる環境が少しずつ整備されてきました。

腹部超音波検査で要精密検査と判定された受診者様のための、専門医師によるドック精査外来の受診率が高い事もあり、総合病院に併設されている健診センターの強みを生かした疾患の早期発見・早期治療を目標としております。また、今後は1次検診だけでなく、専門医師と連携を行い2次検診にも力を入れて参ります。

予約業務に関しては、例年と同様に、毎年受診して頂いている企業様への事前予約を行い、個人受診者様にもスムーズにご予約頂けるように案内表を変更致しました。しかしながら、人間ドックコースで胃内視鏡検査を希望される受診者様の予約枠が、予約開始から数ヶ月後には埋まってしまい、受診者様には大変ご迷惑をおかけしてしまいました。次年度は更に業務改善を行い、予約枠の拡充とスムーズな検査によるセンター滞在時間の短縮を目指します。

昨年10月に健診センター長を引き継ぎました。色々と勉強しながら受診者様のニーズに細かく応えられる健診センターを目指し努めて参りますので、今後ともよろしくお願いします。

2. メンバー構成

常勤医師1名、常勤放射線技師1名、常勤看護師4名、常勤事務員6名、非常勤医師3名、非常勤看護師3名、非常勤検査技師1名

3. 実績

2019 年	ドック	企業	バス健診	産業医	合計
1 月	462	864		6	1,332
2 月	509	1,321		6	1,836
3 月	527	1,061		6	1,594
4 月	475	660		6	1,141
5 月	588	771	1,002	6	2,367
6 月	643	861		6	1,510
7 月	625	1,186	60	6	1,877
8 月	627	1,496		6	2,129
9 月	571	892	72	6	1,541
10 月	679	889	74	6	1,648
11 月	624	1,227	141	6	1,998
12 月	557	1,417		6	1,980
合計	6,887	12,645	1,349	72	20,953
平均	574	1,054	112	6	1,740

総受診者数は前年より 1,254 名増加して 20,953 名となり、過去最高となりました。

4. 今後の目標

引き続き受診者様の負担を減らし、健診センター内で多くの検査ができるように医療機器の整備やスタッフの教育、検査体制の構築を行い、出来るだけ迅速な検査結果の返却に努めて参ります。

次年度は胃内視鏡検査に対するニーズに応えられるような検査枠の拡充、スマートフォンやタブレットから健診結果の閲覧ができるシステムの運用を目指します。

また、総合病院の利点を生かして呼吸器疾患や消化器疾患、婦人科疾患など、専門医師と連携し、速やかに精密検査できる体制を作り、早期治療に努めます。

43）情報システム管理室

システム管理室　岸本　賢一

薬剤科　88
放射線科　91
臨床検査　93
リハビリ　95
臨床心理　100
臨床工学　102
栄養科　107
治験セン　109
医療福祉　115
病診連携　118
健診セン　128
情報シス　130
保育室　132
がん相談　134
医療安全　137
臨床腫瘍　142

1. 概要

2019 年度の情報システム管理室の取り組みとして、新元号変更に伴う大がかりなシステム変更、徳洲会グループ監査対応、JCI 取得に向けてシステム構築などに取り組んだ。

2. メンバー構成

システム管理者 : 岸本　賢一、松本　裕也、和合　潤也

システム委員 : 18 名（医局、看護部、臨床工学科、栄養科、放射線科、薬剤部、理学療法室、検査室、総務部、医事課、医局秘書）

3. 環境

クライアント端末（電子カルテ、インターネット系等）　1,129 台

管理サーバー（サーバー系）155 台

プリンター（複合機、小型プリンター含む）260 台

3. 実績

・電子カルテ操作教育

新任医師・非常勤医師（51 名分）、電子カルテ操作教育、診療補助対応を行った。

・ホームページ関連

病院ホームページ部分の保守、更新、修正等のメンテナンスを日々行った。

・システム管理室の取り組み

1 月～ 12 月　新元号対応（西暦対応）

新元号（令和）の開始に伴い、院内の関係各部署や情報システム委員会と協力しながら和暦を西暦に変更する対応を進めた。

①電子カルテシステム内の元号データを西暦へ切り替え

②①で対応できないアプリの入れ替え（毎月更新　約 1,000 件）

③各帳票類の西暦対応（原本の修正）

④電子カルテシステム以外の各部門システムの更新・修正

4 月　徳洲会グループシステム内部監査対応

全国の徳洲会系列病院にて実施予定のシステム監査の検証をかねて当院が先駆けて行った。（徳洲会インフォメーションシステム、SE 部会、外部監査法人　9 名）

現在の徳洲会グループ情報システム安全管理規定の問題点の洗い出しも同時に行われ、院内のシステムや運用面でのセキュリティ関連の取り決めルールが更新された。

当院で行われた監査基準が今後、全国グループのシステム監査の基準として展開される。

5月～7月　電子カルテシステム　夜間サーバーメンテナンス対応（バージョンアップ）

7月～12月　JCI取得に向けて各種システム関連対応
JCI各担当者より多種多様な要望の元、各種システムの構築・運用を行った。
またアプリだけではなく、クエリでの対応や現場に適切な代替運用の提案を行った。

・病院業務体制について

7月末に1名転勤、11月末に1名退職となり、3名体制から1名体制となった為、SE部会より応援を頂いた。

7月～11月　徳洲会インフォメーションシステムより応援

11月～12月　関西SE部会より応援（高砂西部・岸和田・和泉・大阪本部）

・その他

・電子カルテクライアント機器メンテナンス対応（PC、プリンター、ネットワーク）
・電子カルテサーバー保守・運用　（夜間・緊急メンテナンス対応）
・病院関連システムメンテナンス（データ更新、保守作業、修理対応）
・関連施設システム保守・運用（徳洲苑、よろこび、介護センター）
・ベンダーコントロール業務（各部門システムベンダーとの折衝業務）
・PC関連　院内ヘルプデスク対応
・医事夜勤業務（受付・会計・電話対応・搬送業務等）
・部門検査機器導入　関連システム接続対応
・資料作成業務（Excel,Word,Powerpoint等）

4. 今後の目標

来年7月のJCI取得に向け情報システム管理室への各種依頼（システム更新・要望・問い合わせ）は前年度より大幅に増加している。遅滞なく業務を遂行する為、早急に人員の補充を行った上で情報システム委員会と共にシステムの構築に尽力し対応していきたい。

44）保育室

保育室係長　中村　朱美

薬剤科 88
放射線科 91
臨床検査 93
リハビリ 95
臨床心理 100
臨床工学 102
栄養科 107
治験セン 109
医療福祉 115
病診連携 118
健診セン 128
情報シス 130
保育室 132
がん相談 134
医療安全 137
臨床腫瘍 142

1. 概要

2019 年は、年頭から 1 名の保育士不足の中、働き方改革が掲げられている年であるだけに年休消化ができるか不安に駆られていたものの、園児が欠席した日や人数調整ができた日等を利用し、全員が平等に年休を取得していけるよう努力し 5 日消化はいち早く達成する事ができた。

又 QI の取り組みでは、残業時間の削減・偏りを無くすを目標として掲げ、個人の残業時間をオープンにし、調整をかけて対応。夏休み等長期休暇で学童・二重保育が利用する時期は園児数も増え若干残業時間も多くなったがそれ以外は目標にしていた数値を達成し均等化に近づけたと言える。

病児・病後児（モコモコ）保育室は基本利用者があると、18 時まで開けているため残業時間が長くなる。そこの偏りをなくす為に連携をとり、エンジェル保育室より交代要因を出して対応し、目標であったエンジェル･病児病後児（モコモコ）保育室の兼任業務の充実を図った。

10 月より 3 歳児以上による幼児教育・保育料の無償化が導入された。当保育室も同時期に認可外保育施設として承認され対象施設となった。

又 11 月より新入職の経験ある保育士が入職、受け入れ態勢も充実してきた折、クリスマス会前にインフルエンザが一時期流行し、実施できるか否かギリギリ迄分からなかったが、拡大すること無く終息してくれたのは大変うれしい出来事であった。

2. メンバー構成

エンジェル保育室	《キリン組》	荻	青野	上原
	《リス組》	曽我	小川	辻
	《アヒル組》	長谷川	大岩	中村
	《ヒヨコ組》	河野	中西	竹田
	フリー	田中		
モコモコ保育室		永田	木下	小林

3. 実績

《エンジェル保育室年齢別登室園児数》

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
	0歳児	242	255	312	26	50	83	104	99	99	144	130	159	1,703
登室数	1･2歳児	383	380	421	412	415	393	378	364	337	335	310	304	4,432
	3歳児	37	35	48	96	92	70	94	81	97	86	81	74	891
	4歳児	134	130	136	55	60	79	101	78	87	89	90	87	1,126
	5歳児	101	95	101	145	132	132	160	138	136	138	122	137	1,537
	学童保育	56	51	28	59	61	27	30	96	26	27	38	56	555
	合計	953	946	1,046	793	810	784	867	856	782	819	771	817	10,244
	一時預かり保育	5	12	10	2	1	6	4	4	7	15	23	12	101
	半日預かり保育	4	1	6	2	4	2	0	1	2	1	1	0	24

《病児・病後児保育室運営状況》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
開室日数	19	19	20	20	19	20	22	18	19	21	20	20	237
利用者数	150	96	102	94	76	71	85	60	70	73	70	107	1,054
一日平均利用者	7.9	5.1	5.1	4.7	4	3.6	3.9	3.3	3.7	3.5	3.5	5.4	4.5
保育士数	57	55	59	61	55	50	63	49	55	59	58	65	686
一日平均保育士数	3	2.9	3	3.1	2.9	2.5	2.9	2.7	2.9	2.8	2.9	3.3	2.9
診察結果待ち数	52	13	16	18	9	3	4	5	7	8	4	11	150
意見書利用数	11	11	4	9	5	8	8	6	11	4	6	7	90

《研　修》

3月 9日　全国病児保育協議会研修会（若江岩田駅前リージョンセンター）
7月15・16日　全国病児保育研究大会　（香川国際会議場）
3ヵ月に1回　保育士研修（勉強会）をエンジェル保育室にて実施

《行　事》

2月 1日　節分（豆まき）
3月 1日　ひなまつり
16日　お別れ会
5月 2日　子どもの日
9日　春の遠足（八尾市立南木の本防災公園）
14・17日　集団健診（年2回実施 11月インフルエンザワクチンの予防接種を実施）
6月10日　時の記念日
17日　じゃが芋掘り（園庭横畑にて10月にはさつま芋掘りを実施）
7月 5日　七夕
7日　お楽しみ会・全体懇談会
9月2～7日　個人懇談会　（保育室にて）
10月 1日　幼児教育・保育料の無償化導入　秋の遠足（キッツプラザ大阪）
12月2・3日　JCI　模擬サーベイ
13日　QI大会発表
22日　クリスマス会（保育室にて）
☆毎月　身体測定・避難訓練・誕生会・月2回幼児教育（英語ECC）を実施

4. 今後の目標

夜間保育の充実と保育士の能力向上に向けての研修への参加

45）がん相談支援センター

認定がん専門相談員　三谷　勇一

薬剤科 88
放射線科 91
臨床検査 93
リハビリ 95
臨床心理 100
臨床工学 102
栄養科 107
治験セン 109
医療福祉 115
病診連携 118
健診セン 128
情報シス 130
保育室 132
がん相談 134
医療安全 137
臨床腫瘍 142

1. 概要

2019 年度は、ゲノム元年と呼ばれる年となりました。ミクロな取り組みとして、ゲノム医療の相談に対応するための礎を築き、ゲノム非拠点病院としての役割を明確にすることで、学会等を通じてその役割を共有することができました。また、患者サロンの運営においては、外部講師による新規的な取り組みをとりいれ、質の向上を図り、参加者の増加に至りました。参加満足度も高まり、多変量解析による効果測定を実施しました。

マクロな取り組みとして、中河内がん相談支援センター部会とともに、第 2 回 6 病院合同がんサロンを開催しました。合同サロンの継続開催をシステム化することで、継続運営の見通しを立てることができ、2 次医療圏単位での活動を展開しました。また、3 次医療圏単位での活動として、大阪府に存在する 65 か所のがん診療（連携）拠点病院のがんサロン参加者を対象とした大規模調査を実施しました。学会から資金の助成を受け、PDCA サイクルを構築する基礎調査を完了することができました。また、研究資金の助成の競争的獲得に挑戦し、研究奨励賞を拝受しました。さらには、地域貢献として、中河内圏域がん診療ネットワーク協議会シンポジウムにて、乳がん患者の就労支援に関する講演を行いました。

2. メンバー構成

委員長：医師　　村上修（外科部長）
委員：　看護師　　井本ユミ　（看護師）
委員：　社会福祉士　三谷勇一（認定がん専門相談員：国立がん研究センター）
（両立支援コーディネーター）

3. 実績

（1）研修参加・部会活動

1/30　平成 30 年両立支援コーディネーター基礎研修（神戸）
2/2　中河内がん診療ネットワーク協議会シンポジウム
（中河内医療圏域がん診療連携協議会　相談支援センター部会）
3/16　第 24 回　関西がんチーム医療研究会（大阪）
3/23　平成 30 年度大阪府がん相談員研修　がん相談支援センターの質の向上に向けて QA を学ぼう（大阪府がん診療連携協議会相談支援センター部会）Ⅲ群研修
3/30　平成 30 年度大阪府がん相談員研修　　がん患者生活サポーターインテンシブコース「ゲノム医療の相談にどのように対応するのか？」Ⅲ群研修
9/14　第 25 回関西がんチーム医療研究会（大阪）
10/6　2019 年度地域がん相談支援フォーラム in 近畿（神戸）高齢がん患者の支援を考えるⅢ群研修

2/12　平成 30 年度第 3 回中河内がん相談支援センター部会（市立東大阪医療センター）

6/20　令和元年度第 1 回中河内がん相談支援センター部会（市立東大阪医療センター）
8/29　令和元年度第 2 回中河内がん相談支援センター部会（市立東大阪医療センター）
10/29　令和元年度第 3 回中河内がん相談支援センター部会（市立東大阪医療センター）
11/13　中河内医療圏 6 病院合同サロン（八尾市立病院）
7/31　がんサロン促進会議　招聘講演（大阪国際がんセンター）

(2) がん患者サロン（やお徳サロン）の開催
運営計画：6 回程度／年　時：第 2 火曜日 14:00-15:00　場所：当院会議室にて

第 1 回 2019 年 2 月 12 日（火）（栄養課：小山洋史、小谷野浩良、岩本進）
食べたいを支えたい！匂いに配慮した簡単料理

第 2 回 2019 年 4 月 9 日（火）（内科医：髙原良典）
内科医と語りたい！

第 3 回 2019 年 6 月 11 日（火）（外部講師：増田医科器械）
レッツ！ネイル体験！～男性でも女性でも～

第 4 回 2019 年 8 月 13 日（火）（外部講師：セラピストサービス　ソレイユ）
折花つくりで癒されたい！

第 5 回 2019 年 10 月 8 日（火）（外部講師：乳がん体験者ボランティア　Magic ring）
ミニチャームを作ろう！～乳房パットは魔法の輪！～

第 6 回 2019 年 12 月 10 日（火）（外部講師：株式会社エブリー）
笑いヨガってなんですか？さぁみんなで、わっはぁっはぁ～

2019 年がん相談支援センター相談延べ件数の表

2019相談内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
がんの治療	1	0	0	3	1	3	0	1	6	2	0	4	21
がんの検査	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	0	4
症状･副作用･後遺症	1	2	4	2	1	1	9	13	13	10	10	11	77
セカンドオピニオン（一般）	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
セカンドオピニオン（受入）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
セカンドオピニオン（紹介）	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	4
治療実績	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
臨床試験	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受診方法･入院	4	1	0	1	4	2	1	2	1	0	0	0	16
転院	1	0	1	0	2	0	0	0	2	1	0	0	7
医療機関の紹介	2	0	1	3	0	0	2	0	4	1	0	2	15
がん予防･検診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
在宅医療	2	1	2	7	5	1	3	1	3	3	2	4	34
ホスピス･緩和ケア	2	0	2	2	1	1	1	1	3	3	2	2	20
ADL･服薬	2	0	1	1	4	0	0	2	2	1	0	0	13
介護･看護･療育	2	3	4	7	3	2	2	6	7	5	6	7	54
社会生活	2	2	4	3	2	0	0	2	2	1	1	3	22
費用	2	4	5	3	1	1	3	2	2	4	2	2	31
補完代替療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生きがい	0	0	1	1	0	0	2	3	0	1	0	0	8
不安･精神的苦痛	1	0	2	0	1	0	3	5	4	2	0	3	21
告知	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4
医療者とのコミュニケーション	3	0	4	1	1	1	0	2	4	0	5	1	22
患者･家族間のコミュニケーション	0	0	3	0	0	1	1	0	2	0	1	1	9
友人･知人･職場の人間関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
患者会･家族会	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	4
その他	1	1	0	1	0	0	1	3	1	0	0	0	8
総数	26	16	36	36	28	14	28	44	60	35	32	42	397

4. 今後の目標

患者家族会の立ち上げとその運営を企画しています。そこでは、継続的な開催と効果測定が必要とされます。また、既存のがん患者サロンとの差異の明確化が求められます。研究資金を継続的に受けることにより、がんサロンの活性化のみならず、6 病院合同サロンの質の向上を目指します。そのためには、研究助成金・活動助成金の新規獲得に乗り出す必要があります。また、就労支援ホットラインの活用においては多くの課題が残りました。

薬剤科 88
放射線科 91
臨床検査 93
リハビリ 95
臨床心理 100
臨床工学 102
栄養科 107
治験セン 109
医療福祉 115
病診連携 118
健診セン 128
情報シス 130
保育室 132
がん相談 134
医療安全 137
臨床腫瘍 142

46）医療安全管理部

医療安全管理者　糸永　美千代

1. 概要

セーフティーマネージャーが積極的に医療安全文化の構築を意識し、インシデント・アクシデントの再発防止が出来るよう、昨年度から院内ラウンドや医療安全対策カンファレンスのあり方を変更してきました。更に８月以降は根本原因を見つけ出し具体的な対策が立案できるようRCA分析を始めました。

2. メンバー構成

医療安全管理部長　兼任医師	1名
医療安全管理者　専従看護師	1名
患者支援・相談窓口担当看護師	1名
医事課出向患者支援・相談窓口担当事務職員	1名
総務課出向事務職員	1名
総務課所属　相談役（主業務：警察事案対応）	1名

3. 実績

① 医療安全管理活動

(1) インシデント・アクシデント報告システム

報告総数は例年増加しております。エラー発生率を事例別に見ると例年同様薬剤、ドレーン・チューブ抜去、自己転倒が多くあげられていました（表1）。次に事例件数を月別に比較してみると7.0～9.7%であり有意差はありませんでした（表2）。最後に事故レベル別に見てみると、治療や処置を必要としなかったLv2以下が93.3%を占めていました(表3)。レベル0～2の報告が毎年少しずつですが増加しており、Lv3a以上は6.6%と前年の9%より減少しています。今後はレベル0を増やすことを目標としていきたいと思っております。

表1　事例内容 事例実件数：2,422　対象期間：2019.1.1～12.31

薬剤	ドレーン・チューブ	自己転倒	検査	療養上の世話	ベッド転落	治療・処置	医療機器等	輸血	その他	合計
562	497	429	276	131	118	98	49	26	236	2,422
23.2%	20.5%	17.7%	11.4%	5.4%	4.9%	4.0%	2.0%	1.1%	9.7%	

表２　月別件数 事例実件数：2,422　対象期間：2019. 1.1 ～ 12.31

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
228	170	187	177	232	200	236	221	222	193	179	177	2,422
9.4%	7.0%	7.7%	7.3%	9.6%	8.3%	9.7%	9.1%	9.2%	8.0%	7.4%	7.3%	

表３　事故レベル 事例実件数：2,422　対象期間：2019. 1.1 ～ 12.31

Lv0	Lv1	Lv2	Lv3a	Lv3b	Lv4a	Lv4b	Lv5	合計
420	1121	720	127	34	0	0	0	2,422
17.3%	46.3%	29.7%	5.2%	1.4%	0.0%	0.0%	0.0%	

(2) がん所見見落とし防止策について

2018 年がん所見の見落としが社会的に問題となり、当院においても病院として画像診断におけるがん所見見落とし防止策を 2018 年 9 月 1 日から開始しております。がん疑いの所見は 631 件ありましたが、見落としは発生していません（表 4）。

表４　がん所見見落とし防止策　2019 年集計結果

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
がん所見件数	32	34	37	39	36	52	80	107	83	42	42	47	631
所見確認件数	32	34	37	39	36	52	80	107	83	42	42	47	631
メール件数	19	29	21	21	11	6	30	16	18	5	11	14	201
ＣＴ	14	22	17	21	20	38	54	91	70	31	29	35	442
ＭＲ	5	2	6	4	8	5	12	7	2	2	1	1	55
ＴＶ								2	1		2		5
マンモ		1		1		1		1				1	5
一般撮影			1										1
肝臓エコー	2												2
心エコー									2				2
造影エコー	1	2	4	1			3		1	2	3	3	20
内視鏡							1						1
乳腺エコー		1	2	1	2	2		1	1	1			11
表在エコー									1				1
腹部エコー	10	6	7	11	6	6	10	5	5	6	7	7	86

(3) 医療安全管理委員会

毎月　第三月曜日に開催　（1 月～ 12 月、延 12 回）

各部署責任者同席のもと医療事故に対する原因分析を行い、再発防止策を講じることを目的として、開催しております。

薬剤科 88
放射線科 91
臨床検査 93
リハビリ 95
臨床心理 100
臨床工学 102
栄養科 107
治験セン 109
医療福祉 115
病診連携 118
健診セン 128
情報シス 130
保育室 132
がん相談 134
医療安全 137
臨床腫瘍 142

(4) セーフティーマネージャー会議

医療安全管理委員会に先行して、毎月 1 回開催（1 月～ 12 月、延 12 回）

医療安全管理委員会の下部組織として医療事故の防止、医療の質管理を組織横断的に行い、患者の安全、安心に貢献することを目的とし、活動しております。

(5) 医療安全全体研修

2019 年は研修ビデオの上映を追加研修として行いました。

i. 第 1 回医療安全全体研修

7 月 3 日（水）17：15 ～ 18：15

テーマ：当院におけるインシデント・アクシデントの現状について

講師：医療安全管理者　糸永　美千代

参加人数　676 名（参加率　76%）

ii. 第 2 回医療安全全体研修

1 月 22 日（水）17：15 ～ 18：15

テーマ：リエゾンチームによる譫妄の対応

～リスクマネジメントの観点から～

講師：粥川　朋哉先生　（大阪市立総合医療センター　精神神経科）

参加人数　300 名（参加率 32%）

追加研修実施中

(6) 医療安全部会参加

医療安全管理部会

医療安全管理者養成研修　講師

医療安全管理部会　全国担当者専任医師研修会

(7) 医療安全関連活動への参画

日本医療機能評価機構認定病院　（会員）

医療事故紛争対応研究会　　（会員）

日本医療リスクマネジメント学会　　（会員）

大阪府看護協会府東支部　医療安全管理者交流会　4 回 / 年出席

医療安全に関するシンポジウム　厚生労働省　　近畿厚生局

(8) 医療・医事紛争

i. 院内安全パトロールの継続実施

病院内の色々なリスク情報の早期発見と事実確認のために、院内パトロールと、防犯カメラを活用している中で、地下に駐車中の車両のまわりを何度も見て、車を触っている方を見つけ声掛けを行いました。その結果、「自分の車両のスモールライトが消えないこと」が原因と判明し、早期に車両会社と連絡をとらせ解決した事案がありました。

ii　医事紛争

前年度から継続中のものを含め、6件ありましたが公判に至らず、和解で終了しました。今後も組織内部のコミュニケーションスキルの向上を図り、丁寧な説明を心がけていきます。

②患者相談窓口活動と相談支援業務

(1) 患者相談窓口活動

患者相談窓口は医療に関する患者様とその家族様などの苦情や心配に迅速に対応し、医療の情報提供、指導などを通して、患者様との信頼関係を築いて行く窓口として設置され、体制は担当看護師の他に医事課職員が担当しています。

その業務内容は主に案内･相談･介助･その他に分類でき、詳細は下記に示す通りです。

2019 八尾パルス（相談等）業務実績（件数 31,027 対象期間 1／5 ～ 12／30）

案内												相談		介助			その他	総合計
予約診（再来機）	入院患者	再診	紹介受付	バス乗り場	駐車券	職員面会	文書受付	初回	健診センター	会計（返戻等）	その他の院内施設	医療相談	苦情相談	車椅子	視・聾・聴	その他		
8,644	3,238	3,138	2,119	1,859	1,586	742	592	525	460	405	3,220	2,087	175	1,496			741	31,027
28%	10%	10%	7%	6%	5%	2%	2%	2%	1%	1%	10%	7%	1%	5%			2%	100%

案内業務は全体の 85％を占め、最も多かったのは予約診（再来機）の取り扱いです。再来機は画面上の手順や説明文がわかりにくい、車いすに座ったままでは画面が見えにくく操作不可能、操作手順が複雑、また、高齢者にとっては操作自体になじめない方が多く認められ、本年も医事課の職員不足が影響し相談窓口が対応することが多くなりました。また、再来受付機の故障や不具合が多く長蛇の列が出来、受付時点で患者様をお待たせすることが目立ちました。

次いで入院患者様の案内、他の院内施設の案内です。特に紹介受付、送迎バス乗り場の表示が明確でなく、抜本的な見直しが急がれています。

相談業務は全体の 8.0％であり、その内容は受診科に関すること、自身の疾患や検査方法について、検査データの説明、治療費に関すること、転院先の相談、セカンドオピニオンについてなど相談内容は多岐にわたっており、その都度関係部署と連絡を取りながら対応してきました。

介助業務は全体の 5.0％ですが、車いすの患者様の窓口までの移送や、筆談援助、電話をかける、タクシー呼び出しなどの介助を行いました。

(2) 皆様の声

「皆様の声」は 213 枚で、それらに対するお返事を 1 ヶ月毎に掲示させていただいています。施設等の要望が約半数を占め、その内容はローソン横のテーブルや椅子を増やして欲しい、駐車場ゲート入口の屋根を大きくして欲しい、病室のテレビ料金が高すぎ

薬剤科 88
放射線科 91
臨床検査 93
リハビリ 95
臨床心理 100
臨床工学 102
栄養科 107
治験セン 109
医療福祉 115
病診連携 118
健診セン 128
情報シス 130
保育室 132
がん相談 134
医療安全 137
臨床腫瘍 142

る等、再三要望が出されており、今後も速やかに検討していただく必要があると考えています。

次いで接遇に関する意見が昨年より10%多くなっています。事例を職員間で共有するため、1ヶ月毎に院内ネットワークに掲載していますので、接遇の一環として情報共有を行っております。

これからも、皆様の声に真摯に耳を傾け、皆様方のご要望に応えるよう努力し、皆様に愛される病院を目指したいと思います。

皆様の声分類 2019 年 1 月～ 12 月					
	①感謝	②接遇	③要望等	④内容不詳	合計
A　医局	5	3	0	1	9
B　看護部	25	43	33	0	101
C　医事課	1	12	11	0	24
D　薬剤科	0	1	4	0	5
E　栄養科	5	0	2	0	7
F　検査科	0	0	3	0	3
G　放射線科	0	0	0	0	0
H　リハビリ	2	0	0	0	2
I　健診センター	0	1	0	0	1
J　総務課	0	4	38	0	42
K　保育所	0	0	0	0	0
L　その他・ローソン	1	2	1	0	4
M　ＭＳＷ	1	2	0	0	3
S　医療安全管理部	0	0	2	0	2
O　病診連携室	0	0	1	0	1
N　宛先不明・回覧不可	5	1	1	10	17
合計	45	69	96	11	221
	20.4%	31.2%	43.4%	5%	100%

(3) パルスカンファレンス

1～5月は毎週木曜日に、6～12月は毎月第2木曜日に行い、計19回実施しました。

パルスカンファレンスは医事課職員も交えて患者様目線での気付いたことの意見交換をはかり、問題解決に向けて取り組んでいます。

再来機の不具合が目立ち、受付するのに長蛇の列が出来る日も多く、不具合時の対策について話し合いましたが未だ解決には至っていません。近隣周辺を運行するコミュニティバスについての問い合わせや院内案内で中央点滴室、送迎バス乗り場、紹介窓口の場所が解りにくい等の意見が出されましたが、院内全体の表示見直しの際に対応するようになりました。

また、後方支援でご協力いただいているボランティアさん4人を対象に感染管理・医療安全についての講習を実施し、清掃時の手袋着用、マスク装着などの必要性についての理解を深めていただきました。

4. 今後の目標

病院職員全員が診療に関わる個々の場面で早期に危険因子を察知し、有害事象発生を減少させることが出来るよう、医療安全対策の推進を図っていきます。

47）臨床腫瘍センター

副センター長　薬剤部　南野　智志

薬剤科 88
放射線科 91
臨床検査 93
リハビリ 95
臨床心理 100
臨床工学 102
栄養科 107
治験セン 109
医療福祉 115
病診連携 118
健診セン 128
情報シス 130
保育室 132
がん相談 134
医療安全 137
臨床腫瘍 142

1. 概要

臨床腫瘍センターには、現在日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医、がん専門薬剤師が在籍しており、その専門性を活かしてチーム医療を展開するべく、がん化学療法に直接携わる各科臨床医、看護師、管理栄養士、理学療法士らと協力し、安全かつ質の高いがん化学療法を提供できるよう努めています。

院内で施行する治療レジメンについては、オンコロジー委員会で厳格に審査を行ったレジメンのみを採用とし、施行時には電子カルテ上や薬剤師・看護師による十分なチェック機能が働くシステムをとっています。

また外来で化学療法を受ける患者様に対して、がん専門薬剤師による診察前面談を充実させ、副作用モニタリングや処方提案を行い、QOL 改善や医療安全の向上を目指しています。当センターでは院内全体のがん化学療法を安全・適切に行えるよう、各診療科・多職種のメンバー全員で積極的に取り組んでいきたいと考えています。

2. メンバー構成

センター長：瓜生　恭章（呼吸器内科・腫瘍内科：日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医）
副センター長：金丸　知寛（泌尿器科）、南野　智志（薬剤部：日本医療薬学会認定がん専門薬剤師）
腫瘍内科：洪　　鉉寿（日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医）
外　　科：垣本　佳士
薬　剤　部：南野　智志、山本　倫数（日本医療薬学会がん専門薬剤師）
看　護　部：髙橋　章恵、苗代　啓子（がん化学療法看護認定看護師）、尾中　美幸
栄　養　科：佐藤　友亮
リハビリ科：甲斐　真世
検　査　科：辻谷　萌子
医　事　課：山下　あすか　原田　高輔

3. 実績

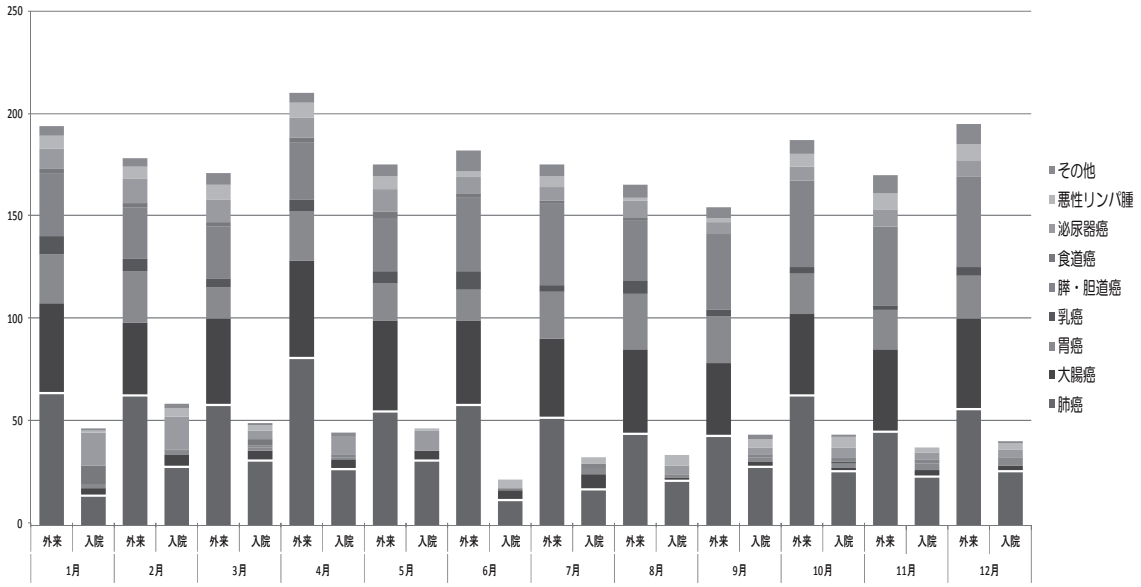
2019 年のがん化学療法施行件数は年間 2,756 件（外来：2,173 件、入院：583 件）で、前年の 102.0% でした。癌種別では肺癌の化学療法が 3 割強を占め、大腸癌・胃癌の消化器系の癌が続きます。また、肝・胆道系癌、婦人科での化学療法件数も増加傾向となっています。

《がん化学療法・生物学的製剤 施行件数（2019 年 1 月～ 12 月）》

	2019年	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		合 計	
		外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院
がん化学療法施行件数（癌種別）	肺癌	64	14	63	28	58	31	81	27	55	31	58	12	52	17	44	21	43	28	63	26	45	23	56	26	682	284
	大腸癌	43	3	35	5	42	4	47	4	44	4	41	4	38	7	41	1	35	2	39	1	40	3	44	2	489	40
	胃癌	24	2	25	2	15	2	24	1	18	0	15	0	23	3	27	2	23	2	20	2	19	3	21	4	254	23
	乳癌	9	0	6	0	4	0	6	0	6	0	9	0	3	0	6	0	3	0	3	1	2	0	4	0	61	1
	膵・胆道癌	31	0	25	0	26	1	28	1	26	0	36	1	40	2	30	0	37	1	42	2	39	2	44	0	404	10
	食道癌	2	9	2	1	2	3	2	0	3	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	13
	泌尿器癌	10	16	12	16	11	4	10	9	11	10	8	0	7	0	8	4	6	4	7	5	8	3	8	4	106	75
	悪性リンパ腫	6	1	6	4	7	3	7	0	6	1	3	4	5	3	2	5	2	4	6	5	8	3	8	3	66	36
	婦人科癌	1	8	4	11	2	9	2	8	3	8	3	7	0	8	0	7	0	6	1	9	1	5	0	5	17	91
	その他	5	1	4	2	6	1	5	2	6	0	10	0	6	0	6	0	5	2	7	1	9	0	10	1	79	10
	合 計	195	54	182	69	173	58	212	52	178	54	185	28	175	40	165	40	154	49	188	52	171	42	195	45	2,173	583
	2018年 合計	170	57	159	54	189	40	165	52	182	61	165	83	167	67	164	43	149	34	202	47	193	40	173	45	2,078	623

（診療科別）	内科	4	0	4	1	3	4	10	1	6	3	6	0	7	4	1	3	4	2	4	3	3	1	3	0	55	22
	腫瘍内科	90	18	89	38	80	31	101	28	77	29	82	18	63	16	66	23	62	29	85	30	67	25	81	30	943	315
	外科	57	12	54	6	52	9	60	3	54	4	50	3	56	9	60	4	47	4	51	3	53	6	59	6	653	69
	乳腺外科	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0
	肝臓外科	35	0	25	0	22	1	30	2	24	1	32	1	36	4	29	0	33	0	37	2	36	2	40	0	379	13
	泌尿器科	9	16	9	16	10	3	9	9	11	10	8	0	7	0	7	4	6	7	7	5	8	3	8	4	99	77
	脳神経外科	0	0	1	0	0	1	1	1	3	0	3	0	4	0	2	0	2	0	2	0	2	0	3	0	23	2
	婦人科	0	8	0	8	0	9	1	8	3	7	4	6	2	7	0	6	0	6	0	9	0	5	0	5	10	84
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	2	0	1	0	5	1
	合 計	195	54	182	69	173	58	212	52	178	54	185	28	175	40	165	40	154	49	188	52	171	42	195	45	2,173	583

生物学的製剤	膠原病・ﾘｳﾏﾁ	47	0	37	0	46	0	39	0	45	3	40	4	57	0	58	0	37	0	60	0	46	0	47	0	559	7
	炎症性腸疾患	4	0	5	0	5	0	7	0	7	0	2	0	7	0	4	0	8	0	3	0	4	0	3	0	59	0
	合計	51	0	42	0	51	0	46	0	52	3	42	4	64	0	62	0	45	0	63	0	50	0	50	0	618	7



4. 目標

診療科・職種の枠組みを超えて連携したチーム医療を実践し、患者様に確実・安全・効果的ながん化学療法を受けていただけるよう努めます。

看　護　部

―― 2019年 ――

48）4階東　5階西　146

5階東　6階西　6階東　147

7階西　7階東　8階西　148

8階東　ICU　149

HCU　外来・ER　150

手術室　透析室　151

退院調整チーム　がん相談支援センター　保健指導　152

48）看護部

看護部長　小原　真栄美

4階東 146
5階西 146
5階東 147
6階西 147
6階東 147
7階西 148
7階東 148
8階西 148
8階東 149
ICU 149
HCU 150
外来･ER 150
手術室 151
透析室 151
退院調整 152
がん相談 152
保健指導 152

1. 概要

看護部では「心にとどく看護」をスローガンに､地域から信頼される病院を目指し､看護サービスを提供している。安全・安心、優しい看護を目指し、療養環境の整備や接遇教育、急性期看護に必要な知識の向上に努めてきた。

2019 年は各部署で退院推進を図り、在院日数の短縮に取り組んだ。その成果として、救急・入院受け入れ件数の増加や手術件数の増加につながった。今後は、地域連携の強化および入院前支援の積極的介入、他職種との協働など、患者様の意思決定に沿った個別的な退院調整を進めていくことが課題である。

地域の方々の当院に対するニーズは高いと考えている。看護実践能力を高め、どのような場面でも対応できる看護師の育成に努め、地域の基幹病院としての役割を果たしていく。

4 階東病棟　脳神経外科／脳神経内科

当病棟は脳神経外科、脳神経内科、眼科を主として受け入れる 44 床の病棟である。

脳神経外科はICU･HCU を経て転床してくる患者様が半数を占め､リハビリやNST､褥瘡チーム、リエゾン、MSW など他職種と協働しながら、患者様の ADL の回復、社会復帰を目指している。認知症の患者様も多く､患者様の尊厳を守りつつ､安全に入院生活が送れるよう､日々のケアを行っている。脳神経内科は、レビー小体型認知症を始め、筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症などの患者様の受け入れを行っている。眼科は、白内障の手術患者様を中心に今年から受け入れを開始した。

1 年間の入院患者数 571 名　転入 609 名　退院 965 名　平均在院日数 20.7 日　平均病床稼働率 93.2%　平均看護必要度 44.3%であった。

2019 年は、新人の看護師が増え、指導する先輩と共に、順調に成長してきた。今後は脳神経外科看護をより一層深く学び、疾病により ADL が低下した患者様が一人でも多く、当院から回復していけるよう、頑張っていきたい。

5 階西病棟　混合内科／小児科／婦人科／眼科

当病棟は、小児内科・外科、婦人科、および女性内科、女性眼科患者様を受け入れる 40 床の混合病棟である。

対象疾患は、小児内科では肺炎や喘息、急性腸炎などの急性期疾患の他に、インフルエンザや RS ウイルス感染症などの感染症疾患の受け入れをおこなっている。また、小児外科では鼡径ヘルニアや停留睾丸などの手術の他、急性虫垂炎の緊急外科的治療が必要な患児の受け入れを行っている。婦人科は、悪性腫瘍の外科的治療や化学療法の他に、良性腫瘍の外科的治療目的患者様の受け入れを行っており、手術件数は増加傾向である。眼科は主に、白内障の手術目的患者様の入院を受け入れている。内科疾患では高齢の女性患者様の入院が多いため、誤嚥性肺炎や尿路感染症、慢性心不全や慢性腎不全の患者様が多い。また糖尿病の教育入院やコントロール目的入院も増えている。

内科疾患の患者様は平均在院日数が延長することが多く、日々の退院支援を心がけている。

成人患者様においては女性のみの病棟であり、病棟内に婦人科外来を併設しているため、「女性に優しい病棟を目指して」をスローガンに、日々患者様のケアに取り組んでいる。

5階東病棟　循環器科／心臓血管外科

当病棟は循環器科・心臓血管外科を受け入れる44床の病棟である。

急性期内科・外科の混合病棟として、主に心臓カテーテル検査治療や心臓血管外科手術前後の患者様を受け入れている。日々のカテーテル件数も多く、1泊2日の入院が主となっているため、月平均で約140人の入院数と約150人の退院数であり、平均在院日数は8.3日と入・退院の多い病棟である。

心臓血管外科術後は、ドレーン管理や創部感染予防に努め、心臓リハビリテーションや呼吸リハビリテーションなど、他職種との連携をとり、早期離床・早期退院を目指している。

また、心不全や肺炎などによる人工呼吸器を使用した慢性期疾患患者様も受け入れており、幅広い分野での看護が必要とされている。患者様の安全を第一に考え、勉強会等で自己研鑽し、スキルアップに繋げている。

一昨年に比べ、カテ件数も大幅に増加してきている。ERと協力しながら、週2回カテーテル室看護師としての役割も担っており、専門的知識を習得し、急変時の対応に関する実践勉強も継続し行っていく。

病院全体での平均在院日数短縮に向けた退院支援に関する取り組みを行なっているが、当科は目標達成できていることもあり、スタッフ間で知識の差がみられている。長期入院されている患者様も存在しているため、急性期病棟でありながらも、退院支援の知識を深め、介入していけるように他職種と協働していく。

6階西病棟　整形外科／耳鼻咽喉科

当病棟は、整形外科・耳鼻咽喉科の入院患者様を中心に受け入れている、44床の病棟となっている。また、形成外科領域の後方病棟の機能や、空床状況に応じ、内科患者様などの受け入れも行っている。

整形外科では、四肢の骨折手術や人工関節手術を中心に、平均70件／月の手術を行っている。医師・看護師・リハビリテーション科が協働し、安全で安心な周手術期医療が提供できるよう取り組んでいる。

2019年は、入院患者数1,011人／年、退院患者数988人／年、平均在院日数13.5日、病床稼働率92.9％であった。平均在院日数の短縮に向け、取り組みを積極的に行い、2019年は大腿部（股関節～膝関節）手術患者様の術後在院日数短縮に取り組んだ。これにより、術後早期から退院に向けて介入し、転院までの平均在院日数を短縮することができた。また、患者様のご家族様の意向に沿った退院支援ができるようになった。

今後は、地域や他施設との連携強化、多職種カンファレンスの活性化など、連携の強化と拡大を図り、早期の在宅復帰・社会復帰を支援していきたいと考える。

6階東病棟　形成外科／泌尿器科／歯科・口腔外科

当病棟は形成外科、泌尿器科、口腔外科、眼科の患者様を受け入れる44床の混合外科病棟

であり、手術、化学療法、陰圧療法など、それぞれの科ごとの様々な急性治療期の患者様が多い。

形成外科では既往歴に糖尿病や腎不全など慢性疾患をもつ患者様も多く、幅広い知識が必要なため看護師の知識・技術の向上を常に意識し病棟内での勉強会を定期的に開催している。

手術件数は 1,168 件 / 年、入院は 1,643 人 / 年、退院は 1,559 人 / 年で、平均在院日数は約 9.5 日であった。退院件数は昨年より増えたが、治療期間が長期化する形成外科患者様が増えたことにより、平均在院日数は延長している。このため、医師・看護師・MSW・リハビリが連携をとり、患者様とそのご家族様を中心とした円滑なチーム医療を実践できるよう、退院支援の強化に取り組んでいる。

今後は、スムーズな入退院支援を行い、手術患者様の不安の軽減など看護の質の向上のため接遇の向上に取り組みたい。

7 階西病棟　消化器内科

当病棟は主に消化器内科を受け入れる 44 床の病棟である。

早期癌における ESD を積極的に行っており、ポリペクトミー・EMR・消化管出血に対する止血・ERCP・EUS・ステント留置、また肝臓センターの内科領域の患者様、ウイルス性肝炎や肝胆膵領域の悪性疾患を多く受け入れている。

2019 年は、平均在院日数 13 日、病床稼働率 96.5% であった。

内視鏡機器の進歩により、内視鏡治療は高度となり複雑化している。安全・安心な療養環境のもと、標準的なケアが実践できることを第一にしながら、個別性のある看護が提供できるようカンファレンスを積極的に行った。また、終末期ケアも多く、緩和ケアチームと連携しながら看護を行っている。

看護の専門性が高まる中、患者様の個別性を重視した看護が提供できるよう努力している。高齢化が進み、認知症や複雑な背景を持った患者様が増加していく中、入院当初より、MSW と連携しながら、その人に合った退院支援や調整を心がけている。

7 階東病棟　外科

当病棟は、外科・肝臓外科の周術期患者様を中心とした 44 床の高度急性期病棟である。

2019 年の外科･肝臓外科での手術件数は、779 件 / 年、入院件数 1,394 件 / 年、退院件数 1,492 件 / 年であった。昨年度より、手術件数・退院件数は増加しており、急性期治療後にスムーズに退院支援が行えるようになっている。また、ストマケアパスを作成し、入院時から退院後の生活を見据えたケアを行えるよう取り組みを行った。

外科の患者様は、治療期～終末期までの長い経過を受け入れることも増えてきているため、今後は、終末期ケアも踏まえた関わりができるよう取り組んでいきたい。

8 階西病棟　呼吸器外科・内科／腫瘍内科

当病棟は、呼吸器内科・外科病棟の 44 床の病棟であり、呼吸器感染症、肺癌、気管支喘息、COPD、肺線維症（間質性肺炎）、SAS を始めとするあらゆる呼吸器疾患に取り組んでいる。同時に近年、人口の高齢化に伴い呼吸器疾患を合併する患者様も多く、必要に応じ主疾患に合併した呼吸器疾患のマネジメントも行なっている。

4階東 146
5階西 146
5階東 147
6階西 147
6階東 147
7階西 148
7階東 148
8階西 148
8階東 149
ICU 149
HCU 150
外来･ER 150
手術室 151
透析室 151
退院調整 152
がん相談 152
保健指導 152

内科と外科の混合病棟であることから、手術治療から抗がん剤治療まで治療の幅が広く、呼吸器疾患における、超急性期から慢性期・終末期に至るまでの看護を行っている。

2019 年は、看護必要度平均 53.1％であり、病棟稼働率は 95.3％であった。

患者様の意志決定を優先し、家族様の構成・年齢・生活の質等を考慮して、臨床工学科や呼吸リハビリチームと協力し、酸素療法や侵襲的・非侵襲的人工呼吸など、あらゆる機器を取りそろえ最適な呼吸サポートを心がけている。同時に、在宅復帰をめざし、在宅酸素療法や在宅 NPPV を導入し退院推進を行っている。そのため、日々最新酸素デバイスなどに対応出来る様に、定期的に医師・病棟看護師による勉強会を実施し日々知識の向上に努めている。

呼吸器疾患は慢性症状を持って帰る患者様が多く、平均在院日数が長期化する傾向にある。退院支援リンクナースを中心とした、退院支援チーム及び MSW と連携し、慢性疾患を抱える患者様がスムーズに在宅に戻る事が出来るように、指導・援助し、更なる在院日数短縮を図ることが、次年度への課題である。

8 階東病棟　混合内科

当病棟は呼吸器疾患・心疾患・腎臓内科・糖尿病教育入院の他、抗がん剤治療や放射線治療など、腫瘍内科も含めた 39 床の総合的内科疾患の受け入れを行っている。

外来臨床腫瘍センターとの連携を図り、外来からの入院の受け入れ、退院後外来臨床腫瘍センターへの通院治療を、円滑に移行できるように、看護師間で連携し、患者様が安心・安全に治療を行えるように努めている。

混合内科であり、複数の既往歴を持つ慢性期疾患から癌患者様などを受け入れ、抗がん剤治療や放射線療法の副作用、癌患者様の疼痛緩和など幅広い知識をもつ看護師が必要である。看護師の知識・技術の向上を常に意識付け、病棟内で勉強会チームを発足し、定期的な勉強会の開催を実施している。また、終末期を迎える患者様なども療養されており、患者様とそのご家族様との信頼関係を大切にしている。

糖尿病教育入院では、クリティカルパスに沿って、他職種が介入連携し、個別性をふまえた合併症の予防の強化を行いながら、病棟の糖尿病チームを中心に、患者様をサポートしている。退院後の生活環境など､患者様とそのご家族様と相談しながら､問題点を抽出し､介入している。

入院患者様の高齢化で、入院による ADL 低下や老老介護、認知症の悪化など、在宅や施設の受け入れ困難等の問題も多く、入院期間が長期化している現状がある。2019 年は目標退院数に対して、毎月平均 80％、平均在院日数 19 日であった。

急性期病院の役割を担うため、MSW との連携強化を図り、退院支援チームを中心に、患者様とそのご家族様が安心して退院できるよう退院支援を行いたい。

ICU

ICU は重篤な急性臓器機能不全状態にある患者様を対象とし、多職種連携のもとに高度かつ専門的なチーム医療を提供する部署である。（定床：8 床）

重症な内科救急患者様、侵襲度の高い術後患者様を 24 時間体制で受け入れている。より質の高い集中治療の提供のため、特殊循環モニタリング装置 EV1000 や体温管理装置サーモガードなど、新規機器の導入を毎年積極的に行っている。また、1 日 1 回多職種カンファレンスを

継続しており、多職種協働を図っている。

2019年は緊急入院患者数217名、転入患者数395名であった。

これまでよりも病床稼働率は増加傾向にあり、病床稼働率は約80%を維持している。心臓血管外科・脳神経外科・呼吸器外科をはじめとし、予定術後患者様も増加している。

今後は、より質の高い医療・看護の提供を行い、患者様の早期回復支援につなげられるようにしていきたいと考えている。まずは、集中治療を安全で効果的に提供するために必要な安全文化と診療ガイドライン等に基づいた医療提供体制の構築に向けた取り組みを行っていく。

そして、患者様が安心して急性期治療を継続できるような支援を、関連スタッフ一丸となり実践していきたい。

HCU

HCU（High Care Unit; 高度治療室）は、患者様の重症度と看護師の配置基準が、ICUと一般病棟の間に位置づけられる治療室である。20床を有する当ユニットの役割としては、①重症度が一般病棟より重い患者様や状態変化が予測される緊急患者様の受け入れ、②全身麻酔手術後の患者様の受け入れ、③ICUの後方ベッドである。

2019年の緊急入院は1,141件、転入は389件であった。入室患者様の診療科は、内科、脳神経外科、循環器内科、肝臓外科、外科、呼吸器内科、整形外科など多岐にわたる。下半期には、これまで当ユニットでは対応していなかったEVAR（腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術）の受け入れを、医師の指導・協力を受けながら開始した。医療安全では、インシデントの原因分析と具体的な改善策を導き出せるよう、インシデントカンファレンスの導入を行った。

2020年は、教育システムの変革と目標管理支援により、スタッフそれぞれの特性や将来に向けたビジョンを見据えながら、HCU看護の質向上を目指す。また、専門知識・技術の向上だけではなく、患者様とそのご家族様の思いに寄り添った『心にとどく看護』が常に実践できるよう、接遇の教育、認知症看護やせん妄患者様への看護を強化する。そして、働きやすい環境のため、業務改善を進めながら、人員増加を目指す。

外来・ER

当院の外来は、「診療部門」「救急部門」「検査治療部門」「予防医療部門」の4つの部門に分かれている。

「診療部門」では小児外科の診療日数の増加や放射線治療、短期滞在手術センターでの治療件数の増加があり、スタッフの連携を強化し、安全な看護が提供出来るように努めている。

「救急部門」では、緊急内視鏡・CAG・DSA件数も増加し重症度は上がる中、院外からの研修受け入れも積極的に行い、スタッフの知識やスキル向上に努めている。昨年に実施した、院外研修（救急車同乗研修、キャリアアップ研修、看護協会研修など）を活かし、断らない救急に向けて体制を強化している。

「検査治療部門」では、内視鏡、ERCPなどの検査・治療の件数が増える中、チームワークとERとの連携を強化し、業務がスムーズに行えるように努めている。

2019年の外来患者数は平均766名/日、救急受け入れ件数平均674件/月、脳卒中ホットライン平均14件/月、内視鏡検査平均806件/月、日帰り手術平均96件/日であった。

4階東 146
5階西 146
5階東 147
6階西 147
6階東 147
7階西 148
7階東 148
8階西 148
8階東 149
ICU 149
HCU 150
外来・ER 150
手術室 151
透析室 151
退院調整 152
がん相談 152
保健指導 152

年々患者数は増加し、当部署で対応する患者様の重症度が増していることから、今後、部署間での連携の強化、外来・ER での看護の質の向上が求められる。『断らない医療』の病院理念を基本に、地域に密着した外来・ER を目指すため、スタッフの意識の統一を図り、実践出来るように努めていきたい。

手術室

手術室は 7 室あり、産科以外の手術に 24 時間対応している。

2019 年の手術件数は、5,280 件（その内、緊急手術 803 件）で、前年対比で 305 件増加。2018 年 9 月より心臓血管外科の体制が変更となり、開心術も大幅に増加した。迅速かつ的確に対応できるよう、看護師の教育も強化した。また、患者様とそのご家族様が安心して手術を受けられるよう、安全な手術環境を提供できることを第一に考え、体制づくりを行った。

2019 年は、手術前からの継続看護を行うことを目標に掲げ取り組みを行い、術前訪問を定着化することができた。外来～手術後まで多職種で関わり、患者様をサポートできる周術期管理体制の構築を行うことが今後の目標である。

透析室

2019 年、透析導入になった患者様は 32 名、登録患者数 100 名前後と大きな変動は無い。それに比べて、入院患者数・退院患者数は年々増加し、今年は共に 400 名を超えた。

透析を必要とする患者様は、専門かつ高度な治療を求め、医師を求めて、近隣だけでは無く、遠方の施設からの入院受け入れが増加した。そのため、当院と連携を持つ病院・クリニックも増えている。

高年齢での透析導入、透析患者様の高齢化も更に進んでいる。様々な合併症を持つ患者様も多く、総合病院の中の透析センターであることが、おおいに活きていると考える。

80 歳代、90 歳代での透析導入も珍しくなくなっている。その反面、透析の導入を開始するか否かの選択も難しくなっている。他施設からの入院患者様を当院でお看取りする機会も増えている。通院困難のために、入院透析を余儀なくされるケースもある。導入時の腹膜透析の選択はもちろん、終末期においても、在宅での希望があれば、血液透析から腹膜透析への移行も可能である。

透析患者様の高齢化、長期化や高年齢での透析導入が進んでいる。当院では腹膜透析が可能であることを活かし、患者様の意向と状況に応じた透析医療を提供していきたい。終末期透析のあり方を患者様と共に探していきたい。

【《透析患者の動き》

2018.1 ～ 2018.12

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
外来患者平均	29	30	31	32	31	31	31	31	31	31	31	31	370
入院患者平均	11	14	11	13	13	14	16	13	11	10	9	14	149
登録患者数平均	89	97	95	98	97	99	103	95	91	90	90	101	1,145
導入患者合計	7	2	1	3	3	3	4	0	3	2	2	2	32
死亡患者合計	7	2	0	2	2	2	7	6	2	1	0	1	32
転入患者合計	32	21	35	34	32	40	44	37	23	34	31	39	402
転出患者合計	30	30	40	29	33	38	41	39	25	38	26	34	403

4階東 146
5階西 146
5階東 147
6階西 147
6階東 147
7階西 148
7階東 148
8階西 148
8階東 149
ICU 149
HCU 150
外来・ER 150
手術室 151
透析室 151
退院調整 152
がん相談 152
保健指導 152

退院調整チーム

退院調整チームは入退院支援部門である社会福祉士 8 名と看護師 2 名で構成され、外来から支援を開始。入院時支援には看護師 1 名、退院支援には専従看護師 1 名、各病棟には退院支援専任社会福祉士を配置しています。患者様のこれまでの暮らしを知り、退院後の生活を見据えた適切な退院支援を提供するために在宅担当者と協働して、その人らしい暮らしを支える事を目的としています。

同時に、急性期病院として患者様の病態増悪時には迅速に入院を受け入れ、必要な医療を集中して行い、速やかに住み慣れた地域に戻り、生活する事を目的としています。

入院時支援件数 375 件、退院支援カンファレンスは各病棟 1 週間に 2 ～ 3 回実施し 4,659 回 / 年（1 病棟当たり平均 43 回 / 月）。退院後の生活を見据えたサービス調整、退院前カンファレンス 80 件 / 年、在宅診療への調整は 418 件、他施設への調整 1,849 件、平均在院日数 12.35 日である。

今後の目標は、カンファレンスにて他職種との情報共有を行い退院指示の前に退院支援を開始、在院日数を短縮し、また入院早期の関わり・他職種の連携強化を行い在宅支援に努める。

がん相談支援センター

がん相談支援センターの役割は、がん患者様とそのご家族様の様々な困難に対する手助けをし、必要な支援・資源を導き、的確に繋げ、患者様とそのご家族様が望む暮らしを支援することである。セカンドオピニオンや療養環境、疼痛、緩和ケアなど相談内容に応じた専任スタッフの紹介や、患者様のご家族様が気軽に語り合えるがんサロンの開催を行っている。また、がん地域連携クリティカルパスにより、地域で安心して治療が受けられるよう取り組んでいる。

メンバー構成は、医師をリーダーに置き、がん相談兼任スタッフとして MSW1 名、がん相談支援センター専任看護師 1 名である。相談内容に応じて、適宜、院内の医療・福祉スタッフの協力を得ている。

今年の目標を『がん相談支援センターの周知ができ、多くの患者様とそのご家族様、地域の方が利用できる』とし、相談対応の質が維持できるように、がんスクリーニング内容に応じて介入の必要性がないか訪問活動を行った。がんサポートブックや、がん相談支援センターの案内用紙設置などを継続している。相談件数は 10 ～ 20 件／月を維持している。

がんサロンは偶数月に開催し、「参加できてよかった」と感想をいただき、繰り返し参加される方も数人おられる。一方で、開催時間などに対するご意見をいただくこともある。参加者のご意見を取り入れ、更なる患者様の QOL 向上に繋げられるサロン開催を目指したい。

保健指導

現在、4 人の保健師が外来、病棟、健診センター、地域や企業において小児期から老年期のあらゆる年齢、健康状態にある人を対象に、一次予防～三次予防の観点で保健指導、健康教育を行っている。保健指導件数は 4,080 件／年で、活動領域別では多い順に、「糖尿病外来」1,959 件（48.0%）、「健診・人間ドック保健指導」761 件（18.7%）、「特定保健指導」508 件（12.5%）（表 1）、 保健指導項目件数（重複あり）では、「生活状況の確認」が最も多く、2,546 件（26.5%）、「食事指導」1,329 件、（13.8%）、「病態・合併症説明」1,128 件（11.7%）と続く。（表 2）

2019 年度の取り組みの特徴としては、以下の 4 点が挙げられる。

① 医療講演依頼数の増加（22 講演／年：昨年より 6 講演増加）、

② 糖尿病診療における注射薬使用患者に対する硬結チェックの合併症パス導入

③ C 型肝炎サーベイランスチームの活動開始

④ 禁煙治療の夕診再開

今後の目標としては、質の高い保健指導、健康教育を提供できる様、研鑽に努め、スタッフ間のコミュニケーションを大切にしながら、働きやすい職場を目指す。

保健指導の領域・項目件数

《表 1. 保健指導の領域件数》

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
外来保健指導	15	20	9	11	7	15	16	16	11	16	13	8	157
外来禁煙指導	25	20	12	6	7	13	11	11	9	20	12	12	158
C 型肝炎サーベイランス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	10	14
心臓リハビリ	8	6	13	16	10	9	5	5	6	4	7	6	95
小児科外来	25	17	8	18	8	11	15	12	9	1	23	26	173
糖尿病外来	147	155	148	190	160	167	180	168	164	184	140	156	1,959
病棟	18	38	15	22	39	24	20	21	9	13	10	11	240
院外	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3
健康相談	0	5	3	0	2	1	0	0	0	0	1	0	12
健診・人間ドック	45	53	57	46	71	84	79	74	81	72	63	36	761
特定保健指導	59	37	54	42	49	44	39	37	32	34	45	36	508
合計	342	351	319	352	354	369	365	344	321	346	316	301	4,080

《表 2. 保健師数》

常勤	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

《表 2. 保健指導の項目件数》

項目		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10	11月	12月	合計
ライフスタイルの変容	生活状況確認(サーベイランス)	177	211	200	240	240	253	222	248	207	209	176	163	2,546
	食事指導	109	128	131	122	109	153	106	113	81	91	91	95	1,329
	運動指導	62	61	81	78	64	85	68	54	47	52	55	56	763
	節酒・禁酒指導	9	18	9	5	11	12	10	8	11	23	22	14	152
	禁煙指導	21	30	25	16	9	28	22	15	14	25	15	12	232
	禁煙治療	6	16	5	6	6	7	8	8	3	16	9	1	91
自己管理への援助	病態・合併症説明	70	77	77	73	107	115	111	107	116	118	95	62	1,128
	コンプライアンス確認・目標設定	18	14	10	8	20	27	9	11	3	10	7	6	143
	ヘルスビリーフ(疾病の受入れ)支援	4	2	0	3	8	4	5	1	1	1	2	2	33
	体重管理	38	47	39	27	40	43	38	39	31	35	38	37	452
	血圧管理	28	35	24	22	19	18	13	13	15	12	23	15	237
	心負荷	7	3	9	9	7	7	6	2	4	4	6	4	68
	血糖管理・低血糖	46	60	44	62	55	43	28	60	24	37	27	27	513
	薬剤管理	31	53	19	34	38	41	27	60	39	42	25	37	446
	フットケア指導	66	59	44	51	54	46	41	41	55	56	49	47	609
	糖尿病透析予防指導料の当該指導	0	3	0	1	4	2	0	0	0	0	1	0	11
	清潔ケア・感染防止の管理	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	3
	安全確保(転倒防止・環境整備)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	受診調整・受診の勧奨	26	12	21	15	7	4	4	10	12	4	6	9	130
心理的指導	心境の傾聴	9	13	12	8	9	12	10	12	13	9	3	6	116
	ストレス対処法指導	1	0	1	1	0	0	2	1	2	0	0	0	8
社会的援助	社会資源紹介	3	0	2	7	0	1	1	3	1	2	0	1	21
	院内コンサルト・他職種との調整	3	10	1	4	3	0	3	11	11	5	3	5	59
	認知症検査・療養支援	2	0	0	2	0	0	0	0	1	2	0	0	7
	院外との調整	3	9	2	4	2	0	1	4	1	0	3	0	29
小児科	予防接種	21	10	6	12	7	10	19	17	13	1	25	30	171
	育児相談	3	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6
	乳児検診	1	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	5
相　談	電話・メール支援・相談	25	9	21	15	22	14	14	16	12	11	11	21	191
	家族相談・指導	5	10	9	15	13	5	3	10	15	11	3	4	103
合　計		796	893	793	841	855	931	772	864	732	776	696	654	9,603

4階東 146
5階西 146
5階東 147
6階西 147
6階東 147
7階西 148
7階東 148
8階西 148
8階東 149
ICU 149
HCU 150
外来・ER 150
手術室 151
透析室 151
退院調整 152
がん相談 152
保健指導 152

2. メンバー構成

看護部副看護部長：髙橋章恵
5階西病棟看護主任：井本ユミ
6階西看護主任：中島麻由美
7階西看護師長：稲垣ひとみ
8階西看護副主任：西原理恵
ICU 看護師長：村中烈子
外来・ＥＲ看護師長：吉田暁美
手術室看護師長：柴山智賀子
退院調整看護師長：加藤和代
保健師主任：酒井菜穂子
4階東病棟看護師長：山本真紀
5階東病棟看護主任：髙田由希
6階東病棟看護師長：松本静香
7階東病棟看護師長：松本静香
8階東病棟看護副主任：辻田瑞穂
HCU 看護副主任：坂本景子
透析室看護師長：大福礼子
がん相談支援看護師長：宮本千代美

3. 教育実績

《実習受入れ一覧》

学校名	科目	期間	学生数	実習場所
小阪病院看護専門学校	成人看護学Ⅱ、Ⅲ	5月7日～5月23日	12名	6西、6東、7東、8東
	成人看護学Ⅱ、Ⅲ	5月27日～6月13日	6名	6西、8西
	成人看護学Ⅱ、Ⅲ	6月17日～7月4日	6名	5東、7西
	基礎看護学Ⅲ	7月8日～7月25日	6名	7西、8東
	基礎看護学Ⅰ	8月27日～8月28日	12名	5東、6東、7西、8西
	成人看護学Ⅱ、Ⅲ	9月2日～9月20日	3名	6東
	成人看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	9月24日～10月10日	5名	6西、6東
	成人看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	10月15日～10月31日	6名	7東、8東
	小児看護学	10月15日～10月31日	9名	小児外来
	統合	11月18日～12月5日	12名	5西、6西、7東、8西
	基礎看護学Ⅱ	12月10日～12月13日	12名	4東、6東、7西、8西
	成人看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	1月7日～1月23日	6名	6西、8西
	成人看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	1月27日～2月14日	6名	6西、8東
	成人看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	2月17日～3月5日	3名	7東、8東
大阪府医師会看護専門学校	老年看護学Ⅱ	5月20日～6月7日	4名	4東、7西
	成人看護学Ⅰ	6月10日～6月28日	4名	6東、7東
	老年看護学Ⅱ	6月10日～6月28日	3名	8東
	成人看護学Ⅱ	6月17日～7月5日	3名	5西
	成人看護学Ⅰ、Ⅲ	7月1日～7月19日	7名	4東、7東、8西

学校名	科目	期間	学生数	実習場所
大阪府医師会看護専門学校	小児看護学	7月8日～7月19日	3名	5西
	小児看護学	8月26日～9月6日	4名	5西
	成人看護学Ⅱ、Ⅲ	8月26日～9月13日	6名	4東、8東
	基礎看護学Ⅰ	9月17日～9月20日	6名	5東、7西
	老年看護学Ⅱ	9月24日～10月11日	3名	7西
	成人看護学Ⅱ	9月24日～10月11日	4名	8西、8東
	小児看護学	9月30日～10月11日	2名	5西
	成人看護学Ⅰ、Ⅲ	10月15日～11月1日	5名	6西、6東
	看護の統合と実践	11月5日～11月22日	10名	5東、6東、7西、8東
	基礎看護学Ⅱ	12月2日～12月6日	6名	5東、7西
	基礎看護学Ⅲ	1月20日～2月7日	9名	4東、7西、7東
	老年看護学Ⅰ	2月17日～3月6日	9名	4東、5西、7西
アナン学園高等学校	成人看護学　急性期	7月1日～7月12日	4名	6西、6東
	基礎看護学Ⅲ	9月9日～9月20日	6名	5西、6西
	統合	9月30日～10月11日	5名	4東、7東
	成人看護学Ⅰ	10月15日～10月25日	3名	7西
	基礎看護学Ⅱ	1月14日～1月24日	3名	5西、8東
	基礎看護学Ⅰ	1月30日～1月31日	3名	5西、8西

《ふれあい看護体験１日看護師体験》

主催	学校名	期間	体験者数	実習場所
私立高等学校	樟蔭高等学校	7月30日	6名	5西、7西、8西
公立中学校	八尾市立上ノ島中学校	6月11日～6月12日	2名	4東
公立中学校	八尾市立大正中学校	6月4日～6月5日	6名	5西、7東、8東

4階東 146
5階西 146
5階東 147
6階西 147
6階東 147
7階西 148
7階東 148
8階西 148
8階東 149
ICU 149
HCU 150
外来・ER 150
手術室 151
透析室 151
退院調整 152
がん相談 152
保健指導 152

院内研修

《レベルⅠ》

研修日	研修名
5月	医療安全
6月	新人対象急変時対応
7月	正しい記録の書き方、看護過程
8月	メンタルヘルスケア
9月	卒後6ヶ月研修「リフレクション」
10月	多重課題シミュレーション
11月	倫理研修
12月	看護を語る ナラティブ
1月	フィジカルアセスメント
2月	振り返りレポート発表会
3月	卒後1年の振り返り

《レベルⅡ》

6月	既卒対象急変時対応
7月	メンバーシップ
2月	チューターになる準備

《レベルⅢ》

7月	リーダーシップ
8月	チューター研修
11月	リフレクション

《レベルⅡ・Ⅲ》

7月	退院支援の実際
8月	医療安全
9月	災害看護
9月	看護記録
12月	退院支援研修

《レベルⅣ》

11月	実習指導者

《レベルⅣ・Ⅴ》

8月	入退院支援研修
9月	災害看護
10月	医療安全
	退院支援研修
11月	看護記録

《レベルⅤ》

12月	教育担当者研修

《管理者》

6月	管理者研修

《看護研究》

7月	看護研究の進め方
11月	論文のまとめ方
2月	論文の査読の仕方

《トピックス》

研修日	研修名
7月	重症度、医療・看護必要度（基礎編）
	接遇①
8月	第1回伝達講習会
	認知症高齢者の看護の基礎
10月	重症度、医療・看護必要度研修（応用編）
	接遇②
12月	QI大会
	接遇③
1月	第2回伝達講習会
	接遇④
2月	二次救命処置研修

《スキルアップ》

6月	院外ICLS
	呼吸不全の病態
	疼痛緩和
7月	BLS指導者養成（新規）
	摂食嚥下（誤嚥）
	ACP（アドバンスケアプランニング）
	化学療法
8月	BLS指導者養成（新規）
	酸素療法
	心電図
	化学療法
9月	人工呼吸（TPPV）
	意識のフィジカルアセスメント
	症状緩和
10月	人工呼吸（TPPV）
	循環器ののフィジカルアセスメント
	エンゼルケア
11月	二次救命処置研修
	人工呼吸器（NPPV）
	摂食嚥下（摂食）
	心不全の看護
	臨床倫理
12月	虚血性心疾患の看護
	化学療法
1月	人工呼吸器（NPPV）体験編
2月	BLS指導者養成-ブラッシュアップ
3月	摂食嚥下（嚥下評価）

《看護補助者》

7月	看護補助者研修①
8月	看護補助者研修①
9月	看護補助者研修①
10月	看護補助者研修②
11月	看護補助者研修②
12月	看護補助者研修②
2月	看護補助者研修「感染・安全」①
3月	看護補助者研修「感染・安全」②

《看護協会　短期研修》

《レベルⅠ》

研修日	研修名
5月	今日から実践できる褥瘡ケア①
	危険予知トレーニング①
	コーチング･コミュニケーション①
	看護師が行う入退院支援と困難事例への対応セミナー
6月	人工呼吸器装着患者の看護①
	病棟看護師としてできる退院支援･調整①
	がん化学療法を受ける患者の支援①
	組織で取り組む感染管理①
	臨地実習指導者①
	施設における教育計画の考え方～教育委員･教育担当者って何をする人?～
	大阪府看護職員認知症対応力向上研修
7月	診て聴いて触って実践に活かすフィジカルアセスメント(講義･演習)②
	やってみよう家族アセスメント!～明日から変わるかも?!家族のとらえ方①
	ストーマ･瘻孔のスキンケア
	摂食･嚥下障害のある患者の看護の基礎と実際を学ぶ①
	高齢者の特性をふまえたエンド･オブ･ライフケア①
	病棟看護師としてできる退院支援･調整②
	感染管理の基礎知識
	看護研究シリーズ①～研究計画書の作成～
	臨地実習指導者②
	看護補助者のための医療安全①
	認知症高齢者の看護実践に必要な知識①
	診て聴いて触って実践に活かすフィジカルアセスメント(講義･演習)②
8月	診て聴いて触って実践に活かすフィジカルアセスメント(講義･演習)③
	救急･集中治療領域におけるクリティカルケア
	認知症高齢者の理解と看護実践
	福祉関係施設･在宅等における地域につなげる褥瘡ケア
	看護研究シリーズ②～質的研究のデザイン分析～
9月	災害看護における初期医療支援活動①
	みんなで考える看護倫理
	実践に活かす小児救急
	病気･障がいを持つ子どもと家族への看護ケア
	高齢者の自立した生活を支えるための看護
	がん患者の症状緩和を図る看護
	看護研究シリーズ③～質的研究のデザインと分析～
	看護職のための教育学
	認知症高齢者の看護実践に必要な知識②
	退院支援強化研修②
10月	災害看護における初期医療支援活動②
	高齢者の「食」を考える～肺炎を予防するための知識と実際～
	がん放射線療法を受ける患者の看護
	危険予知トレーニング②
	現場で活かす医療メディエーション
	看護研究シリーズ④～学会発表を目指して～
	チームマネジメントにおけるリーダーシップ①
	新人看護職員研修責任者研修
	災害支援ナースの第一歩～災害看護の基本的知識～
	禁煙支援者講習会
	「ナッジ」って何?～意思決定を支援する行動経済学～

《レベルⅠ》

研修日	研修名
11月	災害看護における初期医療支援活動③
	みんなで考えようスピリチュアルケアの本質
	虐待を受けた子供と家族への関わり方
	摂食.嚥下障害のある患者の看護の基礎と実際を学ぶ②
	糖尿病療養指導の実践的知識
	患者･家族のメンタルサポート
	医療安全の基本と医療事故防止行動
	地域包括ケア時代の主任･副師長の役割
	認知症高齢者の看護実践に必要な知識③
	チームで取り組み医療安全～やってみよう!TeamSTEPPS～
	地域包括ケアをみんなで考え参加しよう!
	地域包括ケアをみんなで考え参加しよう!
	看護職の「生涯現役」セカンドステージに備える
12月	人工呼吸器装着患者の看護②
	今日から実践できる褥瘡ケア②
	慢性心不全患者の療養支援
	実地指導者研修
	地域で看取り研修「引き算の緩和ケア」
	健康と生活を大切にした働き方　ヘルシーワークプレイスを目指して
1月	ケア･実践が見える看護記録①②
	摂食嚥下障害のある患者看護のアドバンスト
	コーチング･コミュニケーション②
	地域包括ケアをみんなで考え参加しよう!
	大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会フォローアップ研修
2月	チームマネジメントにおけるリーダーシップ②
	大人の発達障害～共に働くために～
	災害､その時あなたはどう動く!
	退院支援強化研修フォローアップ研修
	セカンドレベル･サードレベルフォローアップ研修
	ｸﾘﾆｶﾙﾗﾀﾞｰ(日本看護協会版)の推進(実践編)～施設がJNAﾗﾀﾞｰを導入するために～
3月	中堅看護師の育成～私これでいいの?今考える私のキャリアデザイン～
	2020年度診療報酬改定のポイント

≪看護協会　長期研修≫

研修日	研修名
5月	第1回認定看護管理者教育課程ファーストレベル
	第1回大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会
6月	第1回認定看護管理者セカンドレベル
8月	第2回認定看護管理者セカンドレベル
	第2回大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会

4階東 146
5階西 146
5階東 147
6階西 147
6階東 147
7階西 148
7階東 148
8階西 148
8階東 149
ICU 149
HCU 150
外来･ER 150
手術室 151
透析室 151
退院調整 152
がん相談 152
保健指導 152

《徳洲会グループ》

研修月	開催主催	研修コース名
7月	徳洲会グループ	看護診断院内看護診断指導者フォローアップ研修
	徳洲会グループ	やってみよう！褥瘡予防ケア
8月	徳洲会グループ	看護診断院内看護診断指導者研修
9月	徳洲会グループ	原稿の書き方
	徳洲会グループ	医療対話推進者セミナー・医療メディエーターの理論と技法
	徳洲会グループ	ホスピタリティ - 初級 - 研修
10月	徳洲会グループ	ベストプラクティス 「ナンバーワン‼訪問看護ステーション」
	徳洲会グループ	ベストプラクティス 「トリアージがうまかっちゃん」
11月	徳洲会グループ	災害看護研修
	徳洲会グループ	ベストプラクティス 「ガラパゴズ研修Ⅱ」
	徳洲会グループ	ベストプラクティス 「まるごと循環器研修」
	徳洲会グループ	ベストプラクティス 「リフレッシュ離島研修」
	徳洲会グループ	ベストプラクティス 「北の地から（力）手術室看護」
	徳洲会グループ	ベストプラクティス 「カンフォータブル・ケア研修」
12月	徳洲会グループ	災害看護研修
1月	徳洲会グループ	ベストプラクティス 「退院調整 one two three」
2月	徳洲会グループ	第 16 回国内災害医療支援トレーニングコース

《その他》

研修月	開催主催	研修コース名
4月	国立がん研究センター	2019 年度がん相談支援センター相談員基礎研修（1）（2）知識確認コース（e ラーニング）
5 月	関西アルコール看護研究会	関西アルコール看護研究会定期総会・研修会
	日本通所ケア研究会	看護師が行う入退院支援と困難事例への対応セミナー
6 月	日本通所ケア研究会	急性期で起こりやすい難しい家族との関わりと高齢者の退院支援場面での家族ケアセミナー
	ヴェクソンインターナショナル株式会社	重症度、医療・看護必要度評価者院内指導者研修
10 月	大阪府看護連盟	褥瘡ケアのスキルアップ

2）研究発表業績

(1) 院外発表

年月日	学会名	病棟名	発表者名	テ　ー　マ
6月14日～6月15日	第15回日本クリティカルケア看護学会学術集会	ICU	村中烈子	パネルディスカッション「未来に向けて、特定行為研修制度の課題を考察する」
6月29日	日本静脈経腸栄養学会近畿支部学術集会	4東	川原毅得	KTBCで摂食嚥下患者の全体像を可視化しチームアプローチを行った１例
9月1日	手術室学会	ICU	萩原美香	腹腔鏡下手術における手術野消毒液と手術部位感染に関する検証
9月5日～9月6日	日本災害看護学会第21回年次大会	外来・ER	鴨木沙織	停電時災害訓練実施後の結果と課題
11月9日	第56回日本糖尿病学会近畿地方会	外来・ER	藤井安希子	

4階東 146
5階西 146
5階東 147
6階西 147
6階東 147
7階西 148
7階東 148
8階西 148
8階東 149
ICU 149
HCU 150
外来・ER 150
手術室 151
透析室 151
退院調整 152
がん相談 152
保健指導 152

委　員　会

―― 2019年 ――

49）呼吸ケアチーム（RST）　164
50）院内感染対策委員会（ICT）　165
51）褥瘡対策委員会　168
52）研修管理委員会　169
53）栄養サポートチーム（NST）　173
54）緩和ケアチーム　175
55）がん緩和支援委員会　176

49）呼吸ケアチーム（RST）

リハビリテーション科　難波　智矢

呼吸ケア 164
院内感染 165
褥瘡対策 168
研修管理 169
栄養サポ 173
緩和ケア 175
がん暖和 176

1. 概要

ICU 専従 PT を配置した全症例への介入により入院 24 時間以内での早期介入と早期離床が実現。それに伴って新規患者数は増加。看護師や臨床工学技士と連携を図り安全面に配慮しながら早期離床を実践。呼吸器外科術後の運動療法も積極的に行っている。慢性呼吸不全に対する HOT 調整・導入も昨年同様に実施しており急性期から在宅までの一貫した呼吸リハビリテーションを提供している。

2. メンバー構成

医師	原田博雅、石原英樹、濱口眞成、文元聰志、北田清悟
看護師	村中烈子、鴨木沙織
臨床工学技士	藤田和睦、藤村篤志、杉山真一、向井砂帆、長谷川弘将、岡本誠人 鄧淦芸、野間康平、三原寿之、松村遙、玉城賞、吉村有梨奈
理学療法士	難波智矢、片田理恵、中村竜大、小西正修

3. 実績

呼吸リハチーム対象

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	平均
患者数	656	724	702	682	654	671	607	578	545	595	599	618	635.9167
単位数	1,086	1,036	881	896	813	812	791	798	728	848	764	805	854.8333

呼吸ケア加算対象

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	合計
患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4. 今後の目標

・術前呼吸リハの充実

・呼吸ケア加算の算定件数の増加

50）院内感染対策委員会（ICT）

感染対策室室長　渋谷　豊克

1. 概要

【八尾徳洲会総合病院　感染管理指針】

第１　医療従事者全員が、感染症に対する正しい認識を持ち、倫理的配慮に考慮した感染防止対策を実施します。感染対策を充実させることで、患者様が安心して医療を受けられる病院を目指します。

第２　病院長を中心に、積極的な感染対策を実施するとともに、技術的事項等を常に検討し、院内各部門への情報共有を図ります。全ての職員に対し、組織的対応の指示や、教育を行い、感染対策マニュアルに基づいて、手洗いの徹底など根拠のある感染防止対策に努めます。

第３　感染が疑われる事例が発生した場合には、速やかに対策を講じ、介入を図ります。また、重大な感染事例や集団発生の場合には、発生の原因を究明し改善策を立案します。これを実施するために、全職員への周知徹底を図ります。必要な場合には、行政などへ協力を依頼し、迅速な対応を図ります。

第４　近隣の医療・介護・福祉機関や行政と共に、地域完結型医療の一環として地域の感染制御を支援していきます。また感染における安全な在宅医療を提供していきます。

2. メンバー構成

・院内感染対策委員会

病院長、看護部長、事務部長、薬局長、検査技師長、その他

職種：医師、看護師、事務員、臨床検査技師、薬剤師、管理栄養士、臨床工学技師、理学療法士、放射線技師、保育士

・感染対策室

専従配置：看護師１名（感染管理認定看護師、第一種衛生管理士）

専任配置：医師２名（ICD）、薬剤師３名（感染制御認定薬剤師）、臨床検査技師２名、看護師４名

・ICT（感染対策推進チーム）

職種：医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師、管理栄養士、臨床工学技師、理学療法士、放射線技師

・ICTリンクナース

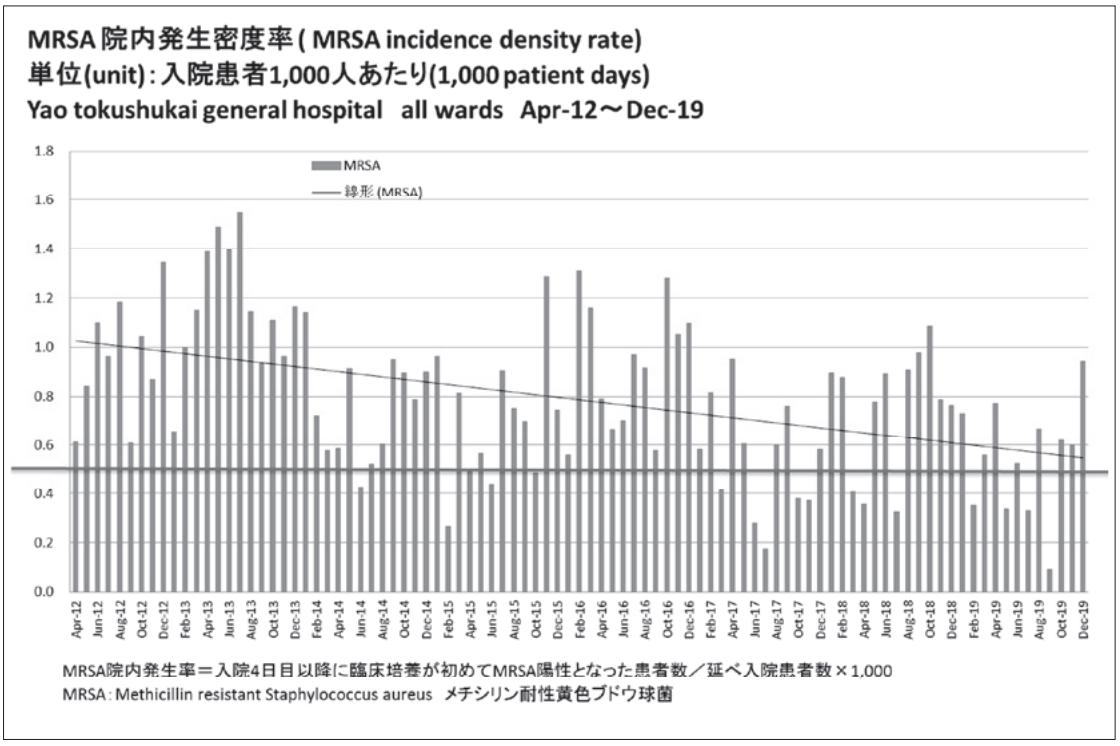
病棟看護師、外来看護師、手術室、透析室

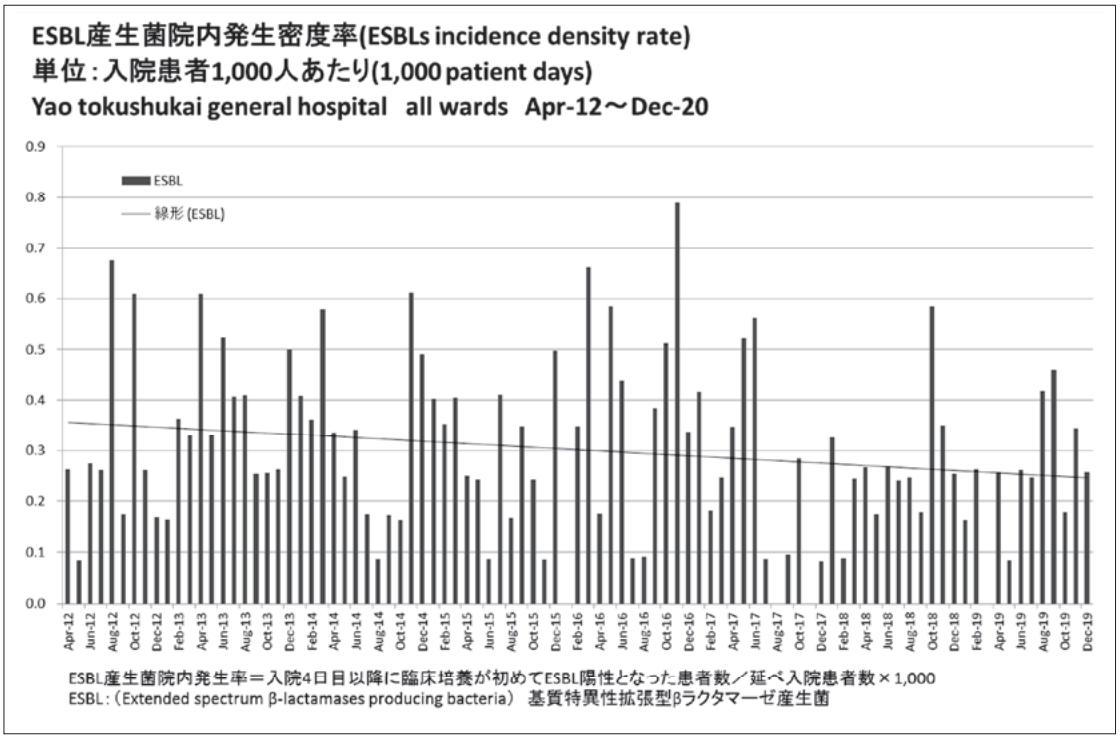
呼吸ケア 164
院内感染 165
褥瘡対策 168
研修管理 169
栄養サポ 173
緩和ケア 175
がん暖和 176

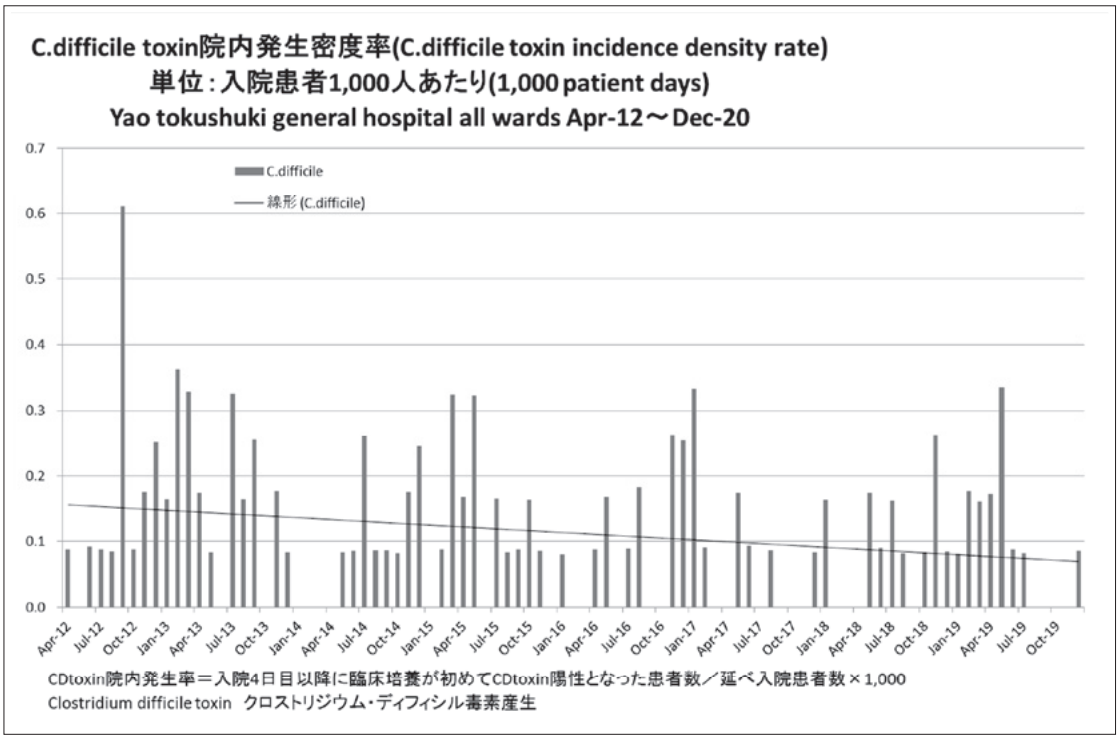
3. 実績

項目	内容
感染管理システム 地域連携	①河内地域感染管理ネットワークによる毎月の例会開催 ②中河内感染防止対策協議会への参画 感染防止対策 1－2 連携：東朋八尾病院　松原・東大阪徳洲会 地域連携（1－1 連携）：八尾市立病院　医真会八尾病院　野崎・吹田徳洲会 ③徳洲会グループ　感染管理部会　72 施設連携
感染管理教育	①院内感染対策講習会開催：年 3 回 不参加者への伝達講習会、e-ラーニング導入 ②新人研修開催 ③徳洲会グループ　関西・大阪ブロック感染管理セミナー開催：1 回 ④ ICT ニュース発刊：年 16 回 ⑤院内認定制度　感染管理看護師（ICN）育成　1 名
サーベイランス	①河内地域・徳洲会グループ：耐性菌サーベイランス ②厚生労働省サーベイランス（JANIS）：検査、手術部位、ICU、全入院 ③日本環境感染学会サーベイランス（JHAIS）：SSI 部門 ④日本看護協会　DiNQL 事業参加 ⑤プロセスサーベイランス：手指衛生、環境衛生、ケアバンドル ⑥デバイス（CABSI、CAUTI）サーベイランス
感染防止技術	①徳洲会グループ　手指衛生キャンペーン開催
職業感染対策	①入職時健診：HBV、HCV、麻疹。風しん、水痘、ムンプス、T-SPOT ②ワクチン接種：HBV、麻疹、風しん、水痘、ムンプス、インフルエンザ ③労働安全衛生委員会との連携
ファシィリティ・マネジメント	①栄養科職員のノロウイルス検査の実施 ②空調清掃 ③院内洗濯機、委託選択の見直し

【成果指標】







4. 今後の目標

上記概要記載の感染管理指針に準拠した上で、適時行政機関から発表される情報等も含めて情報収集に努め、状況に応じた対応を取り、万全を期したいと考えております。

51）褥瘡対策委員会

形成外科部長　綾部　忍

呼吸ケア　164
院内感染　165
褥瘡対策　168
研修管理　169
栄養サポ　173
緩和ケア　175
がん暖和　176

1. 概要

当院は 2002 年 2 月より褥瘡対策委員会を発足しています。医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・医事課で構成され、毎週 1 回の回診を行い、それぞれの専門的な知識や技術を出し合って効果的・効率的な褥瘡予防・治療を目指しています。

2. メンバー構成

医　　師：　綾部忍、津本惇平、谷畑充梓、橋本昌也
看　護　師：　柴山智賀子、乾恵美、河畑美香
管理栄養士：　古澤千波、岸本真悠
薬　剤　師：　山本倫数、森田幸男、山田直輝
理学療法士：　山本友里
事　　務：　柏山文成、川上祐理

3. 実績・今後の目標

さらにきめ細かいケアを行うため、看護部各部署にリンクナースを配備しています。

院内勉強会や高機能エアマットレスの整備を行い、褥瘡の予防に努めるとともにドレッシング材や NPWT（陰圧閉鎖療法）などを駆使した保存的治療や皮弁手術も行っています。

また学会発表も積極的に行っています。

52）研修管理委員会

研修管理委員長　原田　博雅（院長）
プログラム責任者　髙原　良典（内科医長）

1. 概要

当院は厚生労働省指定の基幹型臨床研修病院として初期臨床研修医の育成を行っています。また、大阪市立大学医学部附属病院たすきがけ臨床研修プログラムの協力型臨床研修病院としても臨床研修医の指導にあたっています。

プライマリ・ケアと救急医療を中心に、数多くの症例を経験することで総合的な臨床能力をもった医師の育成を目指しており、集中治療から在宅医療まで幅広く経験できる環境です。

2019 年 10 月には創立 41 周年を記念し、研修医同窓会を初めて開催しました。1980 年から 2019 年に当院で臨床研修を修了した 154 名のうち 51 名が参加、院内スタッフ含め総勢 82 名が集い、年度を越えた縦の繋がりを深める有意義な会となりました。

また、当院は 2013 年より第三者による評価として JCEP（NPO 法人卒後臨床研修評価機構）の認定を受けており、2019 年 11 月に 3 回目の訪問調査を受審しました。「恵まれた研修環境の下で臨床研修に真剣に取り組んでおり、研修医の満足度の高い研修を享受できている」との好評価を受けました。今回の受審では課題についても再確認でき、今後より一層の体制強化および質向上に努めます。

専門研修プログラムにつきましては基幹施設として内科、外科、総合診療科が認定を受けています。さらに連携施設として整形外科、脳神経外科、形成外科、麻酔科、救急科、泌尿器科、放射線科、眼科、病理診断科領域で、大学病院や各徳洲会グループの施設と連携を取りつつ当院の特色を生かし初期研修から専門研修へとシームレスな移行が出来るよう企画・運営を行っています。

2. メンバー構成

研修管理委員長：原田博雅（院長）　　プログラム責任者：髙原良典（内科医長）
事務責任者：竹原浩二（事務部長）
外部委員：2 名（菊池内科　菊池 博院長、医療法人幸晴会　常務理事　玉田 浩氏）
委員：52 名（内訳　院内医師 12 名、看護部・コメディカル 11 名、協力施設医師 29 名）

3. 実績

1）初期研修医・後期研修医の受入れ

・初期臨床研修

1 年次：5 名（内たすきがけ研修医 1 名）　　2 年次：5 名

2019 年度は他施設での研修中断者 1 名の研修再開を受入れバックアップ

・後期研修医・専攻医

連携施設として受入れ

大阪市立大学脳神経外科専門研修プログラム：1 名

大阪市立大学形成外科専門研修プログラム：2 名

大阪医科大学眼科専門研修プログラム：1 名

呼吸ケア 164
院内感染 165
褥瘡対策 168
研修管理 169
栄養サポ 173
緩和ケア 175
がん暖和 176

星ヶ丘プライマリケア連合学会後期研修プログラム：1 名

星ヶ丘医療センター総合診療専門研修プログラム：1 名

2）勉強会・カンファレンス等

《 医局発表 》 Grand Round

毎週金曜日 AM8:10 から学会形式の医局発表を行っています。

初期研修医の発表練習の場として開催しています。 （※は初期研修医による発表）

発 表 内 容	開 催 日
悪性症候群の一例（※）	1 月 4 日
開放骨折治療の一例（※）	1 月 11 日
高齢者糖尿病のマネジメント －当院への救急搬送例から－	1 月 18 日
急性の全身脱力をきたした 70 代女性の一例（※）	2 月 1 日
びまん性肺胞出血症候群（※）	2 月 8 日
散歩中の腹部打撲が小腸穿孔に至った一例（※）	2 月 15 日
みなさんに知っておいていただきたい呼吸器疾患に関することその 2 －酸素について－	2 月 22 日
電解質異常を伴う反復性嘔吐をきたした 15 歳男児の一例（※）	3 月 1 日
レゴラフェニブを使用した一例（※）	3 月 8 日
重症インフルエンザ肺炎の一例（※）	3 月 15 日
右半身麻痺を主訴に来院した 80 代女性の一例（※）	3 月 22 日
暑気中り（夏ばて）、熱中症の一因としての潜在性（不顕性）副腎不全	4 月 5 日
昨今の癌免疫療法に伴う重症免疫関連合併症について ER、当直医が知っておくべきこと	4 月 12 日
当院における糖尿病チーム医療（外来編）	4 月 26 日
急性期 NPPV 療法～ ER・病棟急変での初期対応～	5 月 10 日
化膿性屈筋腱々鞘炎の一症例	5 月 17 日
新専門医制度について	5 月 24 日
ICU 管理となった生来健康な 18 才の男性（※）	6 月 7 日
腸閉塞をきたした小腸憩室細胞腫の一例（※）	6 月 14 日
3 系統血球減少を伴った大球性貧血の症例（※）	6 月 21 日
全身の紫斑を主訴に来院した血小板減少症の一例（※）	6 月 28 日
救命センターでの 2 年間の研修を経て	7 月 5 日
発熱 頭痛を主訴に救急外来を時間差で受診した若年男性の 2 例（※）	7 月 12 日
糖尿病性足病変の治療	7 月 19 日
離島僻地研修を終えて（※）	8 月 9 日
尿管結石を契機に腎盂外溢流を呈した一例（※）	8 月 16 日
頭部外傷 beyond the resident	8 月 23 日
ER で経験した急性咽頭蓋炎（※）	8 月 30 日
クリーゼで発症した重症筋無力症の一例（※）	9 月 6 日
不明熱を主訴に来院した壊死性リンパ節炎の一例（※）	9 月 13 日
診断に苦慮した水頭症の一例（※）	9 月 20 日
低 Na 血症についての考察（※）	10 月 11 日
顎骨骨髄炎の外科治療に対して Concentrated Growth Factors を使用した症例	11 月 8 日
副腎皮質と髄質に機能的関係は存在するか	11 月 15 日
急性腎障害の一例（※）	11 月 22 日
結腸癌後に発生しその後増大した FNH の一例（※）	12 月 13 日
敗血症治療における初期蘇生と循環作動薬について（※）	12 月 20 日
発熱と筋肉痛を主訴に来院した 60 歳男性	12 月 27 日

《臨床病理検討会》

（※は初期研修医による発表）

演　　題	開 催 日
重複癌（悪性リンパ腫と肺癌）治療中に腎盂炎を合併し突然死した症例	2 月 8 日
ER 初診時に癌性腹膜炎、骨髄癌腫瘍、進行膵癌を疑われ、入院後に急速に進行し短時間で死亡した症例（※）	3 月 1 日
肝内胆管癌の術後、肝性脳症を繰り返し突然死した一例（※）	4 月 26 日
呼吸状態増悪のため入院し、その後死亡した肺腺癌、多発肝転移 terminal stage の 40 歳代女性の一例（※）	5 月 24 日
胃癌術後心破裂により急死した一例	6 月 28 日
貧血の進行を認めたが、諸事情にて侵襲的検査を行えず急変を迎えたインフルエンザ A 型合併肺炎の症例	8 月 23 日
手術を行わなかった大腸穿孔の一例（※）	9 月 27 日
Stage Ⅳの非小細胞性肺癌に対して、Pembrolizumab を使用したが、化学療法を行うべきであった一例（※）	10 月 25 日
腹腔鏡下幽門側胃切除に真菌血症、腹腔内膿瘍を来たし死亡した一例（※）	11 月 22 日
治療に抵抗性を示した ALK 転座陽性肺癌の一例	12 月 27 日

《勉強会》

招聘カンファレンス・勉強会	開　催　日
藤村 治先生（UCLA 循環器科教授）	2月 21･22日
清田 雅智先生（飯塚病院 総合診療科）	7月 6日
Dr.　Lo, Tze Shien（ファーゴ VA 医療センター感染学教授）	10月 16･17日
合同研修会等	開　催　日
徳洲会グループ 1 年次研修医中間研修会	1月 19･20日
JMECC 講習会	3月 16日
徳洲会グループ 1 年次研修医合同オリエンテーション	6月 1･2日
徳洲会グループ 2 年次研修医中間研修会	6月 29･30日

※その他、院内で勉強会を定期開催、院外の合同カンファレンスにも参加・発表をしています。「大阪市立大学プライマリ・ケア合同カンファレンス」「大阪西の方 GIM カンファレンス」など

3）各種講習会への参加支援

ICLS、ACLS、BLS をはじめ緩和ケア研修会、JATEC、災害・外傷初期診療研修会や TNT 研修会など、各種講習会への参加を奨励し費用の負担などを行っています。

4）研修医の主な卒業大学

大阪大学、奈良県立医科大学、徳島大学、鳥取大学、香川大学、島根大学、兵庫医科大学、大阪市立大学、名古屋市立大学、関西医科大学、琉球大学、金沢大学、金沢医科大学、大阪医科大学、近畿大学、秋田大学、富山大学、京都大学など。

研修医の出身大学も多岐にわたっています。学閥にとらわれない開かれた医局が特徴です。

4. 今後の目標

・初期臨床研修医の安定した受け入れ、および専攻医採用に力を注ぐ
・研修医のインシデント・アクシデント報告意識を高める等の医療安全体制の確立
・研修医の学会発表を増やす
・研修医による地域住民に対する医療講演会
・研修環境のさらなる改善・向上に努める

呼吸ケア 164
院内感染 165
褥瘡対策 168
研修管理 169
栄養サポ 173
緩和ケア 175
がん暖和 176

53）栄養サポートチーム（NST）

NST 委員長　木村　拓也

1. 概要

栄養サポートチーム（以下、NST）は特別な栄養管理を必要とする入院患者様を対象に通常の食事だけでなく静脈栄養、経腸栄養も含む全ての栄養療法における適切な栄養管理･評価･提案を行い、1 日でも早く良好な栄養状態に改善できるように活動している。

2019 年度は NST 教育認定施設としてグループ病院からの研修生受け入れ、TNT 研修受講者の増員、院内の希望者に対する臨床実習を積極的に行ってきた。また定期的に院内勉強会の開催や症例検討会も実施し、栄養管理に従事するスタッフの質の強化にも努めている。

また、今年度よりローテーションで各病棟 NST リンクナースもカンファレンスに参加し、対象患者様の情報提供や栄養治療の方針を共有してより効率のよいアセスメントを実施している。

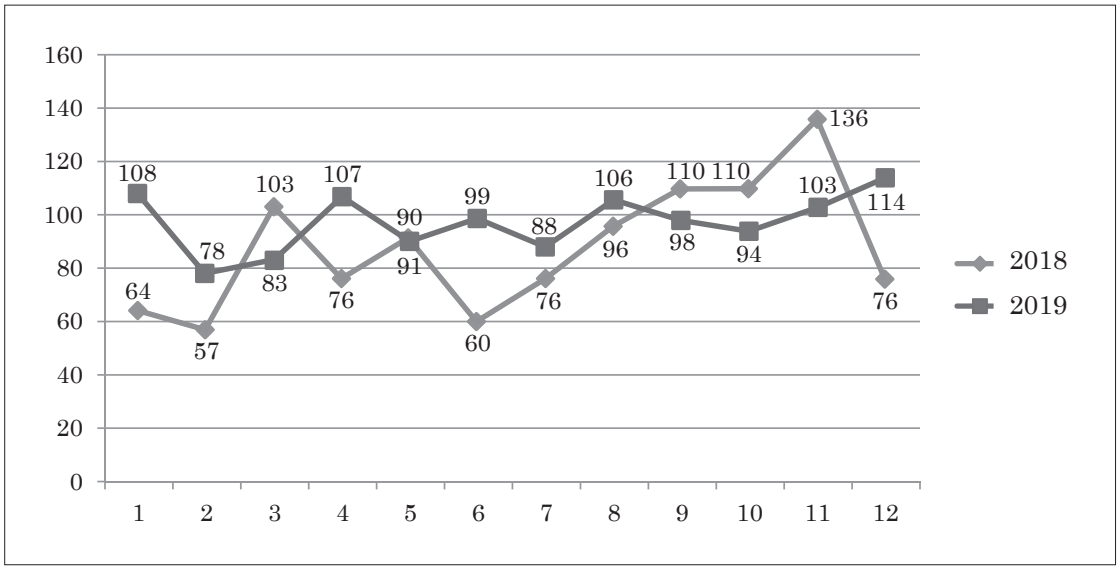
さらに、JCI 受審に伴い、よりエビデンスが確立されたスクリーニングを実施するため英国スクリーニングツール「MUST」をもとに NST 介入対象となる基準を見直した。それによって栄養評価のタイミングは入院時、3 日後、手術後食事開始時、NST カンファレンス・回診時と従来よりも短いスパンとなり､よりきめ細やかな栄養治療計画を作成できると考えている。

2. メンバー構成

医師	4 名（内 NST 認定医 1 名、TNT-D 受講医 3 名）	臨床検査技師	2 名
看護師	14 名（リンクナース含む）	摂食嚥下認定看護師	1 名
薬剤師	6 名（内 NST 専門療法士 2 名）	言語聴覚士	2 名
管理栄養士	2 名（専従 1 名、NST 専門療法士 1 名）		

3. 実績

≪ NST 加算件数≫



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
2018	64	57	103	76	91	60	76	96	110	110	136	76	1,055	87.9
2019	108	78	83	107	90	99	88	106	98	94	103	114	1,168	97.3

昨年と比較し、総件数は＋ 113 件、月平均＋ 9.4 件の増加となっている。

4. 今後の目標

・教育、研修

専任スタッフの育成、院内での栄養療法に関する研修などを積極的に行い、職種問わず栄養管理に興味を持って頂けるような活動を継続的に行っていく予定であり、主な内容としては院内全スタッフへの栄養療法に対する啓蒙活動の一環として、NST ポケットブックの改訂や栄養補助食品の試食会の開催などを検討している。

・研究、発表

定期的な症例検討会の実施、日本静脈経腸栄養学会や日本病態栄養学会など地方・全国学術集会での演題発表を行い、培った知識や技術を患者様に還元できるよう日々研鑽に努める。

・複数チーム化による加算件数アップ

各部署の NST メンバー増員による複数チーム回診を実施し、NST 加算件数及び診療報酬のアップを図る。

呼吸ケア 164
院内感染 165
褥瘡対策 168
研修管理 169
栄養サポ 173
緩和ケア 175
がん暖和 176

54）緩和ケアチーム

看護師長 / がん性疼痛看護認定看護師　松本　静香

1. 概要

大阪府がん診療拠点病院に緩和ケアチームの設置が義務づけされています。当院の緩和ケアチームは、診療科医師（外科・内科・麻酔科・心療内科）、がん性疼痛看護認定看護師、薬剤師、作業療法士、臨床心理士、管理栄養士の多職種で患者様の苦痛を少しでも緩和できるようサポートしています。主に、入院患者様が対象ですが、予後予測ツールを用いて、残された時間を大切に過ごして頂くために在宅への調整や退院後の緩和ケア外来でもサポートしています。

治療が困難になった終末期の患者様だけでなく、がんと診断された早期の段階から患者様とそのご家族様の身体的、精神的苦痛を和らげる事ができるよう活動しています。

2. メンバー構成

医師：垣本佳士、髙原良典、池下和敏、杉本貴美子
看護師：松本静香（がん性疼痛看護認定看護師）
薬剤師：里岡達哉、山田直輝、青山瑛里子
公認心理士：朴祐希
作業療法士：黒川湧哉、梅崎大貴
管理栄養士：小山洋史、藤田春菜、斉藤朝美

3. 実績

《暖和ケアチーム介入件数》

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数	平均
24	34	35	19	38	28	33	39	33	14	2	23	322	26.83

《がん種別介入件数》

肺	胃	大腸	膵	肝	胆管（胆嚢含）	乳	前立腺	その他
12	19	12	8	7	8	2	2	42

《院内暖和ケア研修会》

開催日	講演1	講演2	参加者
6月6日	痛みのスクリーニング	緩和ケアにおける精神的支援	69名
6月6日	緩和ケアチームの紹介	痛みの薬のお話	60名
9月5日	精神的支援について	身体的支援について	44名

4. 今後の目標

厚生労働省のACP「人生会議」が行えるよう、がんと診断された患者様とその家族様の支援を行っていく。PEACE研修会、院内緩和ケア講習会の開催や中河内緩和ケアカンファレンスに参加し、院内外での緩和ケアの啓蒙活動を継続して行っていく。

55）がん緩和支援委員会

看護師長 / がん性疼痛看護認定看護師　松本　静香

呼吸ケア　164
院内感染　165
褥瘡対策　168
研修管理　169
栄養サポ　173
緩和ケア　175
がん暖和　176

1. 概要

がん診療に関し診療密度の高い医療を提供し、大阪府がん診療拠点病院として指定要件を満たすことを目的とする。がん患者様とご家族様の QOL を向上させるために、がんの全ての病期、治療過程において出現する身体的、心理的、社会的、スピリチュアルな問題に対し、積極的、継続的かつ総合的な緩和ケアを提供するための体制づくりを目的として、がん緩和支援委員会（以下「委員会」という）を設置している。

2. メンバー構成

委員長：	外科医師	垣本佳士（緩和ケア研修指導者）
事務局長：	看護部	松本静香（がん性疼痛看護認定看護師）
書記：	作業療法士	黒川湧哉、梅崎大貴
委員：	麻酔科医師	池下和敏（緩和ケア研修指導者）
	内科医師	髙原良典（緩和ケア研修指導者）
	心療内科医師	杉本貴美子
	薬剤部	里岡達哉
	看護部	井本ユミ
	医事課	西田美帆
	心理療法士	朴祐希
	管理栄養士	小山洋史
	MSW	三谷勇一

3. 実績

《がん指導管理料》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数	平均
がん指導管理料1	5	5	1	8	2	5	1	7	3	3	7	5	52	4.33
がん指導管理料2	2	1	0	0	0	0	2	1	0	0	3	1	10	0.83
がん指導管理料3	11	8	8	17	18	17	12	21	24	17	14	18	185	15.42

≪スクリーニング件数≫

	総数	Dr/Ns	MSW	サービス	なし
化学療法	115	10	12	13	90
外来	53	15	6	8	33
放射線治療	117	26	14	24	72
合計	285	51	32	45	195

≪がん地域連携パス件数≫

	胃がんF	胃がんケモ	大腸がんF	大腸がんケモ	乳がん	肺がん	緩和パス
適応件数	24	0	40	1	0	4	0
実施件数	18	0	34	0	0	3	0

4. 今後の目標

大阪府がん拠点病院の役割を遂行していくため、中河内圏域でがん相談支援部会、緩和ケア部会に参加し活動している。また、PEACE 研修会、中河内緩和ケアカンファレンスなど院外研修にも積極的に参加している。緩和ケアチーム、がん相談、緩和ケア外来、それぞれが協力し継続した支援が行えるよう努めていきたい。

関　連　施　設

―― 2019年 ――

56）八尾徳洲会介護センター　180
57）よろこび訪問看護介護センター　183
58）よろこび訪問看護ステーション　184
59）介護老人保健施設 八尾徳洲苑　187
60）八尾徳洲苑介護センター　197
61）特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷　199

56）八尾徳洲会介護センター

管理者　矢竹　千津栄

介護セン 180
よろこび 訪問看護介護 183
よろこび 訪問看護ステ 184
徳洲苑 187
徳洲苑 介護セン 197
特養久宝寺 愛の郷 199

1. 概要

2020 年は介護保険制度が創設され、ケアマネージャーが誕生して 20 年の節目を迎えます。その間、社会や制度の変遷と共に、果たす役割も非常に大きくなってきました。その反面置かれている立場や環境は、介護職のキャリアパスの上位にも関わらず、処遇の乖離など厳しくなっている面があり、担い手が激減しています。当事業所も 1 名退職し、特定事業所加算を取り下げ、2 名体制のままとなっています。厚生労働省の試算では、担当件数に上限のある居宅介護支援は常勤換算 3.5 人かつ特定事業所加算を算定し、何とか黒字化できるとしています。

今こそ真価が問われる時と捉え、積み上げてきた実践を普遍化し、知を継承し、「あたりまえの生活」を守る技術とその価値を後続につなげていきたいと思います。

2. メンバー構成

矢竹千津栄（主任介護支援専門員）、井澤瞳（主任介護支援専門員）、
佐藤貴子（介護支援専門員）

3. 実績

1）業務実績

《介護度別人数》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
要介護1	18	17	16	14	15	15	12	12	12	10	10	9	160
要介護2	36	37	33	32	33	31	32	31	30	21	21	20	357
要介護3	20	22	23	23	22	23	23	20	21	19	18	16	250
要介護4	11	12	12	12	15	13	13	11	10	11	10	10	140
要介護5	14	12	18	16	17	14	10	11	11	9	10	10	152
利用者合計	99	100	102	97	102	96	90	85	84	70	69	65	1,059

《加算》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
初回加算	5	4	0	3	2	1	0	0	0	0	2	0	17
入院時情報連携加算(I)	4	7	9	5	7	8	4	5	2	2	5	4	62
入院時情報連携加算(II)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退院･退所カンファレンス無(I1)加算	0	0	1	1	1	0	1	2	0	0	0	0	6
退院･退所カンファレンス無(II1)加算	0	1	3	3	3	0	0	0	0	1	1	1	13
退院･退所カンファレンス有(I2)加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退院･退所カンファレンス有(II2)加算	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
退院･退所カンファレンス(III)加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ターミナルケアマネジメント加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小規模多機能連携加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
看護小規模多機能連携加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緊急時等居宅カンファレンス加算	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
加算合計	10	12	13	12	13	9	5	7	2	3	8	5	99

《業務量》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
モニタリング訪問	100	104	104	105	106	97	91	86	86	71	70	67	1,087
サービス担当者会議	13	18	24	16	23	9	8	12	6	11	13	7	160
認定調査	1	11	14	12	6	11	6	8	7	0	1	0	77

2）研修

・法定研修

5/9、5/25、6/7、7/4、8/17、9/9、9/26、10/9　主任介護支援専門員更新研修／井澤

・大阪府各市町村主催の研修・連絡会

2/27、3/27　2018 年度　介護給付適正化事業における「居宅介護支援事業者向け研修」
アセスメント（課題分析）の理解と実践、居宅サービス計画作成とモニタリング／井澤

5/23　2019 年度　介護保険制度における指定介護保険事業者集団指導／矢竹

・八尾市介護保険事業者連絡協議会

1/29　2018 年度　第 3 回　居宅介護支援事業者部会　定例会
「介護給付適正化について」、「総合事業の多様なサービスについて」、「訪問介護事業所に対する自立支援に関するアンケート結果について」、「運営上の留意点～実地指導で指導の多かったこと～」／矢竹

2/19　2018 年度　八尾市介護保険事業者連絡協議会総会・研修会
「アンガーマネージメント」～介護現場での「イライラ」と「怒り」のコントロール～／矢竹、佐藤

2/21　居宅サービス事業者部会　研修会　認知症について／井澤

2/28　2018 年度　第 3 回　第 3.4 圏域合同研修会
八尾市内における大阪しあわせネットワーク生活困窮者レスキュー事業について
無料低額診療事業について
やさしさは「見えない薬」患者と家族に寄り添う在宅医療／佐藤

6/18　2019 年度　八尾市介護保険事業者連絡協議会　総会・研修会
「終末期をどのように見守るのか？どう見送るのか？」／佐藤

6/28　居宅介護支援事業者部会　定例会　「自立支援について」／井澤

11/6　居宅サービス事業者部会　研修会
～ GPS や徘徊感知器を活用した見守り介護の現在とこれから～／井澤

11/13　居宅介護支援事業者部会・居宅サービス事業者部会　合同研修会
訪問看護、予防訪問看護の導入と運用方法について／井澤

・大阪介護支援専門員協会

7/8　八尾支部研修会「精神障害者の在宅支援について」
～ケアマネージャーと精神保健福祉士の連携を目指して～／矢竹

7/26　日本ケアマネジメント学会／大阪介護支援専門員協会　八尾支部　研修会
「多職種で支えるケアマネジメントとは」／矢竹

11/1　八尾支部研修会　「人生の最期を迎える本人、家族へのかかわり」　～聴く力～／矢竹

介護セン 180
よろこび 訪問看護介護 183
よろこび 訪問看護ステ 184
徳洲苑 187
徳洲苑 介護セン 197
特養久宝寺 愛の郷 199

・学会参加

3/23、24　一般社団法人　日本介護支援専門員協会
第 18 回　近畿ブロック研究大会　奈良大会
～縁（えにし）を結ぶケアマネジメント～
地域共生社会における介護支援専門員の専門性と役割を考える／矢竹、井澤、佐藤

・法人内

6/15　管理者研修　段取り研修　～管理職としての基本的マネジメントスキルを理解する／矢竹
12/23　八尾徳洲苑　勉強会　身体拘束・高齢者虐待について／井澤
12/25　八尾徳洲苑　勉強会　学会発表支援プログラム　報告会、プライバシー保護／矢竹

・事業所内

[疾患別研修]
1/10、2/14、3/19、4/11、5/14、6/13、7/11、8/8、9/19、10/10、11/14、12/12
[認知症研修]
2/22、4/18、6/21、8/22、10/17、12/19
[事例研究]
1/18、3/14、5/16、7/18、9/5、11/21
[症例検討・報告・情報提供・伝達研修]
1/30、2/7、3/2、4/2、4/25、5/10、5/30、6/6、7/1、8/2、8/29、9/27、12/7

・その他

1/16　元大阪市介護保険担当が行う介護事業者向けセミナーⅡ
居宅サービス計画と個別サービス計画書の整合性
～ケアプランと個別サービス計画の整合性と連動性を考える～／井澤
1/20、3/9　2018 年度　スーパーバイザー養成講座　in 大阪　応用編／井澤
3/2　第 16 回　布施緩和ケア研修会　総会
苦しむ人にあなたは何ができますか　－ホスピスケアから学ぶ関わり方のヒント－／矢竹
3/2　認知症疾患医療センター　研修会
「かかりつけ医のための認知症診断と治療　～薬物療法を中心に～」／佐藤
5/14　2019 年度　大阪府委託民間事業者社会福祉研修
「介護サービス事業所の管理者に求められる役割とリーダーシップ」／矢竹
12/4　第 13 回「ジャカランダの会（地域包括支援センター長生園勉強会）」
見て学ぶ事例検討会／井澤

4. 今後の目標

1 名採用により、特定事業所加算Ⅲの再取得を目指します。

57）よろこび訪問看護介護センター

管理者　宮崎　美子

1. 概要

2019 年のよろこび訪問看護介護センターは、4 月に常勤 1 名徳洲苑へ異動となり、常勤 2 名、非常勤 3 名になり 5 名体制になりました。

選ばれる事業所を目指し職員の質の向上の為、研修及び職員会議を開き、利用者様のケアの話を中心に介護職としての意識を高める会議にしています。

また、職員同士が意見し合える風通しの良い環境を作ることに努めています。

今後も利用者様、ご家族様に喜んで頂ける事業所になるよう努力して参ります。

2. メンバー構成

管理者：宮崎　美子

サービス提供責任者：三島　麻美（介護福祉士）

訪問介護員（常　勤）：宮崎　美子（兼務）、三島　麻美（兼務）

（非常勤）：徳永　秀美、星川　順華、中西　順子

3. 実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
登録者	30	29	27	29	27	26	27	25	26	27	26	27	326	27.2
訪問件数	237	249	283	292	317	280	261	258	275	253	236	226	3,167	263.9
重度利用者率	69.4%	75.5%	72.1%	70.9%	67.4%	54.0%	52.7%	78.3%	68.4%	74.5%	76.0%	73.9%		69.5%
新規利用者	1	1	0	3	0	0	1	1	2	2	0	1	12	1.0
終了者	2	1	1	2	1	0	2	2	2	1	1	0	15	1.3

研修・行事

1 月 24 日	訪問介護計画書やモニタリングの実践 方法についての講議及び実習	三島麻美
2 月 19 日	八尾市介護保険事業者連絡協議会	三島麻美
3 月 13 日	訪問介護計画書やモニタリングの実践 方法についての講議及び実習	三島麻美
3 月 15 日	介護現場での「イライラ」と「怒り」コントロール	徳永秀美
8 月 5 日	訪問介護グループ合同研修	宮崎美子
12 月 20 日	様々な人権問題について考える	宮崎美子
12 月 11 日	認知症の人の家族への支援	徳永秀美

4. 今後の目標

・より良い介護サービスを実施します。

・特定事業所加算Ⅱからさらなるレベル UP を目指します。

・利用者様、居宅支援事業者からの依頼を断らないことを目指します。

・職員の「質の向上」のための研修に積極的に参加します。

58）よろこび訪問看護ステーション

管理者　森　浩子

介護セン 180
よろこび 訪問看護介護 183
よろこび 訪問看護ステ 184
徳洲苑 187
徳洲苑 介護セン 197
特養久宝寺 愛の郷 199

1. 概要

大阪府内の訪問看護ステーションが１万箇所を超え、八尾市内も 30 箇所以上になった。そのうち半数以上が営利団体経営のステーションである。医療機関との連携が推進されているが、連携のしやすい施設間でグループができており、医療法人のステーションの運営自体を再考する必要性を感じる年となった。

当ステーションも長年病院の地域医療部として往診、訪問していた部署を支所として６月より５名を迎えることになった。スタッフが一気に増えて人件費率が急増し、一時は大赤字となってしまったが、病院各部署のご協力と、スタッフの努力により黒字化を図ることができた。

2. メンバー構成

管理者：森　浩子

看護師（常　勤）：森　浩子、見崎　加奈、中澤　陽子

６月より入職／須賀　明美、長谷川　由紀子、佐藤　晶代、吉村　理恵、小西　賀洋子

看護師（非常勤）：辻本　由加里

理学療法士（常　勤）：１月退職／黒田　涼平、２月入職／松本　龍也

事務員：３月退職　新安　弘和、２～８月　河合　右子、新入職／７月～中橋　照子

3. 実績

《訪問看護》

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
利用者	50	48	50	51	53	93	97	107	121	117	128	128	1,043	86.9
訪問件数	372	347	383	446	432	623	713	841	861	916	899	891	7,724	643.7
新規導入者	1	2	5	5	6	4	6	21	23	15	16	15	119	9.9
終了者(その他)	3	3	4	3	2	7	5	6	9	13	7	15	77	6.4
終了者(死亡)												1	1	0.1

《研修及び行事》

１月 10 日　八尾市介護保険事業者連絡協議会居宅サービス幹事会（森）

１月 19 日　皮膚の病態を有する在宅療養者のケア（辻本）

１月 24 日　八尾市介護保険事業者連絡協議会居宅サービス役員会（森）

２月 19 日　平成 30 年度八尾市介護保険事業者連絡協議会　総会・研修会（森）

２月 21 日　八尾市介護保険事業者連絡協議会居宅サービス部会研修会（森）

２月 26 日　八尾市介護認定審査会運営委員会（森）

３月　７日　大阪府在宅医療移行支援事業：東大阪医療センター（中澤）

３月　９日　緩和ケア人材育成研修：八尾市立病院（中澤・森）

３月 19 日　平成 30 年度八尾市多職種連携研修会（見崎）

３月 25 日　平成 30 年度八尾市地域包括支援センター運営協議会（森）

4月18日　八尾市介護保険事業者連絡協議会居宅サービス部会幹事会（森）
4月24日　喜馬病院リハビリ研修（松本）、中河内看看連携会議・研修（森）
4月26日　八尾市介護保険事業者連絡協議会居宅サービス役員会（森）
5月、6月　太成学院大学地域専門分野講義・演習　計4回（森）
6月 1日～　病院地域医療部よりよろこび訪問看護ステーション八尾若草支所へ移動
6月1、2日　徳洲会5月度全国セミナー　訪問看護ステーション所長会議（森）
6月11日　関節可動域制限に対する臨床推論とアプローチ（松本）、疼痛管理（吉村･小西）
6月15日　訪問リハビリセミナー in 大阪（松本）
6月17日　大阪府ステーション協会　中堅訪問看護師研修基礎コース（中澤）
6月18日　八尾市介護保険事業者連絡協議会総会・研修会（森）
7月 2日　アドバンスケアプランニング（須賀）
7月 9日　感染対策講習会（吉村・小西）
7月17日　徳洲会副主任研修（須賀）
7月18日　接遇研修（吉村）、褥瘡勉強会（須賀・佐藤）
7月22日　医療安全全体研修（吉村・小西）、八尾市看看連携会議（森）
7月25、26日　家族アセスメント（小西）
7月29日　訪問看護ステーション協会災害研修（中澤）
8月31日　訪問看護管理運営研修会（森）
9月18日　大阪府ステーション協会中河内ブロック管理者会（森）
10月11日　徳洲会副主任研修（須賀）
10月12日　中河内在宅呼吸ケアフォーラム（吉村・小西）
10月30日　八尾市看看連携会議定例会（森）
11月 1日　自己評価ガイドライン研修（森）
11月11日　八尾市看看連携会議相互研修（中澤）
11月13日　八尾市介護保険事業者連絡協議会訪問看護グループ研修会（森）
11月20日　大阪府ステーション協会中河内ブロック管理者会（森）
11月28、29日　看護協会　糖尿病療養指導研修（小西）
12月13日　八尾市在宅医療介護連携推進会議（森）
12月20日　大阪府看護協会認知症研修1回目（森）

《実習受入》
大阪府医師会看護専門学校　合計21名
4/8～12（3名）、4/16～19（2名）、5/13～17（3名）、5/27～31（3名）、6/24～26（2名）
9/30～10/4（3名）、10/21～25（3名）、11/25～29（2名）
太成学院大学　合計11名
2/18～21（1名）、2/25～28（2名）、11/5～8（2名）、11/18～21（2名）、12/9～12（2名）
12/16～19（2名）
日本医療学園附属東亜看護学院　合計1名
9/24、25（1名）

《ベストプラクティス研修》

受け入れ：東大阪徳洲会訪問看護ステーションから 7 ～ 8 月 2 日間、12 月 3 日間　各 1 名

出張：茅ヶ崎駅前訪問看護ステーションへ 10 月 3 日間（須賀）

4. 今後の目標

本所、支所のこれまでの歴史が長く、それぞれ独自の特色ある運営がまだ続いておりますが、これからは密な連携を図り、看護の質向上に繋げられるよう努力します。

介護セン 180
よろこび 訪問看護介護 183
よろこび 訪問看護ステ 184
徳洲苑 187
徳洲苑 介護セン 197
特養久宝寺 愛の郷 199

59）介護老人保健施設　八尾徳洲苑

施設長　髙寺　博史

1. 概要

2019 年の業務を報告いたします。前年 4 月の介護報酬改定を受け、在宅復帰や在宅療法支援などの老健に期待される役割が、ますます意識される 1 年でした。超強化型施設認定は、本年も継続でき、その経営上の利点は大きいものでした。今後も維持できるよう運営を考えております。

高齢者の自分で生きる力を少しでも支援するためには、リハビリテーションと摂食栄養管理が老健の主たる業務と思われます。投薬を含め医療は、これらの業務のサポート役と考えられます。

摂食に関し、口腔ケアが重要と考え、歯科医師と衛生士の往診で、おいしく食べることと誤嚥性肺炎の予防を図っています。効果は期待できるようです。

リハビリテーションは、スタッフの努力で、満足のいく結果を得ています。骨折予防にも役立つと期待しています。

多剤併用の問題にも継続して取り組み、複数腫の降圧薬、血糖降下薬、抗不安薬等を単剤化する工夫をしています。また認知症薬も、副作用を見ながら休薬することも考えています。ただ老健だけでの対応は困難で、かかりつけ医や薬剤師の薬剤処方や減薬に対する意識改革が必要と思われます。

2. 実績

《利用者数実績》

1）入所療養介護（長期入所）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	99	103	107	100	96	98	99	95	96	96	96	104	1,189	99	－４％
延べ人数	2,765	2,597	2,839	2,618	2,729	2,614	2,664	2,509	2,614	2,622	2,590	2,779	31,940	2,661.6	－3.2％

2）短期入所療養介護（ショートステイ）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	15	12	9	11	15	12	12	17	15	12	14	13	157	13	－50.3%
延べ人数	66	61	31	45	89	63	69	74	80	63	77	53	771	64.25	－46%

3）通所リハビリテーション（デイケア）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
利用者数	81	80	72	73	82	84	85	88	84	87	86	85	987	82.3	－0.1%
延べ人数	658	666	683	686	771	787	834	870	813	871	801	813	9,253	771	3%

介護セン 180
よろこび 訪問看護介護 183
よろこび 訪問看護ステ 184
徳洲苑 187
徳洲苑 介護セン 197
特養久宝寺 愛の郷 199

《入所経路と在宅復帰》（長期入所）

1）入所前場所

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年比
自宅	1	3	0	0	1	1	4	2	0	1	1	2	16	－1.6%
八尾徳洲会総合病院	4	4	4	7	4	4	4	9	7	8	7	10	72	－22%
他病院	1	3	4	3	5	5	2	2	6	0	3	3	37	－25%
老健	1	2	1	0	1	1	1	2	0	1	1	2	13	18%
他施設	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	200%
合計人数	7	12	10	10	11	12	11	15	13	10	12	17	140	－18.7%

2）退所先

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年比
自宅	3	2	4	5	4	6	5	6	3	5	3	5	51	－26%
八尾徳洲会総合病院	4	1	7	2	2	0	3	8	4	5	5	4	45	9%
他病院	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	35%
特養	1	2	3	2	1	1	3	1	0	0	0	1	15	50%
老健	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	－%
死亡(看取り)	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	4	33%
その他施設	1	1	3	2	3	3	3	0	0	3	1	4	24	－20%
合計人数	9	7	17	11	11	13	14	15	7	14	9	15	142	－9%
在宅復帰率	44.4%	50%	41.2%	54.5%	70%	81.8%	57.1%	40%	42.9%	57.1%	44.4%	71.4%	54.5%	－15%

一年間の在宅復帰率は、64.3%（前年 55%）である。

《医療依存度》

1）重症度症例数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
平均要介護度	3.6	3.5	3.4	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	41.4	3.45
経管栄養	186	168	188	187	195	190	192	203	255	253	221	244	2,482	206.8
インシュリン	39	44	31	144	62	53	46	40	39	37	32	40	607	50.5
褥瘡処置	45	68	121	132	148	162	130	104	61	31	30	81	1,113	92.7
酸素吸引	1	0	0	0	5	0	3	5	2	0	0	0	16	1.3
頻回吸引	41	35	86	91	82	63	96	113	107	117	137	128	1,096	91.3
点滴注射	94	30	87	68	88	57	73	72	76	43	75	28	791	65.9

稼働床に対する割合

2）看取り件数（過去 10 年）

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	合計	平均	前年比
9件	7 件	10件	12件	2件	5件	3件	5件	3件	4 件	60件	6件	133%

3）重症者搬送件数

八尾徳洲会総合病院	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年比
	3	4	4	0	2	0	0	6	2	4	1	4	30	2.5	250%

3. 今後の目標

高齢者ができうる限り自分の生命力で過ごされるよう、生活と医療の有効な支援を提供できればと考えています。

今後ともご協力をお願い申し上げます。

【機能訓練室】　　理学療法士副室長　山田　知絵

1. 概要

八尾徳洲会総合病院リハビリテーション科より理学療法士１名の応援を頂き、人員基準を満たしたため、通所リハビリテーション提供体制加算を取得するに至りました。同時に、応援者が新入職者であり、各分野で指導担当を置き、教育を実施しました。

「超強化型老健」算定要件である入所者様への週３回程度の個別リハと、退所前後訪問を実施し、算定の維持に努めました。PT1 名が介護老人保健施設リスクマネジャー資格を取得したため、施設内のリスクマネジメント活動に寄与する予定です。また、学会発表と、その関連する内容を執筆することとなり、施設内・外へ活動を報告する機会を得ました。講演活動も認知症介護指導者２名が、前年度同様大阪府下で積極的に活動しました。

2. メンバー構成

理学療法士　５名

作業療法士　１名

言語聴覚士　非常勤　１名

八尾徳洲会総合病院リハビリテーション科より理学療法士１名応援受け入れ

介護セン 180
よろこび 訪問看護介護 183
よろこび 訪問看護ステ 184
徳洲苑 187
徳洲苑 介護セン 197
特養久宝寺 愛の郷 199

3. 実績

1）通所・入所　個別リハビリテーション実施件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
実施延べ数	1,415	1,290	1,349	1,346	1,445	1,342	1,447	1,363	1,363	1,458	1,392	1,413	16,623
内、加算算定数	378	347	351	348	454	441	444	361	330	371	432	377	4,634

2）外部研修参加・学会発表

PT山田：全国介護老人保健施設大会　「三大介護時における入所者のプライバシー保護について」

PT土井：全老健リスクマネジャー研修第Ⅱ期

3）講師・講演活動

PT 山田：・大阪府認知症介護実践研修（実践者・実践リーダー）
・大阪介護老人保健施設協会ケアのコツ研修会　「認知症の人へのケアのコツ」
・徳洲会介護部会老健合同勉強会　「認知症の人へのケアのコツ」
・施設内研修　「プライバシー保護について考えよう」

PT 土井：・大阪府認知症介護実践研修（実践者・実践リーダー）
・奈良リハビリテーション専門学校理学療法学科　「脳疾患患者に対する理学療法」
・特別養護老人ホームハーモニー職員研修　「動作支援・生活支援と福祉用具の勉強会」
・ハートケアグループ研修　「認知症の人の権利擁護」
・特別養護老人ホームアーバンケア御厨職員研修　「高齢者虐待防止・身体拘束廃止の基礎知識」
・徳洲会介護部会老健合同勉強会　「リスクマネジメント（事故報告・苦情対応・防災）」
・施設内研修　「リスクマネジメント（事故報告・苦情対応）」「学会発表支援プログラムについて」
・株式会社日総研　「介護人材 9・10 月号　スキルアップ&キャリアアップの具体策」

4. 今後の目標

引き続き「超強化型老健」算定要件の維持に努めます。また、施設内・外の研修や講演に、積極的に参加・活動することで、施設内・外におけるケアの質の向上に努めます。

【栄養科】　主任　樋口　晶代

1. 概要

栄養科では利用者様に応じた個々の栄養管理と安全で美味しい食事の提供ができるよう取り組んでいます。

今年は嚥下調整食（食事形態に配慮した食事：キザミ食、ペースト食等）が必要な方の割合が増え、キザミ食対応が約 30%、ペースト食対応が約 10% となっています。栄養評価におい

ても、これら嚥下調整食対応の方の栄養状態は低栄養（Alb3.5 未満）である場合が多く、残食率を下げるために嚥下調整食の食感や味への配慮にも意識を高める取り組みを行いました。

摂食嚥下に対する評価は、医師・言語聴覚士等と連携をとりながら定期的にアセスメントを実施し、利用者様の状態に見合った食事を安全に提供できるよう多職種連携を行い、より充実した経口維持の支援を目指しています。

また、利用者様に「食」を楽しんでいただける食事提供としては、毎月のおかず選択食や行事食に加え、「握り寿司バイキング」「お楽しみランチ」「風月お好み焼き」などのイベント食を実施しています。通所利用者様には、「おかず選択週間」や「屋台おでん」「揚げたて天ぷら」「パンバイキング」も好評をいただいております。また、おやつでは「おやつ選択」や屋台を設置しての「鯛焼き」、利用者様参加型の「おやつ実習」も喜ばれています。

2. メンバー構成

管理栄養士　樋口晶代

3. 実績

1）療養食加算（長期入所）　食数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8 月	9月	10月	11月	12月	合計	平均食数
1,466	1,271	1,315	1,141	1,326	1,364	1,464	1,492	1,446	1,616	1,463	1,360	16,724	1,393

※昨年度は「件数（人数）」で掲載しております。今年度は朝昼晩を含めた「食数」で掲載しております。

2）経口維持加算（Ⅰ）（Ⅱ）　件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
（Ⅰ）	18	18	14	19	21	18	17	16	17	16	15	19	208	17
（Ⅱ）	6	7	5	8	7	7	7	7	8	7	7	8	84	7

3）行事食・イベント食

1月　1～3日：正月おせち料理、新年会 松花堂弁当、（通所）揚げたて天ぷら
2月　節分 巻き寿司、（通所）屋台おでん、パンバイキング
3月　握り寿司バイキング、（通所）おかず選択週間
4月　春のお花見弁当、（通所）揚げたて天ぷら、風月お好み焼き
5月　端午の節句　弁当、（通所）屋台おでん
6月　運動会　穴子ちらし寿司、（通所）焼きたて餃子
7月　七夕　ちらし寿司と七夕そうめん、（通所）パンバイキング
8月　夏祭り　屋台（焼きそば、鯛焼き、フランクフルト、おでん等、家族様と一緒に食事）
（通所）揚げたて天ぷら
9月　敬老会　松花堂弁当、（通所）おかず選択週間
10月　文化祭　ちらし寿司、（通所）屋台おでん
11月　秋の弁当、（おやつ）屋台 鯛焼き
12月　お楽しみランチバイキング、（通所）焼きたて餃子

介護セン 180
よろこび 訪問看護介護 183
よろこび 訪問看護ステ 184
徳洲苑 187
徳洲苑 介護セン 197
特養久宝寺 愛の郷 199

4 ）実習生受け入れ

・関西福祉科学大学健康福祉部福祉栄養学科　　臨床栄養臨地実習　実習生2名
・武庫川女子大学生活環境学部食物栄養学科　　臨地実習Ⅰ（給食管理学実習）　実習生2名

4. 今後の目標

今後も、多職種との連携を行いながら、個々に合わせた栄養管理と安全で美味しい食事の提供を行っていきます。

【支援相談員】　　支援相談員副主任　北出　眞和

1. 概要

長期入所･短期入所･通所リハビリテーションを希望される方の窓口となり、相談対応を行っています。入所は100床あるベッドを運用し、入退所調整を行っています。100床中約3床は短期入所として活用しています。短期入所の利用希望者数の減少に伴い、入所者数の獲得へと方向転換を行いました。

入所サービスは基本的に要介護認定を受けられ、介護を必要とする高齢者の自立を支援し、在宅への復帰を目指すために、各職種との協働の下、リハビリテーション・栄養管理・食事・入浴などの日常サービスまで併せて提供するサービスとして、相談対応させていただいております。

今年の傾向としては、入所者数140名の内、協力医療機関の八尾徳洲会総合病院からの紹介者数は72名となっており、約51%の方を紹介していただきました。八尾市内･大阪市･柏原市･東大阪市といった近隣の医療機関との相談対応を迅速に行い、全体の28%の方の紹介をいただきました。こちらに関しては、2018年と比べ増加がみられました。2018年7月からは在宅復帰超強化型を取得し、現在も在宅復帰超強化型を維持できています。在宅復帰超強化型を維持するには、他職種の協力無しでは困難であり、施設内の連携も今以上に強固なものにしていきたいと考えています。

また、今後も新たな取り組みを構築し、医療機関に対して積極的に情報発信していき、後方支援先としての協力体制を整えていきたいと考えています。

2. メンバー構成

北出　眞和　　天野　武男（2019年6月退職）　　小茂田　加奈（2019年8月より入職）

3. 実績

142名の方が退所されました。内在宅復帰51名（36%）病院搬送47名（33%）特養入所者15名（10%）有料老人ホーム入所者（有料･サービス付き高齢者向け住宅など含む）24名（17%）となっております。本年の年間在宅復帰率は54.5%。昨年に比べ、在宅復帰率は約10%下がりました。入所者数の減少に伴い、退所先への調整も減少傾向になりました。

4. 今後の目標

長期入所に関しては在宅復帰超強化型を維持できましたが、安定した入所者数の確保が引き続き難しく、安定した入所者数の確保を目指していきたいと思います。

支援相談員も２名体制で安定して対応できており、他職種の方々には大変お世話になりました。これからも、他職種の方々と共に協力して向上していきたいと考えています。

短期入所の相談に関しては、特別養護老人ホームなどでの対応が難しい医療依存度の高い方の受け入れを案内しましたが、利用者数の減少が更にみられます。いかに利用者数を増加させるかが課題としてあげられます。

通所リハビリテーションは定員 60 名に対して、稼働率の低下がみられます。利用者数の状況からみても、利用者数のムラが大きくみられ、今後の課題と考えています。医療機関や地域からの相談に対して迅速に対応し、地域の窓口として開けた対応を実践していくと共に、施設運営の向上に繋がる支援体制を今後も構築していけるように努力していきたいと思います。

【介護・看護部】　　総看護師長　武田　郁子

1. 概要

看護介護部では利用者様とその家族様に安全で楽しい療養生活が送れるよう看護介護の提供に努めました。

デイケアは坂井主任、福山副主任、山本副主任を中心に、利用者様個々の状態に沿って支援出来るよう努めています。

１階フロアは西田介護士長、藤下看護主任のもと利用者様、家族様と関係を構築しながらケアの提供に努めています。活気ある生活を感じていただけるよう取り組んでいます。

２階フロアは上杉看護主任、山下、上田介護副主任のもと認知症の方に個々の対応ができるようケアの充実に努力しています。

≪年間行事≫

1月　新年会
4月　春の外出
6月　運動会
7月　夏祭り
9月　敬老会
10月　文化祭

介護セン 180
よろこび 訪問看護介護 183
よろこび 訪問看護ステ 184
徳洲苑 187
徳洲苑 介護セン 197
特養久宝寺 愛の郷 199

2. 実績

1）看護介護目標と成果

目　　標	成　　果
デイケア： 看護　利用者の状態把握に努める、職員間の情報共有ができる、他事業所との連携を深める 介護　利用者満足度の向上、利用者を把握した介助ができる、職員自身の体調管理ができる	・利用者の状態把握し職員間での共有ができた ・他事業所との連携は一部実施できた ・個々の利用者への対応が満足度向上につながるので今後も継続する ・職員の体調自己管理については大きな体調悪化はなかった
1階：フロア会議の継続 業務チェックリストの定着 業務ごとのマニュアル作成	・毎月のフロア会議は開催出来ている ・業務ごとのチェックリスト、マニュアルの作成はできず、引き続き取り組んでいく
2階：認知症についての知識を深める、専門職としての意識を高める	・認知症ケアの知識向上は十分できなかった ・全体的に意識が低かった

2）教育人材育成

・実務者研修受講　1名

・認知症介護実践者研修　　1名受講

・介護福祉士受験　3名

・学会発表について

第30回　全国介護老人施設大会　発表

詳細については別添資料の通りである

3）身体拘束委員会　　身体拘束ゼロの継続が実行出来ている、委員会でセンサーマット利用の評価分析を実施

4）事故防止委員会　　毎月の事故報告書を分析し、複数回転倒事例など検討、分析している

5）感染対策委員会　　感染対策を徹底し、インフルエンザ・ノロなどの集団感染のないように努めている

6）外部研修

研修日	研修内容	主催
5/18～7/17	認知症介護実践者研修	大阪介護老人保健施設協会
5/31（金）	施設見学会	大阪介護老人保健施設協会
6/8（土）	口腔ケア	徳洲会介護部会
6/8（土）	介護ラダー教育説明会	徳洲会介護部会
6/18（火）	人権研修	八尾市
7/13（土）	文章の書き方研修	徳洲会介護部会
9/7～	介護福祉士実習指導者講習会	近畿社会福祉専門学校
9/7（土）	似顔絵セラピー	徳洲会看護部
9/14（土）	リスクマネジメント	徳洲会関西ブロック
9/30（月）	ユマニチュード	徳洲会関西ブロック
10/4･5	介護管理者研修	徳洲会西日本ブロック
10/8（火）	老健で役立つ医療のポイント	大老協
10/19（土）	KICNセミナー	中河内地域感染ネットワーク
10/26･27	感染管理セミナー	徳洲会感染管理部会
10/31（木）	看取り研修	八尾市介護保険事業者部会
11/21･22	全国介護老人保健施設大会	全国介護老人保健施設協会
12/3（火）	摂食嚥下	徳洲会介護部会
12/20（金）	大阪府集団指導	大阪府

7）内部研修

2月　スピーチロック、記録とケアプラン
3月　消防訓練、アンガーマネージメント
5月　急変時対応、介護保険制度と処遇改善
6月　倫理と法令遵守、褥瘡ケア
8月　医行為について、認知症
10月　感染対策、消防訓練、リスクマネジメント
11月　急変時対応訓練、施設CM研修
12月　看取りについて、身体拘束・高齢者虐待、プライバシー保護

介護セン 180
よろこび 訪問看護介護 183
よろこび 訪問看護ステ 184
徳洲苑 187
徳洲苑 介護セン 197
特養久宝寺 愛の郷 199

8）医療福祉講演会

3月　高齢者の排泄ケア・口腔ケア
6月　介護老人保健施設の役割について
9月　お薬の正しい飲み方
12月　健康寿命を延ばす上手な食べ方

9）家族会講義

3月　調理実習
6月　オムツについて
9月　レクリエーションの紹介
12月　エンディングノートの書き方

10）実習受け入れ

・大阪府医師会看護専門学校　　看護師実習生43名　　在宅看護論（4/8～11/28）
・大精協看護専門学校　　准看護師実習生74名　　老年看護（7/30～12/6）

11）体験学習

・八尾市立大正中学校　　実習生3名
・大阪市立加美南中学校　　実習生3名
・八尾市立志紀中学校　　実習生3名

3. 今後の目標

今後は、看取り介護についても学びを深め、よりよい看取りケアを目指していきます。

60）八尾徳洲苑介護センター

管理者　日髙　陽子

1. 概要

当センターは併設の八尾徳洲苑内の委員会、勉強会、行事に参加、同法人、他法人事業所と共に連携を図り運営しています。特定事業所として24時間連絡体制、定期的な勉強会や会議開催、介護支援専門員実務研修見学観察実習生受け入れをしています。今年は新たに1名が主任介護支援専門員を取得し3名の主任介護支援専門員と1名の介護支援専門員の計4名で『令和』を迎えました。「教育」に対してこれまで以上に意識が高まり、「どう説明すれば伝わるのか」「どうすれば技術を習得できるようになるのか」という事を考え、教えられる側だけでなく教える側で「共に学ぶ（共育）」を実感できた1年でした。新たなご縁で八尾市薬剤師会から薬学部の実習生を受け入れました。

2000年から導入された介護保険制度ですが、介護報酬改定を重ねる毎に制度の複雑化、超高齢社会が故に、介護人材不足から高齢者の生活を支える介護支援専門員としての働き辛さを感じます。介護職員の処遇改善がなされているこの数年、その必要性はそろそろ介護支援専門員の処遇改善について国も考えて頂き､介護支援専門員の不足に対応して頂きたいと考えます。当センターとしては、これからも私たち介護支援専門員のサポートにより、高齢者の生活をいかに支えるかを考え、地域から信頼される事業所を目指します。

2. メンバー構成

管理者・主任介護支援専門員　：　日髙　陽子
主任介護支援専門員　：　山﨑　美保 , 野宗　かおり（2019年3月取得）
介護支援専門員　：　更井　久子

3. 実績

1）業務実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均	前年度
介護利用者	94	89	98	99	103	103	104	103	102	103	99	96	1,193	99.4	88.7
予防利用者	27	29	28	27	28	27	27	27	28	27	28	29	332	27.7	22.7
居宅支援Ⅰ1	56	55	57	60	67	65	67	65	63	65	62	62	744	62.0	51.2
居宅支援Ⅰ2	38	34	41	39	36	38	37	38	39	38	37	34	449	37.4	37.5
相談件数	7	4	5	4	3	4	3	4	3	3	0	1	41	3.4	4.6
新規開始者	0	3	7	4	1	2	6	4	1	4	0	1	33	2.8	2.7
終了者	1	2	1	1	3	2	2	3	2	1	3	4	25	2.0	1.8
認定調査	11	16	15	9	8	11	9	9	11	10	9	11	129	10.75	6.0
担当者会議	13	14	27	30	12	21	26	20	29	16	22	11	241	20.1	18.3

介護セン 180
よろこび 訪問看護介護 183
よろこび 訪問看護ステ 184
徳洲苑 187
徳洲苑 介護セン 197
特養久宝寺 愛の郷 199

2）研修

【外部研修】

八尾市適正化事業における「居宅介護支援事業者向け研修」 2/27、3/27　山﨑
八尾市介護保険事業者連絡会　2/19　更井、6/18　野宗
八尾市事業者連絡協議会居宅部会　1/29　日髙・更井、6/28　日髙、11/14　日髙
八尾市介護保険事業者連絡会第 3･4 圏域地区勉強会　2/28　更井
八尾市介護保険事業者連絡協議会介護サービス部会　11/6　山﨑、11/13　野宗
八尾市事業者連絡協議会居宅部会新人研修　9/9　更井
八尾市介護予防　ケアマネジメント業務に関する研修会　8/5　更井
八尾市指定介護サービス事業者集団指導　5/23　日髙
大阪介護支援専門員協会八尾支部　3/11　日髙・山﨑・野宗、6/7　山﨑・更井、7/8　山﨑・野宗、11/11 日髙・山﨑・野宗
大阪介護支援専門員協会八尾支部事例検討会　8/19　日髙・山﨑
大阪府主任介護支援専門員更新研修　5/8 ～ 10/3 全 8 回　山﨑
八尾市保健所　事業者向け研修会　8/5　日髙、8/31　山﨑
第 18 回近畿ブロック研究大会 in 奈良　3/24 ～ 25　日髙・更井
日本ケアマネジメント学会・大阪介護支援専門員協会八尾支部　7/26　日髙・野宗
八尾市地域自立支援協議会　精神保健部会　9/14　日髙
ジャカランダの会　6/13　山﨑　12/15　日髙・山﨑
ケアテックス関西　2019　介護用品展・介護施設産業展・介護施設ソリューション展　10/9　更井

【内部研修】

・事例研究会（徳洲会介護センター合同）　1/18、3/14、5/16、7/18、9/5、11/21
・認知症勉強会（徳洲会介護センター合同）　2/22、4/18、6/21、8/15、10/17、12/19
・徳洲会グループ介護部門　7/13　更井
・地域講演　「人生の最終段階を迎える準備」サンハイツ八尾南
講師：八尾徳洲会総合病院　がん性疼痛看護認定看護師
松本静香氏　11/27　野宗・更井

3）実習生受入れ

・介護支援専門員実務研修　見学・観察実習　1名
・薬学部の実習生　4名

4. 今後の目標

・法人の掲げる理念の実践に努め、併設施設、関連施設への協力、連携を図る。
・利用者様の意思および人格を尊重し自立支援に努める。
・事業目標を達成し、単独事業所として健全経営を目指す。
・日々の活動や福祉講演などを通して、地域から信頼される事業所を目指す。
・新人の一連の業務習得に向けて協力し合えるチームづくり。

61）特別養護老人ホーム久宝寺愛の郷

理事長　酒井　　敬
施設長　木口　良章

1. 概要

2014 年 9 月に開設し、今年で 5 年が経過した。この間、社会福祉法の改正があり、社会福祉法人のガバナンスの強化が図られた。当施設も、地域貢献の意識を強くし、第三者評価に耐えうる組織運営を実施してきた。2000 年に介護保険が新設され、支出される介護費の総額は 10 兆円を超え、2025 年には 15.3 兆円と予測されている。2018 年度から 3 割負担も導入され、高齢者にも相応の負担が課されるようになった。団塊の世代が 75 歳以上になる 2025 年には、介護を担う人材が新たに 55 万人必要といわれている。そのような環境の中で、今年 10 月からは、消費税の増税に伴い、介護報酬の見直しや特定処遇改善加算の導入などがあった。

2. メンバー構成

部門	職種	常勤	非常勤		人数計	換算
			人数	換算		
管理部	管理者	3	0	0	3	3.0
	事務	2	1	0.3	3	2.3
特養	生活相談員	1	0	0	1	1.0
	介護支援専門員	1	0	0	1	1.0
	医師	0	2	0.2	2	0.2
	看護部	3	2	1.3	5	4.3
	栄養部	5	4	1.5	9	6.5
	介護職	22	10	7.1	32	29.1
短期入所	介護職員	5	3	1.9	8	6.9
デイサービス	生活相談員	0	0	0	0	0.0
	看護部	1	2	1.4	3	2.4
	機能訓練	1	0	0	1	1
	介護職員	2	5	4.7	7	6.7
	運転手	0	2	0.9	2	0.9
地域包括	社福・ケアマネ・保健師	0	0	0	2	2.0
合計		46	31	19.3	79	67.3

介護セン 180
よろこび 訪問看護介護 183
よろこび 訪問看護ステ 184
徳洲苑 187
徳洲苑 介護セン 197
特養久宝寺 愛の郷 199

3. 実績と今後の目標

(1) 特別養護老人ホーム　久宝寺愛の郷（50 床）

入居者の要介護度の平均は 4.4、平均年齢は 85.7 歳である。地域別では八尾市在住の方が 82％であった。平均の入所数も 49.7 件、稼働率 99.4％とほぼ満床の状態で推移した。退所は 10 名で昨年と比較すると大幅に少なかった。活動収益は対前年比 +1.2％となった。看取りを積極的に推進し、入院する利用者の方は少なくなった。課題としては、100 名を超える入居待ちの方への対応、一部加算の取得等。

	入所数	稼働率	退所人数
2019年	49.7	99.4%	10
2018年	49.4	98.7%	24

(2) ショートステイ久宝寺愛の郷（10 床）

当初、短期入所は地域の緊急要望に応えることが重要と考え、稼働率の目標を 80％においてきた。しかし、要望が多く 2 ヵ月後の予約を取っているが、ほぼ 100％に近い状況である。そのため緊急にお応えできない状況が続いている。活動収益は、対前年比 +7.7％となった。課題は 10 室という小規模の事業運営で何処まで地域ニーズに応えていけるかである。

	利用者数	利用日数	稼働率
2019年	40.3	299.8	98.6%
2018年	40.5	278.5	91.6%

(3) デイサービス久宝寺愛の郷（35 名 / 日）

稼働率を 90％に近づける目標をおいて取り組んだが、81.9％と未達成に終わってしまった。登録数は増えたが、利用に結びついていない。また、当日キャンセルが 5 名以上もある日があり、この対策も出来ていない。要介護度が低いことも課題である。その中で、個別機能訓練に力を入れて、一定の成果が出てきたように思う。事業活動収益は前年比 +1.2％だった。

来年からは目標に向けて具体的な対策を実施する。サービス内容の質、利用者のニーズの把握、食事提供の工夫など考える余地はたくさんある。

	利用者数	利用日数（累積）	稼働率
2019年	78.5	680.3	81.9%
2018年	78.6	672.8	80.8%

(4) 八尾市地域包括支援センター（公益事業）

2017 年 4 月に新設センターとして立上げ 2 年半が経過し、相談受付件数も今年は 3,680 件と大幅に増加した。要支援のプラン委託も 3,121 件に増加した。また、困難事例の相談も増えており、現状の人員では、地域のニーズに十分な対応ができない状況である。介護予防教室や家族介護教室なども開催し、地域への情報提供も積極的に行った。高齢化していく中で、地域での役割は、益々重要となってくる。

内容	年月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
相談受付	2018年	309	241	349	301	324	301	255	301	275	323	281	316	3,576
	2019年	308	321	326	355	307	315	378	266	291	265	268	280	3,680
介護予防支援費 マネジメント費	2018年	209	221	241	238	242	234	235	238	242	251	251	253	2,855
	2019年	251	250	256	261	261	259	257	260	264	269	263	270	3,121
介護予防教室 家族介護教室	2018年	2	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	22
	2019年	2	1	2	1	2	3	3	2	1	2	2	2	23
地域行事	2018年	5	7	6	9	7	9	8	4	6	5	9	5	80
	2019年	5	6	6	5	8	9	6	5	8	4	8	6	76
実態把握	2018年	22	11	21	21	23	26	25	20	26	20	20	17	252
	2019年	22	18	7	22	19	13	27	16	28	18	17	15	222

(5) 看取り

特別養護老人ホームでは看取りを積極的に実施している。入居時や担当者会議等の中で、ご家族に看取りについて説明しご理解を頂いている。今年は6件であった。

(6) 教育・研修

徳洲会で決められた必須研修は、同日に同じ内容、時間を変えて開催したり、非常勤職員のために回覧をしたりと工夫し、ほぼ100%の参加率を達成できた。外部研修にも積極的に参加し、特に管理者研修に力をいれた。また、八尾の施設発表会で演題発表できた。

(7) 資格取得

働きながら仕事をしている職員に出来るだけ、資格を取るように法人として応援している。今年は、介護福祉士試験に4名が合格、また、社会福祉主事任用資格を1名が取得した。

(8) 行事

全事業で共通の行事や事業単位で実施している行事などがあり、今年も多くの利用者の方に楽しんで頂けた。季節ごとの行事の他に交流も実施でき、デイサービスにはのぞみの森保育園から園児21名が来設してくれた。また、武蔵野部屋から親方（元武蔵丸）や部屋の現役力士4名が来設、高齢者の方は大喜びであった。初めての申出を頂いた大衆演劇「賀美座」の公演をデイルームで実施、迫力があった。今年初めての試みとして利用者やその家族に、今何をしたいかをお聞きし、それを実現する、ドリカムプロジェクトを開始、お墓参りに淡路島までお連れしたり、京都観光を楽しんで頂いた。喫茶「とまり木」も月1回の定例となり、初めてチャレンジした居酒屋「さっちゃん」は2回実施、特養利用者の約半数と家族の方に楽しい時間を提供できた。

介護セン 180
よろこび 訪問看護介護 183
よろこび 訪問看護ステ 184
徳洲苑 187
徳洲苑 介護セン 197
特養久宝寺 愛の郷 199

(9) 地域貢献

地域の方々との関係は良好で、ふれ愛祭には50名を超えるボランティアの方に参加して頂いた。七夕の笹の提供を受けたり、お餅つきのお手伝いもして頂いた。広い敷地は、ゲートボールや地域の健康際の場所として使って頂き、屋上で夕日を見ながら、意見交換会も実施できた。

・高齢者の相談対応
・地域健康祭への場所の提供と看護師、相談員の派遣
・燈路祭への協力
・ふれ愛祭に障害者施設の参加
・CSW の育成と生活困窮者支援事業への参加
・チャリティー自販機の継続設置
・赤い羽根募金

(10) 職員の状況

どの職種も雇用が難しいのは、当施設においても例外ではない。特に調理助手やデイの運転手などはタイミングよく雇用できていない。ただ、介護士については人材確保できており、そのほとんどは職員紹介であった。一般の求人媒体での求人は難しく、費用をかけても成果があがらないのが現状である。職員が紹介したいと思える施設作りをしていくと共に、外国人材の受け入れについても考慮する時期に来ている。職員の平均年齢が49歳となっているため、事業継続のためにも若返りを考えていかなければならない。職員一人ひとりが愛の郷に愛着を持ち、職員と愛の郷が一体となってお互いに成長し合っていける環境を作ることが重要である。

学　術　業　績

―― 2019年 ――

62）学会発表　206
63）学術論文　212

62）学会発表

【肝臓外科】

・2019.10.02-2019.10.03　第47回日本救急医学会
友池力、木村拓也　回盲部腸重積を起こし緊急手術を要した回盲部子宮内膜癌の1例

・2019.11.21-2019.11.23　第15回アジア内視鏡外科・腹腔鏡外科学会議　木村拓也、鯉田五月、井上雅文、松岡伸英、河島茉澄、山中宏晃、服部彬、友池力、松田康雄　Successful experience of laparo scopic distal pancreatectomy in pancretic diseaseELSA

【形成外科】

・2019.1.12　第6回和歌山創傷治療を考える会（和歌山）　綾部忍、姜成樹、延山文美、阿古目健志　糖尿病性足潰瘍の治療　～OffloadingからNPWTまで～

・2019.1.20　第12回大阪府在宅褥瘡セミナー（大阪）
綾部忍　創傷治癒理論と創傷の見方（デザインR）

・2019.2.9-2019.2.12　第17回日本フットケア学会年次集会（名古屋）　綾部忍、姜成樹、延山文美、阿古目健志　デブリードマン、創閉鎖における注意点と工夫

・2019.3.9　Total Care Seminar for CLI（大阪）
綾部忍、姜成樹、延山文美、阿古目健志　わかりやすい糖尿病性足病変の治療

・2019.3.28-2019.3.29　The Wound Meeting 2019 Seoul （Seoul, Korea）
Shinobu Ayabe
Biofilm and infected wound management
Current trend of infected wound management and NPWT
Trend and clinical advantage of sNPWT for chronic wound

・2019.5.15-2019.5.17　第62回日本形成外科学会総会学術集会（札幌）　綾部忍、津本惇平、谷畑充梓、橋本昌也　Modified dermis graft法による鼻部再建症例の検討

・2019.5.22-2019.5.24　8th international symposium on the diabetic foot （Hague, Netherlands）
Shinobu Ayabe
Arterial insufficiency, infection and foot deformity concept in the management of diabetic foot ulcer

・2019.5.25　第28回日本創傷・オストミー・失禁管理学会（奈良）　綾部忍　NPWTの臨書硬化をより身近なものに　～わたしのPICO活用法～

・2019.6.5-2019.6.8　8th Conference of the European Wound Management Association （Gothenburg, Sweden）
Shinobu Ayabe
Arterial insufficiency, infection and foot deformity concept in the management of diabetic foot ulcer

・2019.6.22-2019.6.23　第21回Kansai Interuniversity Symposium Stage-of-the-art in PRS（広島）　綾部忍　こだわりの器械、教えてください

・2019.9.7　第1回日本フットケア・足病医学会富士山セミナー（沼津）　綾部忍　私のむくみケア　～形成外科の立場から～

・2019.10.24-2019.10.26　CCT2019（神戸）　綾部忍　血行再建と創傷治癒をどうつなげるか、自らバイパス手術を行なう形成外科医の意見

・2019.11.09　第1回日本フットケア・足病医学会関西地方会（神戸）　綾部忍　治した足をどう守る？～Care～

・2019.11.30　第16回ミレニア研究会（座長・発表）沖縄　綾部忍、津本惇平、谷畑充梓、橋本昌也　企画セッション「みんなで考え、議論しよう」

・2019.12.21　第12回関西CVTの会（大阪）
綾部忍　糖尿病性足病変の治療

【外科】

・2019.12.04-2019.12.06　第32回日本内視鏡外科学会

総会　松岡浩平、木村拓也、村上修、垣本佳士、井上雅文、河島茉澄、服部彬、友池力、遠藤幸丈、松岡信子、大田修平　結腸癌術後に発生しその後増大した多発FNHの一例

・2019.12.04-2019.12.07　第32回日本内視鏡外科学会　松岡信子、友池力、服部彬、町田智彦、大田修平、垣本佳士、豊田亮、遠藤幸丈、村上修、河島茉澄、山中宏晃、井上雅文、木村拓也　腹腔鏡で完全切除し得た小腸原発形質細胞腫の一例

・2019.12.05-2019.12.07　第32回日本内視鏡外科学会総会　遠藤幸丈　診断に難渋した左傍十二指腸ヘルニアの一例

・2019.12.05-2019.12.07　第32回日本内視鏡外科学会総会　服部彬、木村拓也、大田修平、垣本佳士、遠藤幸丈、村上修　腹腔鏡下にて治療しえた空腸憩室を伴う小腸軸捻転の1例

・2019.12.06-2019.12.07　第32回日本内視鏡外科学会　友池力、木村拓也、河島茉澄、服部彬、大田修平、垣本佳士、松岡伸英、豊田亮、遠藤幸丈、村上修　穿孔性空腸憩室の1例

【口腔外科】

・2019.10.25-2019.10.27　第64回日本口腔外科学会総会　中川記世子　Robin Sequence患者に対する舌固定術施行後の下顎形態評価

【糖尿病代謝内科】

・2019.5.24　第62回 日本糖尿病学会年次学術集会（せんだいメディアテーク）　服部玄徳、高津美乃里、酒井菜穂子、坂東勇、野村日呂美、上田哲也、髙原良典、植田秀樹、石橋里江子　DPNチェックを用いた神経伝導検査と臨床的評価指標との関連

・2019.5.24　第62回 日本糖尿病学会年次学術集会（せんだいメディアテーク）　坂野千賀、堀村光佐、龍めぐみ、栗野大輔、大里恭章、髙原良典、植田秀樹、石橋里江子　高用量スルホニル尿素（SU）薬投与患者の実態とチームアプローチの試み

・2019.6.26　大阪府病院薬剤師会第13支部（中河内）支部研修会（あべのメディックス）　石橋里江子　糖尿病患者におけるチーム医療の役割

・2019.7.6　糖尿病と臨床栄養を考えるセミナー2019　（大阪新阪急ホテル）　石橋里江子　高齢者糖尿病のマネジメント ―当院への救急搬送例から―

・2019.10.3　第28回 八尾地区糖尿病連携会　（八尾市文化会館プリズムホール）　坂野千賀
当院での糖尿病薬物療法の実態 ～clinical inertiaを考える～

・2019.11.09　第56回日本糖尿病学会近畿地方会
石橋里江子、洪鉉寿、酒井菜穂子、植田秀樹、髙原良典　抗PD-1抗体投与後にACTH単独欠損症と劇症1型糖尿病を同時発症した81歳女性

【脳神経外科】

・2019.2.1　第24回脳神経外科救急学会（大阪）
吉村政樹　コットンレトラクターを用いた被殻出血に対する顕微鏡下血腫除去術

・2019.3.23　第48回脳卒中の外科学会（横浜）
吉村政樹　顕微鏡下小開頭血腫除去術の有用性－摘出高難度症例の検討から－

・2019.7.13　第9回低侵襲・内視鏡脊髄神経外科研究会（奈良）　吉村政樹、L5／S1後側方固定術後の骨性椎間孔狭窄に対して経皮的内視鏡下椎間孔除圧術を行なった一例

・2019.7.13　第9回低侵襲・内視鏡脊髄神経外科研究会（奈良）　吉村政樹　超高齢腰椎化膿性脊椎椎間板炎患者に対する経皮的内視鏡下椎間板摘出ドレナージ術

・2019.9.6　第26回JPSTSS（大阪）
M.Yoshimura
Navigation assisted percutaneous endoscopic foraminoplasty for foraminal restenosis after L5/S1 posterior lateral fusion surgery

・2019.9.7　第78回日本脳神経外科学会近畿支部学

術集会（大阪）　高沙野　くも膜下出血で発症した遺残三叉神経動脈解離の一例
・2019.10.09-2019.10.12　第78回日本脳神経外科学会学術集会　吉村政樹、鶴野卓史　皮質下出血脳術後のporencephalic cystの原因と治療
・2019.10.26　第80回近畿脊髄外科研究会
吉村政樹　強部帯状感覚を呈した頸椎椎間板ヘルニアの一例
・2019.10.09-2019.10.12　第78回日本脳神経外科学会学術集会　中西勇太、高見俊宏、内藤堅太郎、山縣徹、大畑健治　脊髄髄内上衣腫の顕微鏡下全的手術後のQOL推移、前方視的単独施設研究
・2019.10.31-2019.11.01　第54回日本脊髄障害医学会
中西勇太　脊髄髄内上衣腫の顕微鏡下全摘出後のQOL推移：前方視的単独施設研究

【心臓血管外科】
・2019.1.26　八尾の心疾患を考える会　内田直里
TAVI時代のAVR。
・2019.3.9　厚生労働省事業「平成30年度、実践的な血管外科手術外科手技向上研修コース」
内田直里　胸骨上窩アプローチによるdebrach TEVAR手技。
・2019.5.22　第47回日本血管外科学会　一般演題
座長：内田直里　大動脈解離に対するステントグラフト。
・2019.10.8-10　34th annual meeting in European Association Cardio-Thoracic Surgery（EACTS）,Barcelona, Spain. Yutaka Okita, Naomichi Uchida. Japan made frozen elephant trunk. Multi-center trial of total arch replacement in patients with aortic arch aneurysm and dissection

【泌尿器科】
・2019.5.25、第241回日本泌尿器科学会関西地方会（大阪）、香山侑弘、TUR-Btを施行した膀胱paraganglioma1例
・2019.10.31-2019.11.03　第69回日本泌尿器科学会中部総会　金丸知寛　当院における腹腔鏡下膀胱全摘術・腔内回腸導管造設術の初期経験の検討

【膠原病リウマチ科】
・2019.6.12-2019.6.15　EULAR 2019　Madrid, Spain
Kazuyuki Yoshizaki （Kazuyuki Yoshizaki, Kazuko Uno, Tsutomu Takeuchi, Keisuke Izumi, Mitsuhiro Iwahashi, Hitoshi Fujimiya）
Pretreatment prediction of individual outcome of rheumatoid arthritis patient to Infliximab therapy using serum biomarkers and clinical data.
・2019.8.2-2019.8.3　第84回　日本インターフェロンサイトカイン学会　神戸国際会議場
吉崎和幸（宇野賀津子、吉崎和幸、谷川美紀、藤宮仁）　キャッスルマン病、リウマチ､健常人：サイトカイン・ケモカインパターンによる疾患特性から疾患分類への挑戦
・2019.10.26　Castleman disease partners: multidisciplinary collaboration to improve patient care　Chicago, USA
Study on Castleman disease in Japan.
・2019.12.2　Joint Symposium in Bangkok, Mahidol Univ, and Osaka Univ,　Bangkok, Thailand
Kazuyuki Yoshizaki
Epidemiological, Clinical, and Pathogenical research on Castleman disease in Osaka Univ.

【透析センター】
・2019.3.3　第92回 大阪透析研究会 （大阪）
三原寿之、鄧 淦芸、石頭 翼、藤村篤志、森ちさこ、申勝　中規模急性期病院の透析センターにおける最近七年間の入院状況
・2019.6.30　第64回 日本透析医学会 （横浜）
藤村篤志、三原寿之、藤田和睦、櫻谷浩介、森ちさこ、申勝　中規模急性期病院の透析センターに

おける最近7年間の臨床工学科の変遷

・2019.9.8　第93回 大阪透析研究会 （大阪）
苅谷美早、小山洋史、森ちさこ、申勝　透析導入時栄養指導の効果検討

【病理診断科】

・2019.6.8　第60回　日本臨床細胞学会総会（春期大会）（東京）　室木魁人、岡﨑健、岩﨑由恵、久保勇記　EGFR遺伝子変異陽性肺腺癌のLCNECへの形質転換が疑われた一例

【薬剤部】

・2019.5.31～6.1　第13回　日本緩和医療薬学会年会（千葉）　小西千尋、松浦暢子、山田直輝、青山瑛里子、里岡達哉、大里恭章、洪鉉寿
肺癌患者における長期間のオピオイド鎮静薬投与により離脱できた2症例

・2019.7.27～28　第5回日本医薬品安全性学会学術大会（東京）
横山靖法、里岡達哉、山本浩二郎、森田幸男、前田晃佑、大里恭章　メロペネムとピペラシリンの交差アレルギーと考えられた1症例

・2019.7.27～28　第5回日本医薬品安全性学会学術大会（東京）　山本浩二郎、前田晃佑、横山靖法、大里恭章　急性咽頭浮腫に対する薬剤師としてのアプローチ

・2019.11.02-2019.11.04　第29回日本医療薬学会年会　草薙みか　肝機能障害のためダサチニフ、ニロチニブを用量調節しながら、分子遺伝学的奏功を得た慢性骨髄性白血病の1例報告

・2019.11.02-2019.11.04　第29回日本医療薬学会年会　大里恭章、横山靖法（八尾）小川充恵・山崎肇（八尾市立）奥村隆司（プラザ薬局）木村玲子（八尾カイセイ薬局）篠原裕子（みどり薬局）中野道夫（アルファ薬局）　八尾地区における病院・保険薬局との合同スモールディスカッションの試みとその有用性

・2019.11.09　第56回日本糖尿病学会近畿地方会、第55回糖尿病協会近畿地方会
栗野大輔　DPP-4阻害薬服用中に発症した重症水疱性類天疱瘡の臨床経過

・2019.10.05　DM研究会（徳洲会グループ内発表）
栗野大輔　DPP-4阻害薬服用中に発症した重症水疱性類天疱瘡の臨床経過

・2019.12.08　臨床業務研究会（徳洲会グループ内）
森下夏伎　術前休止薬への介入

【臨床工学科】

・2019.11.22-2019.11.23　第83回日本消化器内視鏡技師学会
中西孝次、太田雅文、栗山嬢（宇治）、真昌美（岸和田）、高田敏也（松原）、安田英之（名古屋）、岡田結梨（神戸）、森本柾允（八尾）
グループ施設関西ブロック臨床工学技士による内視鏡ワーキンググループの内視鏡故障分析

【リハビリテーション科】

・2019.11.28-2019.11.29　第43回高次脳機能障害学会　新原末菜美　漢字の失読失書を呈した硬膜動弱脈瘻（dAVF）一例～手術前後のリハビリ経過～

・2019.11.28-2019.11.29　第43回高次脳機能障害学会　前田理沙　否定型的な言語症状を呈した皮質基底核（CBS）の2例－Logopenic型失語と後天性吃音のリハビリ経過－

・2019.11.17　第13回関西・大阪ブロック療法士部会学術大会（徳洲会グループ内）　勝又友花、前田理沙、長谷川静、田中尚　てんかん重積発作後のTodd麻痺、左半側空間無視が遷延した1例～急性リハビリの経過～

【リハビリテーション科／臨床心裡科】

・2019.6.12-2019.6.16　第56回日本リハビリテーション医学会学術総会（神戸）　田中尚、李大相、吉村政樹　急性期にボツリヌス（BTX）治療を行なった再発性脳卒中の一例

・2019.11.17　第13回関西・大阪ブロック療法士部

会（大阪）　田中尚　脳血管障害の病態と予後
・2019.11.28-2019.11.29　第43回高次脳機能障害学会　田中尚　失読・失書を主訴とし伝導失語症の一例

【臨床検査科】
・2019.11.17-2019.11.18　第6回徳洲会病理部会学術集会（徳洲会内部）　岩崎由恵　徳洲会の甲状腺細胞診の現状

・2019.11.17-2019.11.18　第6回徳洲会病理部会学術集会（徳洲会内部）　岡崎健、室木魁人、岩崎由恵、久保勇記　上皮結合を認めなかったALK肺癌の一例
・2019.11.17-2019.11.18　第6回徳洲会病理部会学術集会（徳洲会内部）　室木魁人、岡崎健、岩崎由恵、久保勇記　E・GFR遺伝子変異陽性肺腺癌のLCNBCへ形質転換が疑われた一例

【看護部】
・2019.11.09　第56回日本糖尿病学会近畿地方会、第55回糖尿病協会近畿地方会　藤井亜希子　糖尿外来患者の注射部位とローテンション方法を評価・指導するシステムの構築
・2019.10.23-2019.10.24　第50回日本看護学会　管理学会　鹿山美穂　NEWSシステム導入後の現状と課題

【臨床心理科】
・2019.9.13～2019.9.15　第37回日本小児心身医学会学術集会（広島）　八島麻美子、神原雪子、朴祐希、吉田誠司、田中英高　ODキャンプへの参加を機に自立に向けて動きだした一例－ピアサポートの視点から－
・2019.9.13～2019.9.15　第37回日本小児心身医学会学術集会（広島）　朴祐希、神原雪子、八島麻美子、田中英高　著しい体重減少を主訴に来院した摂食障害女児への心理療法について

【MSW】
・2019.1.30　2019年第1回がん診療（連携）拠点病院がん相談支援センター相談員研究会（おこのみ会）　三谷勇一　2次医療圏における6病院合同がんサロン：開催報告と残された課題（招聘講演）
・2019.3.16　第24回関西がんチーム医療研究会（大阪）　三谷勇一　2次医療圏における6病院合同がんサロンの開催と評価：記述統計からみた参加者の特性（大阪府がん対策基金助成事業）
・2019.6.9　第67回日本医療社会福祉協会（第39回日本医療社会事業学会）（川崎）　三谷勇一　2次医療圏における6病院合同がんサロンの開催と評価：PDCAサイクルの構築における基礎調査（大阪府がん対策基金助成事業）
・2019.6.22　第67回日本緩和医療学会（横浜）　三谷勇一　2次医療圏における6病院合同がんサロンの評価：がんサロンへの貢献意欲に関連する特性（大阪府がん対策基金助成事業）
・2019.7.31　第2回がんサロン促進会議（大阪）　三谷勇一　2次医療圏等、広域・複数施設によるがん患者サロンの開催（招聘講演）
・2019.9.14　第25回関西がんチーム医療研究会（大阪）　三谷勇一　非ゲノム拠点病院のMSWに求められる役割：萌芽期におけるPrecision Medicineに関する社会資源の整理と、チーム医療における連携の一考察
・2019.9.14　第25回関西がんチーム医療研究会（大阪）　門田翔太、三谷勇一　物質関連障害を抱えるがん患者への就労支援

【栄養科】
・2019.1.11-2019.1.13　第22回日本病態栄養学会年次学術集会（横浜）　小山洋史、斉藤朝美、他　高タンパク質消化態栄養剤による栄養管理
・2019.1.11-2019.1.13　第22回日本病態栄養学会年次学術集会（横浜）　佐藤友亮、篠田歩実、他　化学療法等の副作用で食欲不振を引き起こした患者

への栄養改善の取り組み

・2019.2.14-2019.2.15　第34回日本静脈経腸栄養学会学術総会（東京）　小山洋史、斉藤朝美、他　高タンパク質消化態栄養剤の導入と効果～プロトコールを用いて～

・2019.2.14-2019.2.15　第34回日本静脈経腸栄養学会学術総会（東京）　佐藤友亮、篠田歩実、他　がん患者の為の高栄養治療食（ケモ食）を導入した前後の摂取栄養量、栄養状態の変化について

・第93回大阪透析研究会
苅谷美早、小山洋史、他　透析導入時栄養指導の効果検討）

【院内感染対策委員会】

・2019.2.22～23　第34回日本環境感染学会総会・学術集会（神戸）
ゴーグル着用率の向上への取り組み
大和美穂、渋谷豊克
ICUにおける人工呼吸器関連肺炎予防を目的とした口腔ケアの導入
山内千春、渋谷豊克
ゴミの分別に関する意識向上を目指して
宮本幸子、渋谷豊克

・2019.7.19～20　第21回日本医療マネジメント学会学術集会（名古屋）
院内感染対策講習会における伝達講習会導入の効果
渋谷豊克

・2019.9.27～28　第41回日本手術医学会総会
腹腔鏡下手術における手術野消毒液と手術部位感染に関する検討
萩原美香、渋谷豊克

63）学術論文

【内分泌内科】

・瓜生恭章、髙原良典、山本智英、原田博雅　熱中症、暑気中り（夏ばて）の一因としての不顕性副腎不全。日病総合診療医学誌　2019;15:364-369.

・Yamamoto T. Normotensive, normokalemic hyperaldosteronemia of a grown-up woman diagnosed as salt-losing 21-hydroxylase deficiency in neonatal period. Int J Endocrinol Metab Disorders. 2019; 5: ISSN 2380-548X Open access journal

・Yamamoto T. Outcome of Graves' disease treated with anti-thyroid drugs and time courses of anti-TSH receptor antibodies. Int J Endocrinol Metab Disorders. 2019;5: 1-6. ISSN 2380-548X Open access journal.

・Yamamoto T, Iiida S. Hypercalcemic crisis induced by excessive milking . Int J Endocrinol Metab Disorders. 2019;5：ISSN 2380-548X Open access journal.

【形成外科】

・装具･フットウェア関係業種との連携（義肢装具士と連携が取れている場合）: 綾部忍. WOC　Nursing, 7 (3): 36-41, 2019

【膠原病・リウマチ科】

・特発性多中心キャッスルマン病. 藤原寛, 吉崎和幸.SRL宝函 Vol. 40, No2 2019.7. 36-40.

【医療福祉相談室】

・中河内圏域6病院合同がん患者サロン報告書：三谷勇一. 平成30年度大阪府がん対策基金企画提案型公募によるがん対策貢献事業助成事業報告書（中河内がん相談支援センター部会）p1－p15. 1月／2019

Yao
Tokushukai
General Hospital

八尾徳洲会総合病院年報

発行日：令和二年四月

発　行：八尾徳洲会総合病院　病院長　原田　博雅
〒581-0011 大阪府八尾市若草町1番17号
ＴＥＬ（072）９９３－８５０１（代）
ＦＡＸ（072）９９３－８５６７
http://www.yao.tokushukai.or.jp/

印　刷：寝屋川市高宮栄町２２番１８号
イセン印刷㈱
ＴＥＬ（072）８２４－０８０５
ＦＡＸ（072）８２５－０６５４

医療法人
徳洲会八尾徳洲会総合病院

〒581-0011 大阪府八尾市若草町1番17号
TEL（072）993-8501（代）
FAX（072）993-8567
http://www.yao.tokushukai.or.jp/